

## 日本の文学

堀尾幸平

### 【授業の概要】

日本の文学の歴史をふまえながら、代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。若い世代の文学への関心が薄らいでいるといわれる今、文学への興味と関心を喚起したい。

### 【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法
15. 試験

### 【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著、中日文化、2,200円）

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 英米の文学

小野迪雄

### 【授業の概要】

文学作品にはそれぞれの国の文化が反映している。主に20世紀の英米の文学の思潮をたどりながら、伝統的な英国文学や移民の国として新しい文化を作った米国文学を中心に考察する。

### 【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

### 【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

### 【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 中国の文学

寺尾 剛

### 【授業の概要】

中国の歴史と文化は古くかつ深い。日本はその影響を大きく受けてきたが、特に文学は顕著であった。中国の代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。

＜主なテーマ＞

- ・花木蘭（ムーラン）の物語－中国女性は強い？
- ・王昭君の物語－国際結婚、是か？否か？
- ・西施の物語－中国最大の美人は？
- ・孟姜女の物語－万里の長城と女性悲話
- ・詩仙・李白－酒仙、大いに酒を歌う
- ・詩聖・杜甫－戦争と文学と
- ・南宋最大の詩人・陸游－夫婦と嫁姑戦争
- ・妻への愛－「悼亡詩」の系譜
- ・封神演義はどこまで実話？－中国小説の魅力
- ・中国笑話選－下ネタは下品か？
- ・孔子－中国人の知恵と格言
- ・魯迅・周作人兄弟と日本との深い関係  
など

### 【評価方法】

平常点と試験。

### 【テキスト】

プリント

## 情報と社会

梅田敏文

### 【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 e ビジネスの進展
- 第3講 社会の情報システム（事例1）
- 第4講 社会の情報システム（事例2）
- 第5講 社会の情報システム（事例3）
- 第6講 データと情報
- 第7講 機械とコンピュータ
- 第8講 システムの概念
- 第9講 情報化社会の課題（1）
- 第10講 情報化社会の課題（2）
- 第11講 情報化社会の課題（3）
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

受講態度、ミニテスト、レポートなどで評価する。

### 【テキスト】

情報化社会とコンピューター倫理（梅田敏文著 マナハウス）

## 情報と社会

沖野皓一

### 【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

### 【授業計画】

#### 第1～2回 歴史に見る情報と社会

情報と文化との関係を軸に、人間社会の歴史を概観する。

#### 第3回 情報がモノを造る

モノの生産が、必要性・実用性から嗜好に重点を置くようになってから、生産システムも大きく変わった。いわゆる情報化社会の生産と消費の関係について

#### 第4～10回 情報の氾濫がもたらすもの

次々と繰り出される扇情的な情報や、人々の行動を先取りするような情報の氾濫の結果、私たちはかえって情報への関心を失い、情報喪失の状態に陥りかねない。情報過剰の現状について

#### 第11回以降 主体性確保のために

ニューメディアは多チャンネルの実現による情報の多元性を売り物にしているが、私たちにとって重要なのは、本当に必要な情報を発信・選択できる双方向性であろう。市民の側からの情報発信、メディアアクセスの現状と可能性について

### 【評価方法】

出席状況・試験の成績などによって総合的に行う。

### 【参考文献・資料】

講義の中で、その都度紹介する。

## ジェンダーと社会1

國信潤子

### 【授業の概要】

現代社会において女性と男性の社会的関係は変容しつつある。男女がともに社会参画をして初めて社会における平等が確保できる。この視点から現代社会におけるジェンダー（社会・文化的性）のさまざまな問題を考える。

### 【授業計画】

#### （長久手キャンパス）

男女共同参画社会の形成にむけて日本社会の各方面で努力が続いている。この講座ではグローバル化する国際・民衆交流の領域についてジェンダー（社会・文化的に形成される性別）の視点から開発途上国の現状について学ぶ。地球規模で、南北社会関係（開発途上国と先進国の対立・協力関係）に見られる各種の格差が問題となっている。そこには社会的結資源の不平等分配がある。この格差是正のため、また国際・民衆交流推進のために国あるいは民間組織による開発支援が行われている。先進産業国から開発途上国に向けて社会的開発支援が行われている。その支援のあり方、文化多様性の確保とジェンダー平等化の試みの関係について考える。

この講座はオムニバス形式であり、社会開発支援の現場で活動する数名の講師による講義形式である。社会開発、国際協力の最前線で活躍する専門家によって現状分析が行われる。テーマとして開発におけるジェンダー、開発実践論、イスラム農村社会、保健・医療現場、外国人労働者などの問題をジェンダー視点から考察する。

#### （星が丘キャンパス）

近年、公的文書などにもジェンダー（gender）ということばが頻繁に使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。つまり、社会的に男女に対して期待される異なる役割、意識、行動様式などを指す。新世紀にはいり、従来の固定的性別分業とは異なり、性別にとらわれない新たな社会的役割行動様式の青年たちが増加してきている。それは固定的な男らしさや女らしさをこえて個性の発揮、能力開発、そして経済、社会的自立、生活面での自立などを旨とする生き方である。ここ50年ほどの日本における女性の社会的地位の変容について社会学的データなどで紹介する。また法制改革、国際人権規約なども紹介する。原則としてテキストにそって授業を進める。

グループ討議、視聴覚教材なども取り入れる。

### 【評価方法】

#### （長久手キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

#### （星が丘キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

### 【テキスト】

#### （長久手キャンパス）

特になし、随時配布

#### （星が丘キャンパス）

「女性学・男性学へジェンダー論入門」伊藤、國信共著（有斐閣刊 2002年）

### 【参考文献・資料】

#### （長久手キャンパス）

「ジェンダーと開発」田中、伊藤、大沢他 国際開発事業団出版 2002年 2800円

#### （星が丘キャンパス）

授業で随時紹介

## ジェンダーと社会2

中島美幸 山下智恵子

### 【授業の概要】

本講座では、ジェンダーの視点で文学作品を分析することによって、〈女/男〉規範がどのようにテキストに織り込まれているかを読み解き、さらに、テキストがどれほど現実の女と男の生を規定してきたかを検証する。それとともに、ジェンダーの呪縛から解放されたいとして、新たな文学表現を試みる作家・作品をできるだけ多く提示する。(オムニバス方式)

(中島美幸兼任講師)「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。なかでも、近代以降の女性表現については、他国の女性文学との比較もまじえつつ、読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師)現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係をジェンダーの視点から検証する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 〈ことば〉とジェンダー
  - 第3回 〈書く女〉の登場(1)
  - 第4回 〈書く女〉の登場(2)
  - 第5回 女性を描く男性作家のまなざし(1)
  - 第6回 女性を描く男性作家のまなざし(2)
  - 第7回 母と娘の物語(1)
  - 第8回 母と娘の物語(2)
  - 第9回 家族の物語
  - 第10回 文学の政治性
  - 第11回 文学と映像文化
  - 第12回 まとめ
- \*第8、9回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

### 【評価方法】

毎回の簡単な感想と、学期末のレポートを総合して評価する。

### 【テキスト】

教科書は使用せず、随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

毎回の講義の際に紹介する。

## 日本国憲法

大嶽 浩

### 【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経過や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

### 【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

## 日本国憲法

初谷良彦

### 【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経緯や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

### 【授業計画】

(長久手キャンパス)

- 第1回 日本国憲法制定の経緯
- 第2～3回 プライバシー権、名誉権
- 第4～5回 自己決定権
- 第6～7回 信教の自由と政教分離
- 第8～9回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第10～11回 生存権、教育権、労働基本権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

(星が丘キャンパス)

- 第1回 日本の近代化と明治憲法の制定
- 第2回 ポツダム宣言の受諾と降伏の憲法史的意味
- 第3～4回 日本国憲法制定の経緯
- 第5回 日本国憲法の基本原理
- 第6回 プライバシー権、名誉権
- 第7～8回 自己決定権
- 第9回 表現の自由
- 第10回 信教の自由と政教分離
- 第11回 生存権・環境権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

### 【評価方法】

(長久手キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

(星が丘キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

憲法講義 I (第2版) (初谷良彦著 成文堂)

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 郷土の歴史と文化

秦達之

### 【授業の概要】

東海地方は、戦国乱世の時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を生んだ土地である。この歴史的風土をふまえ、愛知県を中心に郷土の歴史と文化を講義する。

愛知県は、“三大英傑”以後、一見平穏無事で、パツとしなやかにみえる。しかし、よくみれば、東西の文化を巧みに織りこんで、波瀾にも富み、歴史上重要な地歩を築いてきた。講義は、尾張と三河とのちがいにも留意しつつ、隣県の三重・岐阜にも時には視野を拡げ、受験時の暗記的歴史から、考え、愉しみ、生きるための歴史へと飛翔することを目指す。

### 【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものになりたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」」「高山における明治維新」「戦争と女性」「モルフィと廃娯運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

### 【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしていく。

### 【参考文献・資料】

愛知県の百年(塩沢君夫、斎藤勇、近藤哲生共著 山川出版社)

愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)

東海・近代へのまなざし(都築亨、大嶋光義編 中部日本教育文化会)

## 都市と環境

谷口 武

### 【授業の概要】

現代の都市は生活と文化の面では便利であり、快適であるが、街の緑や空気汚染など、自然環境には恵まれているとはいえない。都市をとりまく自然環境の問題を中心に講義する。

### 【授業計画】

- 第1講 概論1：自然環境とは  
第2講 概論1：自然環境と人間  
第3講 各論1：農耕の発見による生活形態の変化  
第4講 各論2： ”  
第5講 各論3：都市形成の促進  
第6講 各論4： ”  
第7講 各論5：現代都市生活の高度化  
第8講 各論6： ”  
第9講 各論7：都市巨大化と自然環境  
第10講 各論8： ”  
第11講 各論9：都市環境の改善  
第12講 各論10： ”  
第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

- 都市の論理（藤田弘夫著 中央公論社）  
なかが環境の危機を招いたか（バリー・コモナー著 講談社）  
都市（東京大学公開講座 東京大学出版会）  
環境（東京大学公開講座 東京大学出版会）  
環境生物学への招待・地球生物圏と人間・（鈴木賢英著 文化書房博文社）

## メディアと文化

鎌田基子

### 【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩でさまざまなメディアが新しい文化を生み、伝達する。文化の創造の伝達とメディアの関わりを考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 どこからどこまでがメディアなのか？  
第2回～7回 「編集」という創造  
・怪物の作り方  
・テーマとコンセプト  
・人の流れと思考の奥行き  
・発想の手順  
・WORK SHOP  
フォトストーリー  
コラージュ  
店内レイアウト  
雑誌の企画  
第8回～10回 現代美術はなぜ分かりにくいのか？  
・モノが持つ言語  
・素材の力、場の力  
・伝達技術と表現手段  
・WORK SHOP  
即席インスタレーション  
第11回～12回 社会が生んだ表現  
・表現の自由と人権  
・芸術が果たす役割  
第13回 「見る」「聞く」行為について  
状況により途中1～2回をゲスト講師の講演にあてる。

### 【評価方法】

レポートによる。

## 国際情勢

富江良治

### 【授業の概要】

国際化の時代とか、地球は一つなどといいながら、つい身近なことにとらわれて、視野を広げる努力を怠りがちです。世界では何が起きているのか、その背景には何があるのか、どの方向へ進むと考えられるのか。こうした問題意識と関心を持った人間が育つよう、つぎつぎと起こる新しい動きを手掛かりに分かりやすく、面白く解きほぐしていきます。世界歴史の最先端にふれる興奮と緊張を味わえば、です。

### 【授業計画】

日々報じられる新聞の国際記事、解説や特集面、テレビのニュース番組、ドキュメンタリーなどのコピーやビデオを用意し、教室で放映または配布して説明します。発生する出来事の中から興味を引くとみられるものを優先します。したがって政治、経済、社会、文化といった体系的な進め方には必ずしもなりません。

### 【評価方法】

原則として筆記試験によります。出席状況や意見発表とか質問、問題提起、私語、遅刻など受講態度も参考にします。

### 【テキスト】

特にありません。

### 【参考文献・資料】

そのつど、必要に応じて知らせます。

## 生活と福祉

井戸平八郎

### 【授業の概要】

人間らしい生活を営むには、今日では福祉は避けられない問題である。しかし、「福祉とは何か」、「福祉はいかにあるべきか」は難しい課題である。障害者福祉や老人介護など、現代的な問題を視野に入れて福祉について学ぶ。

### 【授業計画】

- 第1章 福祉は誰のために
- 第2章 援助と自立
- 第3章 児童問題と超高齢社会
  - 第1節 児童福祉について
  - 第2節 子どもの人権は守られているか
  - 第3節 高齢者福祉
  - 第4節 ターミナルケアから学ぶこと
- 第4章 バリア・フリーからユニバーサル・デザイン
- 第5章 これからの地域福祉
- 第6章 Well Being

ビデオ、スライド、OHPを利用。

### 【評価方法】

テストによる評価。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介。

## こころの世界

青柳眞紀子

### 【授業の概要】

私達一人ひとりが持っているこころ。しかしそれを目で見ることにはできない。こころが様々な行動や反応を通して現われるのを観察し、そこから科学的に法則性を見つけだそうとする心理学の観点から、日常生活の中で身近に感じるような事柄を中心に心の世界を探っていく。

### 【授業計画】

1. 無意識の世界
2. 動機づけ
3. ストレスとタイプA性格
4. 錯視の不思議
5. 学習
6. 記憶
7. パーソナリティ
8. 原因の帰属
9. 対人関係
10. 態度変容
11. 集団の心理

### 【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。

## こころの世界

加藤智宏

### 【授業の概要】

日常生活を送る中で、私たちは様々なコミュニケーションをとっています。またそれらは、家庭、学校、乗り物の中、地下街など、その時々環境、状況の中で展開しています。

この授業では、日常生活での経験を話題に取り上げ、そこで起きた現象が心理学ではどの様に理解されているのかを中心に講義していきます。

### 【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. 認知心理学
- c. 発達心理学
- d. 社会心理学
- e. 臨床心理学

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学についても紹介していく予定です。

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

### 【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。



## ことばの世界

松本雄子

### 【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

### 【授業計画】

私達が日常なにげなく行っているコミュニケーションを様々な角度から分析する。コミュニケーションの基礎概念や理論を、現実社会での生活に関連しながら講義する。その中で、地域、社会的階層、性別、年齢によるコミュニケーションの違い等にも焦点をあてる。授業は講義中心ではあるが、ビデオを使つての講義や、グループディスカッション及び自己評価など、学生参加型の授業も取り入れる。

### 【評価方法】

筆記試験

### 【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

## ことばの世界

山本雅子

### 【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

### 【授業計画】

- 第1回 ことばと心的距離
- 第2回 ウチとソト(1)
- 第3回 ウチとソト(2)
- 第4回 敬語(1)
- 第5回 敬語(2)
- 第6回 性差(1)
- 第7回 性差(2)
- 第8回 世代差(1)
- 第9回 世代差(2)
- 第10回 名古屋方言(1)
- 第11回 名古屋方言(2)
- 第12回 ことばのはたらき

### 【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートなどによる。

### 【テキスト】

身の回りの“日本語”。日常生活で見聞きする“日本語”に対してたえずアンテナをはっておくこと。

# ビジネスの世界

渡辺泰明

## 【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

## 【授業計画】

- 第1講 マーケティングの意義（ケース：スミスクライ  
ン・ベックマン）
- 第2講 マーケティング・プロセス（ケース：青山商  
事）
- 第3講 市場機会の発見（ケース：根本特殊化学）
- 第4講 顧客と製品に関する戦略（ケース：花王）
- 第5講 価格戦略（ケース：サンギ）
- 第6講 コミュニケーション戦略（ケース：アサヒビー  
ル）
- 第7講 流通戦略（ケース：G M）
- 第8講 ケース・スタディーNo.1
- 第9講 ケース・スタディーNo.2
- 第10講 ケース・スタディーNo.3
- 第11講 外資系金融機関の仕事No.1
- 第12講 外資系金融機関の仕事No.2
- 第13講 期末試験

## 【評価方法】

出席状況と期末試験の結果により評価する。

## 【テキスト】

MBA マーケティング（株式会社グロービス著 ダイ  
ヤモンド社）

## 【参考文献・資料】

随時資料配布

# ビジネスの世界

小池弘道

## 【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界は、企業を維持・発展させるための倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

## 【授業計画】

- 1) ビジネス社会におけるビジネスの種類
- 2) 会社組織について
- 3) 仕事の遂行  
リーダーシップ、創意と工夫、責任と権限、縦  
系・横系（指示命令系統、部署間の連携）
- 4) 日本のビジネス社会が現在抱えている問題点  
企業の業績不振  
終身雇用・年功序列の崩壊  
グローバル化
- 5) 世界経済が抱えている問題点
- 6) ビジネス社会で役立つ個人の能力・知識

## 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

## 【テキスト】

使用しない（必要に応じ資料配布）

## 【参考文献・資料】

日本の常識は、どこまで通じるか  
（ジョリー佐々木幸子、小池弘道 風媒社）

## メンタルヘルス

太田龍朗

### 【授業の概要】

今、子どもから高齢者まで多くの人が心を病んでいると言われていいます。心の病いは、その個人や年代に特有のものもあれば、時代や環境などの社会的要因によるものもあります。実際の事例をひきながら、心の臨床を説き明かし、メンタルヘルス(心の健康)について考えます。

### 【授業計画】

概論(第1～3講)

概論1 心の病い:歴史、種類、症状のとらえ方

概論2 ライフサイクルと心:性格、発達と加齢

概論3 脳と心:正常と異常の心理学

各論(第4～10講)

各論1 青年期、思春期にはじまる統合失調症

各論2 感情の障害としての躁うつ病(気分障害)

各論3 ストレスとその反応:神経症と心身症

各論4 やまらない、止まらない:薬物依存

各論5 眠りと食と性の偏り:睡眠、摂食、性障害

各論6 大人とは異なる児童・小児の障害

各論7 老人と高齢者の病い:器質性障害

総論(第11～12講)

総論1 病いを前にして:治療、面接、カウンセリング

総論2 心の健康に向けて:地域社会、制度と活動

終講: 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

大学生のための精神医学(高橋俊彦、近藤三男著 岩崎学術出版社)

### 【参考文献・資料】

新版精神医学事典(加藤正明ほか編集 弘文堂)

精神を病むということ(秋元波留夫/上田敏著 医学書院)

図解雑学 心の病と精神医学(影山任佐著 ナツメ社)

## 暮らしの経済

村上貴美子

### 【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

### 【授業計画】

第1回 最近の経済状況と用語解説

生活と経済の関わり

第2回 消費者の権利と意思決定

第3回 価値観と消費の多様化

第4回 生活をとりまく環境変化

第5回 本当の「豊かさ」とは何だろうか

第6回 「労働」と言う言葉はなぜキライですか

第7回 教育と経済

第8回 サービスとはタダ(無料)のことでしょうか

第9回 余暇の為に働く

第10回 住宅とまちづくり

第11回 国際化と生活

第12回 未来を考える

毎回、最近の経済ニュースの紹介と解説を予定している。

### 【評価方法】

出席状況宿題レポート・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

生活の経済学(井原哲夫著 東洋経済新報社)

# 外国の言語と文化 1

角田達朗

## 【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

## 【授業計画】

近年、中国映画は国際的な賞を獲得する作品が続出し、注目を集めている。この授業では、中国映画の中から、主として現代小説を原作とする作品を、題材の年代順に鑑賞することによって、中国の近現代史についての理解を深めて行く。中国の近現代は、辛亥革命・抗日戦争・文化大革命などに象徴される動乱の時代であった。中国映画がこのような動乱の時代をいかに描いているかを、映像表現についての分析も織りまぜながら検証する。

同時に、映画の中の「生きた中国語」に触れることを通じて、中国語に親しみ、言語についての理解を深める契機としたい。

- 第1～2回 張芸謀『紅いコーリャン』  
(原作 莫言『紅高粱一族』)
- 第3～4回 張芸謀『菊豆 (チュイトウ)』  
(原作 劉恒『菊豆』)
- 第5～6回 陳凱歌『黄色い大地』  
(原作 柯蘭『深谷回声』)
- 第7～9回 謝晋『芙蓉鎮』  
(原作 古華『芙蓉鎮』)
- 第10～11回 陳凱歌『子供たちの王様』  
(原作 阿城『孩子王』)
- 第12～13回 孫周『心の香り』  
(原作なし)

## 【評価方法】

レポート

\*受講状況によっては、試験に変更することもある。

## 【テキスト】

なし。

\*授業時に鑑賞する映画が、テキストに相当する。

## 【参考文献・資料】

随時紹介する。

# 外国の言語と文化 1

朱 新建

## 【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

## 【授業計画】

1. 中国語の発音—声調・韻母 (1)
2. 中国語の発音—声母
3. 中国語の発音—韻母・音節
4. 中国語発音のまとめ
5. 中国語会話—お名前は?
6. 中国語会話—お住まいはどこですか。
7. 中国語会話—何が食べたいですか
8. 中国語会話—お久しぶりです。
9. 中国語の自己紹介
10. 中国語会話—中国の映画は面白いですか
11. 中国映画試写会
12. 中国語会話—中国語の上達は速いですね。
13. 前期試験

## 【評価方法】

平常点と試験による総合評価をします。

## 【テキスト】

Let's Study Chinese 1 (CD-ROM付) (朱 新建  
あるむ)

## 外国の言語と文化 2

尹 大辰

### 【授業の概要】

韓国・朝鮮語の初歩を学ぶとともに、朝鮮半島の風土・歴史・文化について理解を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音 (1)
- 第3回 ハングルの文字と発音 (2)
- 第4回 基本的な日常会話 (1)
- 第5回 基本的な日常会話 (2)
- 第6回 基本的な日常会話 (3)
- 第7回 言語と文化 (1) - 衣・食・住
- 第8回 言語と文化 (2) - 社会的構造
- 第9回 言語と文化 (3) - 漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の風土
- 第11回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第12回 まとめ-言語表現から見た文化比較

### 【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

### 【テキスト】

プリント教材を使用する。

### 【参考文献・資料】

- 韓国 (金両基監修 新潮社)
- 韓国と日本の比較文化論 (金渙著 明石書店)
- 総合韓国語 1 (油谷幸利・南相嬰著 白帝社)

## 外国の言語と文化 3

杉本一直

### 【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

### 【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがすいたら…
- g. 自分について話してみよう

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

## 外国の言語と文化 3

丹邊文彦

### 【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

### 【授業計画】

第1回～3回 文字と発音

以下1限に2課の割合で下記教科書を一応通読することを目標に授業をすすめる。1期終了・完結の授業で時間が限定されていることを考慮したものである。したがって練習問題（解答付）は自習に任せ、最小限の文法解説に止めて、本文中心に音読と文字への習熟に重点を注ぐことによって、運用力の土台を養成するのが眼目である。その際付属のCDを活用した予・復習は欠かせない。発音教材の補助としてロシア民謡も紹介し、ロシアの風土・歴史・文化への理解を深める。

### 【評価方法】

a. 朗読 b. 聴取り c. ペーパーテスト の総合

### 【テキスト】

エクスプレス ロシア語 桑野 隆著 白水社

### 【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ（講談社現代新書）

## 外国の言語と文化 4

藤井たぎる

### 【授業の概要】

ドイツ語の初歩を学ぶとともに、ドイツの風習・歴史・文化について理解を深める。

### 【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこないたい。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

### 【評価方法】

筆記試験。

### 【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

## 外国の言語と文化5

清水ベアトリックス

### 【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

#### 前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

- －フランスの地理
- －フランスの建国
- －フランス国民の起源
- －フランスの社会問題
- －フランスの家族
- －教育制度
- －フランスとヨーロッパ
- －フランス人と余暇など。

#### 後期

前期と同じ。

### 【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

### 【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

### 【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

## 外国の言語と文化6

木下まりあ

### 【授業の概要】

スペイン語の初歩を学ぶとともに、スペインの風土・歴史・文化についても理解を深める。

### 【授業計画】

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペインの歴史と文化の特色
3. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 人称代名詞、serとestar動詞、hay
6. 否定文、疑問文、関係詞、感嘆文
7. 形容詞（性数の一致）、指示形容詞、所有形容詞
8. 動詞（直説法現在）
9. 再帰動詞
10. 動詞（直説法現在完了）、過去分詞と現在分詞
11. 動詞（直説法過去：点過去と線過去）
12. まとめ

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

### 【テキスト】

授業中に指示。

## 文章表現論

加藤孝男

### 【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習します。

### 【授業計画】

- 第1講 はじめに
- 2～3 日記について
- 4～6 名文を読む
- 7～8 表現のレトリック
- 9～10 芸術的表現の手法
- 11～12 表現の実践
- 13～14 まとめ

### 【評価方法】

試験によって評価します。  
また、出席・平常点も重視。

### 【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

## 文章表現論

青木 健

### 【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現Ⅰ)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現Ⅱ)
- 第3回～7回  
例文をテキストに、文章の構成、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。
- 第8回～12回  
課題を3回提出し、短文(2～5枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

### 【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

### 【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。



## 比較文化

文 嬉眞

### 【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

### 【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

### 【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

### 【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 比較文化

田所光男

### 【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

### 【授業計画】

ワインとか料理、香水にモード、もう少しアカデミック(?)にループルとかオルセー...皆さんのフランス・イメージはどうでしょうか。この授業では、異文化・異民族との関係の中にあるフランスを眺めて行きます。恐らくこれまでのフランス・イメージとはかなり違うフランスの姿にぶつかることになると思います。フランスを少し再発見してみる、ことができるのではないのでしょうか。また、フランスばかりではなく、現代世界に生じている様々な文化摩擦・民族衝突の問題を理解して行くために必要な、いくらかの知的枠組みを自分の中に取り入れることも可能だと思います。

具体的には、フランスのユダヤ人に焦点を当てます。まず、世界に広く散在するユダヤ人の文化と歴史、及び反ユダヤ主義について概論を行ないます（5回）。次いで、パリとユダヤ移民との関わりを見た後（3回）、ショーア後のフランスに生きるユダヤ人のアイデンティティ模索を検討します（5回）。

こうした検討を通して、同化、植民地化、移民、ディアスポラ、越境、アイデンティティ、人種主義、迫害、ジェノサイド、ヨーロッパ中心主義、反ヨーロッパ主義、文化相対主義、普遍主義、差異への権利、多文化主義、主体など、様々な問題を考えて行きます。

### 【評価方法】

授業への積極的な参加、及び数種類のレポート。

### 【テキスト】

異文化への視線（佐々木英昭編著 名古屋大学出版会）  
その他、適宜プリントを配布します。

## 現代芸術 1

森美恵子

### 【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

### 【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

### 【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

### 【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

## 現代芸術 1

小川晃治

### 【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

各時代に於ける日本の書美の変相を、他の美術と文学と対比、関連させて探求させる。そして現代社会の中にあつて、書のあり方、価値感を考察し、また生活の中に於ける書文化の諸相を観る。漢字から「かな」を創造した日本人の美意識を追求する。

- 他の美術、文学を対比して、書の美学を学ぶ。
- 基本的書技を実習する。楷、行、草、篆、隸書、かなの六体を実習する。
- 日本の三筆、三蹟の古筆の鑑賞、臨書をする。
- 基本的なかなの実技と、古筆を鑑賞する。
- 漢字の細字の実技の実習をする。王羲之の蘭亭叙を臨書させる。
- 和漢の書道史を通じ、書の美の概要を学ぶ。
- 奈良、平安時代の文学、書に於ける、漢字の意義、かなの創成、大成を通じ、上代文化の成立を学ぶ。
- 鎌倉時代に於ける禅文化を墨跡にふれ、貴族文化と武家文化の対比をさせる。
- 室町、桃山時代の絵画、建築、工芸と書芸の動向を観る。また現代社会に於ける美の淵源を探る。
- 江戸時代に於ける庶民文化隆盛の中的美と、和様、唐様の書の諸相を学ぶ。
- 現代社会に於ける、文字、書文化の社会生活の中での意義を考えさせる。

### 【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

### 【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

### 【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

## 現代芸術 2

志水博子

### 【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

### 【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

### 【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

### 【テキスト】

楽譜プリントは配布

## 現代芸術 2

浅田まり子

### 【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

### 【授業計画】

- 第1講 音楽について
- 第2講 発声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング1（自然体）
- 第4講 音楽療法 1（歴史と機能）
- 第5講 ヴォイストレーニング2（呼吸法）
- 第6講 サウンドスケープ（音の風景）
- 第7講 音楽療法 2（受容性）
- 第8講 音のしくみ1（メロディーとリズム）
- 第9講 ヴォイストレーニング（楽器の確保）
- 第10講 音のしくみ2（コードなど）
- 第11講 音楽と旅
- 第12講～発表

\*音楽の機能を健康的に活かし、自己満足的な音楽ではなく、ノンバーバルコミュニケーションとなる音楽を目指します。

\*発表は、個人・またはグループでジャンルを問わない演奏の発表。（歌・ギター・ピアノ・コンピューターミュージックなど）

### 【評価方法】

実技・感想・出席状況・授業態度

### 【テキスト】

授業中に指示

## 現代芸術 3

横山万里

### 【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、又、古画のうちで親しみやすい絵巻について講義をする。

### 【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画をとりあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用 計 1,000円

### 【評価方法】

出席状況と感想文レポート（6回提出）を総合的に評価。

### 【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」  
コピーした図を見る。

### 【参考文献・資料】

なし。

## 女性学・男性学

井深淳子

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

本授業を通して、私達の生活を、女性学・男性学から点検し、そこに「どういう困難があり、どういう課題があるのかを具体的に知ること」をめざす。

### 【授業計画】

第1回 はじめに

第2～5回 家族問題

第6～9回 子育て

第10～11回 現代の病巣

第12～13回 女性が働き続けることについて

### 【評価方法】

期末試験、講義時に行う課題や、受講態度等、総合的に評価する。

### 【テキスト】

女性学への招待〔新版〕（井上輝子著 有斐閣）

テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

## 女性学・男性学

伊藤公雄

### 【授業の概要】

現代日本社会におけるジェンダー問題について、おもに男性学の視点から考察を加える。

はじめに ジェンダー論入門

1. 女性問題の発展
2. 現代日本の女性問題
3. 男性問題の時代
4. 作られる「男らしさ」「女らしさ」
5. 体験的・主夫論／働く主夫の生活と意見
6. ニッポンのお父さん／男性の育児をめぐる
7. 男性学と男性運動の展開
8. 試験

<参考図書> 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社）

伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子『女性学・男性学——ジェンダー論入門』（有斐閣）

### 【授業計画】

講義を中心に、ビデオ教材なども使用しつつ進める予定である。

### 【評価方法】

試験によって成績評価を行う。

### 【テキスト】

男性学入門（伊藤公雄 作品社 1,680円）

## 女性学・男性学

竹信三恵子

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

### 【授業計画】

第1回 戦後型男女分業と経済構造～高度経済成長から男女共同参画社会基本法までを概括し、男女の共同関係の新しいあり方をさぐる。

第2回 戦後型男女分業主義を支えたマスメディア～その機能と対抗法をメディア内部から分析。

### 【評価方法】

出席状況と簡単なレポートなどによる。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## エコロジー

大島光昭

### 【授業の概要】

今や地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を保護し、環境を守る観点から地球のエコロジーを考える。

エコロジーとは、生物とそれをとりまく外界すなわち環境との関係についての総合科学である。生物の生存は均衡のとれた有機的および無機的環境の上に成り立っており、均衡の崩壊は人類を含む生物界の未来を危うくする。人類の生活および生産活動はこれらの均衡を乱して多くの生物の生存を脅かしつつあり、地球の未来に様々な問題を投げかけている。それらの状況について解説するとともに、今後どうあるべきかについて問題提起を行う。

### 【授業計画】

エコロジーの基礎

自然環境の保護と育成

陸地環境

水域環境

流域圏環境

化石燃料と環境

地球の温暖化

酸性雨

光化学オキシダント

浮遊粉塵

化学物質と環境

オゾン層の破壊

生物濃縮と生態系の攪乱

ヒトの健康被害

### 【評価方法】

出席状況と試験成績をもとに評価する。

### 【テキスト】

「生態学（エコロジー）」改訂版（大島光昭著 三恵社）700円

## 伝統文化

林 和利

### 【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

### 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説。
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 能について
7. 狂言について
8. 歌舞伎について
9. 文楽について

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

## アジアの生活と文化

楊 衛平

### 【授業の概要】

日本は生活も文化もアジアの影響を強く受けている。特に日本と歴史的にも関係の深い近隣の国を中心にアジアの生活と文化を講義する。

### 【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

### 【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 生命の科学

富田 武

### 【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質や生殖と遺伝の仕組みなど、動物の生命の維持のメカニズムについて学ぶ。

### 【授業計画】

- 第1講 生命の科学序説
- 第2講 生命誕生と進化
- 第3講 動物細胞の分化
- 第4講 動物体を構成する物質
- 第5講 動物の生殖と発生
- 第6講 動物の遺伝（1）
- 第7講 動物の遺伝（2）
- 第8講 動物の生命維持（1）
- 第9講 動物の生命維持（2）
- 第10講 脳の進化、成長、老化
- 第11講 動物の生殖現象操作
- 第12講 動物の遺伝現象操作
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験で総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

生命科学への誘い（大島泰郎他編 東京化学同人）  
生物小事典（丘英通、岩波洋造監修 三省堂）

## 食品の科学

千葉善根

### 【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学との関わり、食品のもつ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や化学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

### 【授業計画】

1. 現代食生活の問題点  
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品  
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品  
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品  
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品  
骨粗鬆症等。
6. ビタミン  
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品  
食品と酵素・微生物との関係。

### 【評価方法】

定期試験にて評価。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 生活の化学

八代 有

### 【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要欠くべからざるものである。身近な生活に拘わる化学的な要素について事例をあげて学ぶ。

### 【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と疾病とのつながり
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿・血液成分のしくみ
8. 暮らしのなかの酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

### 【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。



## 生き物の世界 1

服部一三

### 【授業の概要】

地球上には多種多様な植物が生存しているが、これらの植物は食物連鎖の基本を成すものである。植物の生物界における位置付けや植物の成育地について紹介し、植物と人間との関わりについて認識を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類  
2. 生物の進化
- 第2-6回 3. 植物と人の関わり  
1) 農耕の始まり  
2) 世界の農耕文化  
3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物—作物  
1) 作物とは?  
2) 世界の作物の起源
- 第7-8回 5. 作物改良の原理と方法  
1) 作物改良の原理  
(1) メンデルの法則—遺伝学  
(2) 遺伝の物質的基礎
- 第9回 2) 作物の改良方法
- 第10回
- 第11-12回 6. バイオテクノロジー  
1) バイオテクノロジーとは?  
2) 作物の改良とバイオテクノロジー  
(1) 細胞・組織培養  
(2) 遺伝子操作  
(3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?  
(1) 倫理  
(2) 安全性

### 【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。  
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

## 生き物の世界 2

石崎宏矩

### 【授業の概要】

身近に見られる昆虫や鳥などの生態のメカニズムを解説し、生命の進化について学び、動物への関心といたわりを深めたい。

### 【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどのようにクワシか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○生物がもっている時計(生物時計)とはどういうものか、時差ボケはどうして起こるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○アヒルのひなは生まれて初めて見た生き物を親として認識し、終生変わらない(刷り込み)。刷り込みの起こる機構は?○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命-40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命—人間を含めて—の危機について、正しく理解してもらえようにつとめる。

### 【評価方法】

出欠、レポート、試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを写させてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

### 【テキスト】

「進化とはなんだろうか」長谷川真理子著(岩波ジュニア新書)。これを読んで要約をレポートとして提出してもらうことを単位修得のための必須作業として課する。

### 【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

## 人類と宇宙

安野志津子

### 【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

### 【授業計画】

—地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために—

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

### 【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて 池内 了（新書館）
- (2) 図解雑学 天文学 二間瀬敏史（ナツメ社）
- (3) 星と宇宙の物理学読本 並木雅俊（丸善）
- (4) 図解 SPACE ATLAS 宇宙のすべてがわかる本 三品隆司・河島信樹（PHP）
- (5) 見えてきた宇宙の神秘 野本陽代（草思社）
- (6) 太陽 —その素顔と地球環境との関わり— ケネス・R. ラング著 渡辺 堯/桜井邦朋訳（シュブリンガー・フェアラーク東京）
- (7) 理科年表 国立天文台編（丸善）

## 数学の世界

岡田克彦

### 【授業の概要】

我々は日常生活の中で、数学の恩恵を受けて暮らしている。数学は云うまでもなく膨大な内容を持つ学問体系であるが、ここではいろいろな分野の入門的・基本的な事項を解説し、演習により少しでも多く身につけることをめざす。

### 【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

### 【評価方法】

課題及び試験で評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

## 生命の倫理

加藤太喜子

### 【授業の概要】

現代の医学の進歩と発達によって今や人間の生命の誕生も医学よりも倫理の問題になった。現代社会が抱えている「生命」を倫理や哲学の面から考察する。

### 【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

### 【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する

### 【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平ほか著 講談社現代新書）

## 健康と医学

渡邊一功

### 【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入り、人生80年の時代になった。しかし、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助によって初めて達成される。健康を保ち、命を守り育てるにはどうすればよいか。医学の立場から、病気と健康について講義する。

### 【授業計画】

- 1) 性感染症  
感染症とは 性感染症の現状と予防
- 2) 免疫とアレルギー  
免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類  
アレルギー疾患
- 3) 嗜好品と健康  
アルコール タバコ 薬物依存
- 4) 生活習慣病の予防  
糖尿病 がん 高脂血症 高血圧
- 5) 生殖の医学  
性機能 避妊 妊娠
- 6) 胎児からの子育て  
母子相互作用 母と子の絆 小児虐待
- 7) 子どもの成長と発達  
身体的発育 生理機能の発達 精神的発達  
しつけ
- 8) 乳幼児期の主な病気  
一般的症状 主な病気 障害児  
染色体と遺伝子異常

### 【評価方法】

主に筆記試験による。

### 【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著 日本小児医事出版社）

## 健康とくすり

永井愼一

### 【授業の概要】

現代は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。薬品についての正しい知識を学び、薬品への依存性や副作用について理解を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 受講生に「病気とくすりについて」アンケート調査後、創薬の歴史から新薬開発まで、動物実験や治験の評価法も含めて解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、くすりのかたちと生体内運命、くすりの効くメカニズムと受容体、危険なくすりの飲み合わせと副作用など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 最近許可されたビルなどの生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）500種と医者が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎や花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法を解説
- 第10～13回 検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端治験薬を含めた治療薬の作用機作

### 【評価方法】

配布したプリントからテーマを出題し、レポートの内容で成績評価する。

### 【テキスト】

プリントを毎回配布し、講義する。なお、何時でも「病気とくすりに関する質問」をメールで受けつけ、プライバシーを守ってお答えします。

## ライフサイクルと健康

松田秀子

### 【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルに合わせた運動と健康の維持について身近な問題を取りあげて講義する。

### 【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 身体意識
5. 肥満とやせ
6. 隠れ肥満
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪
9. 体脂肪を正しく落とす方法
10. 筋肉と運動神経
11. 健康づくりのための運動
12. Walking
13. 性のとらえ方
14. 性への理解
15. 学生生活と健康

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。  
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

## スポーツ基礎

杉山 和 山本啓子 松田秀子  
寺田邦昭 門間 博

### 【授業の概要】

各種スポーツ（テニス、ゴルフ、バドミントン）をはじめ、ストレッチ体操、トレーニングなどの運動の基礎技術を習得することを目標として行う。

### 【授業計画】

月曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バドミントン
火曜日	1限	松田	テニス・ゴルフ
	2限	松田	テニス・ゴルフ
	3限	山本	卓球・バレーボール
	3限	松田	バドミントン・ゴルフ
	4限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	1限	門間	テニス・バスケットボール
	2限	門間	テニス・バスケットボール
	3限	門間	テニス・バドミントン
	3限	山本	バレーボール・卓球
	4限	門間	テニス・バドミントン
	4限	山本	バレーボール・卓球
木曜日	1限	寺田	ニュースポーツ
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	杉山	バドミントン・テニス
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バレーボール
	4限	杉山	テニス・バレーボール

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行います。（天候によって種目を変更する場合があります。）
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（300円）を必要とします。

### 【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点

## スポーツ応用（授業概要）

杉山 和 山本啓子 松田秀子  
寺田邦昭 門間 博

### 【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

### 【授業計画】

月曜日	2限	杉山	ゴルフ
	3限	杉山	ゴルフ
火曜日	1限	松田	バドミントン
	2限	松田	バドミントン
	3限	山本	バドミントン
	3限	松田	テニス
	4限	山本	バドミントン
水曜日	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	ソフトボール
	3限	山本	バドミントン
	3限	門間	サッカー
	4限	山本	バドミントン
	4限	門間	サッカー
木曜日	1限	寺田	ニュースポーツ
	2限	杉山	ゴルフ
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
金曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	杉山	バドミントン
	4限	杉山	バドミントン

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（600円）を必要とします。

## スポーツ応用

杉山 和

### 【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（600円）を必要とします。

〔ゴルフ〕

1. ガイダンス
2. グリップ、スタンス、アドレス
- 3～6. アイアン練習（ショート・ミドルアイアン）
- 7～8. ウッド練習（1、3ウッド）
9. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 10～14. 総合練習
15. 学外のゴルフ練習場にて練習

〔バレーボール〕

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点

## スポーツ応用

山本啓子

### 【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点

## スポーツ応用

松田秀子

### 【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）

9～15. ダブルスゲーム

〔テニス〕

1. ガイダンス
  2. ボールとラケットに慣れる
  3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
  4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
  5. サービス、レシーブ
  6. ボレー、スマッシュ
  7. ゲームの進め方、ルール説明
  8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点

## スポーツ応用

寺田邦昭

### 【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

### 【授業計画】

- \*第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- \*天候によって種目を変更する場合があります。
- \*授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔スキルトレーニング〕

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら練習し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

打つ技術の獲得

- バッティング（ソフトボールでの打つスキル）
- ショット（ゴルフ・バスケットボールでの打つスキル）
- ストローク（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- スマッシュ（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- アタック（バレーボールでの打つスキル）
- キック（サッカー・ラグビーでの蹴るスキル）

投げる・送る技術の獲得

- スローイング及びパス（ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フライングディスク・サッカー・ラグビーでの投げる・送るスキル）

捕る技術の獲得

- キャッチング（ソフトボール・バスケットボール・ラグビー・フライングディスクでの捕るスキル）

- 1週 ガイダンス  
2～7週 主にアウトドア種目を中心に実施する。  
8～13週 主にインドア種目を中心に実施する。  
14週 テスト（各種スポーツにおけるスキルテスト）

### 【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点

## スポーツ応用

門間 博

### 【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明

ダブルスゲーム

[ソフトボール]

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）

[サッカー]

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

### 【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点

## スポーツ文化論

勝部篤美

### 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

### 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレイの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場合と同じである

### 【評価方法】

単位認定試験とレポートの成績および出席状況によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。



# スポーツ文化論

松田秀子

## 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

## 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

## 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

## コミュニケーション入門

植村勝彦 松本青也 藤井正志

### 【授業の概要】

(概要) コミュニケーション学部の教育について、コミュニケーション心理、ビジネスコミュニケーション、言語コミュニケーションの3領域からの学習の動機づけをオムニバス方式で行う。★(オムニバス方式)★(植村勝彦教授) コミュニケーションの問題を心理学の立場からの理解の仕方を紹介する。中でも対人コミュニケーションについて、その理論を現実社会の問題とからめて取上げる。★(松本青也兼任教授) 言語や文化の異なるもの同士が相互に伝達を図り、交流しようとする場合に生じる様々な問題について、言語特有の発想や文化のもつ価値観、更に言語教育・政策までを比較対照しながら考察する。★(藤井正志兼任教授) コミュニケーションの問題について、現実的なビジネスの立場に立って、効果的なコミュニケーションの在り方を考察する。

### 【授業計画】

- 第1講 導入
- 第2講 ありのままを知らせるコミュニケーション：自己開示
- 第3講 自分を演出するコミュニケーション：自己呈示
- 第4講 対人交渉のコミュニケーション：要請と承諾
- 第5講 非言語コミュニケーション：ポディー・ランゲージ
- 第6講 言語と思考
- 第7講 言語と社会
- 第8講 言語と教育
- 第9講 言語と文化
- 第10講 職場の活性化とコミュニケーション
- 第11講 職場における人材教育とコミュニケーション
- 第12講 企業経営のコンセプトの変化とコミュニケーション
- 第13講 国際ビジネスの場におけるコミュニケーション

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

コミュニケーション学入門—心理・言語・ビジネス—  
(植村勝彦・松本青也・藤井正志著 ナカニシヤ出版)

## 心とコミュニケーション

米倉五郎

### 【授業の概要】

個人は意識の中心にある自我を軸とした人格と無意識にあるもうひとつの要素との、両者のバランスを生きることになる。また、人と人とのコミュニケーションの歪みが個人の病理を生じさせることが今日、明らかになってきており、そうした対人コミュニケーションのあり方も含めた、心の不思議について述べていきたい。

こころの構造を説明しつつ、対人コミュニケーションとは次元の異なる個人内コミュニケーションとしての意識と無意識のかかわりについて講義を行う。

### 【授業計画】

- 1) 臨床心理学に出会うまでの道のり、青年期におけるアイデンティティ形成と人との出会い
- 2) エゴグラムによる自己理解 (1)；ありのままの自分、5本柱と15パターン、相補性、共依存—自分の体験を通してこころについて考えてみる—
- 3) エゴグラムによる自己理解 (2)；ありのままの自分と演じている理想の自分、影の自分との比較、多くのペルソナ(仮面)の自分と他者評価の自己像の落差が意味するもの、投影と投影の引き戻し、転移・逆転移という現象
- 4) 精神分析学の基本的考え方 (1)；無意識の存在=日常生活の精神病理、二重人格、局所論、三層説、エネルギー経済論
- 5) 精神分析学の基本的考え方 (2)；力動論、適応論、自我防衛機制(神経症レベル、原始的防衛機制)
- 6) 精神分析学の基本的考え方 (3)；原始的防衛機制、発達論(フロイト、エリクソン、クライン)
- 7) 精神分析学の基本的考え方 (4)；退行・固着、精神病理の「水準」という視点
- 8) グリム童話からの知見 (1)；いい人が危ない「猫とねずみとお友だち」に見る共依存
- 9) グリム童話からの知見 (2)；カエルの王様に見る思春期心性
- 10) 臨床心理学からの提言 (1) 子育てにおける母の役割、父の役割
- 11) 思春期危機と性衝動、非行の5類系、非行の背景とその予後
- 12) 不登校の類型と発達論
- 13) 今を生きる高校生たちのSOSを読み解く

### 【評価方法】

レポート課題により評価する

### 【テキスト】

なし、レジュメを授業中に配布する

## 言葉とコミュニケーション

朱 新建

### 【授業の概要】

人間のコミュニケーションの手段は様々あるが、本講義では言葉によるコミュニケーションにスポットライトをあて、特に中国語と日本語の比較によって言葉の普遍性と特殊性を検証し、言葉の背景にある文化、歴史、自然環境などを見ながら、言葉とコミュニケーションの複雑な関係を整理し、言葉のコミュニケーションにおける役割を考える。

### 【授業計画】

1. 中国語と日本語の概説
2. 中国語と日本語の音声体系
3. 発音の実践（1）中国語の声調・母音
4. 発音の実践（2）中国語の音節・子音
5. 中国語と日本語の文字体系
6. 言葉の実践（1）漢字の構造と漢字圏文化
7. 言葉の実践（2）漢語の中国への逆輸入
8. 中国語と日本語の挨拶言葉
9. 言葉の実践（3）初対面の挨拶
10. 言葉の実践（4）お礼とお詫び
11. 言葉の実践（5）自己紹介の作成
12. 言葉の実践（6）自己紹介の発表
13. レポート試験

### 【評価方法】

平常点と試験による総合評価をします。

### 【テキスト】

授業中指示します。

## ビジネスとコミュニケーション

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

日本企業の海外戦略の方向性をケーススタディーを通して学習。その中でビジネス交渉に関するキーポイントを解説し、生きたコミュニケーション術を考察する。

### 【授業計画】

- |         |                 |
|---------|-----------------|
| 第1回     | ステークホルダーとは      |
| 第2～4回   | 消費者とのコミュニケーション  |
| 第5～7回   | 日本企業の国際化とその問題点  |
| 第8～10回  | 従業員とのコミュニケーション  |
| 第11～13回 | 企業と社会のコミュニケーション |
| 第14回    | まとめ             |

### 【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】

特に指定しない

### 【参考文献・資料】

- いま、なぜビジネスコミュニケーションか（宮智宗七著  
アルク新書）  
アジアからの視線（今田高俊・園田茂人編著 東京大学  
出版会）  
国際経営―新版―（吉原英樹著 有斐閣アルマ）

## コンピュータ入門

坂本 剛 遠山智子

### 【授業の概要】

コンピュータの初心者を対象にWindowsの基本操作、ワープロソフトの操作、並びにインターネットの使用方法について学習する。授業のゴールは2つで、(1) レポートをワープロで作成できるようになること、(2) メールを使ってのコミュニケーションができること、である。

### 【授業計画】

- 第1回 Windowsの基本操作 (1)
- 第2回 Windowsの基本操作 (2)
- 第3回 ワープロソフトの操作 (1)
- 第4回 ワープロソフトの操作 (2)
- 第5回 ワープロソフトの操作 (3)
- 第6回 メールの使い方 (1)
- 第7回 メールの使い方 (2)
- 第8回 ブラウザ使用法
- 第9回 ブラウザの活用
- 第10回 表の作成
- 第11回 図の作成
- 第12回 その他のアプリケーションの操作法
- 第13回 補足とまとめ

### 【評価方法】

出席、課題、レポートなどの総合評価による。

### 【テキスト】

超図解 WORD 2000 for Windows (エクスメディア)

## コンピュータ応用

吉崎一人 遠山智子

### 【授業の概要】

データ集計、整理、分析を行うために不可欠な道具である表計算ソフトの基本的操作方法を習得する。

### 【授業計画】

- 1. 授業ガイダンス、WORD操作の確認
- 2. EXCELの基本操作(1) データの入力・編集、計算
- 3. EXCELの基本操作(2)印刷、グラフ作成
- 4. データ集計の基礎(1) 調査紙からデータベースへ
- 5. データ集計の基礎(2) EXCELを使った集計
- 6. 調査データの整理(1) DATABASE関数
- 7. 調査データの整理(2)ピボットテーブル
- 8. 調査データの整理(3)データの加工
- 9. 調査データの整理(4)集計結果の提示
- 10. レポート作成(1)科学レポートのためのグラフ
- 11. レポート作成(2)WORDとEXCELの連携
- 12. 模擬試験

### 【評価方法】

出席、レポートの提出、並びに期末試験の総合評価による。

### 【テキスト】

未定

## プレゼンテーション

松田照美

### 【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書による表現などについて学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション（1）
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション（2）
- 第4回 効果的な言語表現（1）
- 第5回 効果的な言語表現（2）
- 第6回 対人接遇における印象管理－自己紹介－
- 第7回 対人接遇のスキル－電話応対－
- 第8回 コミュニケーションにおける文書等の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

### 【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プレゼンテーション（関根健夫監修・一橋出版）

### 【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション（八幡紙芦史・生産性出版）

## 異文化トレーニング

近藤祐一

### 【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々がともに生活し、問題を解決するためにどのような知識・態度をもちながらコミュニケーションを取るべきかについて、ロールプレイやシミュレーションを用い分析・考察する。

### 【授業計画】

- 異文化コミュニケーションとは
  - 授業の概要・授業の進め方について
  - どう言えば...
  - 言語メッセージとコミュニケーション
  - 黙って座ればびしゃりとあたる
  - 非言語メッセージとコミュニケーション
  - あばたもえくぼ
  - 知覚
- 私の大事なもの
  - 価値観とコミュニケーション－1
  - 「水戸黄門」の謎
  - 価値観とコミュニケーション－2
- あなたって回りにくい！
  - 文化と思考方法
- 私はだれ？
  - ステレオタイプ
- あなたは男だから...
  - 共文化
- もう昔の私には戻れない....
  - 異文化コミュニケーションと自己変化

### 【評価方法】

授業の特質上、出席状況および授業への参加度に重きを置く。また、ジャーナルおよび最終レポートを課す。

### 【テキスト】

関連する資料を適宜授業中に配布する。

## 異文化トレーニング

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々がともに生活し、問題を解決するためにどのような知識・態度をもちながらコミュニケーションを取るべきかについて、教科書、プリント、インターネット等の資料、情報を用い分析・考察する。

### 【授業計画】

- 第1週 Course Orientation
- 第2週 第1章 なぜ今、異文化コミュニケーションか
- 第3週 ワークブック1：異文化コミュニケーションとは
- 第4週 第2章 コミュニケーションとは何か
- 第5週 ワークブック2：コミュニケーションスタイル
- 第6週 第3章 ことばによるコミュニケーション
- 第7週 ワークブック3：言語コミュニケーション
- 第8週 ことばのないメッセージ
- 第9週 ワークブック4：非言語コミュニケーション
- 第10週 第4章 見えない文化
- 第11週 ワークブック5：価値観
- 第12週 まとめ
- 第13週 期末試験

### 【評価方法】

期末試験、授業への参加、レポート或いは presentation、そして出席率などを総合的に判断する。

### 【テキスト】

1. 異文化トレーニング：ボーダーレス社会を生きる  
八代京子他、三修社、1998
2. 異文化コミュニケーション ワークブック 八代京子他、三修社、2001
3. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために ジョリー幸子・小池弘道、風媒社、1999

## TOEFL・TOEICトレーニング I

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香  
磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have never done a TOEFL test or who have a score of less than 345 should consider doing this course.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFL のスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香  
磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means “Test Of English for International Communication” .

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have never done a TOEIC test or who have a score of less than 250 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  1. Sentences about photographs.
  2. Questions / responses
  3. Dialogues
  4. Short talks
- B. Reading comprehension
  5. Sentence completion
  6. Error identification
  7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス  
ジェームス・A. ジョニー シャレル・A. ラインツマ アラン・デイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEFL (2)

TOEFL・TOEIC などの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

TOEFL means “Test Of English as a Foreign Language” .

Students who have completed TOEFL I or who have a score of less than 370 should consider doing this course.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス  
ジェームス・A. ジョー シャレル・A. ラインツマ アラン・テイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have completed TOEIC I or have a TOEIC score of less than 300 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  1. Sentences about photographs.
  2. Questions / responses
  3. Dialogues
  4. Short talks
- B. Reading comprehension
  5. Sentence completion.
  6. Error identification
  7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョー デビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス シャレル・A. ラインツマ  
アレン・D. ウィリアムス アラン・テイヴィーズ スコット・R. グラント 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II , or who have a score of more than 380 should consider doing this course.

This is a high-beginner level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。



## TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A、ジョー・テイラー・C、ダイカス ジョージ・E、ログ・バー・T、リス・シムル・A、ライヴグ  
アレン・D、ウィリアムス アラン・テイラーズ スコト・R、グリーン 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This is a high - beginner course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

#### A.Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

#### B.Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

デイビッド・C、ダイカス ジェームス・A、ジョリー アラン・テイラーズ  
アレン・D、ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

### 【Course Content】

#### TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 400 should consider doing this course.

This is a pre - intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

#### 1.Listening comprehension

- A.Short conversations
- B.Long conversations
- C.Talks (short lectures)

#### 2.Structure and written expression (grammar)

- A.Structure
- B.Written expression

#### 3.Reading comprehension

- A.Reading comprehension
- B.Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their Judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

デイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・テイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

### 【Course Content】

#### TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a pre-intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 350 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

#### A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

#### B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

**IMPORTANT:** 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅤ

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン  
アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅤの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 420 should consider doing this course.

This is an intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

#### 1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

#### 2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

#### 3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

**IMPORTANT:** 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEIC トレーニングV

ジェームス・A. ジョリー テイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン  
アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVIの授業につなげる。

This is an intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 400 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

#### A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

#### B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC V (5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEIC トレーニングVI

ジェームス・A. ジョリー テイビッド・C. ダイカス  
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 450 should consider doing this course.

This is an advanced level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

#### 1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

#### 2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

#### 3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL VI (6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス  
 ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is an advanced course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 500 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

#### A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

#### B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## 異文化コミュニケーション

高井次郎

### 【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本的対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 対人認知
6. ステレオタイプ
7. 人種偏見
8. 人種差別
9. 異文化間能力
10. 異文化間トレーニング
11. コミュニケーション研究
12. コミュニケーション理論
13. 期末試験

### 【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

### 【テキスト】

未定—授業中に指示する。

## 国際交流論

榎田勝利

### 【授業の概要】

経済大国となった日本は、国際社会の有力な一員として責任ある行動をとることが求められる。近年の「国際化」に伴い、政治、経済、学術、芸術、スポーツなどの分野でも、盛んに国際交流が行われているが、果たして真の交流が実現しているのだろうか。主に日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のありかたについて論ずる。

### 【授業計画】

講義と各学生によるレポート発表により授業を展開する。

- 1) ガイダンス、国際交流に関連する用語解説
- 2) 国際交流の定義
- 3) 戦後の国際交流の軌跡
- 4) 日本の国際交流の現状と課題
  - ・多様化、複雑化する国際交流
  - ・自治体主導の地域の国際化
  - ・民間非営利活動の社会的認知
- 5) NGOとボランティア
  - ・国連組織とNGO
  - ・国際ボランティア
- 6) 交流相手から見た国際交流
- 7) 国際交流活動を担う専門的な人材育成
  - ・プログラム・オフィサーに求められる能力
- 8) 多文化共生社会と多文化共生能力
  - ・多文化共生社会とは
  - ・求められる多文化共生能力
- 9) よりよい地球市民社会の形成を目指して

### 【評価方法】

課題研究レポートおよび平常点にて評価する。

### 【テキスト】

国際交流入門（榎田勝利監修 アルク）

## メディア論

遠藤雄久

### 【授業の概要】

本構の目的は、マルチメディア時代といわれる現代のメディア状況をよりよくとらえるために、歴史社会的視点に立ってメディアと人間・社会の関わり方を振り返って見ようというものである。十九世紀後半に出現した電信、電話から始めテレビジョンそしてパーソナルコンピュータに至る電子メディアの発展の過程を、人間や社会がどのようにメディアをデザインしてきたかという観点からたどっていく。

### 【授業計画】

- 第1回 総論
- 第2回 電信技術の実用化
- 第3回 電話の発明の父はだれ？
- 第4回 ラジオのような電話
- 第5回 ラジオ放送の開始
- 第6回 写真技術の開発
- 第7回 映画の誕生
- 第8回 ハリウッド映画の成立
- 第9回 映画ソフトの多様化（1）
- 第10回 映画ソフトの多様化（2）
- 第11回 テレビ放送の誕生と発展
- 第12回 メディアの境界領域
- 第13回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合判断する

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国際関係論

明石陽至

### 【授業の概要】

本講座は国際関係論入門科目である。多様な国際関係を国家・民族の利害・戦略が交錯する国際社会の動きや構造を外交・国力・経済など視点から国際関係理論と仕組を体系的に解き明す。

### 【授業計画】

- 第1講 国際関係論のアプローチ
- 第2講 国家と国際体系
- 第3～4講 国家の能力と影響力
- 第5～6講 外交政策の決定
- 第7～8講 外交政策の手段
- 第9～10講 各国の外交
- 第11講 国際平和の維持
- 第12講 南北問題・国際平和へのアプローチ

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの討論の積極的参加等を総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

### 【テキスト】

新国際関係論 (花井等著 東洋経済新報社)

## 異文化教育論

霜田一敏

### 【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を国際理解教育の観点から具体的に論究する。

### 【授業計画】

異文化とは何かを自らが体験した個人内異文化状況をもとに下記の項目で学生参加で行う。

1. 大学生生活の異文化状況—中高との対比—
2. 一人暮らしの異文化状況
3. 方言と風習の違い
4. 地域生活の違い
5. アルバイトの世界の異文化状況
6. 世代間・家族間の異文化状況
7. いじめの世界・ひきこもりの世界、障害者の世界
8. インターネットの世界（メールや携帯電話の姿が見えない世界）

### 【評価方法】

毎回行うミニテストと授業への参加度、期末の定期テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

## 比較教養論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

言語を中心とする「教養」に関する各国の思想史を概説し、国際化・高齢化・情報化の進展の中で今後の自己教育としての「教養」の在り方、普遍的教養の有無、コミュニケーションの基礎としての「教養」の問題を論じる。

### 【授業計画】

- 1：古代ギリシャ時代の教養と人間観
- 2：中国の伝統的教養と人間観
- 3：インドの伝統的教養と人間観
- 4：キリスト教の人間観と教養
- 5：西洋近代思想の人間観と教養
- 6：近現代日本の修養論と教養論
- 7：教養とコミュニケーション

### 【評価方法】

平常レポートと討議

### 【テキスト】

使用せず（資料配布）

### 【参考文献・資料】

教養とヒューマニズム（村瀬裕也 白石書店）  
ディスタクシオン（ブルデュー 藤原書店）  
東洋と西洋（レーヴィット 未来社）  
美徳なき時代（マッキンタイア みすず書房）  
知の文化と型の文化（鹿毛誠一 創文社）  
近現代日本の教養論（渡辺かよ子 行路社）

## 比較文化論Ⅰ（日・米）

松本青也

### 【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

### 【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由に伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

### 【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

## 比較文化論Ⅱ（日・欧）

トマー・トドロヴィック

### 【授業の概要】

西ヨーロッパの主な諸国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化様相の状況と問題点に関する最近のデータを利用して比較を行ない、ヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

### 【授業計画】

- 1) 生活様式と生活粋
- 2) 人口問題
- 3) 消費社会文化
- 4) 暴力、犯罪といじめの問題
- 5) ヨーロッパの匂いと味、しぐさと音
- 6) 家族制度
- 7) フランス人の結婚
- 8) 自由時間
- 9) 教育制度
- 10) メディア
- 11) 環境問題
- 12) 地域文化

### 【評価方法】

テストによる評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 比較文化論Ⅲ（日・アジア）

馮 富榮 尹 大辰

### 【授業の概要】

（概要）アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

（オムニバス方式）

（馮富榮兼任教授）日本と中国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

（尹大辰兼任講師）「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していくようにするものである。

### 【授業計画】

この授業は、学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、中国や韓国の文化習慣を多面的に紹介する。授業は、具体的に以下の内容を中心に展開していく予定である。

1. 中国文化の原点である“天人合一”について
2. 何千年の歴史を持つ中国の漢字文化
3. 世界でも大変評判になっている中国の食文化
4. 中国の祝日と風俗習慣
5. 中国の古都の紹介
6. 中国の文化習慣がいかんにして中国人の日本語学習に影響を及ぼすか
7. 中国に関する全体的なまとめ
8. 日本と朝鮮半島との文化交流（古代）
9. 日本と朝鮮半島との文化交流（中世）
10. 日本と朝鮮半島との文化交流（近代）
11. 朝鮮半島の自然と文化・風土
12. 韓国の家族制度と姓・本貫
13. 韓国の社会生活から見た文化比較

### 【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材

### 【参考文献・資料】

金両基監修図説「韓国の歴史」河出書房新社



## 比較文化論Ⅳ（日・中東）

岡 真理

### 【授業の概要】

現代世界とイスラームの問題、オリエンタリズム、パレスチナ問題、そして主体としての民族あるいは女性と、その表象の問題等を主要なテーマとして考察する。

### 【授業計画】

1. イスラームとは何か。
2. 「中東」とはいかなる概念か。
3. アラビア語とはいかなる言語か。
4. オリエンタリズムとは何か。
5. パレスチナ問題とは何か。
6. 民族とジェンダーについて。
7. パレスチナ人女性は語ることができるか。

### 【評価方法】

出席状況および試験によって評価する。

### 【参考文献・資料】

イスラームの日常世界（片倉もとこ 岩波新書）  
イスラーム的（大塚和夫 NHKブックス）  
オリエンタリズム（エドワード・サイード 平凡社ライブラリー）  
イスラーム報道（エドワード・サイード みすずライブラリー）  
ペンと剣（エドワード・サイード クレイン）  
ハーレムの少女ファティマ（ファティマ・メルニーシー 未来社）  
イヴの隠れた顔（ナワル・エル・サーダウィ 未来社）  
ゼロ度の女（ナワル・エル・サーダウィ 三一書房）  
その他、授業中に適宜、指示する。

## レポート作成法

植村勝彦 江口昇勇 二宮 昭

### 【授業の概要】

専門の講義科目、研究法演習科目の開始とともに、レポートを作成する機会がきわめて多くなる。最終目標の卒業論文作成のためにも、これは必須のスキルであり、テーマの設定、資料の検索・収集、論理の構成、文章表現、図表の作成などの要点を講義と実践によって学習する。

### 【授業計画】

全体構想として、授業4コマ分を1セッションとし、3セッションの課題と冬休みの宿題から講義を組み立てる。1回目はオリエンテーションとして「レポート作成とは」と題して講義を行い、同時にグループ分け等を行う。2回～5回は課題図書「子どもの虐待」（岩波ブックレット）を熟読吟味した上で、指定された視点からの討論を行い、それを記録に残し、最終的には客観性の高いまとめに仕上げるまで推敲する作業を行う。6回～9回は実験法のレポートであり、ミュラー・リヤーの錯視実験を行い、そのデータに基づきレポートを作成する。10回～13回は、信号無視行動というテーマを設定し、そうした行動が起こる原理をあれこれ仮説を立ててみる。次にそれらの仮説を実証するための方法論を組み立て、実際に観察を実施して、結果を考察するまでのレポート作成を行う。なお冬休みは課題として、「子どもの生活実態についてのインタビュー・レポート」を作成することになっている。

### 【評価方法】

評価は、出席およびレポートの提出に基づいて行う。

### 【テキスト】

子どもの虐待—その権利が虐待されるとき—（森田ゆり 著 1995 岩波ブックレット No.385）  
その他の使用教材は、授業中に指示する

### 【参考文献・資料】

大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（吉田建正著 1997 ナカニシヤ出版）

## 英語論文講読入門Ⅰ

鈴木哲至

### 【授業の概要】

英語読解の基礎を養成する。コンピュータ活用、インターネット活用においても、また、3年次以降の研究論文の講読においても、英語読解能力は不可欠であり、この能力の個人差を無くすように、理解度をチェックしながら基礎トレーニングを行う。

### 【授業計画】

主なトピックは以下のとおりである。

Two Related Crises

The Paradox of Culture

Man as Extension, Consistency and Life

Hidden Culture

Rhythm and Body Movement

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

### 【テキスト】

Hall, Edward T. 著 *Beyond Culture* (『文化を超えて』)

## 英語論文講読入門Ⅱ

鈴木哲至

### 【授業の概要】

講読入門Ⅰに続いて、平易な科学論文の講読を通して、学生個々の英語読解能力の向上に努める。語彙の習得、重要な語句・文の構造に対する理解を深めながら授業を進める。

### 【授業計画】

主なトピックは以下のとおりである。

Apart from the Animals

The Trouble with Love

Some Thoughts about Thought

Personality's Part and Parcel

Mother's Day

I'm OK, You're a Bit Odd

Fast Track to Puberty

Knock Wood

Got a Minute

A Neat Gift Idea

Seeing is Believing

The Other 90%

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

### 【テキスト】

Paul Chance 著 *We're Only Human* (『人間の心理と行動に関する12章』)

## 英語論文講読Ⅰ

坂田陽子 杉本助男 新美明夫 西出隆紀

### 【授業の概要】

3年生以降の専門教育を受けるのに必要な英語読解力の基礎を養成することをめざす。心理学を中心とするやさしい科学論文をテキストとしてとりあげ、論文英語に固有の表現や学術用語に慣れることが目標となる。

### 【授業計画】

予めプリントを配布し、毎回、定められた範囲の英文を講読する。

### 【評価方法】

読解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 英語論文講読Ⅱ

坂田陽子 杉本助男 新美明夫 西出隆紀

### 【授業の概要】

講読Ⅰに続いて、心理学を中心とする研究論文を読みこなす力の養成をめざす。比較的新しいトピックスをとりあげている実験論文や調査論文をテキストとして、そのスタイルに慣れるとともに読解スピードをあげることが目標になる。

### 【授業計画】

予めプリントを配布し、研究論文の内容を理解しながら講読する。

### 【評価方法】

英文理解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 研究法実験演習 I・II

清水 遵 吉崎一人 遠山智子 赤嶺亜紀

### 【授業の概要】

I：生理心理学の領域で扱われる生理学的測定法を学習する。種々の心理状態で脳波や自律神経ポリグラフの測定や分析法について習得させる。

II：認知心理学の領域で扱われる心理学実験の手法を学習する。記憶研究等の基礎的実験を通じて実験の計画と実施法データの分析法、結果のまとめ方等を習得させる。

### 【授業計画】

実習は小グループ単位でローテーションしながら行い、総実習回数のうち半数を生理心理学、残りの半数を認知心理学の学習に充てる。生理心理学ではさらに事象関連電位と自律神経ポリグラフに分かれて実習する。

### 【評価方法】

生理心理学、認知心理学のそれぞれでレポートの課題が与えられる。それらのレポートの評点に遅刻、欠席などを考慮した総合評価を行う。

### 【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

## 研究法観察演習 I・II

斎藤和志 松尾貴司 中藤 淳 坂本 剛

### 【授業の概要】

I：コミュニケーション行動・心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。その研究方法の一つである観察法の基礎技法（自然的観察、参加的観察、実験的観察など）を実際に体験しながら学ぶ。演習 I では問題設定、データ収集について学習する。

II：研究法観察演習 I で得られたデータについて、分析し、報告書を作成するといった一連の研究プロセスを学習する。

### 【授業計画】

I と II は連続して受講すること。単独の履修は認められない。前半は観察法の基礎技法を広く学習する。後半はグループ単位に分かれ、具体的なテーマに沿って個別研究を行い、その中で観察法の実際について理解を深める。必要に応じてビデオなどの視聴覚機器の使用法の実習を行ったり、コンピュータを使用しての分析を行う。

1. 授業全体のオリエンテーション、諸注意
2. 観察法概説
3. 観察法基礎実習
4. 問題の設定
5. データ収集法の検討
6. データ収集
7. データ分析
8. 報告書の作成と研究発表

### 【評価方法】

授業への参加態度と、数本のレポートによる総合的評価。

### 【テキスト】

使用せず。

## 研究法調査演習Ⅰ・Ⅱ

新美明夫 石田靖彦 坂本 剛 遠山智子

### 【授業の概要】

- I：コミュニケーション行動などの実証的研究を進めていく際の研究方法の一つである、質問紙調査法の演習を行う。調査テーマの検討から始まり、調査票の作成と印刷、調査の実施等を学習する。
- II：研究法調査演習Ⅰで得られた調査データについて、データ入力・集計・分析・調査レポートの作成の一連のプロセスを少人数のグループ単位で行い、調査法の科学的方法論を身につける。

### 【授業計画】

I、IIは一体の授業であり、単独での履修は認められない。

1. 調査テーマの検討
  - (a) 演習計画とグループ分け
  - (b) 文献の収集
  - (c) 調査目的の明確化・研究仮説の設定
2. 調査票の作成
  - (a) 測定尺度の作成
  - (b) 調査票の作成・印刷
  - (c) 調査の実施
3. データの整理と分析
  - (a) 調査票のコーディングとデータ入力
  - (b) データの集計と分析
  - (c) 分析結果の整理
4. 調査報告書の作成
  - (a) 調査報告書の書き方
  - (b) 報告書の作成
  - (c) 報告書の推敲・完成
  - (d) 結果のプレゼンテーション

### 【評価方法】

報告書の内容および演習への参加態度を評価の対象とする。

### 【テキスト】

使用しない

## 研究法面接演習Ⅰ・Ⅱ

西出隆紀 古井 景 具志堅伸隆 小平英志

### 【授業の概要】

- I：心理学的な研究方法の一つである「面接法」の基礎を学び、実習を行う。内容は調査面接法と臨床面接法とに大別され、演習Ⅰでは研究史から問題意識を明確に構成し、厳密な方法でデータを収集した上で、統計的な手法を中心に分析を進め、考察を加える。
- II：臨床面接法について心理臨床現場で行われるカウンセリングをはじめとする心理療法の基本的態度と基礎知識を身につけていくことを学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 演習計画（今後の予定）  
グループ分け・調査テーマの討議
- 第2回 調査テーマの決定（要旨提出）
- 第3回 文献収集・調査目的の明確化
- 第4回 質問項目の検討
- 第5回 予備面接と項目の再検討
- 第6回 面接実施
- 第7回 評定・コード化基準の検討
- 第8回 「問題」「方法」の下書き提出  
テープ起こし・記録・データ入力  
目検・チェイン（第9回迄に完了）
- 第9回 データ分析法の検討および分析処理
- 第10回 データ分析処理（続）  
および結果の検討（解釈）
- 第11回 報告書作成（「結果」「考察」）
- 第12回 報告書作成（続）  
（「結果」「考察」下書き提出）
- 第13回 報告書作成（修正）
- 第14回 臨床面接法について（その1）
- 第15回 臨床面接法について（その2）  
（グループ研究の進み具合で14、15の内容が変更されることもある）

### 【評価方法】

成績評価はグループレポートの出来による。その他、個人のグループへの参加態度や出欠を考慮する。

### 【テキスト】

使用テキストなし。

## 統計基礎

坂田陽子

### 【授業の概要】

コミュニケーション行動・心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。多くの場合、得られた資料・データは数値として扱われる。この数値はどのような特徴をもち、そこからどのようなことが読みとれるのであろうか。こうした数値を扱う際に必要となる統計的な考え方、方法の基礎について講義する。

### 【授業計画】

1. グラフの見方
2. データを集めよう
3. データを図表にまとめよう (量的変数)
4. データを図表にまとめよう (質的変数)
5. データを計算したり分析しよう (量的変数)
6. データを計算したり分析しよう (質的変数)
7. 試験

### 【評価方法】

定期試験による。

### 【テキスト】

ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 (田中敏・山際勇一郎著 教育出版)

## データ解析 I

新美明夫 松尾貴司

### 【授業の概要】

統計パッケージソフトを利用して、複雑で冗長なデータを適切に集約し、そこに含まれる情報について正しく解釈・推論する能力を身につける。具体的にはデータ解析の基礎的技法を習得することを目標とし、質的データと量的データのそれぞれについて、a) データの集約を適切に行えること、b) 変数の連関を数量的に検討できること、の2点を主な目標とする。

### 【授業計画】

1. イントロダクション
  - (1) データの概念
  - (2) データ解析の流れ
  - (3) データのコーディングと入力
2. 基本集計
  - (1) 度数分布を知る
  - (2) 基本統計量の算出：度数分布の数値要約
3. 2つの変数の関係
  - (1) 質的変数どうし ( $\chi^2$ 検定)
  - (2) 量的変数と質的変数  
(t検定、一元配置分散分析)
  - (3) 量的変数どうし (相関係数)
4. SPSSによるファイル操作
  - (1) 新しい変数の作成
  - (2) 値の再割当
  - (3) 合成得点の算出

### 【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

SPSSによるデータ解析の基礎  
(宮脇典彦他 培風館)

## データ解析II

斎藤和志

### 【授業の概要】

データ解析Iに引き続き、統計パッケージソフトを利用したデータの分析について、実際にデータを処理しながら学ぶ。主に、実験計画法に基づいて収集されたデータを分析する分散分析の扱い方について取り上げる。

### 【授業計画】

授業の内容は以下のようなものであるが、各単元に複数時間をあてることがある。

1. データ解析の考え方と基本知識
2. SPSSの基本操作の確認
3. 研究計画の進め方
4. 被験者間1要因計画
5. 被験者内1要因計画
6. 被験者間2要因計画
7. 被験者間・内混合2要因計画
8. その他の分析法

### 【評価方法】

授業への参加態度と、複数回のレポート提出による。

### 【テキスト】

心理学マニュアル要因計画法（後藤宗理他編著 北大路書房）

## 心理検査法I・II

西出隆紀 具志堅伸隆 難波久美子

### 【授業の概要】

I：各種の心理検査についての基礎知識と実施方法を学ぶ。扱う心理検査としては全訂版田中ビネー知能検査、WAIS-R、PFスタディ、YG性格検査、ミネソタ多面人格目録、内田クレペリン精神作業検査、津守・稲毛乳幼児発達診断検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、等を予定している。

II：心理検査法Iで習得した基礎知識と実施方法に基づいて実際に検査を実施し、結果を解釈し、報告書（クリニカルレポート）を作成することで、心理診断の基礎を身につける。

### 【授業計画】

全体的なオリエンテーションと心理検査の基礎について講義した後、以下の心理検査について学ぶ。3グループのローテーションで指導するため、以下に示した順番通りに進まないグループもある。

1. 知能検査（1） WAIS-R知能検査  
知能の概念と知能検査の歴史についての講義を含む
2. 知能検査（2） 全訂版田中ビネー式知能検査  
知能検査の問題点に関する講義を含む
3. 人格（性格）検査（1）MMPI（ミネソタ多面人格目録）
4. 人格（性格）検査（2）PFスタディ  
YG性格検査
5. 精神作業検査 内田クレペリン精神作業検査
6. 発達検査 津守・稲毛乳幼児発達診断検査  
遠城寺式乳幼児分析的発達検査法

### 【評価方法】

出欠・授業態度とレポートで成績評価する。レポートは各検査毎に提出しなければならない。また、1回でも欠席したりレポート提出を怠ったりした場合は単位を認めない。しかも、ペアの関係があるので、たとえ単位を断念したとしても、出席し続けなければならない。

## 心理学概論 I

松尾貴司

### 【授業の概要】

心理学の研究対象および研究方法の特徴を明らかにすることによって、行動科学としての心理学を展望する。心理学概論 I では、心理学の一般的方法論、行動の生物学的基礎、社会的行動、学習行動などの領域について、実験心理学に基づく知見を中心に講義する。

### 【授業計画】

1. 心理学の対象と研究方法
2. 行動の発生と形成
3. 動機づけ
4. パーソナリティ
5. 社会的行動
6. 学習行動

各トピックスについて 2～3 回の講義をおこなひ、最終講に試験をおこなう。

### 【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

### 【テキスト】

テキスト心理学——心の理解を求めて——  
(橋本憲尚 編著 ミネルヴァ書房)

## 心理学概論 II

坂田陽子

### 【授業の概要】

心理学概論 I に引き続き、心理学の研究対象および研究方法の特徴を明らかにすることによって、行動科学としての心理学を展望する。心理学概論 II では、心理学史、知覚心理学、発達心理学、認知心理学などの領域における基礎的な知見を概観する。

### 【授業計画】

講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 心理学史
2. 知覚心理学
3. 発達心理学
4. 思考心理学
5. 記憶心理学
6. 生理心理学
7. 試験

### 【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

### 【テキスト】

テキスト心理学——心の理解を求めて——  
(橋本憲尚編著 ミネルヴァ書房)



## 発達心理学

坂田陽子

### 【授業の概要】

Freud,S.の精神性発達理論やErikson,E.H.の心理社会的発達論、Piaget,J.の認知発達論など各発達論を解説し、各発達期における特徴を概観した上で、知的発達の遅れや情緒発達の歪みなど、発達のな問題について触れていきたい。人間の発達のすばらしさと困難さを同時に伝えられたらと考えている。主に認知の発達について論じる。

### 【授業計画】

1. 発達理論と発達研究法
2. 身体・運動機能の発達
3. 知覚の発達
4. 認知の発達
5. 記憶の発達
6. 学習の発達
7. ことばの発達
8. 知能と創造性の発達
9. 高齢期の発達
10. 試験

### 【評価方法】

定期試験による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

### 【テキスト】

保育・看護・福祉プリマーズ⑤ 発達心理学  
(無藤隆編 ミネルヴァ書房)

## 教育心理学

二宮 昭

### 【授業の概要】

教育活動を進めていく上で重要な問題となる、発達、教授・学習、人格、評価・測定、障害児指導等について、心理学的な見方や考え方を解説するとともに、そうした心理学的な見方・考え方と教育実践との関わりについて検討する。

### 【授業計画】

1. 教育心理学とは？
2. 勉強するとは？
3. ことばと概念の学習ー就学前期ー
4. 思考の転換ー小学校低学年ー
5. 論理的な思考へー小学校高学年以降ー
6. 学習のエネルギー
7. 知能と教育
8. 教育効果の測定
9. 障害児と教育

### 【評価方法】

学期末に行う筆記試験による。

### 【テキスト】

教育心理学を愉しむ (宮原英種・宮原和子 ナカニシヤ出版)

## 組織心理学

齋藤和志

### 【授業の概要】

組織における人間行動を質問紙や面接、観察に基づく調査などから得られた実証的データを用いて、一定の仮説に基づき説明しようとする行動科学的アプローチとしての組織心理学の領域から、いくつかのテーマを取り上げ、考察する。仕事への動機づけと満足の問題、組織におけるリーダーシップの問題、組織内キャリア発達の問題などを取り上げる。

### 【授業計画】

(社会) 心理学の基礎知識があることを前提とした講義を行う。必要に応じて、レポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 職場の人間関係と社会心理
2. 職場における個人と集団
3. 集団の特性
4. 集団の効果
5. 仕事へのかかわり
6. 職務と適性
7. 仕事への動機づけと職務満足
8. 職務充実と職務再設計
9. 組織のリーダーシップ
10. 集団とリーダーシップ
11. リーダーシップ・スタイル
12. 最近の組織心理学研究
13. 試験

### 【評価方法】

試験による。レポートや調査の被験者体験を成績に加味する場合には、事前に通告する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 生活ストレス論

植村勝彦

### 【授業の概要】

現代人の最新の関心事となっている「ストレス」について、心理学の立場から考察する。コミュニケーション行動との関連については、コミュニケーション行動がストレスを引き起こすストレス源（ストレス源）となる場合もあれば、ストレスをもつ人へのソーシャル・サポート（社会的支援）としてコミュニケーション行動を有効に用いることも可能である。

### 【授業計画】

- 第1講 序・導入
- 第2講 1. ストレス研究の歴史
- 第3講 1) 医学におけるストレスの概念
- 第4講 2) 心理学におけるストレスの概念
- 第4講 2. 心理的ストレスの測定
- 第5講 1) 生活ストレスの研究
- 第6講 2) 生活ストレスの測定
- 第6講 3) 心理的ストレス反応の測定
- 第7講 3. ストレス対処行動
- 第8講 1) 対処行動とは
- 第8講 2) 対処行動の分類と測定
- 第8講 3) 対処の規定因
- 第8講 4) タイプA行動とストレス対処
- 第9講 4. ソーシャル・サポート
- 第10講 1) ソーシャル・サポートとは
- 第10講 2) ソーシャル・サポートの測定
- 第11講 3) ストレスとソーシャル・サポート
- 第12講 5. ストレス・マネジメント
- 第12講 1) パーンアウト現象
- 第13講 2) ストレス・マネジメント

### 【評価方法】

学期末の単位認定試験により評価する。

### 【テキスト】

毎回配布するプリントにより講義・解説する。

### 【参考文献・資料】

「ストレス」の肖像（林 峻一郎著 中公新書）

## 社会心理学

森久美子

### 【授業の概要】

社会心理学における主要な理論・研究について、特に実験的研究を紹介しながら概説する。これを通して、実験社会心理学の枠組みによって、社会的な行動や現象を理解するための基礎的知識を身につける。具体的には、実験社会心理学の方法論のほか、社会的認知、社会的態度、対人魅力、社会的影響過程、集団行動、など社会心理学に関する幅広いテーマに関する実証的研究について解説する。

### 【授業計画】

1. 社会心理学の目的と方法
2. 社会的認知
3. 社会的アイデンティティ
4. 社会的態度と偏見
5. 集団間の葛藤と交渉
6. 社会的影響過程
7. メディアを通じた影響
8. メディアとコミュニケーション

### 【評価方法】

テストの成績による。

### 【テキスト】

使用しない。

## 視聴覚論

松尾貴司

### 【授業の概要】

人の知覚のメカニズムを理解すると同時に、視聴覚メディア、マルチメディア等と呼ばれるさまざまなコミュニケーションメディアの技術的特性を理解することによって、視聴覚メディアが人のコミュニケーションに及ぼす影響、およびその可能性について考える。

### 【授業計画】

1. 視覚のメカニズム
  2. 聴覚のメカニズム
  3. さまざまなメディアとその発達
  4. 映像メディアの特質
  5. 視聴覚機器の特徴とその活用
  6. 行動研究における視聴覚機器の利用
- 各トピックスについて2～3回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう。なお、受講者数が少数の場合は、視聴覚機器の操作に関する実習をおこなうことがある。

### 【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 尺度構成法

廣岡秀一

### 【授業の概要】

心理学の領域では質問紙によってデータを収集することが少なくない。社会的態度や性格特性を測定するための尺度や心理テストを構成する際には信頼性と妥当性の検討が必要となり、そのために因子分析や多変量解析といった統計的処理を行うことになる。こうした尺度構成を行う場合に必要な、統計的な考え方とその技法について学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～6回 分散、共分散、相関分析
- 第7回 尺度構成の基本的考え方
- 第8～10回 因子分析の実際
- 第9～12回 コンピュータを用いた尺度構成の実際

### 【評価方法】

授業で課される課題へのレポート（数回）  
単位認定試験の成績

### 【テキスト】

第1回目の授業で指示する。

#### 《備考》

この授業の受講生は、統計の基礎知識があることを前提としている。第2回目からは、SPSSを活用しながら、講義と実習を同時に行なう。また出席やレポート提出には、e-mailを用いるので、学内実習室からmailを送ることが出来るようにしておくこと。

## 脳とコミュニケーション

杉本助男

### 【授業の概要】

対人コミュニケーション場面における心理的諸現象を脳の機能から解明することを目的とする。特に左右脳半球と対人行動、大脳扁桃系機能と情動行動、顔面筋活動と情動表出・認知などについて詳しく解説する。

### 【授業計画】

1. 睡眠と覚醒（何故人は眠るか）
  - 脳波とは何か
  - アルファとは何か
  - 脳波で何がわかるか
2. 香りと情動（香りは何故感情を喚起するか）
  - 脳波トポグラフィで脳の活動部位を知る
3. 刺激希求の個人差（刺激強度の受容に個人差がある）
  - 脳の情報処理過程は脳誘発電位によって分析する
  - 感覚刺激の欠乏は脳を無能にする
4. 左脳と右脳（左脳人間と右脳人間はいるか）
  - 分離脳患者は2つの心をもっている
  - 右脳障害と左脳障害のコミュニケーション
5. 生体リズム（脳に時計がある）
  - サーカディアンリズム（約24時間のリズム）
  - ウルトラディアンリズム（約90分のリズム）

## 脳のエイジング

杉本助男

### 【授業の概要】

胎児から老年期までの脳の生涯発達と人間行動との関係を解説する。特に、脳の発達に関わる環境の問題、個人の生活史と左右脳の発達、脳の老化と高齢者のコミュニケーションの問題などについて考察する。

### 【授業計画】

1. 胎児の脳（胎児は学習するか）
2. 生後の環境と脳の発達（子供の環境によって脳の発達が違う）
3. ヒトとネコとネズミの脳（どこが違う）  
ヒトとウマとワニの脳（脳の進化）
4. 成人の生活環境と脳（仕事の種類によって脳の形態が変わる）
5. 脳の老化（元気老人とボケ老人の脳の違い）
6. 老人性痴呆の脳（アルツハイマー型痴呆）
7. 70歳でも脳は成長する

## 精神生理学

清水 遵

### 【授業の概要】

ヒトの行動の生理学的指標に関する基礎知識について概説した後、現代社会で特に問題となっている情動やストレスをテーマにして、これらの問題に対する精神生理学的アプローチについて論ずる。

### 【授業計画】

1. はじめに
2. 自律神経系の電気生理学的指標  
心電図・皮膚電気活動・呼吸・脈波  
眼電図・筋電図
3. 中枢神経系の電気生理学的指標  
自発脳波・事象関連電位  
脳のイメージング
4. 精神内分泌指標と精神神経免疫指標
5. 感情の精神生理学的研究（1）
6. 感情の精神生理学的研究（2）
7. ストレスの精神生理学的研究（1）
8. ストレスの精神生理学的研究（2）
9. バイオフィードバック
10. まとめ

### 【評価方法】

定期試験の評点に基づき評価する。

### 【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

# 生理心理学

清水 遵

## 【授業の概要】

ヒトや動物の行動の諸側面を脳を中心とする中枢神経系や自律神経系の構造や機能とに対応づけて考察することで心理的側面と生理的側面間の相互関係の理解をめざす。また、これまでになされてきたモデル動物の行動と脳内物質の関連からヒトの種々の疾患との対応関係についても考察する。

## 【授業計画】

1. はじめに
2. 中枢神経系の構造と機能
3. 自律神経系の構造と機能
4. ニューロンとグリアの構造変化
5. ニューロンの電氣的伝導と化学伝達
6. 記憶と脳
7. ストレスと脳
8. 心の異常と脳内物質
9. 左右の脳（言葉と感情）
10. 脳のリズム
11. 脳のエイジング
12. まとめ

## 【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

## 【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

# 認知心理学

吉崎一人

## 【授業の概要】

1970年代から盛んになってきた認知心理学の概説をする。人間を一つの情報処理系とみなして、人間が外界の情報をどのように取り入れて処理し、出力するのかについて学ぶ。具体的には、人間の知覚、記憶活動、知識構造やその利用、思考活動、意識と無意識の情報処理、イメージの処理、日常生活の認知活動等に関する情報処理モデルについて紹介する。

## 【授業計画】

1週に2コマ続きで講義する。予定開校日は10月6日、20日、27日、11月10日、17日、12月1日、12月8日で、12月15日は予備日とする。

1. 記憶のボックスモデル(1)  
(トップダウン、ボトムアップ処理・感覚記憶)
2. 記憶のボックスモデル(2) (短期記憶、長期記憶)
3. 中間テスト (予定)
4. 処理水準と情報の精緻化
5. 符号化と検索の関係
6. 知識と表象(1) (意味記憶の構造と語の処理)
7. 知識と表象(2) (イメージ)
8. 潜在記憶と顕在記憶
9. 注意と自動制御
10. 日常生活の認知(1) 目撃者証言と偽りの記憶
11. 日常生活の認知(2) 推論
12. 日常生活の認知(3) メタ認知
13. 期末テスト

## 【評価方法】

期末テスト、中間テスト、さらには実験への参加によって行われる。

## 【テキスト】

使用せず。授業ごとにプリントを配布する(大きさはB4)。

# 神経心理学

吉崎一人

## 【授業の概要】

「脳と行動」の関係の解明を目指す神経心理学の概説をする。特に、認知心理学的な視点から考察を中心とする。まず、基礎的な知識として(1)脳、特に大脳の基本構造論じ、(2)さらに神経心理学の研究法を論じ、(3)最後に大脳半球機能差(ラテラリティ)について論じる。次に、重要な認知活動ごとに脳との関連について論じる。具体的には、脳とことば、脳と記憶、脳と物体の認知、脳と注意、脳と情動、脳と運動である。

## 【授業計画】

1. 認知を支える生理学的基礎
2. 神経心理学の研究法
3. ラテラリティ
4. 物体認知と脳
5. 記憶機能と脳
6. 言語機能と脳
7. 注意機能と脳
8. 情動と脳
9. 脳機能の発達と可塑性
10. 脳と運動

## 【評価方法】

期末テスト、中間テストさらには実験への参加(被験者)回数によって行われる。

## 【テキスト】

使用しない。授業毎にB4版の資料を配付する。

# 記憶と思考

川口潤

## 【授業の概要】

認知心理学の基本となる「記憶」と「思考」を中心に講義する。「記憶」においては、情報の貯蔵システムおよびそのモデル、注意・意識と記憶、記憶の区分などについて最近のトピックを含め議論する。「思考」においては、人の推論の基本的問題について論じる。具体的研究例を挙げながら理解を深める。

## 【授業計画】

1. 心のイリュージョン：認知の歪みについて
2. 認知心理学の成り立ち・研究法
3. 物体の認知
4. 注意
5. 記憶のモデル・作動記憶
6. 長期記憶：符号化と検索
7. 長期記憶：知識と意味
8. 潜在記憶：意識と記憶
9. 記憶の歪み：フォルスメモリー
10. 記憶と感情
11. 日常場面における認知と思考
12. まとめ

## 【評価方法】

随時のレポートおよび単位認定試験を総合的に評価する。

## 【参考文献・資料】

多鹿・川口・池上・山 情報処理の心理学 サイエンス社  
梅本堯夫(監修)・川口潤(編)現代の認知研究 培風館  
その他、授業中に指示をする。

## 生体情報学

田丸政男

### 【授業の概要】

生体は外界の情報を感覚刺激として受容し処理する。これらの生体情報処理の中核として、脳は最も重要な働きを担っている。生体情報学では脳に入力された情報が如何なるメカニズムで知覚・認識・学習・記憶・情緒などの反応を生じるかについて、神経生理学および神経化学的な手法で明らかにする。

### 【授業計画】

- 第1回 脳の情報処理の概要
- 第2回 神経の興奮伝導とシナプス伝達
- 第3回 脳の構造Ⅰ 大脳皮質
- 第4回 脳の構造Ⅱ 大脳辺縁系
- 第5回 脳の構造Ⅲ 視床・視床下部
- 第6回 反射
- 第7回 意識と睡眠
- 第8回 情動行動
- 第9回 学習と記憶
- 第10回 言語機能
- 第11回 視覚の情報処理
- 第12回 聴覚の情報処理
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

- 「わかる脳と神経」羊土社 99年
- 「絵で見る脳と神経」医学書院 01年

## 空間認知の発達

坂田陽子

### 【授業の概要】

人間と環境とのコミュニケーションの基本にある空間認知の基本的諸能力が誕生から大人になるまでにどのように発達していくか（個体発生）を論ずるとともに、大人の日常生活空間の分節化が時間とともにどのように変わるか（微視発生）についても考察する。移動空間のイメージ形成、年齢にともなう地理的空間知識の増大、都市のイメージを規定する諸要因の検討、などが具体的に取り上げるテーマである。

### 【授業計画】

1. 空間認知とは
2. “目”で空間を認知する
3. “耳”で空間を認知する
4. 乳児の空間認知1 —乳児の空間のとらえ方—
5. 乳児の空間認知2 —視知覚の発達と空間認知—
6. 幼児の空間認知1 —2次元空間の認知—
7. 幼児の空間認知2 —探索行動—
8. 幼児の空間認知3 —他者視点獲得—
9. 成人の空間認知1 —方向感覚—
10. 成人の空間認知2 —生活空間と空間認知—
11. 成人の空間認知3 —空間認知とイメージ—
12. 障害および加齢と空間認知
13. 試験

### 【評価方法】

定期試験による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

### 【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

### 【参考文献・資料】

空間に生きる—空間認知の発達の研究—（空間認知の発達研究会編 北大路書房）



## 表現行為の発達

坂田陽子

### 【授業の概要】

コミュニケーションを成り立たせる表現の問題に焦点を当てて、その発達を論ずる。ことばによる表現、ことばによらない身振りや手振りの表現、絵による表現の発達をそれぞれ取り上げ、子どもの豊かな表現行為の獲得を保障する条件とは何かについて考察を深める。主に社会性の発達について論じる。

### 【授業計画】

1. 愛着と発達
2. 家族と社会化
3. 仲間関係と発達
4. 自己と人格の発達
5. 感情と情緒の発達
6. 他者理解の発達
7. コミュニケーションの発達
8. 社会的事象の理解とその発達
9. 道徳性の発達
10. 向社会的行動の発達
11. 試験

### 【評価方法】

定期試験による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

### 【テキスト】

保育・看護・福祉プライマーズ⑤ 発達心理学  
(無藤隆編 ミネルヴァ書房)

## 言語行動

二宮 昭

### 【授業の概要】

人間にとって最も重要なコミュニケーション手段となっていることばについて、どのような特性を有しているのか、他のコミュニケーション手段と比較しながら検討し、また、日常の様々な場面における言語行動について、その実態を明らかにするための分析の枠組みについて考察する。

### 【授業計画】

第1～6回 「ことば」とは何か

- 1) 人間の「ことば」と動物の「ことば」
- 2) 「ことば」のもつ特性
- 3) シンボルとしての「ことば」

第7～10回 日常の言語行動の分析

- 1) 「ことば」を数える
- 2) 日常の使用語彙—からだことば
- 3) 「ことば」の機能—伝言板のメッセージ分析

第11～12回 思考・行動調整の道具としての「ことば」

- 1) 外言と内言

第13回 試験

### 【評価方法】

学期末に行う筆記試験による。

### 【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

## ことばの発達と障害

二宮 昭

### 【授業の概要】

人間のことばによるコミュニケーション行動に関して、それは一体どのような過程を経て発達してくるのか、また、その障害はそのような場合にどのようなかたちで現れ、それを改善していくにはどういうことが重要であるか、ということを通して、人間にとってことばのもつ意義を考える。

### 【授業計画】

第1～6回 「ことば」の発達

- 1) 原初的コミュニケーションー「ことば」の発達の基盤
- 2) 語と文の発達
- 3) 言語的現実の自覚の発達ー3歳児はなぜしりとりができないのか

第7～12回 「ことば」の障害

- 1) 自閉症児の「ことば」
- 2) 知的障害児の「ことば」
- 3) 脳性まひ児の「ことば」

第13回 試験

### 【評価方法】

各学期末に行う筆記試験による。

### 【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

## ノンバーバル行動

松尾貴司

### 【授業の概要】

ジェスチャー、表情、視線、接触などのヒトのコミュニケーションにおける非言語的なシグナルの諸相について概説し、個々のノンバーバル行動について、発達、因果、機能、進化といった行動学的な視点から論ずる。

### 【授業計画】

- 1) ノンバーバル行動とは
  - 2) ノンバーバル行動の研究手法
  - 3) ジェスチャーの分類と文化的異変
  - 4) 表出としての表情と制御された表情
  - 5) 視線の機能と規定因
  - 6) パーソナルスペースと空間行動
  - 7) ノンバーバルコミュニケーション
- 各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。

### 【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 動物のコミュニケーション

松尾貴司

### 【授業の概要】

ヒト以外の動物が示す、さまざまなコミュニケーション行動の特徴を動物行動学の知見を基に概観し、ヒトにおけるコミュニケーションと比較しながら、コミュニケーションの生物学的な基礎について論じる。

### 【授業計画】

1. 運動パターンと動機づけ
  2. 行動の遺伝的基礎
  3. 行動の個体発生
  4. 生物学的現象としての学習
  5. 動物のコミュニケーションとは
  6. コミュニケーションと環境
  7. コミュニケーションにおける感覚の役割
  8. コミュニケーションの進化
- 各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう。

### 【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

### 【テキスト】

指定しないが、講義内容は下記の参考文献の内容に準拠したものである。

### 【参考文献・資料】

動物のコミュニケーションー行動のしくみから学習の遺伝子まで (T.R.ハリディ、P.J.B.スレイター編 西村書店)

## ビジュアルコミュニケーション

後藤倬男

### 【授業の概要】

視覚的な情報媒体を用いたコミュニケーションの比重は、現代社会においてますます高まっている。本講では、人間の視覚の仕組みからはじまって、環境の知覚が、外界の刺激の正確な反映ではなく、いかに人間の側の条件に依存しているかを論じ、コミュニケーションにおける望ましい視覚情報の利用について考察を深める。

本講は、講義を中心とするが、テキストを使用せず、随時OHPやプリントを利用し、また、授業中に供覧実験や調査を行ってショートレポートの提出を求め、授業内容理解の補助とする。

### 【授業計画】

- 第1講 オリエンテーション (授業内容の説明)
- 第2講 ビジュアルコミュニケーションの意味について
- 第3講 視覚情報受容 (視知覚) の生理的基礎
- 第4講 視環境 (視覚情報の発信・受信空間) の成立
- 第5講 視環境の基点 (輪郭)
- 第6講 視環境の反転 (図と地)
- 第7講 視環境のまとまり (形)
- 第8講 視環境の広がり (奥行き)
- 第9講 視環境の安定性 (恒常現象)
- 第10講 視環境の振れ-1 (形の錯視)
- 第11講 視環境の振れ-2 (色の錯視)
- 第12講 視覚情報の統合 (視覚モデルの説明)
- 第13講 ビジュアルコミュニケーションの意義と利用

### 【評価方法】

期末には、ペーパーテストを行う。また、授業への意欲的な出席を重視し、各授業時間毎のショートレポートを評価に加える。

### 【参考文献・資料】

脳と視覚 (グレゴリー著、近藤倫明他訳 ブレーン出版)  
視知覚 (松田隆夫著 培風館)  
錯覚の心理学 (椎名 健著 講談社現代新書)

## 福祉社会心理学

植村勝彦

### 【授業の概要】

今日ほど家族と地域が福祉の問題と密接に関わり合っている時代はない。こうした現代社会の問題を、社会心理学およびコミュニティ心理学の視点を導入して、福祉社会心理学という発想で考察する。

### 【授業計画】

- 第1講 序章 福祉社会心理学（コミュニティ心理学）とは
- 1) 歴史的背景
- 第2講 2) コミュニティ心理学の理念と目標
- 第3講 1章 高齢者とコミュニティ心理学
- 1) 高齢者の幸福な老い：クオリティ・オブ・ライフ（QOL）
- 第4講 2) 高齢者の自立：エンパワーメント
- 第5講 3) 高齢者のヘルスケア：予防
- 第6講 2章 障害者とコミュニティ心理学
- 1) 障害とは：ラベリング理論とスティグマ
- 第7講 2) 知的障害者と社会：多様性の尊重
- 第8講 3) 知的障害者と地域社会：コミュニティ感覚
- 第9講 4) 知的障害者の支援：セルフヘルプ・グループ
- 第10講 3章 子どもとコミュニティ心理学
- 1) 子どもと生育環境：人-環境適合
- 第11講 2) 子育て支援と社会資源の活用：ソーシャルサポート・ネットワーク
- 第12講 3) 学校不応答と子ども：コンサルテーション
- 第13講 終章 再び、福祉社会心理学（コミュニティ心理学）とは
- 1) まとめにかえて
  - 2) 応用問題：心理・社会問題とコミュニティ心理学

### 【評価方法】

各章ごとの課題レポートと応用問題レポートによる総合評価

### 【テキスト】

毎回配布するプリントにより講義・解説する。

## 対人行動論

斎藤和志

### 【授業の概要】

現実の対人関係にはさまざまな問題が存在する。それらの中にみられる共通した特徴や法則性を、社会心理学的観点から考察する。社会の中で暮らす個人がどのように自己や環境をとらえているかといった社会的認知の問題、社会的な事象や他者に対してどのような心の姿勢をもっているかという態度の問題や対人的欲求の問題などを取り上げる。

### 【授業計画】

講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 対人行動・対人関係への社会心理学的接近
2. 社会的認知と対人認知
3. 対人関係と帰属過程
4. 帰属過程と帰属理論
5. 達成行動と原因帰属
6. 態度変化と認知的斉合性
7. 説得と態度変化
8. 社会的態度から対人的態度へ
9. 社会的交換と対人関係
10. 社会的交換と公平理論
11. 他者への志向と対人行動
12. 社会への志向と対人行動
13. 試験

### 【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 集団行動論

森久美子

### 【授業の概要】

われわれの生活は、さまざまな集団や社会の中で営まれている。そうした集団や社会で発生するダイナミックスについて、社会心理学的理論をもとに解説し、個人と集団・社会の相互作用過程について考察する。意思決定や課題遂行における集団内の影響過程、集団間の葛藤と協調、個人行動と集合行動の関連、などの問題を取り上げて論じる。

### 【授業計画】

1. 集団と適応
2. 社会的影響過程 (1)
3. 社会的影響過程 (2)
4. グループとしての協調 (1)
5. グループとしての協調 (2)
6. 社会的交換 (1)
7. 社会的交換 (2)
8. 社会的交換 (3)
9. 社会的認知 (1)
10. 社会的認知 (2)
11. 社会的認知 (3)
12. まとめと展望

### 【評価方法】

テストの成績による。

### 【テキスト】

複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間— (亀田達也・村田光二著 有斐閣)

## パーソナルメディア論

新美明夫

### 【授業の概要】

個人が手軽に情報を受発信できるパーソナルメディアの浸透は、既存の人的ネットワークと重なりつつも、新たな人的ネットワークを形成している。各種のパーソナルメディアが既存のネットワークに及ぼす影響や、それらを介して形成される新たなネットワークにおいて展開される人間関係やコミュニケーションについて考察する。

### 【授業計画】

1. パーソナルメディアとコミュニケーション  
メディアの歴史/メディア・コミュニケーションの広がり/パーソナルメディアの特徴
2. ワープロとコミュニケーション  
活字 (印刷) 文字の変化/手書き文字の変化/ワープロ文字と手書き文字の与える印象
3. 電話とコミュニケーション  
電話の歴史と利用形態の変化/電話利用と人間関係
4. モバイルメディアとコミュニケーション  
モバイルメディアの歴史/ケータイ前史としてのポケベル/音声メディアとしての携帯電話/文字メディアとしての携帯メール/モバイルメディアと人間関係
5. コンピュータとコミュニケーション  
CMC (Computer Mediated Communication) の現状/自己表現とパーソナルホームページ/匿名性とコミュニケーション/デジタル・デバイド

### 【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## マン・マシン・インタラクション

新美明夫

### 【授業の概要】

コンピュータテクノロジーの浸透は個人のまわりにあるさまざまな機器を知的化し、人間との疑似的コミュニケーションを可能にした。現代において人々はさまざまな場面でこれらの機器と向き合わざるをえない。本講義では個人がこれらの知的機器と対面する際の諸問題について考察する。

### 【授業計画】

1. 人間と機械の情報交換  
機械の用途の変遷／情報交換の歴史／2つのインタフェース
2. コンピュータの発達とユーザ層の拡大  
コンピュータの歴史／ユーザの構成の変化／ヒューマン・インタフェース
3. 見えないコンピュータとのインタラクション  
公共の機械とのインタラクション／個人所有の機械とのインタラクション
4. 見えるコンピュータとのインタラクション  
OSのユーザインタフェース／出力インタフェース／入力インタフェース／日本語とコンピュータ
5. 人間-機械間のコミュニケーション・チャンネル  
対面コミュニケーションとの比較／インタフェースとしてのメディア

### 【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

### 【テキスト】

使用しない

## マスコミュニケーション

遠藤雄久

### 【授業の概要】

マスコミュニケーションの機能、マスメディアの利用、マスの送り手と受け手、ジャーナリズムと世論などについて概説する。また、日本のテレビ放送の歩みをたどり、21世紀の映像メディアの将来像を考える。

### 【授業計画】

- 第1講 マスメディアの効果理論-弾丸効果理論
- 第2講 マスメディアの効果理論-限定効果理論
- 第3講 マスメディアの効果理論-強力効果理論(1)
- 第4講 マスメディアの効果理論-強力効果理論(2)
- 第5講 カルチュラル・スタディーズ(1)「エンコーディング」
- 第6講 カルチュラル・スタディーズ(2)「デコーディング」
- 第7講 テレビドラマの分析
- 第8講 テレビドラマの分析
- 第9講 新聞記事の内容分析
- 第10講 新聞記事の内容分析
- 第11講 メディアイベントの考察
- 第12講 メディアイベントの考察
- 第13講 まとめ

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合判断する

### 【テキスト】

使用せず

## 放送メディア論

遠藤雄久

### 【授業の概要】

多メディア化、多チャンネル化、更には国際化の趨勢のなかで、放送システムとりわけテレビ放送の地位は大きく揺らぎ、新しい対応を迫られている。本講義は、テレビ放送の「過去・現在・未来」を具体的な事実、データに基づいて考察し、情報化社会のなかでのテレビ放送の新しい可能性を探る。

### 【授業計画】

- (1) 放送とナショナリズム
- (2) ラジオ放送前史
- (3) ラジオ放送の誕生
- (4) ラジオ体操
- (5) 戦争とラジオのニュース
- (6) テレビ放送の開始（日本の特殊性）
- (7) ナショナルな語りのメディアとしてのテレビ  
○大河ドラマ○朝のテレビ小説○紅白歌合戦
- (8) ナショナルなメディアの揺らぎ。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合して判断する

### 【テキスト】

使用せず

## 分析心理学

江口昇勇

### 【授業の概要】

心理療法の理論のひとつにC.G.Jungの分析心理学があり、そこではFreudの精神分析学と同様、無意識の存在を仮定している。しかし分析心理学では個人無意識の深層に普遍的無意識を仮定し、その世界を意識化する技法として夢分析や箱庭、芸術療法等イメージを介在させることが特徴である。言語化の困難なこの領域を、体験的に理解できるよう心理テストを行ったり、グリム童話等、親しみの持てる素材からイメージの共有化を行うなど、様々な媒体を駆使して分析心理学の本質を伝える。

C.G.JUNGが創設した分析心理学について、講義を行う。S.FREUDとともに精神分析を発展させてきたJUNGがFREUDから決別して独自の心理学をうち立てたのである。理論的にはそれほど複雑ではないものの、その知見を実際に自分のものとするには体験を通さないと分かったことにならないのが特徴と思われる。講義では受講者の日常的な体験に即して説明を行うつもりである。

### 【授業計画】

- 1) 私が分析心理学に辿り着くまで
- 2) こころの構造とタイプ論（1）；基本的態度；内向と外向、心理機能；思考・感情、直観・感覚
- 3) こころの構造とタイプ論（2）；  
外向的思考と内向的思考
- 4) こころの構造とタイプ論（3）；  
外向的感情と内向的感情
- 5) こころの構造とタイプ論（4）；  
外向的感觉と内向的感觉、外向的直観と内向的直観
- 6) 夢；フロイトとユングの夢についての考え方と分析の方法論の違い、夢の様々な機能について
- 7) 夢の住人（元型論）；  
ウロボロス=精神病の世界、グレートマザー=母子関係・対象関係論、父元型
- 8) 夢の住人；  
ペルソナ、アニマ・アニムス、永遠の少年と老賢者
- 9) 夢の住人；  
影、自己、トリックスター、老人元型と障害者元型
- 10) グリム童話に見る女性性の発達（1）
- 11) グリム童話に見る女性性の発達（2）
- 12) グリム童話「猫とねずみとお友だち」に見る共依存
- 13) ユングと現代；分析心理学の今日的意義

### 【評価方法】

課題レポートにより評価する

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

河合隼雄「ユング心理学入門」培風館

# カウンセリング

江口昇勇

## 【授業の概要】

人の話を傾聴するとき、我々はその話の中から自分に都合の良い部分だけを切り取って聞いていたり、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てているというのが実際である。そうした現実を体験的に理解するために傾聴の6パターンを実習し、自分の傾聴における癖を学ばせたい。カウンセリング・マインドにおいては従来、ロジャースのいう受容、共感に力点が置かれ過ぎていていると思われるので、授業では自己一致の重要性を伝えたい。

## 【授業計画】

- 1) 臨床心理学における方法論（事例研究法、関与観察法、臨床心理学と統計）研究方法の問題；主観性の克服と現象学的接近、調査法における資料の信頼性：「倫理綱領」臨床心理学的接近の危険性
- 2～4) 臨床心理学の理論と「人間論」について
  - <a> 行動理論（パプロフ・ハル・スキナー・ワトソン）
  - <b> ロジャース（ジェンドリン）の人間中心療法
  - <c> 精神分析（自己心理学と対象関係論、自己心理学）
  - <d> 分析心理学（ユング派）の人間論
- 5) グロリアと3人のカウンセラー（1）；ロジャース
- 6) グロリアと3人のカウンセラー（2）；パールズ
- 7) グロリアと3人のカウンセラー（3）；エリス
- 8) 傾聴の6パターンを実践する（1）
- 9) 傾聴の6パターンを実践する（2）
- 10) 傾聴の6パターンを実践する（3）
- 11) 個人心理療法からコミュニティへ；時代の要請の中で自分の臨床活動をたえず組み立てる。スクールカウンセラー体験、虐待のコミュニティ・アプローチ
- 12～13) 臨床心理士をめざす学生へ；自我の野心と魂の野心、傷つきの体験、傷つき易さ、傷の深さ、トラウマと癒す力との相関性、深い傷つきが癒す力を深くする、しかし、そのためには傷の癒しが完了していることが前提となる

## 【評価方法】

レポート課題により評価する。

## 【テキスト】

なし。必要な資料をその都度、授業中に配布する。

# 心理療法

西出隆紀

## 【授業の概要】

数多く存在する心理療法の基礎理論について講義をする。精神分析各学派、現象学的人間学派、家族療法・短期療法など各学派の発達論、治療論、症候論、人格論などを具体的な事例も交えながら紹介し、心理療法というもののイメージをつかめるように説明していきたい。

## 【授業計画】

1. 心理臨床入門
  - 心理臨床とは、心理臨床と人間関係
2. 古典的精神分析
  - 精神分析以前、無意識の発見、夢、心的構造論、精神性発達論、神経症総論、治療論
3. 対象関係論
  - Klein, M. の早期対象関係論、Fairbairn, W.R.D. のパーソナリティ構造論、Guntrip, H. のシゾイド論、Winnicott, D.W. の理論、Bion, W.R. の考え
4. 自我心理学
  - 自我の適応、防衛機制、分離個体化過程
5. 自己心理学（Kohut, H. の理論）
6. 現象学的人間学派
  - Rogers, C.R. の来談者中心療法、Gendlin, E.T. の体験過程療法
7. 家族療法
  - 家族システム論、Erickson, M. の影響、二重拘束理論、構造派、戦略的家族療法、解決志向型短期療法

## 【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。



## 児童臨床

西出隆紀

### 【授業の概要】

不登校をはじめとする情緒障害、自閉症や学習障害などの発達障害、低出生体重児などハイリスク児の発達の問題やひきこもり・摂食障害など、思春期までの心の問題を取り上げ、そのような子どもたちをどう理解し、どう関わっていくかを解説したい。

### 【授業計画】

1. 子どもと症状・問題行動
2. 発達障害  
自閉症、学習障害、精神発達遅滞
3. 情緒障害  
不登校、神経性習癖、非社会的行動、心身症、反社会的行動
4. 児童精神病（子どもの抑鬱を含む）
5. 思春期の問題行動
6. ハイリスク児の心理臨床
7. 遊戯療法について（その1）  
Klein, M.の遊戯分析、Freud, A.の児童分析
8. 遊戯療法について（その2）  
Axline, V.M.の児童中心療法、Allen, F.の関係療法、Moustakas, C.E.の制限設定

### 【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

### 【テキスト】

なし。参考文献などをその都度指定。

## 臨床心理学

古井 景

### 【授業の概要】

臨床心理学の基礎として、様々な治療理論とその背後にある基本的な人間観の差異を明確化する。次に臨床心理学が対象とする人々のアウトラインを示したい。発達の観点から乳幼児から児童期、思春期、青年期、成人期から熟年期までの発達課題とそれが挫折した場合の障害、そして、障害の種類の違いによる臨床心理学的アプローチの違いを提示していく。

### 【授業計画】

資料配付により講義をすすめる。

- ・精神力動とストレス
- ・意識的行動と無意識的行動、身体症状化
- ・自我機能と防衛機制
- ・乳幼児期の母子関係、父親の関わり（分離個体化理論）
- ・錯覚と脱錯覚：空想と現実
- ・前エディプス期からエディプス期へ  
（二者関係から三者関係へ）

<事例>

- ・幼児期不適応：夜尿、夜驚、自家中毒、チック
- ・学校生活不適応：不登校、心因性視力障害・頭痛腹痛
- ・家庭内暴力
- ・摂食障害：拒食症・過食症
- ・児童虐待：子供を虐待する母親、虐待される子供
- ・職場不適応：長期欠勤、うつ病
- ・更年期うつ病、老年期うつ病
- ・薬物依存：有機溶剤、麻薬・覚醒剤、アルコール
- ・役割と責任を考える：  
女児として・女性として・妻として・母親として、  
男児として・男性として・夫として・父親として

### 【評価方法】

レポート提出によって判定する。資料・参考図書などをそのまま写したものは評価に値しない。授業を通して理解した、知識に基づき自分の言葉で文章を作成すること。レポートに関しては厳しく評価し、内容が不十分な者に対しては再提出を課す。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

## 臨床心理学

米倉五郎

### 【授業の概要】

臨床心理学の基礎として、様々な治療理論とその背後にある基本的な人間観の差異を明確化する。次に臨床心理学が対象とする人々のアウトラインを示したい。発達の観点から乳幼児から児童期、思春期、青年期、成人期から熟年期までの発達課題とそれが挫折した場合の障害、そして、障害の種類の違いによる臨床心理学的アプローチの違いを提示していく。

### 【授業計画】

臨床心理学全般について、体系的、概説的な知識を得ることを目的とする。臨床心理学の基本理論と、こころの問題と障害に対する臨床心理学的人間理論（心理アセスメント技法）と臨床心理学的援助の方法（心理療法の技法）について学ぶ。授業では、単なる理論的考察に終始しないように、ライフサイクルでの発達課題で挫折し、こころの問題と人格の障害を呈したさまざまな事例（不登校、児童虐待、いじめ、神経症、うつ病、心身症、摂食障害、人格障害、統合失調症、非行と犯罪）をとり上げる。そして現代社会のさまざまな領域における臨床心理学的問題と課題を具体的に講義する。

### 【評価方法】

レポート提出により判定する。

### 【テキスト】

臨床心理学への招待（野島一彦編著 ミネルヴァ書房）

## 精神医学

古井 景

### 【授業の概要】

人間の精神現象を扱い、治療していくために必要な、生物学的・心理学的的方法論を論じ、多角的な視野を持って精神症状を把握する必要性を説く。又、具体的な各精神疾患の事例を織り交ぜながら、力動的精神医学の観点から症状をどう理解し、患者とのコミュニケーションを通してどのように治療をしていくかを解説していく。

### 【授業計画】

資料配付により講義をすすめる。

- 1 力動精神医学的理解
  - ・自我機能
  - ・精神力動
  - ・人格構造論
- 2 従来の疾病分類
  - ・内因性精神病
    - 精神分裂病（破瓜型、妄想型、緊張病型、単純型）
    - 躁鬱病、うつ病
    - 非定型精神病（錯乱精神病）
  - ・外因性精神病
    - 器質性精神病
    - 症状性精神病
    - 中毒性精神病
  - ・心因性精神病
- 3 近年の疾病分類
  - ・ICD-10（WHO疾病分類）
  - ・DSM-IV（アメリカ精神医学会）
- 4 大脳生理学的理解
  - ・脳内神経伝達物質
  - ・画像診断
- 5 治療の実際（事例を呈示して）

### 【評価方法】

レポート提出によって判定する。資料・参考図書などをそのまま写したものは評価に値しない。授業を通して理解した、知識に基づき自分の言葉で文章を作成すること。レポートに関しては厳しく評価し、内容が不十分な者に対しては再提出を課す。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

## コミュニケーションの精神病理

北畑英樹

### 【授業の概要】

- (1) やさしい精神医学入門
  - (2) こころの豊かさを求めて
- (1) コミュニケーションとは、つまるところ対人関係であり、一方、精神医学で取り扱う疾患も、その症状の中心は対人関係の障害である。それ故に、そこには我々健常者(?)の中に時折みられるコミュニケーションのゆがみの先鋭化したものが認められる。そこで、ノイローゼ、うつ病、精神分裂症などの疾患について、やさしくかつ具体例をあげて解説する。
- (2) 現代科学の進歩は、テレビをはじめとするマス・メディア、コンピューター、インターネットなど無機質なコミュニケーションの発達をうながした。しかし、それが進めば進むほど、こころの豊かさに基づいた人間的なコミュニケーションの価値がますます高まる時代になるであろう。そこで、こころ豊かに生きるための精神科医からのアドバイスやヒントを提供する。

### 【授業計画】

“おもしろくて、役にたつ”をモットーに、(1)(2)に関した読みやすい書籍を紹介したり、受講生の質問に答えながら授業を進めたい。

### 【評価方法】

レポート提出による。

### 【テキスト】

使用せず。

## 専門演習 I

植村勝彦

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

質問紙調査の方法や技法を正確に理解することを目的として、教科書を指定して順次解説する。

また、前期のうちから、各自の研究テーマを模索しておかないと、なかなか卒論のための問題意識が定まらないという経験的現実から、毎回個人発表を行う。

さらに、夏期休暇を利用して、後期に全員合同で実施する質問紙調査の項目作成を行う。

### 【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

## 専門演習 I

江口昇勇

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

- 1) ゼミ進行のオリエンテーション、自分史作成課題、自己紹介の方法、感受性訓練 (1) プライドワーク
- 2～3) 様々な状況を設定しての自己紹介
- 4～5) 感受性訓練；メタルリハーサル；プレールームにて自分をシンボル表現してみる（身体を用いて）  
二人ペアのプログラム；見つめ合い、背中合わせ、ミラーリングの実践とフィードバック  
集団でプログラム；知恵の輪、仲間はずれ、閉じこめ、天国への昇天、イメージ共有体験
- 6～7) 描画法演習＝バウムテスト、人物画、交互色彩分割・相互スクイグル、風景構成法の方法論説明、バウムテスト、人物画、交互色彩分割・相互スクイグル、風景構成法の解釈技法
- 8～9) コラージュ療法と箱庭療法の説明（実践は4号棟臨床面接実習室）コラージュ療法と箱庭療法の解説
- 10) 各々の体験を終えた場合、できるだけ時間を置かないでその体験を言語化すること。微妙なこころの動きを一番、ぴったりする言葉を探し、それらを紡いで記録とすること、後でこれが貴重な一級の資料となる。
- 11～12) 「家族力動を探る」課題を進めるために「円枰家族描画法 (F-C-C-D、P-S-C-D、Sym-C-D)」の方法論を解説。
- 13) 「球体アクティブ・イマジネーション体験」この実践は深い内的作業を行うもので、時間をたっぷりを使い、多軸的、多層的、多次元的な家族のイメージを膨らませる。そこには相当な集中力が必要となり、自分をかなり内的に拘束しないとできない。そのためにイメージを豊かにするワークを行う予定である。

### 【評価方法】

課題毎にレポートを提出、それらを評価対象とする。さらに授業での質疑等積極的態度も評価対象とする。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。必要な資料を授業中配布する。

## 専門演習 I

遠藤雄久

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

- (1) ジャーナリズム論関連の文献購読 1
- (2) ジャーナリズム論関連の文献購読 2
- (3) ジャーナリズム論関連の文献購読 3
- (4) ジャーナリズムの歴史文献購読 1
- (5) ジャーナリズムの歴史文献購読 2
- (6) ジャーナリズムの歴史文献購読 3
- (7) 新聞報道の分析
- (8) 新聞報道の分析
- (9) 新聞報道の分析
- (10) テレビ報道の分析
- (11) テレビ報道の分析
- (12) テレビ報道の分析

### 【評価方法】

平常の研究態度を見て評価する。

### 【テキスト】

未定

## 専門演習Ⅰ

斎藤和志

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味を持てる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. 社会心理学的研究法
2. 社会心理学論文講読
3. 研究課題の明確化

### 【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

### 【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

## 専門演習Ⅰ

坂田陽子

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. 実験計画法についての講義
2. 各自興味のあるテーマにそった先行研究の講読
3. 興味別班単位による実験計画の構築・発表

### 【評価方法】

出席状況、論文講読、実験計画、小論文の内容およびグループワークへの積極的協力・参加等から判断する。

### 【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

## 専門演習Ⅰ

清水 遵

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる様々な反応のうち、行動に直接変化をもたらす感情的プロセスを精神生理学的観点から考察していく。

### 【授業計画】

精神生理学に関する基礎的知識の習熟のため、入門的な内外の書籍を講読し、適宜配布プリント等を用い、解説を加える。

- (1) 神経系の電気生理学的指標
- (2) 神経内分泌指標
- (3) 精神神経免疫学的指標

### 【評価方法】

授業への積極的参加度で評価する。

### 【テキスト】

特に指定せず、適宜配布するプリント等を用いる。

## 専門演習Ⅰ

杉本助男

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

以下の研究テーマのうちいずれかを選択し、これに関わる文献を各自が講読し、毎授業名が発表し、討論する。

#### 脳波、誘発電位を用いた研究

1. 香り、音楽、コーヒーなどのリラクゼーション効果  
(アルファ波や脳地図による解析)
2. オグメンターとレデューサーの行動特性  
(脳誘発電位と心理テストによる解析)
3. 左脳と右脳の働きの違い  
(コンピューターゲームなどを用いた連続脳波記録による解析)
4. 加齢の個人差と脳の働き  
(老人の行動特性の個人差と脳波との関連)

#### 神経心理テスト等を用いた研究

5. 加齢現象と各脳領域の働きとの関連  
(前頭、頭頂、側頭領域の機能の解明)
6. 老人性痴呆と健常者の比較研究  
(知能、情動、脳波による分析)

### 【評価方法】

毎時間の発表・討論及び出席状況によって総合的に評価する。

## 専門演習Ⅰ

新美明夫

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

社会心理学的な観点からメディアコミュニケーションを扱った基本的な文献の輪読を行う。毎回、指定されたレポーターが発表を行い、参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていく。

### 【評価方法】

毎回の個人発表の内容、および、適宜提出を求めるレポートにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。授業内で取り上げる文献については、適宜指示する。

## 専門演習Ⅰ

西出隆紀

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション 感受性訓練（運動場で実施）
2. 事例研究論文講読

2名ずつのペアで、神経症、不登校、摂食障害、自閉症、統合失調症などの症例の論文を読んでレジメにまとめ、レポーター形式で討論する。各症例の発症メカニズムや治療方針を検討することにより、心理臨床実践に対する理解を深める。

3. 体験実習

箱庭療法体験、コラージュ療法体験、催眠療法体験などを通じて、クライアントの立場に立って理解を進める態度を養うと同時に、心理臨床実践への体験的理解を深める。

2、3の内容は毎週交互に行われる。箱庭療法体験などは授業時間外にも箱庭作成等のための時間が必要となる。

また、授業時間枠とは別に情緒障害児短期治療施設での臨床実習を泊まり込みで行う予定である（5泊6日）。臨床現場の厳しさを肌で感じ、1人の子どもに真剣に関わり、その生き方を考え、ケースレポートをまとめてケースカンファレンスに臨む。それによって、心理臨床の本当の難しさを体験することになろう。また、実習に先立って、夏期休業中に事前学習を行う。

### 【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

### 【テキスト】

なし。資料をその都度配布。

### 《備考》

症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

## 専門演習Ⅰ

二宮 昭

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

ことばの獲得と障害、障害児の発達援助、少数事例からのデータ収集の方法に関する文献を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論するという形式を中心に行う。

### 【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

## 専門演習Ⅰ

古井 景

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

力動精神医学、力動的心理療法、心身医学などの立場から、毎回担当者を決め課題発表を行っていく。参加者全員での討論を通して、互いに知識を深めていきたい。

### 【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。



## 専門演習 I

松尾貴司

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. ノンバーバル行動に関する実験実習  
2～3のグループに分かれ、ノンバーバル行動をテーマとした実験をおこなう。グループごとに、関連する文献の紹介、実験計画の立案・実施、結果について報告し、全員で討論する。実施した実験については各個人でレポートを作成する。
2. 各自の研究テーマの明確化および研究論文の紹介  
4年次の卒業研究に向けて、各自の具体的な研究テーマを報告する。報告にはレジュメを用意し、研究テーマの概略と関連する研究論文を紹介する。進行状況によっては、夏期休業中に自主補講をおこなうことがある。

### 【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

## 専門演習 I

吉崎一人

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

1. クリティカルシンキング
2. 実験計画法
3. 実験論文の購読（邦文）
4. 資料収集の方法
5. 実験論文の購読（英文）

### 【評価方法】

実験レポートの内容と授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

心理学実験・研究レポートの書き方（B・フィンドレイ 著 細江・細越 訳 北大路書房）

## 専門演習Ⅰ

米倉五郎

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

### 【授業計画】

心理アセスメントは、クライアントにはどのような問題と苦悩を抱え、どんな心理療法を求め必要としているかを見立て理解する臨床心理学的な面接技法である。また心理面接では、どのような技法を用いようとも、面接と対話による問答法である。すなわち、面接し対話することに治療的な要因があると考えられる方法である。したがって、心理療法は実践であり、その技法を習得するためには、自分の身体にその技法のコツをのみこませなくてはならない。聴き方、話し方などの言語的コミュニケーションとともに、非言語的コミュニケーションも大切なものである。実習講義では、初回面接のロールプレイング（二人一組の役割演技）による実習により、心理アセスメントや見立てを実際的に理解できる体験学習をする。

### 【評価方法】

作成されたレポートと授業への参加態度から評価する。

### 【テキスト】

臨床心理学（倉光修著 岩波書店）

## 専門演習Ⅱ

植村勝彦

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

各自の卒論のための研究テーマの発表を主体とする。また、夏期休暇を利用して全員で作成した質問紙調査を実施し、それをを用いて各種の多変量解析の手法を試みる。

2年次の「研究法調査演習」を選択しなかった人のためにも調査票の作成法を学習しておかなければならないことと、より高度な分析法をマスターしておかねば卒論が書けないことの目的から、これを行う。

### 【評価方法】

毎回の演習への出席と、個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

## 専門演習Ⅱ

江口昇勇

### 【授業の概要】

今年度から後期のゼミ内容を変更する。ゼミ生の増員に伴う対応である。従来は3、4年を通して「自己探求」を目指してきたが、個別の分析を行うにはゼミ生の数から難しいことが明らかとなった。そこで前期の集団で行う訓練はこれまで通りとするが、3年後期からは、ゼミ生に関心のある研究対象ごとに数名のサブグループに分け、対象別の研究発表を継続的に行うことになる。

### 【授業計画】

まずゼミ生の希望に従っていくつかのサブグループに分け、そこで各々の研究テーマを決めてグループごとにゼミを進めていく。現在でもそうであるが、私のゼミ生は3年からボランティアとして、様々な形で実習を体験してきている。例えば適応教室やフリースクールなどでの不登校児、通所施設に通う障害幼児や、授産、更正施設の知的障害者、あるいはアスペの会での自閉性スペクトラム障害児（高機能自閉、アスペルガー症候群）、児童養護施設での虐待児、精神障害の作業所での精神障害者、老人施設での老人、等々のかかわりを行っている。そうした体験を元に対象を特定し、かかわりの詳細な記録を残して、そこから関与観察としての事例研究法による研究を行う。もちろん対象のみを研究するだけでなく、対象にかかわる自分自身の時系列での内的変化＝逆転移に着目するのが臨床心理学の焦点と考える。

また、上記の事例研究ばかりでなく、治療関係論的な臨床的実験を行ったり、対人恐怖、思春期病理、摂食障害、自己愛人格傾向等を心理アセスメントやアンケートによる調査法を用いて行う研究も従来、行われてきた。

ゼミ生は自分が研究したい臨床の領域（発達別＝乳幼児、児童、思春・青年期、成人期、老人期、あるいは障害別＝知的、精神、情緒、自閉性スペクトラム、不登校、摂食、非行、等々）を3年前期中に選択して、できるだけボランティアとして現場とかかわるようにすること。

### 【評価方法】

授業における参加態度が評価対象となる。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。必要な資料を授業中配布する。

## 専門演習Ⅱ

遠藤雄久

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

- (1) マスコミの現状分析（新聞）
- (2) マスコミの現状分析（放送）
- (3) マスコミの現状分析（出版）
- (4) マスコミの現状分析（映画）
- (5) マスコミの現状分析（音楽）
- (6) マスコミの将来展望
- (7) 論文のテーマ発表
- (8) 各自研究発表
- (9) 各自研究発表
- (10) 各自研究発表
- (11) 各自研究発表
- (12) 各自研究発表

### 【評価方法】

平常の研究態度によって評価

## 専門演習Ⅱ

齋藤和志

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

1. 社会心理学論文講読
2. 研究課題の明確化
3. 研究計画の立案

### 【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

### 【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

## 専門演習Ⅱ

坂田陽子

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

1. 各自興味のあるテーマにそった先行研究の講読
2. 興味別班単位による実験実施および結果発表
3. 2についての小論文作成
4. 卒業論文の実験計画

### 【評価方法】

出席状況、論文講読、実験計画、小論文の内容およびグループワークへの積極的協力・参加等から判断する。

### 【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

## 専門演習Ⅱ

清水 遵

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる

様々な反応のうち、行動に直接変化をもたらす感情的プロセスを精神生理学的観点から考察していく。

### 【授業計画】

感情体験と深く関係したトピックスについて内外の論文を広く講読し、それらを参考にして各自が選択した研究テーマとそれに関する論文についてレポーター形式で発表、討論を重ねる。3年次終了までには自己の研究テーマを具体化し、生理学的手法を取り入れた実験計画が立案できるよう方向づけを行う。

### 【評価方法】

授業への積極的参加度、レポート評点など総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜配布するプリント等を用いる。

## 専門演習Ⅱ

杉本助男

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

以下の研究テーマのうちいずれかを選択し、これに関わる雑誌論文（和文、英文）を各自が講読し、毎授業数名が発表し、討論する。また、それを参考にして4年次の卒業論文のための実験計画を立てる。

#### 脳波、誘発電位を用いた研究

1. 香り、音楽、コーヒーなどのリラクゼーション効果（アルファ波や脳地図による解析）
2. オグメンターとレデューサーの行動特性（脳誘発電位と心理テストによる解析）
3. 左脳と右脳の働きの違い（コンピューターゲームなどを用いた連続脳波記録による解析）
4. 加齢の個人差と脳の働き（老人の行動特性の個人差と脳波との関連）

#### 神経心理テスト等を用いた研究

5. 加齢現象と各脳領域の働きとの関連（前頭、頭頂、側頭領域の機能の解明）
6. 老人性痴呆と健常者の比較研究（知能、情動、脳波による分析）

### 【評価方法】

毎時間の発表・討論、出席状況及び実験計画の発想等によって総合的に評価する。

## 専門演習Ⅱ

新美明夫

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

各自の関心テーマにしたがって、いくつかのグループに分かれ、予備的な研究を行うとともに、研究の一連の流れや方法論を身につける。グループによる作業は、おおよそ次のような過程をたどる。授業では、それぞれの段階での成果を発表し、全員で検討を行う。

1. 問題意識の明確化と研究目的の具体化
2. 研究方法の検討
3. データの収集と分析
4. 結果の考察と研究レポートの作成

### 【評価方法】

毎回のグループ発表の内容と、提出された研究レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要な参考文献は適宜指示する。

## 専門演習Ⅱ

西出隆紀

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

#### 1. 論文講読

「Family Process」等の家族心理学関係の研究誌に掲載された論文を中心に、広く家族心理学・家族臨床に関わる論文にふれ、研究論文の読み方・書き方を学ぶ。

#### 2. 体験実習

ミニ試行カウンセリング、解決志向型短期療法のロールプレイ等を行い、体験的に心理療法を理解していく。

また、実際のケースのビデオを見て、模擬ケースカンファレンスなども行い、症例に対する見立ての仕方などについても学ぶ。

### 【評価方法】

なし。資料をその都度配布。

### 【備考】

症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

## 専門演習Ⅱ

二宮 昭

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

各自が研究テーマおよびそれを具体化するための研究方法について報告し、討論を通して研究テーマの確定の作業を行う。

### 【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

## 専門演習Ⅱ

古井 景

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

力動精神医学、力動的心理療法、心身医学などの立場から、毎回担当を決め課題発表を行っていく。力動論的見地から様々な出来事の背景要因を探っていく。このための研究方法を様々な方法論を屈指して見つけだしていく。

### 【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

## 専門演習Ⅱ

松尾貴司

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

1. 各自の研究テーマに基づいて、予備的研究のための具体的な研究方法（実施可能な手続き）を報告し、全員で検討する。
2. 予備実験を実施し、その結果を報告する。この予備実験については、全員が個人で論文形式のレポートを作成し学期末に提出する。レポートの形式・内容について、後期授業終了後に個別に指導する。

### 【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

## 専門演習Ⅱ

吉崎一人

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

1. 研究テーマの説明
2. 実験の立案
3. 課題の作成
4. 実験実施
5. データ分析
6. レポートの書き方

### 【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

心理学実験・研究レポートの書き方（B・フィンドレイ著 細江・細越 訳 北大路書房）



## 専門演習Ⅱ

米倉五郎

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

### 【授業計画】

心理療法の学習では、フロイトの精神分析的心理療法を中心として、ロジャース、ユング、サリヴァン、クライン、ウイニコットなどの心理治療と人格理論のエッセンスを講義する。また思春期から青年期、成人期の事例を報告しながら、クライアントの人格発達の病理とともに成長の過程、家族療法や集団心理療法についても講義する。実習講義では、心理面接の佳境期でのロールプレイングにおける、転移と抵抗および逆転移と逆抵抗などについてのカウンセリングの技法、態度、自己理解について、体験的な学習をする。

### 【評価方法】

作成されたレポートと授業での参加態度から評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

## 専門演習Ⅲ

植村勝彦

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

3年次までに確定した各自のテーマに従って、調査や面接の項目を作成し、対象者を得て、実施・分析・論文作成に至るまでの全過程について指導・助言する。

毎回個人発表を行い、進捗状況に応じての助言・指導を行うが、とくに調査票の完成までの段階に全力を注ぐ。

### 【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには授業での取組みの姿勢等を加味して総合的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

江口昇勇

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

3年次の専門演習では、自己探求と臨床事例検討の二本柱により授業を進めてきた。4年次に入ると卒業論文のテーマを特定することとなる。自己探求を深めていくか、事例をさらに深めて事例研究にまで発展させるか、あるいは調査法、実験法、臨床面接法との組み合わせかなど、様々な方法論を駆使して卒業論文のテーマを選ぶことになる。ある程度グループ化できるならば、グループ毎の発表となることもある。

### 【授業計画】

例年、授業は月曜日の3時から始まり毎回7時頃までは続くが、時には9時迄及ぶことも稀ではない。それでも検討する時間が不足し、夏の集中合宿以外にも、日曜日、祝日（昨年度は大学祭中）にも開講されるのでそのつもりで準備していただきたい。

もちろん、ほとんどのゼミ生は授業以外に複数の臨床現場（適応指導教室、児童養護施設、知的障害児・者施設、精神障害者小規模作業所、障害幼児の通所施設、子育て支援ネットワーク）に出向いて臨床的かわりを体験するのでその時間もしっかり確保することが半ば義務づけられているのでそのつもりでいて欲しい。

### 【評価方法】

授業や学外でのボランティア活動の内容により評価する。

## 専門演習Ⅲ

遠藤雄久

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

遅くとも5月末までに各自の研究テーマを確立し、併行して文献、資料などの収集、調査などを進行させる。毎回これらを発表しあって各自の研究を深めてゆくようにする。

期末までには研究論文のタイトルを確定するよう指導する。

### 【評価方法】

平常の研究態度をみて評価する。

## 専門演習Ⅲ

齋藤和志

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

1. 研究課題の明確化
2. 研究計画の立案
3. 実証的データの収集

### 【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

### 【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

## 専門演習Ⅲ

坂田陽子

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

1. 各自の卒業論文のテーマにそった先行研究の講読
2. 卒業論文の序論および方法部分の作成
3. 実験計画の明確化および実験の実施

### 【評価方法】

出席状況、発表態度、発表内容の進展等から判断する。

### 【テキスト】

必要資料を授業中に配布する。

## 専門演習Ⅲ

清水 遵

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 香りの感情に及ぼす影響
2. 音楽の感情に及ぼす影響
3. 色の感情に及ぼす影響
4. 高齢者の感情コントロール法の評価に関する研究
5. 唾液中の感情関連物質の固定に関する研究
6. その他

### 【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

## 専門演習Ⅲ

杉本助男

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

専門演習Ⅱにおいて各自が選択したテーマにしたがって、2,3人の研究グループを編成し、まず、実験計画を立て、全員で検討する。次に予備実験を行い、その結果から、本実験の計画を再検討する。実験を実行し、データを得る。

### 【評価方法】

研究計画の綿密性、実験の着実性などから全体的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

新美明夫

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

3年次の専門演習Ⅰ・Ⅱを通して検討してきた各自の関心テーマにしたがって、必要十分なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

4年前期に行われる専門演習Ⅲでは、すでに行った予備的な研究の成果をもとに、質問紙調査や面接調査など各自のテーマに適切な研究方法を用いて、データ収集の実施が可能なところまで、各自の研究計画をブラッシュアップする。

授業では、毎回個人発表を行い、各自の進捗状況を報告し、参加者全員での討論を通して、研究計画を完成させていく。

研究計画の完成した者から順次、データ収集の実施を許可する。

### 【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された研究計画により総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 専門演習Ⅲ

西出隆紀

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

#### 1. 卒業論文指導

卒業論文の作成に向けて、各人が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。

その後、各自が卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員（3年ゼミ生を含む）で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。

1. 問題意識と研究目的の検討
2. 研究方法の検討

#### 2. 体験実習（投影法実習）

投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野で必要な検査の実習を行う。

扱う投影法は、Rorschach法、TAT（主題統覚検査）、各種描画法（動的家族画、Baum test、風景構成法など）で、まず各自が実際にテストィーとなって検査を受ける。その後、各検査の理論的背景、実施法、解釈法などについて説明し、臨床データをもとにスコアリング、解釈を実践する。そして、最終的には自分のデータをまとめて自己理解を深めることになる。

1と2の内容を週ごとに交互に扱う。

### 【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

### 【テキスト】

その都度指定。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて配布

#### 【備考】

症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

## 専門演習Ⅲ

二宮 昭

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

まず、3年次までに確定した各自の研究テーマに従い、実験や調査などの研究方法を具体化させる。そして、それに基づき、実際にデータを収集し、分析するという作業を進める。原則として、毎回交代で個人発表を行い、全員で討論することを通して、上記の作業をより確実に、より内容あるものとするようにする。

### 【評価方法】

発表の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

## 専門演習Ⅲ

古井 景

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

参加者全員で文献講読・討論をおこない、各自の知識を現実的に応用可能なものへと深めていく。

### 【評価方法】

各自の参加意欲・態度を中心の評価する。受け身的な参加では評価されない。

### 【テキスト】

使用せず。

## 専門演習Ⅲ

松尾貴司

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

1. 各自の研究テーマに関わらず、最新の心理学論文（和文・英文）を紹介し、全員でそのテーマについて論議する。
2. 専門演習Ⅱで実施した予備実験の結果に基づいて、各自の研究テーマおよび具体的な研究方法を修正し、最終的な方法を決定する。

### 【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

## 専門演習Ⅲ

森久美子

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

以下の段階を踏みながら、卒業研究の進行状況と関連研究の紹介を行い、討論する。

1. 研究テーマの確定
2. 研究計画の立案
3. データの収集

### 【評価方法】

発表・討論内容と授業および卒業研究への参加態度から評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

## 専門演習Ⅲ

吉崎一人

### 【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

### 【授業計画】

卒業研究の完成をめざし、個々に指導する。実験計画、並びに結果についてプレゼンテーションの行い、その内容について議論する。

### 【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 専門演習Ⅳ

植村勝彦

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

夏休み中に提出を求めた卒業論文の「問題」および「方法」の下書きに対して、個別に指導することを皮切りに、適宜個別及び全体指導を行い、11月中旬の中間発表、12月初旬の論文全部の下書き提出に基づく個別添削指導、と順序を踏んで卒業論文の完成・提出に導く。

### 【評価方法】

毎回の演習への出席と個人発表、さらには各段階での下書き内容等の取組への姿勢等を加味して総合的に評価する。



## 専門演習Ⅳ

江口昇勇

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

4年次後期の専門演習では、前期に決定した自己探求グループ、臨床事例検討グループ、あるいは臨床のテーマ別（思春期病理・青年期の問題、不登校・引きこもり、虐待、情緒障害、精神障害、知的障害、幼児・母子、学校・幼稚園・保育園の問題）、さらに方法論別（調査法、実験法、臨床面接法との組み合わせ）にサブグループを作り、グループ毎の発表となる。

### 【授業計画】

授業は月曜日の3時から始まり原則的には毎回7時頃までは続く。時には9時～10時迄及ぶことも稀ではない。それでも検討する時間が不足し、夏の集中合宿以外にも、日曜日、祝日（昨年度は大学祭中）にもゼミの召集がかかるのでそのつもりでゼミを選んで欲しい。

ゼミ生は授業日以外にも各自、複数の臨床現場（適応指導教室、児童養護施設、知的障害児・者施設、精神障害者小規模作業所、障害幼児の通所施設、子育て支援ネットワーク、その他のボランティア体験の場）に出向いて日常的に臨床的にかかわり体験を行い、その記録を元にグループスーパービジョンを行うので、そうしたボランティア体験の時間、記録の時間もしっかり確保することが半ば義務づけられている。4年の後半では学生自身の逆転移についても言及することになり、かなりハードな内容となることを覚悟すること。

### 【評価方法】

授業や学外でのボランティア活動の内容により評価する。

## 専門演習Ⅳ

遠藤雄久

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

各自の研究の進行状況を発表しあい、論文作成を進めてゆく。

遅くとも10月半ばから各自が論文執筆にかかれるよう指導する。

### 【評価方法】

平常の研究態度をみて評価する。

## 専門演習Ⅳ

齋藤和志

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

1. 研究計画の立案
2. 実証的データの収集
3. 研究論文の作成

### 【評価方法】

ゼミ形式で行うので、授業への参加が必須である。与えられた課題・レポートおよび参加態度などを考慮した総合的評価を行う。

### 【テキスト】

未定。使用する場合は、事前に連絡する。

## 専門演習Ⅳ

坂田陽子

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

1. 卒業論文のための実験実施
2. データ分析
3. 卒業論文の結果及び考察部分の作成
4. 卒業論文の完成

### 【評価方法】

出席状況、卒業論文作成における計画性、考察力、完成度等から判断する。

### 【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

## 専門演習Ⅳ

清水 遵

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ4～5人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 香りの感情に及ぼす影響
2. 音楽の感情に及ぼす影響
3. 色の感情に及ぼす影響
4. 高齢者の感情コントロール法の評価に関する研究
5. 唾液中の感情関連物質の固定に関する研究
6. その他

### 【評価方法】

研究に取り組む姿勢により、評価する。

## 専門演習Ⅳ

杉本助男

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

専門演習Ⅲで得たデータを分析し、統計的処理等を行う。それらの結果について、全員で討論する。これらの結果に基づき各自が卒業論文作成に着手する。

### 【評価方法】

データの分析法、統計的処理の適切性等から全体的に評価する。

## 専門演習Ⅳ

新美明夫

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

4年前期の専門演習Ⅲに引き続き、各自の関心テーマにしたがって、必要十分なデータを収集・分析し、最終的に卒業論文として結実させる。

各個人の進捗状況にしたがって、データの収集・コーディング・入力・分析作業を順次行う。

授業では、データの分析方法の解説を行う一方で、各自の進捗状況を毎回報告しあい、励まし合うとともに自己の進捗を客観的に確認する。

11月より、順次中間発表を行い、参加者全員での討論を行う。中間発表を終了した者から、卒業論文の下書き提出を許可し、添削指導を行う。

### 【評価方法】

毎回の個人発表の内容と、提出された卒業論文により総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 専門演習Ⅳ

西出隆紀

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

#### 1. 卒業論文指導

卒業論文の作成に向けて、各人が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。

その後、各自が卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員（3年ゼミ生を含む）で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。

3. 結果と考察の検討
4. 論文提出前の全体的検討
5. 執筆した卒業論文の発表

#### 2. 体験実習（投影法実習）

投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野で必要な検査の実習を行う。

扱う投影法は、Rorschach法、TAT（主題統覚検査）、各種描画法（動的家族画、Baum test、風景構成法など）で、まず各自が実際にテストィーとなって検査を受ける。その後、各検査の理論的背景、実施法、解釈法などについて説明し、臨床データをもとにスコアリング、解釈を実践する。そして、最終的には自分のデータをまとめて自己理解を深めることになる。

1と2の内容を週ごとに交互に扱う。

### 【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

### 【テキスト】

その都度指定。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて配布。

#### 【備考】

症例を扱う関係上、受講生には守秘義務が課せられる。

## 専門演習Ⅳ

二宮 昭

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

卒業研究を論文としてまとめるための個別指導を中心にを行う。11月中旬には卒業論文の中間発表会を行う予定である。

### 【評価方法】

研究論文作成に対する意欲や態度、および作成された論文の内容によって評価する。

## 専門演習Ⅳ

古井 景

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

参加者全員で文献講読・討論をおこない、各自の知識を現実的に応用可能なものへと深めていく。

4年間大学で学んだ知識の総まとめとして、社会で通用するものに仕上げることを目標とする。

### 【評価方法】

多くの学生にとって最終学歴となる『愛知淑徳大学卒業』および『学士』の資格を得るに相応しい人間性を備えているかどうかを評価する。

社会にでて、『愛知淑徳大学』の名を高める人材でなければならない。

### 【テキスト】

使用せず。

## 専門演習Ⅳ

松尾貴司

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

1. 専門演習Ⅲで決定した研究方法に基づいて、各自が研究を進め、その結果について報告する。
2. 研究結果の分析方法、および論文の作成方法について講義をおこなう。その後、各自の研究テーマを論文形式にまとめる。個人の論文については個別に指導する。

### 【評価方法】

授業への出席状況、参加度、および準備度（レジュメの内容および提出期限の遵守）を平常点とし、課題レポートとあわせて総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

## 専門演習Ⅳ

森久美子

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

以下の段階を踏みながら、卒業論文の進行状況を発表し、研究内容について討論する。

1. データの分析と解釈
2. 補足データの収集と分析
3. 報告書の作成

### 【評価方法】

卒業研究および発表・討論内容、授業への参加態度から総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

## 専門演習Ⅳ

吉崎一人

### 【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

### 【授業計画】

卒業研究の完成をめざし、個々に指導する。実験計画、並びに結果についてプレゼンテーションの行い、その内容について議論する。

### 【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 社会言語学Ⅰ

川村陽子

### 【授業の概要】

本講では、出身地域、社会階級、民族、性別、年齢、価値観など、話し手の社会的属性が、その人の言語使用にどのように反映されるかについて概説する。  
全講、講義形式で行う。

### 【授業計画】

日常のコミュニケーションにおいて、人びとは相手の話し方の特徴から、その人の出身地域、階級、職業、性別、年齢層が分かる場合がよくある。このように、話し手はことばにより、言語的意味だけでなく社会的意味も伝達している。授業では、ことばのもつ社会的意味に焦点をあて、話し手が属する社会グループ（地域、階級、性別、年齢）別に、ことばの違いにどのような特徴がみられるかについて見ていく。

- ・社会のなかのことば
- ・ことばの社会的評価
- ・ことばの地域差
- ・階級方言
- ・階級と言語使用態度
- ・ことばの男女差
- ・男女の会話のスタイル
- ・男女の言語使用態度
- ・ことばの年齢差
- ・若者ことば

### 【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

社会言語学への招待（田中春美他編著 ミネルヴァ書房）

## 社会言語学Ⅱ

川村陽子

### 【授業の概要】

世界の多言語社会の言語事情および多言語社会が抱える言語問題について、マクロの視点とミクロの視点から概説する。

全講、講義形式で行う。

### 【授業計画】

日常のコミュニケーションにおいて、人びとのことば遣いと対人関係がどのように影響しあうかについて見ていく。たとえば、多言語社会の人びとは、そのなかの一つの言語を使うことにより相手に権力を示し、心理的に相手を遠ざけたり、また別の言語を使うことにより仲間意識や親近感を伝えたりする場合がある。このように、言語の使い分けによっても、対人関係の情報を伝えることができる。授業では、対人コミュニケーションにおいて、ことばのもつ社会的意味について考える。

- ・対人関係を示すことば
- ・多言語社会における言語の使い分け
- ・ことばにみられる権力関係
- ・ことばと親疎関係
- ・対人関係ネットワークと言語使用
- ・ことばによる丁寧表現

### 【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

社会言語学への招待（田中春美他編著 ミネルヴァ書房）

## 社会学概論

長濱一夫

### 【授業の概要】

現代社会の主要な動向をとりあげ、社会学的手法—個人・集団・社会の相互遡及—と実証的・総合的観点から、検討・分析を加える。すなわち、都市化、情報化、国際化、高度消費化、高齢化などの考察により、現代社会に関する基礎的知識を修得させたい。

### 【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」  
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

### 【評価方法】

試験（レポート or 筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

### 【テキスト】

使用しません。



## 哲学概論

小木曾通男

### 【授業の概要】

古代から現代に至る西洋哲学を概観し、それらの先哲の思索を現代社会に生きるものとして、どのように理解し、人生に生かしてゆくか、ともに考えることを本授業は目指すものである。

### 【授業計画】

主に次ぎの順序で授業を行う

1. 古代ギリシャにおける哲学の誕生
2. 人類の教師ソクラテスの思想と生き方
3. プラトンのイデア論
4. アリストテレスの倫理学
5. ヘレニズムの諸思想
6. アウグスティヌスの教父哲学
7. ルネッサンスの諸思想
8. 17世紀の理性主義  
デカルトの演繹法  
ベーコンの帰納法  
パスカル・モンテーニュの思想
9. 18世紀啓蒙思想  
ロック、ルソーの社会契約説  
カントの倫理学  
ヘーゲルの弁証法
10. 現代の思想  
アメリカのプラグマティズム哲学  
実存主義哲学

### 【評価方法】

中間小テスト及び最終レポートで行う

### 【テキスト】

プリントを配布  
参考資料はその都度示す

## 倫理学概論

加藤太喜子

### 【授業の概要】

社会福祉や環境倫理・生命倫理が例になるように、倫理的なものの人々の関心を集めています。何故なら人間は倫理的な動物であるからです。そこで、本講義では、ソクラテス以降の倫理学を概説しながら、特に、人間の尊厳について考えていきたいと思っています。

### 【授業計画】

1. 倫理「学」とは
2. 功利主義（1）
3. 功利主義（2）
4. 功利主義批判（1）
5. 功利主義批判（2）
6. 義務論（1）
7. 義務論（2）
8. 義務論批判
9. 正義論
10. 応用倫理（1）
11. 応用倫理（2）
12. 応用倫理（3）

### 【評価方法】

授業中に課す小レポートと、期末に行う筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 宗教学概論

川口高風

### 【授業の概要】

日本には異なった多くの宗教文化が混在している。宗教に関する基礎的知識を習得するため、世界の九種の宗教を概観し、続いて日本の宗教の神道、仏教、キリスト教、諸教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。

### 【授業計画】

- 1：はじめに
- 2：宗教の学問的見方
- 3：宗教教義の構成（1）
- 4：        "        （2）
- 5：世界の諸宗教（1）
- 6：        "        （2）
- 7：        "        （3）
- 8：日本の諸宗教（1）
- 9：        "        （2）
- 10：       "        （3）
- 11：祖師の著作の解説（1）
- 12：       "        （2）
- 13：まとめ

必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

### 【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

### 【テキスト】

講談社学術文庫の鎌田茂雄『仏陀の親たもの』（定価630円）または『般若心経講話』（定価840円）を参考資料とする。著作などのプリントは当方で用意し配布する。

## 政治学

西尾林太郎

### 【授業の概要】

18、19世紀的市民社会と20世紀的大衆社会とを比較対照させつつ、現代社会の特質とそこで発生・展開する政治現象について、多角的に考察するとともに政治学の理論を体系的に学び、ボーダレス化と相互依存性が高まった国際社会における国家や民族についても考察する。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a 国際社会とは？
  - b 国民国家、ナショナリズム、イデオロギー
  - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
  - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
  - a 市民社会と大衆社会
  - b 立法国家と行政国家
  - c ファシズム、ナチズム
 ——社会心理との関りで——
3. 現代の政治過程
  - a 政治と利益団体、NPO
  - b 選挙、官僚、議会
  - c マスメディアとマスコミュニケーション
4. 政治権力とは何か
  - a 人間はどうして支配を受け容れるか？
  - b リーダー・シップ、エリート
  - c シンボル操作
5. 戦後国際社会と日本の政治
  - a 冷戦構造と55年体制
  - b 利権の構造

### 【評価方法】

試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

### 【テキスト】

現代政治学の基礎（西尾林太郎 早稲田経営出版、2000円）

## 国際政治論

明石陽至

### 【授業の概要】

第二次世界大戦後の冷戦の開始以来1990年代までの激動する現代世界を理解するための国際政治入門科目である。

### 【授業計画】

- 第1講 序説 第一次、第二次世界大戦
- 第2-3講 ヨーロッパの冷戦開始と激化
- 第4-5講 アジアの冷戦
- 第6-7講 1950年代の平和共存路線と西欧の統合
- 第8-9講 中東・東欧の紛争と激動
- 第10講 60年代の東西対立の再燃
- 第11講 ベトナム戦争・デタント外交
- 第12講 冷戦の終焉

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの積極的な討論の参加など総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

### 【テキスト】

20世紀の国際政治 (松岡 完著 同文館)

## 法律学概論

大嶽 浩

### 【授業の概要】

現代社会は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされている。日常生活の中で「法」がいかにかわっているかをふまえつつ、法律学の基礎について学ぶ。

### 【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

### 【評価方法】

試験による評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

## 国際法概論

初谷良彦

### 【授業の概要】

主権国家間の法として成立した国際法の基本概念を把握した上で、個人、民族、国際機構という新たな主体が登場する現代国際社会で、国際法がいかに変貌しつつあるかを、戦争の規制や人権の保障などの分野を中心に見ていく。

### 【授業計画】

- 第1回 国際法の基本
- 第2回 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
- 第3回 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
- 第4回 国際組織（国際連合、その他の国際組織）
- 第5回 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
- 第6回 外交（外交関係、外交特権、領事関係）
- 第7回 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
- 第8回～第9回 国際社会における人権保障（1）  
（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
- 第10回～第11回 国際社会における人権保障（2）  
（女性の人権、子どもの人権）
- 第12回 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
- 第13回 紛争の平和的解決（国際裁判）
- 第14回 国際安全保障（国連軍、軍縮）

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 経済学概論 I

立石 寛

### 【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車産業と経済学
- 第3回 経済学的な考え方
- 第4回 取引と貿易
- 第5回 需要・供給と価格
- 第6回 需要・供給分析の応用
- 第7回 時間とリスク
- 第8回 公共部門
- 第9回 マクロ経済学と完全雇用
- 第10回 経済成長
- 第11回 失業と総需要
- 第12回 インフレーション

### 【評価方法】

単位認定試験、成績によって評価する。

### 【テキスト】

ジョセフE. スティグリッツ著  
藪下史郎・秋山太郎・金子能宏・木立力・清野一治訳  
『スティグリッツ入門経済学』（東洋経済新報社）

### 【参考文献・資料】

なし

# 国際経済事情

真田幸光

## 【授業の概要】

外国系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、世界情勢を分析した上で日本経済がそれにどう対応していくかを考察する。

## 【授業計画】

第1回 年間計画指示・オリエンテーション

第2～11回 配布する時事経済トピックスに関する解説を行った上で国際経済情勢について意見交換を行う。

第12回 試験

第13回 試験解説

## 【評価方法】

単位認定試験の成績による。

## 【テキスト】

授業中に配布する。

## コミュニケーション入門

藤井正志 植村勝彦 松本青也

### 【授業の概要】

(概要) コミュニケーション学部の教育について、コミュニケーション心理、ビジネスコミュニケーション、言語コミュニケーションの3領域からの学習の動機づけをオムニバス方式で行う。★(オムニバス方式)★(藤井正志教授) コミュニケーションの問題について、現実的なビジネスの立場に立って、効果的なコミュニケーションの在り方を考察する。★(植村勝彦兼任教授) コミュニケーションの問題を心理学の立場からの理解の仕方を紹介する。中でも対人コミュニケーションについて、その理論を現実社会の問題とからめて取上げる。★(松本青也兼任教授) 言語や文化の異なるもの同士が相互に伝達を図り、交流しようとする場合に生じる様々な問題について、言語特有の発想や文化のもつ価値観、更に言語教育・政策までを比較対照しながら考察する。

### 【授業計画】

- 第1講 導入
- 第2講 職場の活性化とコミュニケーション
- 第3講 職場における人材教育とコミュニケーション
- 第4講 企業経営のコンセプトの変化とコミュニケーション
- 第5講 国際ビジネスの場におけるコミュニケーション
- 第6講 言語と思考
- 第7講 言語と社会
- 第8講 言語と教育
- 第9講 言語と文化
- 第10講 ありのままを知らせるコミュニケーション：自己開示
- 第11講 自分を演出するコミュニケーション：自己呈示
- 第12講 対人交渉のコミュニケーション：要請と承諾
- 第13講 非言語コミュニケーション：ボディールanguage

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

コミュニケーション学入門—心理・言語・ビジネス—  
(植村勝彦・松本青也・藤井正志著 ナカニシヤ出版)

## 心とコミュニケーション

館有紀子

### 【授業の概要】

「コミュニケーションをとる」とは情報を伝達しあうことである。コミュニケーションにより伝達される情報は、単に物質的な内容だけでなく、感情を共感しあうなどの情緒的なものも含まれる。人間は個人の感情や思考スタイルなどがそれぞれ異なることから、コミュニケーションにより伝えあう情報についての双方の理解は必ずしも同質なものであるとは限らない。この講義では心とコミュニケーションのさまざまな問題について認知・神経・社会心理学の立場から考えていきたい。

### 【授業計画】

- 第1回 心理学とは何か
- 第2回 情報の受容と分析(認知心理学1)
- 第3回 知識の表象(認知心理学2)
- 第4回 問題解決(認知心理学3)
- 第5回 記憶と忘却1(認知心理学4)
- 第6回 記憶と忘却2(認知心理学5)
- 第7回 脳と記憶(神経心理学1)
- 第8回 脳の記憶とコミュニケーション(神経心理学2)
- 第9回 対人コミュニケーション(社会心理学1)
- 第10回 対人認知(社会心理学2)
- 第11回 対人魅力(社会心理学3)
- 第12回 態度と説得(社会心理学4)

### 【評価方法】

定期試験の成績と出席状況によって評価する。

### 【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

## 言葉とコミュニケーション

杜 英起

### 【授業の概要】

人間のコミュニケーションの手段は様々あるが、本講義では言葉によるコミュニケーションにスポットライトをあて、言葉とコミュニケーションの複雑な関係を整理し、言葉のコミュニケーションにおける役割を考える。

また中国語と中国文化の特徴にも触れ、中国文化・習慣における中国語の役割や、中国の社会現状も紹介する。

### 【授業計画】

- 1、中国人の名前
  - 姓について
  - 名について
- 2、中国人の結婚生活について
  - 漢民族の結婚について
  - 少数民族の結婚について
- 3、中国の人口と一人っ子政策
  - 人口の推移
  - 一人っ子政策
  - 人口政策の問題点
- 4、中国の華僑の歴史
- 5、中華料理
  - 各流派料理の特徴
  - 宴席料理の組み方と調理法
  - 中国の酒
- 6、中国経済
  - 中国の改革開放
  - 中国経済の現状
  - 日中経済関係
- 7、日中文化、慣習の相違点
  - 漢字意味と使い方の違い
  - 教育システムと教育方法の違い
  - 生活習慣の違い

### 【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントやビデオを使用する。

## ビジネスとコミュニケーション

真田幸光

### 【授業の概要】

日本企業の海外戦略の方向性をケーススタディーを通して学習。その中でビジネス交渉に関するキーポイントを解説し、生きたコミュニケーション術を考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2回 日本企業の海外戦略（概論）
- 第3回 欧米企業の海外戦略（概論）
- 第4～5回 中小企業の海外進出（ケーススタディー）
- 第6～7回 大企業の海外進出（ケーススタディー）
- 第8～9回 金融機関のアドバイス業務
- 第10～11回 国内ビジネスにおけるコミュニケーション
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

### 【評価方法】

単位認定試験の成績による。

### 【テキスト】

授業中に配布する。

## ビジネスとコミュニケーション

小池弘道

### 【授業の概要】

日本企業の海外戦略の方向性をケーススタディーを通して学習。その中でビジネス交渉に関するキーポイントを解説し、生きたコミュニケーション術を考察する。

### 【授業計画】

コミュニケーションの不足で起きるトラブル

コミュニケーションの取り方

コミュニケーションの限界

国際社会で仕事をするにあたって必要なこと

ディベート、ネゴシエーション、QC手法、問題解決手法、及び知識（法律知識、経理知識、品質知識など）

国際社会でのビジネスについて

企業行動、労働市場、グローバル化の波など

国際社会でのチャレンジの仕方

郷に入って、郷に従う

郷に入って郷に従わず、バリアを乗り越える

日本のユニークな生産方式の移植例など

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

使用しない（必要に応じ資料配布）

### 【参考文献・資料】

日本の常識は、どこまで通じるか

（ジョリー佐々木幸子、小池弘道 風媒社）

## コンピュータ入門

三浦信宏

### 【授業の概要】

コンピュータの初心者を対象にWindowsの基本操作、ワープロソフトの操作、並びにインターネットの使用方法について学習する。授業のゴールは2つで、（1）レポートをワープロで作成できるようになること、（2）メールを使つてのコミュニケーションができること、である。

### 【授業計画】

第1回 Windowsの基本操作（1）

第2回 Windowsの基本操作（2）

第3回 Wordの基本操作

第4回 Wordによる文書作成（1）

第5回 Wordによる文書作成（2）

第6回 Wordによる文書作成（3）

第7回 Wordによる文書作成（4）

第8回 Wordと他ソフトウェアとの連携

第9回 インターネットの基礎知識（1）

第10回 インターネットの基礎知識（2）

第11回 メールを使い方

第12回 情報倫理

第13回 総合演習

第14回 テスト

### 【評価方法】

出席点、授業中の課題及び最終テストにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

Microsoft Office 2000を使った情報リテラシーの基礎  
（斎木邦弘他著 近代科学社）



## コンピュータ入門

伊東俊彦

### 【授業の概要】

コンピュータの初心者を対象にWindowsの基本操作、ワープロソフトの操作、並びにインターネットの使用法について学習する。授業のゴールは2つで、(1)レポートをワープロで作成できるようになること、(2)メールを使つてのコミュニケーションができること、である。

### 【授業計画】

1. コンピュータの起動とWindowsの基本操作
2. Windowsの基本操作
3. インターネットの基本操作 (1)
4. インターネットの基本操作 (2)
5. ワープロソフトの基本操作 (1)
6. ワープロソフトの基本操作 (2)
7. ワープロソフトの基本操作 (3)
8. メールの基本操作 (1)
9. メールの基本操作 (2)
10. 表計算ソフトの基本操作 (1)
11. 表計算ソフトの基本操作 (2)
12. 表計算ソフトの基本操作 (3)
13. 総合演習

### 【評価方法】

出席点および授業中の課題により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。

## コンピュータ応用

三浦信宏

### 【授業の概要】

「コンピュータ基礎」からさらに一歩進んだ形でコンピュータを心理学研究で活用する方法について学習する。目的は2つである。1つは、実験、調査、観察、面接等で得られた心理学的なデータの基本的な整理法並びに分析法を学ぶことである。そのために主に表計算ソフトの操作法を学ぶ。もう1つは、研究情報の収集あるいはコンピュータを使ったコミュニケーションの方法を学ぶことである。そのために、メールソフトやブラウザの操作を習得する。

### 【授業計画】

- 第1回 Excelの基本操作 (1)
- 第2回 Excelの基本操作 (2)
- 第3回 Excelの基本操作 (3)
- 第4回 Excelの基本操作 (4)
- 第5回 Excelによる表計算の応用
- 第6回 表計算と特殊効果
- 第7回 積み上げ&円グラフの作成
- 第8回 マップの作成
- 第9回 データベースと複合グラフの作成
- 第10回 イラストを利用したグラフの作成
- 第11回 統合によるシート間の集計
- 第12回 ExcelとWordの連携
- 第13回 テスト

### 【評価方法】

出席点、授業中の課題及び最終テストにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

Microsoft Office 2000を使った情報リテラシーの基礎  
(齋木邦弘他著 近代科学社)

## コンピュータ応用

伊東俊彦

### 【授業の概要】

「コンピュータ基礎」からさらに一歩進んだ形でコンピュータを心理学研究で活用する方法について学習する。目的は2つである。1つは、実験、調査、観察、面接等で得られた心理学的なデータの基本的な整理法並びに分析法を学ぶことである。そのために主に表計算ソフトの操作法を学ぶ。もう1つは、研究情報の収集あるいはコンピュータを使ったコミュニケーションの方法を学ぶことである。そのために、メールソフトやブラウザの操作を習得する。

### 【授業計画】

1. 表計算ソフトの操作 (1)
2. 表計算ソフトの操作 (2)
3. 表計算ソフトの操作 (3)
4. 表計算ソフトの操作 (4)
5. 表計算ソフトによるアンケートデータの分析 (1)
6. 表計算ソフトによるアンケートデータの分析 (2)
7. 表計算ソフトによるアンケートデータの分析 (3)
8. 表計算ソフトによるアンケートデータの分析 (4)
9. 表計算ソフトによるアンケートデータの分析 (5)
10. 表計算ソフトによるアンケートデータの多変量解析 (1)
11. 表計算ソフトによるアンケートデータの多変量解析 (2)
12. 解析データの解釈
13. 総合演習

### 【評価方法】

出席点および授業中の課題により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。

## プレゼンテーション

松田照美

### 【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書による表現などについて学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション (1)
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション (2)
- 第4回 効果的な言語表現 (1)
- 第5回 効果的な言語表現 (2)
- 第6回 対人接遇における印象管理—自己紹介—
- 第7回 対人接遇のスキル—電話応対—
- 第8回 コミュニケーションにおける文書等の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

### 【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プレゼンテーション (関根健夫監修・一橋出版)

### 【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション (八幡紘史・生産性出版)

## 異文化トレーニング

近藤祐一

### 【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々がともに生活し、問題を解決するためにどのような知識・態度をもちながらコミュニケーションを取るべきかについて、ロールプレイやシュミレーションを用い分析・考察する。

### 【授業計画】

異文化コミュニケーションとは

授業の概要・授業の進め方について  
どう言えば...

言語メッセージとコミュニケーション

黙って座ればぴしゃりとあたる

非言語メッセージとコミュニケーション

あばたもえくぼ

知覚

私の大事なもの

価値観とコミュニケーション-1

「水戸黄門」の謎

価値観とコミュニケーション-2

あなたって回りくどい!

文化と思考方法

私はだれ?

ステレオタイプ

あなたは男だから...

共文化

もう昔の私には戻れない....

異文化コミュニケーションと自己変化

### 【評価方法】

授業の特質上、出席状況および授業への参加度に重きを置く。また、ジャーナルおよび最終レポートを課す。

### 【テキスト】

関連する資料を適宜授業中に配布する。

## 異文化トレーニング

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々がともに生活し、問題を解決するためにどのような知識・態度をもちながらコミュニケーションを取るべきかについて、教科書、プリント、インターネット等の資料、情報を用い分析・考察する。

### 【授業計画】

第1週 Course Orientation

第2週 第1章 なぜ今、異文化コミュニケーションか

第3週 ワークブック1：異文化コミュニケーションとは

第4週 第2章 コミュニケーションとは何か

第5週 ワークブック2：コミュニケーションスタイル

第6週 第3章 ことばによるコミュニケーション

第7週 ワークブック3：言語コミュニケーション

第8週 ことばのないメッセージ

第9週 ワークブック4：非言語コミュニケーション

第10週 第4章 見えない文化

第11週 ワークブック5：価値観

第12週 まとめ

第13週 期末試験

### 【評価方法】

期末試験、授業への参加、レポート或いは presentation、そして出席率などを総合的に判断する。

### 【テキスト】

1. 異文化トレーニング：ボーダーレス社会を生きる 八代京子他、三修社、1998
2. 異文化コミュニケーション ワークブック 八代京子他、三修社、2001
3. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために ジョリー幸子・小池弘道、風媒社、1999

## TOEFL・TOEICトレーニング I

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香  
磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means “Test Of English as a Foreign Language” .

Students who have never done a TOEFL test or who have a score of less than 345 should consider doing this course.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニング I

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香  
磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means “Test Of English for International Communication” .

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have never done a TOEIC test or who have a score of less than 250 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  1. Sentences about photographs.
  2. Questions / responses
  3. Dialogues
  4. Short talks
- B. Reading comprehension
  5. Sentence completion
  6. Error identification
  7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEIC トレーニングⅡ

デビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス  
ジェームス・A. ジョー シャレル・A. ラインツマ アラン・デイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEFL (2)

TOEFL・TOEIC などの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have completed TOEFL I or who have a score of less than 370 should consider doing this course.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEIC トレーニングⅡ

デビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス  
ジェームス・A. ジョー シャレル・A. ラインツマ アラン・デイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEIC (2)

TOEFL・TOEIC などの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have completed TOEIC I or have a TOEIC score of less than 300 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  1. Sentences about photographs.
  2. Questions / responses
  3. Dialogues
  4. Short talks
- B. Reading comprehension
  5. Sentence completion.
  6. Error identification
  7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョー テイボ・C. ダイカス ジョサン・E. ログ ハー・T. パス シェル・A. ラインツ  
アレン・D. ウィアムス アラン・テイヴィーズ スコト・R. グリーン 寺本史子

### [Course Content]

#### TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 380 should consider doing this course.

This is a high-beginner level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### [Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### [Assessment]

Assessment for TOEFL III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### [Textbooks]

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョー テイボ・C. ダイカス ジョサン・E. ログ ハー・T. パス シェル・A. ラインツ  
アレン・D. ウィアムス アラン・テイヴィーズ スコト・R. グリーン 寺本史子

### [Course Content]

#### TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This is a high - beginner course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  1. Sentences about photographs.
  2. Questions / responses
  3. Dialogues
  4. Short talks
- B. Reading comprehension
  5. Sentence completion
  6. Error identification
  7. Short passages

### [Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### [Assessment]

Assessment for TOEIC III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### [Textbooks]

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEIC トレーニングⅣ

テイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・テイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

### 【Course Content】

#### TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 400 should consider doing this course.

This is a pre-intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEIC トレーニングⅣ

テイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・テイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

### 【Course Content】

#### TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a pre-intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 350 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  1. Sentences about photographs.
  2. Questions / responses
  3. Dialogues
  4. Short talks
- B. Reading comprehension
  5. Sentence completion
  6. Error identification
  7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングV

ジェームス・A. ジョリー テイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン  
アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 420 should consider doing this course.

This is an intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングV

ジェームス・A. ジョリー テイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン  
アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVの授業につなげる。

This is an intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 400 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  1. Sentences about photographs.
  2. Questions / responses
  3. Dialogues
  4. Short talks
- B. Reading comprehension
  5. Sentence completion
  6. Error identification
  7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。



## TOEFL・TOEIC トレーニングVI

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス  
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 450 should consider doing this course.

This is an advanced level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEIC トレーニングVI

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス  
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is an advanced course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 500 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  1. Sentences about photographs.
  2. Questions / responses
  3. Dialogues
  4. Short talks
- B. Reading comprehension
  5. Sentence completion
  6. Error identification
  7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## 異文化コミュニケーション

高井次郎

### 【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本的対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 対人認知
6. ステレオタイプ
7. 人種偏見
8. 人種差別
9. 異文化間能力
10. 異文化間トレーニング
11. コミュニケーション研究
12. コミュニケーション理論
13. 期末試験

### 【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

### 【テキスト】

未定—授業中に指示する。

## 国際交流論

榎田勝利

### 【授業の概要】

経済大国となった日本は、国際社会の有力な一員として責任ある行動をとることが求められる。近年の「国際化」に伴い、政治、経済、学術、芸術、スポーツなどの分野でも、盛んに国際交流が行われているが、果たして真の交流が実現しているのだろうか。主に日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のありかたについて論ずる。

### 【授業計画】

講義と各学生によるレポート発表により授業を展開する。

- 1) ガイダンス、国際交流に関連する用語解説
- 2) 国際交流の定義
- 3) 戦後の国際交流の軌跡
- 4) 日本の国際交流の現状と課題
  - ・多様化、複雑化する国際交流
  - ・自治体主導の地域の国際化
  - ・民間非営利活動の社会的認知
- 5) NGOとボランティア
  - ・国連組織とNGO
  - ・国際ボランティア
- 6) 交流相手から見た国際交流
- 7) 国際交流活動を担う専門的な人材育成
  - ・プログラム・オフィサーに求められる能力
- 8) 多文化共生社会と多文化共生能力
  - ・多文化共生社会とは
  - ・求められる多文化共生能力
- 9) よりよい地球市民社会の形成を目指して

### 【評価方法】

課題研究レポートおよび平常点にて評価する。

### 【テキスト】

国際交流入門（榎田勝利監修 アルク）

## メディア論

遠藤雄久

### 【授業の概要】

本構の目的は、マルチメディア時代といわれる現代のメディア状況をよりよくとらえるために、歴史社会的視点に立ってメディアと人間・社会の関わり方を振り返って見ようというものである。十九世紀後半に出現した電信、電話から始めテレビジョンそしてパーソナルコンピュータに至る電子メディアの発展の過程を、人間や社会がどのようにメディアをデザインしてきたかという観点からたどっていく。

### 【授業計画】

- 第1回 総論
- 第2回 電信技術の実用化
- 第3回 電話の発明の父はだれ？
- 第4回 ラジオのような電話
- 第5回 ラジオ放送の開始
- 第6回 写真技術の開発
- 第7回 映画の誕生
- 第8回 ハリウッド映画の成立
- 第9回 映画ソフトの多様化（1）
- 第10回 映画ソフトの多様化（2）
- 第11回 テレビ放送の誕生と発展
- 第12回 メディアの境界領域
- 第13回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合判断する

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国際関係論

明石陽至

### 【授業の概要】

本講座は国際関係論入門科目である。多様な国際関係を国家・民族の利害・戦略が交錯する国際社会の動きや構造を外交・国力・経済など視点から国際関係理論と仕組を体系的に解き明す。

### 【授業計画】

- 第1講 国際関係論のアプローチ
- 第2講 国家と国際体系
- 第3～4講 国家の能力と影響力
- 第5～6講 外交政策の決定
- 第7～8講 外交政策の手段
- 第9～10講 各国の外交
- 第11講 国際平和の維持
- 第12講 南北問題・国際平和へのアプローチ

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの討論の積極的参加等を総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

### 【テキスト】

新国際関係論（花井等著 東洋経済新報社）

## 異文化教育論

霜田一敏

### 【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を国際理解教育の観点から具体的に論究する。

### 【授業計画】

異文化とは何かを自らが体験した個人内異文化状況をもとに下記の項目で学生参加で行う。

1. 大学生生活の異文化状況—中高との対比—
2. 一人暮らしの異文化状況
3. 方言と風習の違い
4. 地域生活の違い
5. アルバイトの世界の異文化状況
6. 世代間・家族間の異文化状況
7. いじめの世界・ひきこもりの世界、障害者の世界
8. インターネットの世界（メールや携帯電話の姿が見えない世界）

### 【評価方法】

毎回行うミニテストと授業への参加度、期末の定期テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

## 比較教養論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

言語を中心とする「教養」に関する各国の思想史を概説し、国際化・高齢化・情報化の進展の中で今後の自己教育としての「教養」の在り方、普遍的教養の有無、コミュニケーションの基礎としての「教養」の問題を論じる。

### 【授業計画】

- 1：古代ギリシャ時代の教養と人間観
- 2：中国の伝統的教養と人間観
- 3：インドの伝統的教養と人間観
- 4：キリスト教の人間観と教養
- 5：西洋近代思想の人間観と教養
- 6：近現代日本の修養論と教養論
- 7：教養とコミュニケーション

### 【評価方法】

平常レポートと討議

### 【テキスト】

使用せず（資料配布）

### 【参考文献・資料】

教養とヒューマニズム（村瀬裕也 白石書店）  
ディスタクシオン（ブルデュー 藤原書店）  
東洋と西洋（レーヴィット 未来社）  
美徳なき時代（マッキンタイア みすず書房）  
知の文化と型の文化（鹿毛誠一 創文社）  
近現代日本の教養論（渡辺かよ子 行路社）

## 比較文化論Ⅰ（日・米）

松本青也

### 【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

### 【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

### 【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

## 比較文化論Ⅱ（日・欧）

トマー・トドロヴィック

### 【授業の概要】

西ヨーロッパの主な諸国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化様相の状況と問題点に関する最新のデータを利用して比較を行ない、ヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

### 【授業計画】

- 1) 生活様式と生活枠
- 2) 人口問題
- 3) 消費社会文化
- 4) 暴力、犯罪といじめの問題
- 5) ヨーロッパの匂いと味、しぐさと音
- 6) 家族制度
- 7) フランス人の結婚
- 8) 自由時間
- 9) 教育制度
- 10) メディア
- 11) 環境問題
- 12) 地域文化

### 【評価方法】

テストによる評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 比較文化論Ⅲ（日・アジア）

馮 富 榮 尹 大 辰

### 【授業の概要】

（概要）アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

（オムニバス方式）

（馮富榮兼任教授）日本と中国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

（尹大辰兼任講師）「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

### 【授業計画】

この授業は、学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、中国や韓国の文化習慣を多面的に紹介する。授業は、具体的に以下の内容を中心に展開していく予定である。

1. 中国文化の原点である“天人合一”について
2. 何千年の歴史を持つ中国の漢字文化
3. 世界でも大変評判になっている中国の食文化
4. 中国の祝日と風俗習慣
5. 中国の古都の紹介
6. 中国の文化習慣がいかんにして中国人の日本語学習に影響を及ぼすか
7. 中国に関する全体的なまとめ
8. 日本と朝鮮半島との文化交流（古代）
9. 日本と朝鮮半島との文化交流（中世）
10. 日本と朝鮮半島との文化交流（近代）
11. 朝鮮半島の自然と文化・風土
12. 韓国の家族制度と姓・本貫
13. 韓国の社会生活から見た文化比較

### 【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材

### 【参考文献・資料】

金両基監修図説「韓国の歴史」河出書房新社

## 比較文化論Ⅳ（日・中東）

岡 真 理

### 【授業の概要】

現代世界とイスラームの問題、オリエンタリズム、パレスチナ問題、そして主体としての民族あるいは女性と、その表象の問題等を主要なテーマとして考察する。

### 【授業計画】

1. イスラームとは何か。
2. 「中東」とはいかなる概念か。
3. アラビア語とはいかなる言語か。
4. オリエンタリズムとは何か。
5. パレスチナ問題とは何か。
6. 民族とジェンダーについて。
7. パレスチナ人女性は語るができるか。

### 【評価方法】

出席状況および試験によって評価する。

### 【参考文献・資料】

イスラームの日常世界（片倉もとこ 岩波新書）

イスラーム的（大塚和夫 NHKブックス）

オリエンタリズム（エドワード・サイード 平凡社ライブラリー）

イスラーム報道（エドワード・サイード みすずライブラリー）

ペンと剣（エドワード・サイード クレイン）

ハーレムの少女ファティマ（ファティマ・メルニーシー 未来社）

イヴの隠れた顔（ナワル・エル・サーダウィ 未来社）

ゼロ度の女（ナワル・エル・サーダウィ 三一書房）

その他、授業中に適宜、指示する。

## ビジネスジャーナル講読

藤井正志 森下允之 梅田敏文 杉本典之 真田幸光 浅井敬一郎  
石川雅之 石坂綾子 浅野敬志 上原 衛 渡辺泰明 小池弘道

### 【授業の概要】

日経ビジネス、東洋経済、ダイヤモンドなどの経済誌等から毎週テーマを決め、輪読と質疑応答を通じて現実の経済状況の把握と、経済学の専門用語を学ぶとともに経済学的な解説を加える。

### 【授業計画】

第1～12講 経済、金融、ビジネスコミュニケーションなど幅広いテーマを取上げる。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1講の開始前に配布する。

## 英文ビジネスジャーナル講読

藤井正志 森下允之 梅田敏文 杉本典之 真田幸光 浅井敬一郎  
石川雅之 石坂綾子 浅野敬志 上原 衛 渡辺泰明 小池弘道

### 【授業の概要】

ビジネスウィークやインターネット上のBBC、ABCの経済ニュース記事等を英文教材として用い、世界でどのような経済問題が起きているのか、海外から見た日本経済の評価などについて英語での理解を深める。

### 【授業計画】

第1～12講 経済、金融、ビジネスコミュニケーションなど幅広いテーマを取上げる。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1講の開始前に配布する。

## 経済学概論 I

石坂綾子

### 【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 なぜ経済学を学ぶのか (ガイダンス)
- 第2回 マーケットメカニズム
- 第3回 社会主義の失敗
- 第4回 金融仲介機能
- 第5回 株式会社
- 第6回 競争社会の光と影
- 第7回 所得の決定
- 第8回 市場の失敗
- 第9回 大不況を克服する方法
- 第10回 グローバルエコノミー
- 第11回 貿易黒字の発生
- 第12回 日本型システムの崩壊
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。第1回目の授業において資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

『痛快！経済学』（中谷巖著 集英社インターナショナル／集英社文庫）

## 経済学概論 I

立石 寛

### 【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車産業と経済学
- 第3回 経済学的な考え方
- 第4回 取引と貿易
- 第5回 需要・供給と価格
- 第6回 需要・供給分析の応用
- 第7回 時間とリスク
- 第8回 公共部門
- 第9回 マクロ経済学と完全雇用
- 第10回 経済成長
- 第11回 失業と総需要
- 第12回 インフレーション

### 【評価方法】

単位認定試験、成績によって評価する。

### 【テキスト】

ジョセフE. スティグリッツ著  
藪下史郎・秋山太郎・金子能宏・木立力・清野一治訳  
『スティグリッツ入門経済学』（東洋経済新報社）

### 【参考文献・資料】

なし



## 経済学概論Ⅱ

太田聡一

### 【授業の概要】

マクロ経済学とミクロ経済学の基礎について概説する。

### 【授業計画】

講義形式で行なう。

### 【評価方法】

定期試験で評価する。

### 【テキスト】

講義中に適宜指示する。

## 経営学概論Ⅰ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

経営学の基本的な概念と理念を体系的に学ぶとともに、現代の企業と経営者の役割と意義について考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業とは何か
- 第3～4回 企業の諸形態
- 第5～6回 株式会社の経営機構
- 第7～8回 日本型株式会社制度の構造と実態
- 第9～11回 企業の組織形態
- 第12～13回 会社分割・持株会社制度
- 第14回 まとめ

### 【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

- 企業論（三戸浩他著 有斐閣アルマ）
- 経営のしくみ（青木三十一著 日本実業出版社）
- 株式会社のしくみがよくわかる本（北條恒一著 PHP）

## 経営学概論Ⅱ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

経営学の知識をさらに深めるために、経営手法として経営戦略、組織形態、人事労務、インセンティブシステムについて考察する。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス  
第2～9回 企業の経営戦略
- ・経営戦略の体系
  - ・成長戦略
  - ・競争戦略
  - ・ケーススタディ
- 第10～11回 企業のインセンティブシステム  
第12～13回 いわゆる日本的経営と人事労務管理  
第14回 まとめ

### 【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

- わかりやすいマーケティング戦略（沼上幹著 有斐閣アルマ）  
経営戦略（大滝精一他著 有斐閣アルマ）  
新しい人事労務管理（佐藤博樹他著 有斐閣アルマ）  
有力企業の社会貢献度2003（朝日新聞文化財団編 PHP）

## 基礎数学

坂井貞彦

### 【授業の概要】

専門科目を学ぶ際に必要な基礎的数学として、線形数学、微分法および積分法の初歩を学習する。

### 【授業計画】

講義方式による。

- 第1回～第5回 線形代数  
連立1次方程式、行列式、行列、数ベクトル  
第6回～第10回 微分法  
極限值、連続、導関数、初等関数の微分、極大極小、  
平均値の定理、2変数の関数、偏導関数  
第11回～第12回 積分法  
不定積分、定積分

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させ、また小テストを実施した場合は、成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

ブラクティカル基礎数学（永田幸令・三好武雄 開成出版）

## 統計学基礎

坂井貞彦

### 【授業の概要】

身近なデータを教材にして、統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会生活にどのようにかかわっているか、いかに必要であるかについて学習する。

### 【授業計画】

講義方式による。

- 1 統計と統計分析
- 2 日本の統計調査
- 3 代表値、標準偏差、時系列データ
- 4 相関、相関係数
- 5 総合指数、物価指数
- 6 回帰分析
- 7 統計的推測のあらまし

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させ、また小テストを実施した場合は、成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

入門統計学（木下宗七 有斐閣）

## 情報システム概論 I

梅田敏文

### 【授業の概要】

コンピュータの原理と歴史、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの概説、情報化の課題を通して、情報システムの基礎知識を取得する。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 Windows 98の操作（1）
- 第3講 コンピュータの歴史
- 第4講 データの表現
- 第5講 ハード/ソフトの概要
- 第6講 Windows 98の操作（2）
- 第7講 プログラムの設計と開発
- 第8講 データベースシステム
- 第9講 通信ネットワーク
- 第10講 Windows 98の操作（3）
- 第11講 情報システムの今後の課題
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

ひとつのテーマが終了した時点でミニテストを実施する（2～3回）。出席点40%、ミニテストその他60%で評価する。

### 【テキスト】

エンドユーザコンピューティング（ウイネット）  
授業の途中に適宜、資料を配布する。

## 情報システム概論Ⅰ

三浦信宏

### 【授業の概要】

コンピュータの原理と歴史、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの概説、情報化の課題を通して、情報システムの基礎知識を取得する。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 Windows 98の操作（1）
- 第3講 コンピュータの歴史
- 第4講 データの表現
- 第5講 ハード/ソフトの概要
- 第6講 Windows 98の操作（2）
- 第7講 プログラムの設計と開発
- 第8講 データベースシステム
- 第9講 通信ネットワーク
- 第10講 Windows 98の操作（3）
- 第11講 情報システムの今後の課題
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

ひとつのテーマが終了した時点でミニテストを実施する（2～3回）。出席点40%、ミニテストその他60%で評価する。

### 【テキスト】

エンドユーザコンピューティング（ウイネット）  
授業の途中に適宜、資料を配布する。

## 情報システム概論Ⅱ

石橋善弘

### 【授業の概要】

計算機械、通信技術、制御技術の発展の跡をたどり、「情報システム」という概念が生まれた必然性について解説する。また、情報に関する基礎概念を、情報の表現形式、加工、変形およびそれらに基づく情報の発生、処理という一連の流れを通して把握させる。さらに、情報システムがいかに関構され、いかに活用されているかについての理解を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 本講義の目的と授業計画の提示
- 第2回～第11回 以下の項目について解説する
  - 情報と表現
  - コンピュータシステムのしくみと機能
  - ソフトウェアシステム
  - 人工知能
  - ネットワーク社会
- 第12回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

文科系のコンピュータ概論（有沢誠著 岩波書店）

## プログラミング I

石橋善弘

### 【授業の概要】

コンピュータを道具として問題解決をはかるという過程が、諸方面で進展している。プログラミングの基本的な考え方を概説し、BASICを用いて日常生活、社会活動において有用なプログラムを作成する能力を養う。

### 【授業計画】

- 第1回 本講義の目的と授業計画の揭示
- 第2回～第11回 以下の項目について解説する
  - コンピュータの歴史
  - プログラミングの基礎
  - プログラミングに必要な数学的基礎
  - 2進法
  - 算術演算
  - 論理演算
- 第12回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## プログラミング I

伊東俊彦

### 【授業の概要】

「プログラミング」は「ソフトウェア開発」の下流で実施される重要なプロセスである。そのため、まずソフトウェア開発の全体像を把握し、その中でプログラミングの位置づけと役割を明確にする。具体的にはプログラミングとはなにかを理解するためHTMLによるホームページ作成を行う。その後、ビジュアルBASIC (VB) などによる簡単なプログラム作成を通して、プログラミングの基本概念である手続きの流れについてマスターする。本講義を通して、プログラミングの重要性と問題点を理解することを目標にしている。

### 【授業計画】

1. ソフトウェア開発とはなにか
2. ソフトウェア開発におけるプログラミングの位置づけ
3. プログラミングに必要なソフトウェアツール
4. プログラミングの基礎
5. HTMLによるホームページの作成 (1)
6. HTMLによるホームページの作成 (2)
7. HTMLによるホームページの作成 (3)
8. VBによるプログラミングの手順
9. VBによるプログラミング (1)
10. VBによるプログラミング (2)
11. VBによるプログラミング (3)
12. まとめ

### 【評価方法】

出席点およびプログラム結果のレポートにより評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。原則として資料を配布する。

## プログラミングⅡ

梅田敏文

### 【授業の概要】

プログラミング言語の機能と特徴を理解し、簡単なプログラム（VB、JAVAなど）を作成することによって、マン・マシン・インターフェースの実際と課題を考察する。

### 【授業計画】

- 第1講 プログラミングの基礎
- 第2講 VBAによるプログラミング手順
- 第3講 VBEの活用
- 第4講 マクロの作成
- 第5講 マクロの修正と拡張
- 第6講 条件による処理の分散
- 第7講 変数、関数の使用
- 第8講 エラー処理の方法
- 第9講 フォームオブジェクト
- 第10講 ユーザーフォームの作成
- 第11講 マクロの実行
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

ひとつのテーマが、終了した時点でミニテストを実施する（2～3回）。出席点40%、ミニテストその他60%で評価する。

### 【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。  
授業の途中に適宜、資料を配布する。

## プログラミングⅡ

伊東俊彦

### 【授業の概要】

前期「プログラミングⅠ」で把握したプログラミングの概念をさらに実践的にするためプログラミングの前段階である設計・開発の基本的内容について学習する。その後、ビジュアルBASIC（VB）などによる簡単なプログラムから少し複雑なプログラムの作成を通して、ユーザーとのインターフェースにおける問題と重要性について理解することを目標にしている。

### 【授業計画】

- 1. 設計・開発段階の概要
- 2. プログラミングのポイント
- 3. VBAによるプログラミングの手順
- 4. VBEの活用
- 5. マクロの作成
- 6. マクロの修正と拡張
- 7. 条件による処理の分散
- 8. 変数、関数の使用
- 9. エラー処理の方法
- 10. フォームオブジェクト
- 11. マクロの実行
- 12. まとめ

### 【評価方法】

出席点およびプログラム結果のレポートにより評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。原則として資料を配布する。

# システムデザインⅠ

梅田敏文

## 【授業の概要】

金融情報システムのパッケージや最新業務システムを分析することによって、アプリケーションプログラムやデータベースシステムのデザインの概念、方法、手順などを学ぶ。

## 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 システムデザインの概念と方法論
- 第3講 金融情報システムの設計
- 第4講 プログラム設計とデータベース設計概要
- 第5講 データベース設計の方法論
- 第6講 データベース設計(1)
- 第7講 データベース設計(2)
- 第8講 データベース設計(3)
- 第9講 データベース設計(4)
- 第10講 データベース設計(5)
- 第11講 データベース設計(6)
- 第12講 まとめ

## 【評価方法】

一つのテーマが終了した時点で、ミニテストを実施する(2~3回)。出席点40%、ミニテストその他60%で評価する。

## 【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。  
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

# システムデザインⅠ

伊東俊彦

## 【授業の概要】

金融情報システムのパッケージや最新業務システムを分析することによって、アプリケーションプログラムやデータベースシステムのデザインの概念、方法、手順などを学ぶ。

## 【授業計画】

- 1. システムとはなにか
- 2. システムデザインの概要
- 3. アプリケーションシステムの設計
- 4. プログラム設計とデータベース設計の概要
- 5. データベース設計の方法論
- 6. データベース設計(1)
- 7. データベース設計(2)
- 8. データベース設計(3)
- 9. データベース設計(4)
- 10. データベース設計(5)
- 11. データベース設計(6)
- 12. まとめ

## 【評価方法】

出席点およびミニテスト(2~3回実施)により評価する。

## 【テキスト】

テキストは適宜指示する。原則として資料を配布する。

## システムデザインⅡ

内野 明

### 【授業の概要】

会計システムのデザインの方法、その基本的な仕組みを理解するために、まず最初に簿記一巡の手続き処理をExcelで実習する。その上でExcel VBAを用いて作成された会計システムを利用する。自作のシステムと作り込まれたシステムの機能、操作性を比較する。さらに市販されている会計システムの特徴を学んでいく。

本講を通じて会計システムならびにビジネス上で使われるパッケージ化されたアプリケーションの一般的な構造の原理を理解することを目的とする。

### 【授業計画】

集中講義の初年度なので大まかな進行予定を示す。

- (1) 講義の進行予定の提示
- (2) 勘定科目の検索処理と集計処理
- (3) 簿記一巡手続きの実行（仕訳から精算表作成まで）
- (4) 会計システムの利用
- (5) 市販されている会計パッケージの特徴
- (6) 会計システムのデザインと利用

### 【評価方法】

出席状況および2回のレポートによる。

第1レポート：簿記一巡手続き実習結果

第2レポート：会計システム利用を経験して

### 【テキスト】

必要な資料は配付する。

#### 《履修条件》

Excelの基本的な操作、集計、グラフ作成、計算式の定義、if関数、lookup関数の利用についての知識があること。

会計については、仕訳、決算整理、試算表、精算表、貸借対照表、損益計算書についての基礎的な知識があること。すなわち日商の簿記検定3級程度の知識があること。

以上の知識を前提として講義体系ができています。学生自らが「Excelで会計の実習を行う」ことを履修にあたってよく認識しておくこと。

## システムデザインⅡ

伊東俊彦

### 【授業の概要】

会計システムデザインの方法、仕組みを会計パッケージを分析、解決しながら講義し、会計システムの機能と構造の知識、およびデザインの技法を習得する。

### 【授業計画】

1. 会計システムの概要（1）
2. 会計システムの概要（2）
3. 簿記の概念（1）
4. 簿記の概念（2）
5. Excel/VBAの基礎（1）
6. Excel/VBAの基礎（2）
7. 売上管理プログラム作成（1）
8. 売上管理プログラム作成（2）
9. 売上管理プログラム作成（3）
10. 市販会計システムの特徴（1）
11. 市販会計システムの特徴（2）
12. まとめ

### 【評価方法】

出席点およびミニテスト（2～3回実施）により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。原則として資料を配布する。



## 金融論

藤井正志

### 【授業の概要】

資金循環勘定と企業の資金調達、直接金融・間接金融に係る金融仲介機関の機能、金融市場と金利等、金融の役割・仕組みについて論ずる。

### 【授業計画】

- 第1講 貨幣と決済
- 第2講 日本の資金循環
- 第3講 金融取引と金利
- 第4講 短期金融市場と金利
- 第5講 長期金利はどう決まるのか
- 第6講 企業の金融行動
- 第7講 金融政策（1）
- 第8講 金融政策（2）
- 第9講 自己資本比率規制
- 第10講 バブルの崩壊と日本の金融システム
- 第11講 銀行経営と情報開示
- 第12講 金融制度改革と金融機関の将来展望
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

「金融論」（藤井正志著）

## 国際金融論

藤井正志

### 【授業の概要】

国際金融市場、国際証券市場の動向、起債に関する実務、デリバティブの動向とリスク管理等、基礎と現実の動きを幅広く考察し、今後の課題についても検討する。

### 【授業計画】

- 第1講 金融のグローバル化と金融制度改革
- 第2講 外国為替業務と国際収支
- 第3講 国際金融市場
- 第4講 国際金融のリスク
- 第5講 国際貸付市場
- 第6講 国際債券市場
- 第7講 デリバティブ取引
- 第8講 スワップ取引・先物取引
- 第9講 オプション取引
- 第10講 国際金融の指標の読み方
- 第11講 国際金融の拡大とリスクの回避
- 第12講 国際金融の将来展望

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

「国際金融論」（藤井正志著）

## 国際投融資論

森下允之

### 【授業の概要】

歴史と最新の統計に基づき国際資本すなわち国際投融資の動きとその各国経済発展への影響について論じる。

### 【授業計画】

- 第1講 国際投融資の目的
- 第2講 国際投融資の形態（直接投資、証券投資）
- 第3講 証券投資の急増とその功罪
- 第4講 世界の直接投資
- 第5講 日本の対外直接投資  
本邦企業の海外進出とグローバル戦略
- 第6講 対外直接投資が国内産業へ及ぼす影響  
産業の空洞化問題
- 第7講 日本への対内直接投資  
優良企業も外資に狙われる
- 第8講 経済協力の実態と効果
- 第9講 カントリー・リスクとビジネス・リスク
- 第10講 プロジェクト・ファイナンス
- 第11講 自由貿易協定が投資におよぼす影響
- 第12講 世界主要地域の投資環境概観
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを適時配布する。

### 【参考文献・資料】

- マネー・マーケットの大潮流  
(加野忠、砂村賢、湯野勉著 東洋経済新報社)
- 2002年版ジェトロ貿易白書 (日本貿易振興会)
- 2002年版ジェトロ投資白書 (日本貿易振興会)

## 外国為替論

森下允之

### 【授業の概要】

「国際金融」のExchange（交換、為替）の側面。基礎的な概念・理論から今日の制度・為替政策、さらに経済への影響まで触れる。経済的なできごと、変化が外国為替相場にどう影響するか理解できるようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1講 外国為替の仕組み
- 第2講 外国為替市場
- 第3講 外国為替相場の種類
- 第4講 スワップとアウトライト
- 第5講 外国為替リスクと回避方法
- 第6講 外国為替相場と経済の関係
- 第7講 外国為替相場と国際収支
- 第8講 オプション取引
- 第9講 外国為替相場の決定理論
- 第10講 国際通貨制度
- 第11講 ユーロ
- 第12講 アジアと円の国際化
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

国際金融・外為市場  
(佐久間潮著 財経詳報社)

## 銀行ビジネス論

森下允之

### 【授業の概要】

現在、日本の銀行界は未曾有の危機、再編の渦中であり、日本経済不振の元凶とも非難されている。しかしながら、実際には銀行は加害者でもあり、被害者でもある。金融機関その代表である銀行が再び十分な利益をあげ、日本経済に貢献する方法を論ずる。

### 【授業計画】

- 第1講 金融システムの基礎知識
- 第2講 金融システムにおける銀行
- 第3講 バブル崩壊と不良資産
- 第4講 間接償却と直接償却
- 第5講 金融再編成
- 第6講 日本の銀行の特徴（なぜ儲からないか）
- 第7講 ペイオフ問題と中小金融機関
- 第8講 政府系金融機関の功罪
- 第9講 郵政民営化
- 第10講 日本の資金需給の大変化
- 第11講 金融ビッグバン
- 第12講 異種業種からの参入
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じ、プリントを配布

### 【参考文献・資料】

- 図説 わが国の銀行  
(全国銀行協会調査部編 財経詳報社)
- 日経文庫 ベーシック金融自由化入門  
(円居総一著 日本経済新聞社)
- 21世紀日本の金融産業革命  
(植田、川北、高月著 東洋経済新報社)
- 銀行収益革命  
(川本裕子著 東洋経済新報社)

## 保険ビジネス論

跡部浩一

### 【授業の概要】

保険業法の基本事項を学習し、現代の企業経営にとって不可欠な各種保険の意義と役割についての理解を深める。  
特に保険業法の法的解釈論よりも、日常の経済活動を通じての保険実務とその意義を中心のテーマに、その法的根拠としての保険業法の基本を解説する。

### 【授業計画】

- 第1講 保険業法の概要  
\* 米国同時多発テロと損害保険
- 第2講 損害保険の基礎知識 1  
\* 損保の主流=自動車保険
- 第3講 損害保険の基礎知識 2  
\* 損保の主流=自動車保険（事例研究）
- 第4講 保険業法の基礎知識 1  
\* 保険会社の社名と最近の再編動向
- 第5講 保険業法の基礎知識 2  
\* 保険募集と保険募集関係者
- 第6講 保険業法の基礎知識 3  
\* 損害保険と生命保険の違い
- 第7講 損害保険の基礎知識 3  
\* 火災保険と損害賠償
- 第8講 生命保険の基礎知識 1  
\* 生命保険商品の入門
- 第9講 生命保険の基礎知識 2  
\* 最近の生命保険
- 第10講 生保・損保と保険業法  
\* 最近の保険犯罪（事例研究）
- 第11講 保険とは何か  
\* 事例研究で学んだこと
- 第12講 企業経営と保険
- 第13講 まとめ・保険業法の今日的意義  
\* 保険業の意義
- 第14講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により、総合的に評価する

### 【テキスト】

テキストは使用しない。毎回レジメを配布する

### 【参考文献・資料】

- 『保険の知識』（日経文庫・真屋尚生著）
- 『損害保険の知識』（日経文庫・玉村勝彦著）
- 『生命保険の知識』（日経文庫・ニッセイ基礎研究所著）

# 証券ビジネス論

島田舒一

## 【授業の概要】

日本版ビッグバン後、証券市場、証券会社、証券行政などいずれも変革が進みつつあり、また、グローバル化の中で証券ビジネスは質量とも変わってきている。そこで広範囲にわたる証券ビジネスを具体的に論ずるとともに、金融システムや市場の変化の中でどう変わっていくか、その背景と方向性についても考察する。

## 【授業計画】

- 第1講 証券市場の機能と役割
- 第2講 証券の種類と内容
- 第3講 証券市場の仕組
- 第4講 証券会社の業務1 株式業務
- 第5講 証券会社の業務2 債券業務ほか
- 第6講 銀行の証券業務
- 第7講 投資信託業務
- 第8講 資産運用業務と投資計算
- 第9講 証券流通市場関連業務
- 第10講 国際証券業務
- 第11講 日本版ビッグバンと金融・証券市場の変化
- 第12講 規制緩和と新しい証券ビジネス
- 第13講 単位認定試験

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布

## 【参考文献・資料】

証券ビジネスの基礎知識 (島田舒一著 中部日本教育文化会)

# 金融システム論

石坂綾子

## 【授業の概要】

中央銀行と金融政策、銀行と証券市場、国際的金融制度 (IMF、世界銀行など) など金融システムについての基本的特徴をその機能と歴史的背景から考察する。

## 【授業計画】

1. 1980・1990年代の金融世界
  - (1) バブルの陶酔と清算 (1985-1994)
  - (2) ボーダーレスマネー (1994年)
    - 「円・ドル」の事例—
  - (3) 金融異変 (メルトダウン)
    - 国際金融危機の事例—
2. 日本の金融システム
  - (1) 金融システムの発展とその特色・再編と現状・公的金融システム
  - (2) 金融業務にかんする規制・慣行とその変容
  - (3) 金融制度改革
3. ヨーロッパ諸国の金融システム
  - (1) イギリス —ロンドン・シティの国際金融市場とビッグ・バン—
  - (2) フランス —実物資産選考と国有化—
  - (3) ドイツ —ユニバーサルバンキングの展開—
  - (4) ヨーロッパ連合 (European Union; EU) —通貨統合・単一通貨制度への移行—
4. アメリカの金融システム
  - (1) 大恐慌の教訓から構成された競争制限的な金融システム
  - (2) 金融機関の概要
  - (3) アメリカにおける金融システム改革
  - (4) 規制からの逃避 —銀行持株会社のケース—
  - (5) デイスインターメディアーション
  - (6) 預金保険制度

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

特に指定しない。第1回目の授業において資料を配布する。

## 【参考文献・資料】

『ゼミナール現代金融入門』(斎藤 精一郎著 日本経済新聞社)

『金融システム』(酒井良清・鹿野 嘉昭著 有斐閣)

『金融政策』(酒井良清・榊原 健一・鹿野 嘉昭著 有斐閣)

## ファイナンス特論

細野義晴

### 【授業の概要】

企業経営資金の需要者と供給者との間には、現在多種多様な金融機関が存在している。これらの金融構造を学習し、現在の各種金融機関の特色とその役割を理解する。

### 【授業計画】

以下のような内容で講義する。

1. 日本の資金循環と各経済主体の金融行動  
貨幣の機能と日本の資金循環、家計の金融行動、企業の金融行動、政府の金融行動、経済主体別資金過不足の動向、など。
2. わが国の金融機関とその変化  
わが国における近代的金融機関の成立、第2次大戦後に確立した金融システムと金融機関の体系、金融の自由化・国際化による金融システムの変化など。
3. 金融機関の業務とその変貌  
中央銀行の機能と金融政策、民間金融機関の業務とその変貌、公的金融機関とその役割の変化など。
4. わが国の金融構造と金融機関行政の変化  
高度成長時代の金融構造の特色、護送船団方式の金融機関行政とそこでの金融機関経営、低成長時代への移行に伴う金融構造の変化、市場機能重視の金融機関行政とそこでの金融機関経営、など。
5. 金融ビッグバンと金融機関の将来像  
金融ビッグバンの背景とその歩み、金融ビッグバンの金融機関と国民生活への影響、不良債権処理とベイオフ問題、など。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

1. 金融（貝塚啓明・奥村洋彦・首藤恵著、東洋経済新報社）
2. 図説、わが国の銀行（全国銀行協会連合会調査部編著、財経詳報社）

## ファイナンス特論

渡辺泰明

### 【授業の概要】

企業経営資金の需要者と供給者との間には、現在多種多様な金融機関が存在している。これらの金融構造を学習し、現在の各種金融機関の特色とその役割を理解する。

### 【授業計画】

- 第1講 インTRODクシヨN
- 第2講 確実性下の評価
- 第3講 不確実性下の評価
- 第4講 ポートフォリオ選択
- 第5講 資本資産評価モデル（CAPM）
- 第6講 デリバティブ
- 第7講 財務諸表と財務計画
- 第8講 資金調達と配当政策
- 第9講 資本予算
- 第10講 資本構成と企業評価
- 第11講 エージェンシーとシグナリング
- 第12講 期末試験
- 第13講 期末試験解説

### 【評価方法】

出席状況と期末試験の結果により評価する。

### 【テキスト】

基礎からのコーポレート・ファイナンス（古川他著 中央経済社）

## 簿記Ⅰ

浅野敬志

### 【授業の概要】

複式簿記の基礎原理と仕訳から財務諸表の作成にいたる会計手続の全体系を概説し、簿記の基礎の理解を完全にするため記帳練習も行う。

### 【授業計画】

- 第1回 簿記の目的と役割
- 第2回 貸借対照表と損益計算書
- 第3回 取引と勘定
- 第4回 仕訳帳と元帳
- 第5回 現金・預金取引
- 第6回 商品売買取引（1）
- 第7回 商品売買取引（2）
- 第8回 掛取引と貸倒れ
- 第9回 手形取引
- 第10回 その他の債権・債務取引
- 第11回 有価証券・固定資産取引
- 第12回 伝票と訂正仕訳
- 第13回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

日商簿記検定模擬試験問題集 3級商業簿記（一橋出版）

新検定簿記講義 3級商業簿記（平成15年版）（加古宣士・渡辺裕亘編著、中央経済社）

### 【参考文献・資料】

現代簿記（中村忠著、白桃書房）

## 簿記Ⅰ

石川雅之

### 【授業の概要】

複式簿記の基礎原理と仕訳から財務諸表の作成にいたる会計手続の全体系を概説し、簿記の基礎の理解を完全にするため記帳練習も行う。

### 【授業計画】

- 第1回 取引の基本
- 第2回 仕訳と転記
- 第3回 6ケタ精算表
- 第4回 現金・預金
- 第5回 掛取引
- 第6回 仕入と売上
- 第7回 手形取引（1）
- 第8回 手形取引（2）
- 第9回 有価証券
- 第10回 その他の債権債務
- 第11回 商品有高帳
- 第12回 残高試算表

### 【評価方法】

単位認定試験によって行う

### 【テキスト】

未定

## 簿記Ⅰ

前川三喜男

### 【授業の概要】

複式簿記の基礎原理と仕訳から財務諸表の作成にいたる会計手続の全体系を概説し、簿記の基礎の理解を完全にするため記帳練習も行う。

### 【授業計画】

- 第1回 簿記を学ぶにあたって
- 第2回 損益計算書と貸借対照表
- 第3回 取引と勘定
- 第4回 仕訳帳と総勘定元帳
- 第5回 商品売買の記帳方法
- 第6回 現金・預金と手形の記帳方法
- 第7回 その他の勘定の記帳方法
- 第8回 補助簿の記帳方法
- 第9回 試算表
- 第10回 決算
- 第11回 決算修正の記帳方法
- 第12回 損益計算書と貸借対照表の作成
- 第13回 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

例解演習基本簿記（山本孝夫・前川邦生編著 創成社）

## 簿記Ⅰ

森 恒夫

### 【授業の概要】

複式簿記の基礎原理と仕訳から財務諸表の作成にいたる会計手続の全体系を概説し、簿記の基礎の理解を完全にするため記帳練習も行う。

### 【授業計画】

- 第1回 簿記の成立及び現代社会と会計情報
- 第2回 複式簿記の基本原則
- 第3～4回 現金・預金及び商品売買に関する記帳処理
- 第5回 債権・債務及び手形に関する記帳処理
- 第6回 有価証券・資産管理及び資本に関する記帳処理
- 第7回 費用・収益に関する記帳処理
- 第8回 帳簿組織
- 第9～11回 決算の簿記
- 第12回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験によって評価。

### 【テキスト】

現代簿記会計（大塚宗春他著 中央経済社）

### 【参考文献・資料】

簿記教科書五訂新版（沼田嘉穂著 同文館）

## 簿記Ⅱ

浅野敬志

### 【授業の概要】

複式簿記の理解を深めることを目的にして、内容的により高度な個別問題を詳論するとともに、取引の仕訳、勘定記入や財務諸表の作成という具体的処理を論ずる。

### 【授業計画】

- 第1回 前期簿記Ⅰの復習(1)
- 第2回 前期簿記Ⅰの復習(2)
- 第3回 決算手続き
- 第4回 8桁精算表の作成(1)
- 第5回 8桁精算表の作成(2)
- 第6回 有価証券取引、商品売買取引(日商簿記検定2級の範囲)
- 第7回 手形取引、その他の債権・債務取引(日商簿記検定2級の範囲)
- 第8回 棚卸資産と固定資産の評価(日商簿記検定2級の範囲)
- 第9回 商品の特殊売買取引(1)
- 第10回 商品の特殊売買取引(2)
- 第11回 繰延資産会計
- 第12回 引当金(評価性引当金と負債性引当金)
- 第13回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

日商簿記検定模擬試験問題集3級商業簿記(一橋出版)

新検定簿記講義3級商業簿記(平成15年版)(加古宣士・渡辺裕亘編著、中央経済社)

現代簿記(中村忠著、白桃書房)

#### 【注意】

本講義は前期の簿記Ⅰ(浅野担当)の延長線上にあるので、簿記Ⅰ(浅野担当)を履修していることが望ましい。

## 簿記Ⅱ

石川雅之

### 【授業の概要】

複式簿記の理解を深めることを目的にして、内容的により高度な個別問題を詳論するとともに、取引の仕訳、勘定記入や財務諸表の作成という具体的処理を論ずる。

### 【授業計画】

- 第1回 減価償却
- 第2回 決算手続き
- 第3回 8ケタ精算表
- 第4回 帳簿(1)
- 第5回 帳簿(2)
- 第6回 伝票
- 第7回 債務保証・未決算
- 第8回 手形の裏書と偶発債務
- 第9回 引当金
- 第10回 特殊商品売買取引
- 第11回 設立・増資・減資
- 第12回 本支店会計

### 【評価方法】

単位認定試験によって行う。

### 【テキスト】

未定



## 簿記Ⅱ

森 恒夫

### 【授業の概要】

複式簿記の理解を深めることを目的にして、内容的により高度な個別問題を詳論するとともに、取引の仕訳、勘定記入や財務諸表の作成という具体的処理を論ずる。

### 【授業計画】

- 第1回 前期簿記Ⅰの復習
- 第2回 債権及び棚卸資産の管理と評価
- 第3回 有価証券及び固定資産の管理と評価並びに繰延資産
- 第4～5回 特殊な商品売買
- 第6～8回 株式会社の資金調達
- 第9回 引当金と偶発債務
- 第10回 本支店会計及び連結会計
- 第11回 コンピューター会計
- 第12回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験によって評価。

### 【参考文献・資料】

現代簿記会計（大塚宗春他著 中央経済社）  
簿記教科書五訂新版（沼田嘉穂著 同文館）

## 会計学概論

石川雅之

### 【授業の概要】

一般に公正妥当と認められている会計の諸原則や手続きを学習し、会計諸帳簿の記載事項についての基本的理解を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 会計の意味
- 第2回 会計報告の必要性
- 第3回 財務会計と管理会計
- 第4回 会計と法令
- 第5回 会計基準の役割
- 第6回 損益計算書の仕組み
- 第7回 貸借対照表の仕組み
- 第8回 キャッシュフロー計算書
- 第9回 財務諸表
- 第10回 中間財務諸表
- 第11回 連結財務諸表
- 第12回 監査制度

### 【評価方法】

単位認定試験およびレポートによって評価する。

### 【テキスト】

未定

## 原価計算

林慶雲

### 【授業の概要】

企業活動の原点である物作りと生産物の原価の仕組みを理解するとともに、製品原価の計算方法、目的、手段、利用方法について考察する。

### 【授業計画】

1. イントロダクション（原価計算の前提）
2. 費目別計算
3. 部門費の計算
4. 個別原価計算
5. 単純総合原価計算
6. 工程別原価計算
7. 組別総合原価計算
8. 等級別総合原価計算
9. 連産品の原価計算
10. 標準原価計算
11. 直接原価計算
12. まとめ

### 【評価方法】

試験による。日商簿記検定試験2級以上の合格者は、試験の成績に一定の割合で得点を加算する。

### 【テキスト】

入門原価計算（清水孝、長谷川恵一、中央経済社）

### 【参考文献・資料】

日商簿記検定試験用のテキストなど

## 管理会計

林慶雲

### 【授業の概要】

現代の企業経営における意志決定には、予測情報と実績情報が必要不可欠である。企業内の各階層の経営管理者は、これらの提供された情報の分析・説明を通じてどのように合理的な企業経営を行っているか、具体例をあげて講ずる。

### 【授業計画】

1. イントロダクション（会計の経営への応用）
2. CVP分析
3. 特殊原価計算
4. 投資の意思決定
5. ABC/ABM
6. 原価企画
7. 品質原価計算
8. 企業連携のコスト管理
9. 予算管理
10. 業績管理会計
11. まとめ

### 【評価方法】

試験による。原価計算の知識がないと講義の理解は難しい。

### 【テキスト】

管理会計入門（加登豊 日経文庫）

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 国際会計

山川 勝

### 【授業の概要】

企業の経営活動の国際化に伴い、各国の会計基準の相違が問題になる。特に、米国会計基準、国際会計基準の動向に注目して会計基準の国際的調和について考察する。また、個別の企業会計の問題として、為替レート変動が企業に与える影響に関して、会計的な側面から論じる。

### 【授業計画】

1. 日本の会計基準の現状と課題
2. 国際会計基準の概要
3. 米国会計基準の概要
4. 会計基準各論
  - (1) 連結財務諸表
  - (2) 金融商品会計
  - (3) 引当金、偶発債務
  - (4) 退職給付会計
  - (5) 外貨換算
  - (6) 中間財務報告
  - (7) その他
5. 企業の財務情報開示の現状比較（日本企業のアニュアルレポート（国内向及び海外向け）の分析）
6. 会計と監査

### 【評価方法】

課題に対するレポートの提出を求め、出席状況とあわせて総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

国際会計基準なるほどQ&A（中央青山監査法人編 中央経済社）

日本の有力企業の国内向及び海外向けに開示された財務情報の実例（アニュアルレポート）をケース・スタディとして使用する。

この授業の履修は、財務会計論又は会計学概論を履修していることが望ましい。

## 国際会計

白木俊彦

### 【授業の概要】

企業の経営活動の国際化に伴い、各国の会計基準の相違が問題になる。特に、米国会計基準、国際会計基準の動向に注目して会計基準の国際的調和について考察する。また、個別の企業会計の問題として、為替レート変動が企業に与える影響に関して、会計的な側面から論じる。

### 【授業計画】

- 第1講 総論：国際会計とは
- 第2講 各論1：国際財務報告
- 第3講 各論2：日本
- 第4講 各論3：米国
- 第5講 各論4：連結の範囲
- 第6講 各論5：連結貸借対照表その1
- 第7講 各論6：連結貸借対照表その2
- 第8講 各論7：連結損益計算書
- 第9講 各論8：連結キャッシュフロー計算書
- 第10講 各論9：外貨換算会計その1
- 第11講 各論10：外貨換算会計その2
- 第12講 各論11：外貨換算会計その3
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況とレポート及び単位認定試験結果によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

講義において指示する。

## 監査論

前川三喜男

### 【授業の概要】

近年、都市銀行や大手証券会社等の上場企業の倒産が相続き、会計士監査のあり方が問題とされている。この様な現状下における監査の実態と歴史的な考察ならびに今後の発展のための監査理論について考える。

### 【授業計画】

- 第1回 監査とは？
- 第2回 監査の目的
- 第3回 監査の種類
- 第4回 公認会計士について
- 第5回 企業内容の開示制度（ディスクロージャー）
- 第6回 財務諸表監査
- 第7回 予備調査
- 第8回 監査契約
- 第9回 監査計画
- 第10回 内部統制制度について
- 第11回 内部統制制度の評価
- 第12回 不正と誤謬
- 第13回 監査報告書

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

「スタンダード監査論」（友杉芳正著 中央経済社）

## 財務会計論

石川雅之

### 【授業の概要】

企業等が公表する財務諸表の作成につき、その基礎となる会計処理および手続と、財務諸表の表示方法の基礎的理論を講ずる。

### 【授業計画】

- 第1回 財務会計の社会的役割
- 第2回 財務会計と規制
- 第3回 企業会計原則
- 第4回 資産会計の原則
- 第5回 流動資産
- 第6回 固定資産
- 第7回 その他の資産
- 第8回 負債会計
- 第9回 資本会計
- 第10回 損益会計
- 第11回 財務数値の分析1
- 第12回 財務数値の分析2

### 【評価方法】

単位認定試験およびレポートによって評価する。

### 【テキスト】

未定

## 経営分析

浅野敬志

### 【授業の概要】

資金を効率的かつ安全に運用するためには、優良な企業・金融機関とそうでない企業・金融機関を見分ける力が必要である。その力を養うために、本講では、具体的な経営分析の技法を学ぶと共に、外部向けに公表されている財務情報を用いて、安全性・収益性・成長性などの面から、企業や金融機関を実際に評価する。

### 【授業計画】

1. 経営分析の必要性
2. 財務諸表を理解する
3. 成長性の分析 (1)
4. 成長性の分析 (2)
5. 収益性の分析 (1)
6. 収益性の分析 (2)
7. 採算性の分析 (1)
8. 採算性の分析 (2)
9. 安全性の分析 (1)
10. 安全性の分析 (2)
11. 実例を使つての総合分析 (1)
12. 実例を使つての総合分析 (2)
13. 実例を使つての総合分析 (3)

### 【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

3ステップ式だから経営分析がらくらくできる本 (増木清行著 あさ出版)

### 【参考文献・資料】

ゼミナール現代会計入門 (伊藤邦雄著 日本経済新聞社)

MBA講座 財務・会計

(J.L.リビングストン編著 日本経済新聞社)

企業分析入門 (パレブ他著 東京大学出版会)

## 会計学特論 I

友杉芳正

### 【授業の概要】

国際化・情報化に直面している企業経営において、会計学が果たす社会的役割を理論的・実証的に研究し、ビジネスの言語としての会計学が、ステークホルダーの意思決定に有用な会計情報を提供する要件とその信頼性の保証問題を論じる。

### 【授業計画】

会計学の各論が別途開講されるため、ここでは会計学総論としての基本的、全般的な点の理解に努め、豊かな社会の構築に貢献する会計学の社会的用具としての有用性を講義する。

### 【評価方法】

出席状況、レポート、小テスト、試験により、総合的に評価する。

### 【テキスト】

追って指示する。

### 【参考文献・資料】

講義の進度に応じて指示する。

## 会計学特論II

杉本典之

### 【授業の概要】

企業や経済の国際化に不可欠な会計制度の国際比較、会計基準の国際的統一化・調和化に資する各国における制度改正の動向把握、企業情報開示政策をめぐる諸問題の解明等を通じて国際的会計政策について論じる。

### 【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。

1. 株式会社会計を典型とする企業会計
2. 情報システムとしての企業会計
3. 会計情報を搬送する決算財務諸表
4. 決算財務諸表をめぐる会計基準
5. 会計基準の国際的調和化
6. 各国の会計基準と国際会計基準

### 【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

### 【テキスト】

未定。履修者数が多くない場合には、各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する。

『会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－』（杉本典之著 同文館）

『キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－』（杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版）

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む新聞（日刊紙）の経済面や、『週刊東洋経済』、『週刊ダイヤモンド』等の週刊経済誌にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。会計関係の月刊誌としては、『企業会計』、『JICPAジャーナル』、『税経通信』、『會計』、等の多数のものがある。インターネットを通じて企業会計に関するさまざまな情報を入手することもできる。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

## 日本経済事情

真田幸光

### 【授業の概要】

日系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、日々刻々と変化する日本の経済情勢を金融マン的視野から考察する。

### 【授業計画】

第1回 年間計画指示・オリエンテーション

第2～11回 前週に配布した時事経済トピックスに関する資料につき解説を行った上で経済情報に関する意見交換を行う。

第12回 試験

第13回 試験解説

### 【評価方法】

単位認定試験の成績による。

### 【テキスト】

授業中に配布する。

## 国際経済事情

真田幸光

### 【授業の概要】

外国系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、世界情勢を分析した上で日本経済がそれにどう対応していくかを考察する。

### 【授業計画】

第1回 年間計画指示・オリエンテーション

第2～11回 配布する時事経済トピックスに関する解説を行った上で国際経済情勢について意見交換を行う。

第12回 試験

第13回 試験解説

### 【評価方法】

単位認定試験の成績による。

### 【テキスト】

授業中に配布する。

## 経済交流史

清水 洋

### 【授業の概要】

国際経済交流の歴史的意義を明らかにし、明治期から今日に至るまでの日本と東南アジアの経済交流を事例として、移民、金融、通商、直接投資、ODAなどの面を多目的に考察する。

### 【授業計画】

講義を主体とするが、ビデオ・OHCなどの視聴覚設備も適宜使用する。

- 1) 国際経済交流の歴史的意義
- 2) 東南アジアにおける初期日本人移民の経済活動
- 3) ～5) 蘭印(現・インドネシア)と英領マラヤ(現・シンガポールと西マレーシア)における日本人移民の経済活動ーからゆきさん先導型経済進出
- 6) アジア内貿易ネットワーク：神戸・横浜の華僑商人とインド人商人
- 7) 戦前期シンガポールにおける日本人漁業
- 8) 太平洋戦争期東南アジアにおける日本の経済活動
- 9) 戦争賠償問題と日本の対東南アジア経済回帰
- 10)～12) 東南アジア諸国の経済発展における日本の役割
- 13) その他

### 【評価方法】

定期試験が主体となるが、レポート等も考慮に入れる。

### 【テキスト】

からゆきさんと経済進出ー世界経済のなかのシンガポール・日本関係史(清水洋・平川均共著 コモンズ)

### 【参考文献・資料】

日本と東南アジア(吉川利治編著 東京書籍)  
近代日本の東南アジア観(正田健一郎編 アジア経済研究所)  
「南進」の系譜(矢野暢 中公新書)

# ビジネスプレゼンテーション

梅田敏文

## 【授業の概要】

ビジネスの場面における自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から考察する。ビジネスの諸局面で発生する課題を各自で分析し、プレゼンテーションツール（パソコンなど）を使用して実践することにより、プレゼンテーションスキルを取得する。

## 【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプレゼンテーション概要
- 第2講 パワーポイントの構成と基本機能
- 第3講 プレゼンテーションシナリオの作成
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成（1）
- 第5講 プレゼンテーション資料の作成（2）
- 第6講 プレゼンテーション資料の作成（3）
- 第7講 プレゼンテーション資料の作成（4）
- 第8講 発表（1）
- 第9講 発表（2）
- 第10講 発表（3）
- 第11講 まとめ（1）
- 第12講 まとめ（2）

## 【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を総合的に評価する。

## 【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著 弘学出版）

# ビジネスプレゼンテーション

三浦信宏

## 【授業の概要】

ビジネスの場面における自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から考察する。ビジネスの諸局面で発生する課題を各自で分析し、プレゼンテーションツール（パソコンなど）を使用して実践することにより、プレゼンテーションスキルを取得する。

## 【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプレゼンテーション概要
- 第2講 パワーポイントの構成と基本機能
- 第3講 プレゼンテーションシナリオの作成
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成（1）
- 第5講 プレゼンテーション資料の作成（2）
- 第6講 プレゼンテーション資料の作成（3）
- 第7講 プレゼンテーション資料の作成（4）
- 第8講 発表（1）
- 第9講 発表（2）
- 第10講 発表（3）
- 第11講 まとめ（1）
- 第12講 まとめ（2）

## 【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を総合的に評価する。

## 【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著 弘学出版）



## スキルマネージメント

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

工学技術が進展するに伴ってスキルが企業の競争力として重要となっている。企業経営におけるスキルの意味を明らかにした上で、スキルの獲得、移転のプロセスについて論じる。

### 【授業計画】

第1回	スキルの概念
第2回～5回	生産システムとスキル
第6回～8回	日本的経営とスキル
第9回～10回	IT化とスキル
第11回～12回	スキルの海外移転
第13回～14回	ポータブルスキル

### 【評価方法】

講義での発表、レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】

特に指定しない

### 【参考文献・資料】

- ものづくりの技能（小池和男他著 東洋経済新報社）  
日本のリーン生産システム（石田光男・藤村博之他著 中央経済社）  
大丈夫か日本のもの作り（馬場錬成著 プレジデント社）  
セル生産システム（岩室宏著 日刊工業新聞社）

## 比較文化特論

國信潤子

### 【授業の概要】

この講座では文化比較をジェンダーの視点から試みる。まず、ジェンダー概念とはどのようなものであるか、また異なる社会にはどのように多様なジェンダー関係があるかについて検討する。社会におけるジェンダー・バランスを統計、事例などを材料に、その背景にはどのような法制度、慣習、宗教、カストなどの社会規範があるかについて検討する。

### 【授業計画】

まず、各自の持つジェンダー観念を学生に記述してもらおう。社会統計事例、新聞、などに現れるジェンダー関係に関わる情報を批判的に読み解き、ジェンダーそのものの多様性、異文化性を明らかにしてゆく。特にビジネス・雇用関係に重点を置く。またジェンダーに関係する労働などに関わる法制、人権規約などについても近年の国連などを通じて出される国際基準がどのようなものであるかについて検討する。各自が担当資料を分析し、報告する形式をとる。

### 【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、報告内容などの総合評価による。

### 【テキスト】

特になし、随時資料配付

### 【参考文献・資料】

授業時に掲示する。

## 異文化コミュニケーション特論

霜田一敏

### 【授業の概要】

異なったライフ・スタイルや価値観を持った人々との共存が時代の要請であり、異質なものの、異文化的なものを知ることは自国文化の本質を知ることでもある。その意味からも、日本人の常識と社交性の特徴を取り上げ、究明するなかから外国人とのコミュニケーションを良くする方途を考えてみたい。

### 【授業計画】

文化背景を異にする諸外国の人々の行動を理解し、円滑なコミュニケーションが行えるような基礎的な知識を次のような項目についてテキストにもとづいて学ぶ。

1. 異文化間コミュニケーションの背景
2. 異文化間コミュニケーションの領域
3. 文化とコミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 言語と文化的認識
6. 言葉の中のジグザグとハイド
7. カルチャー・ショック
8. より効果的なコミュニケーション
9. 異文化間コミュニケーションの教育と訓練

### 【評価方法】

毎回行うミニテストと順次行うレポートとその発表、問題提起と期末の定期テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】

鍋倉健悦著『異文化コミュニケーション入門』丸善

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

## 社会心理学

北折充隆

### 【授業の概要】

社会心理学における主要な理論・研究について、特に実験的研究を紹介しながら概説する。これを通して、実験社会心理学の枠組みによって、社会的な行動や現象を理解するための基礎的知識を身につける。具体的には、実験社会心理学の方法論のほか、社会的認知、社会的態度、対人魅力、社会的影響過程、集団行動、など社会心理学に関する幅広いテーマに関する実証的研究について解説する。

### 【授業計画】

社会心理学の諸知見を、具体例をふまえながら紹介する。具体的に認知バイアス・対人関係・ステレオタイプなどを取り上げる予定だが、内容は進度に応じて調整する。

### 【評価方法】

試験により評価する。持ち込みは不可。

### 【テキスト】

特に使用しないが、プリントを配布する。数回分を単元ごとに配布するので、トピック終了まで毎回持参をすること。

### 【参考文献・資料】

プリント中に記述しておくので、内容に関心を持った場合、購入して読んでおくこと。

## 組織心理学

榊原國城

### 【授業の概要】

組織の中で、個人が自らの意思を明確に示し、かつ組織の機能を有効に活用すること、また、そのための能力をどのように開発していくかは、現代社会に生きる人々の共通課題である。この課題への糸口を見つけることがこの授業のテーマである。すなわち、この授業を通して、人間の意識や行動が組織での仕事の在り方や集団の特性などによってどのような影響を受けるか、また逆に組織が人間によってどう変化するのかについて考察する。

### 【授業計画】

1. 科学的管理法とホーソン研究
2. 仕事への動機づけと職務満足
3. 職業選択と職業適性
4. 組織の機能と構造
5. 組織のコミュニケーション
6. 職場の人間関係
7. 職場におけるストレス

### 【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席状況も評価の際に勘案する。なお、総授業回数の3分の1を越えて欠席した場合は定期試験受験資格喪失とみなす。

### 【テキスト】

人と組織の心理学（榊原 國城著 1999 文教資料協会 定価 2,048円）

## 集団行動論

北折充隆

### 【授業の概要】

われわれの生活は、さまざまな集団や社会の中で営まれている。そうした集団や社会で発生するダイナミックスについて、社会心理学的理論をもとに解説し、個人と集団・社会の相互作用過程について考察する。意思決定や課題遂行における集団内の影響過程、集団間の葛藤と協調、個人行動と集合行動の関連、などの問題を取り上げて論じる。

### 【授業計画】

われわれの生活は、常に他者との相互作用で成り立っている。そうした他者との相互作用により、個人は態度を変容させ、集団で共有されたルールに迎合されて行く。本講ではそうした態度変容をもたらす影響力について、主に説得方略の観点から解説する。

### 【評価方法】

試験により評価する。持ち込みは不可。

### 【テキスト】

特に使用しないが、プリントを配布する。数回分を単元ごとに配布するので、トピック終了まで毎回持参をすること。

### 【参考文献・資料】

プリント中に記述しておくので、内容に関心を持った場合、購入して読んでおくこと。

# マスコミュニケーション

遠藤雄久

## 【授業の概要】

マスコミュニケーションの機能、マスメディアの利用、マスの送り手と受け手、ジャーナリズムと世論などについて概説する。また、日本のテレビ放送の歩みをたどり、21世紀の映像メディアの将来像を考える。

## 【授業計画】

- 第1講 マスメディアの効果理論－弾丸効果理論
- 第2講 マスメディアの効果理論－限定効果理論
- 第3講 マスメディアの効果理論－強力効果理論（1）
- 第4講 マスメディアの効果理論－強力効果理論（2）
- 第5講 カルチュラル・スタディーズ（1）「エンコーディング」
- 第6講 カルチュラル・スタディーズ（2）「デコーディング」
- 第7講 テレビドラマの分析
- 第8講 テレビドラマの分析
- 第9講 新聞記事の内容分析
- 第10講 新聞記事の内容分析
- 第11講 メディアイベントの考察
- 第12講 メディアイベントの考察
- 第13講 まとめ

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合判断する

## 【テキスト】

使用せず

# 放送メディア論

遠藤雄久

## 【授業の概要】

多メディア化、多チャンネル化、更には国際化の趨勢のなかで、放送システムとりわけテレビ放送の地位は大きく揺らぎ、新しい対応を迫られている。本講義は、テレビ放送の「過去・現在・未来」を具体的な事実、データに基づいて考察し、情報化社会のなかでのテレビ放送の新しい可能性を探る。

## 【授業計画】

- (1) 放送とナショナリズム
- (2) ラジオ放送前史
- (3) ラジオ放送の誕生
- (4) ラジオ体操
- (5) 戦争とラジオのニュース
- (6) テレビ放送の開始（日本の特殊性）
- (7) ナショナルな語りのメディアとしてのテレビ
  - 大河ドラマ○朝のテレビ小説○紅白歌合戦
- (8) ナショナルなメディアの揺らぎ。

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合して判断する

## 【テキスト】

使用せず

# 現代マーケティング論

村松潤一

## 【授業の概要】

本講義では、消費を支えてきたマーケティングの歴史と特徴を概観しつつ、社会経済環境が激変するなかでの消費者=生活者像および生活意識、価値観等の変容、メディアの進展と情報伝達方法や新たな時代のマーケティングの在り方等について、さまざまなデータ、事例等を交えて考えていきたい。

## 【授業計画】

本講義で扱うテーマは以下のようである。なお、講義は具体的な事例（一部でビデオを使用）にもとづいて分かり易くおこなう。

- (1) マーケティングの成立
- (2) マーケティングと企業経営
- (3) マーケティング・マネジメントの体系
- (4) マーケティング・マネジメントとマーケティング戦略
- (5) 製品ライフサイクルとマーケティング戦略
- (6) 戦略的計画論とマーケティング・マネジメント
- (7) 戦略的マーケティングの台頭
- (8) 戦略的マーケティングの概念
- (9) 戦略的マーケティング・プロセスとアウトプット
- (10) 日米企業のマーケティング比較
- (11) 戦略的小売マーケティングの概念と体系
- (12) 戦略的小売マーケティングと国際化—グローバルゼーションとマーケティング
- (13) 戦略的小売マーケティングと情報化—電子商取引とマーケティング
- (14) マーケティング・パラダイム・シフト—コラボレーション・マーケティングの構築
- (15) eマーケティングの成立と展開

## 【評価方法】

期末試験100%。ただし、合格点に達しない者については、平常点（出欠、小テスト、レポート）を加味する。

## 【テキスト】

『戦略的マーケティングの新展開 第二版』村松潤一同文館

## 【参考文献・資料】

講義中に指示する。

# 消費者行動

石田好江

## 【授業の概要】

消費者行動分析は、非常に学際的な分野である。本講では経済学、社会学、心理学などの枠組みを利用しながら消費者行動の理論を解説するとともに、現代の変化しつつある消費者の行動について分析したい。

## 【授業計画】

- I 現代の消費を考える
- II 消費行動（経済学的アプローチ）
  1. 価格と消費
  2. 所得と消費
  3. 消費不況を考える
- III 消費者の購買行動
  1. 消費者の製品選択  
消費者行動に影響を及ぼす内的要因  
消費者行動に影響を及ぼす外的要因
  2. 消費者の店舗選択
  3. 消費者のブランド選択

## 【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

## 【テキスト】

使用しない。講義レジュメ（資料を含む）を配布する。

## Communication Strategies I

ジェームス・A. ジョリー

### [Course Content]

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

This course is aimed at providing students with training and practice in English, as used in international business communication, through review of basic English grammar with practical application in model conversations in social and business situations. Lesson topics and content will also provide students with opportunities for expanding their functional vocabularies and to gain confidence in expressing themselves. Textbook drills will be supplemented with additional materials and activities to facilitate and enhance conversational skills.

### [Schedule]

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

### [Assessment]

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) final examination. Active participation in class will be valued highly.

### [Textbooks]

The textbook for this course will be announced during the first class. Additionally each student is expected to have her or his own personal English / Japanese dictionary to be used for study, during class sessions, for homework and during quizzes or the final examination.

## Communication Strategies II

ジェームス・A. ジョリー

### [Course Content]

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

The aim of this course is to provide students with continued review and practice of English as used in international business communication. Class assignments will include written work in addition to conversation practices. Lesson topics and content are designed to provide students with opportunities for expanding their functional vocabulary and to better express themselves in varied business situations. Special handout supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

### [Schedule]

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

### [Assessment]

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) final examination. Active participation in class will be valued highly.

### [Textbooks]

The textbook for this course will be *Workplace English: Office File* (Marc Helgesen and Keith Adams, Longman Asia ELT). Additionally each student is expected to have her or his own personal English / Japanese dictionary to be used for study, during class sessions, for homework and during quizzes or the final examination.

## Communication Strategies III

ジェームス・A. ジョリー

### 【Course Content】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、論議やディベートへの対応について考察する。

This course will concentrate on studying international sources of business information for use in typical international business operations of most companies. Class assignments and activities will include practice in gathering and summarizing data from such sources. Continued instruction and practice in English communication skills, particularly reading and writing, will be provided as necessary to meet students' needs. Continued vocabulary expansion in business, technical and legal terminology will also be emphasized.

### 【Schedule】

Topics to be covered in one or more class sessions include:

- 1) Assessing information needs and setting the scope of investigation;
- 2) Determining the best source of information - libraries, data banks, specialized research organizations, investigative services, internet search engines, etc.; and
- 3) Assembling acquired data for summarization and presentation.

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class session.

### 【Assessment】

Each student's grade for the course will be assessed based upon his or her performance in class attendance, home assignments, quizzes, and a course final examination or term project. Active participation in class sessions will be highly valued.

### 【Textbooks】

The textbook and resource materials will be announced during the first class. Each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

## Communication Strategies IV

ジェームス・A. ジョリー

### 【Course Content】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。

The lessons and activities of this course are aimed at retrieving, summarizing and presenting information and data on international business topics. Students will be encouraged to use their communications skills in dealing with problems they may encounter in the international trade and business affairs, using English language as the common mode of communication.

### 【Schedule】

Training topics to be covered include:

- 1) Information resources - where and how to get information;
- 2) Information summarization - evaluating and arranging information;
- 3) Report presentation - supplying data for management decisions; and
- 4) Persuading and defending - Advocating your ideas and views.

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class session. In addition to the presented in-class instruction and sharing of students' findings, students will be assigned to a team course project which will be practical application of the lessons of the course.

### 【Assessment】

The students will be graded approximately one-half on their class attendance and participation and one-half on the quality of their work on the team course project. No quiz or test will be given. Active participation in class and the team's work will be highly valued.

### 【Textbooks】

No textbook will be used in this course, and supplementary materials related to lesson topics may be provided as necessary. However, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

## ビジネス英語

蜂須賀幸志

### 【授業の概要】

21世紀、いかにインターネット上の取り引きが主流であっても、ビジネス界で使用される公式社外用ビジネスレターの作成並びに社内報メモランダム作成能力の修得は不可欠である。このコースはこうした実践的ビジネス英語の能力養成をゴールとする。

### 【授業計画】

1. 導入：ビジネス英語の特徴
2. ビジネス会議における人々との交流
3. 電話の応答（1）(VIDEO使用)
4. 電話の応答（2）
5. アポイントメントの取り方
6. プレゼンテーション（1）企業紹介（小テスト）
7. プレゼンテーション（2）
8. 製品と販売
9. 企業の方針。決定についての討論
10. 苦情処理
11. 社内メモランダム作成
12. 社外公式レター作成練習
13. 試験

### 【評価方法】

出席状況。小テスト。プレゼンテーション。課題。  
クラスにたいする貢献等による総合評価

### 【テキスト】

教科書：*Business Venture 2* By Roger Barnard &  
Jeff Cady, Oxford  
テープ、ビデオ等視聴覚教材

## 基礎演習 I

藤井正志

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

第1講～第12講 演習の受講者が、経済金融の基礎知識を修得することを目的とする。テキストを使用し、受講者が交代で自分の担当部分について報告し、質疑応答により進める。

### 【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。



## 基礎演習 I

國信潤子

### 【授業の概要】

それぞれの関心分野を学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

キーワードとしてジェンダー、女性学、男性学、雇用機会均等法、持続可能な社会開発、エコ・グッズ、南北社会対立、などを切り口に、基礎資料、国連文書、研究論文、統計データなどを読み解いてゆく。英文資料を含む。学生各自が自分の問題意識にそって、資料、データなどをリサーチし、レジメ作成の上、報告する。講義形式と学生による報告と両方を並行し、討論なども含めて、ゼミ形式で進める。主体的、積極的に問題意識を発言し、各自のテーマにそって、調査を主体的に進めること。期末レポート提出が義務である。

### 【評価方法】

ゼミでの報告内容、発言内容、履修態度、リサーチ方法、期末レポートなどの総合評価。

### 【テキスト】

随時資料配付、参考文献を掲示する。

### 【参考文献・資料】

随時資料配付、参考文献を掲示する。

## 基礎演習 I

森下允之

### 【授業の概要】

NHK海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

### 【授業計画】

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

## 基礎演習 I

霜田一敏

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

学生の問題意識によって授業計画は異なってくるが大凡次のような計画で行う。

#### 1. 現在の起こっている社会的な諸問題

- (1) 異なった宗教観を背景としたテロ事件と経済
- (2) 教師をめぐる犯罪について
- (3) キャンパス内でのジェンダー問題
- (4) いじめをめぐる問題
- (5) 世代間異文化問題－親と子の考え方のズレ
- (6) 商取り引き上のコミュニケーション

それぞれの問題について学生が提案し相互に討論を行う。

#### 2. 自分史の作成

成人を契機に今まで生きてきた足跡をたどり、自己を振り返り、新たな生き方を模索する。

自らの生き方に則した問題意識の発掘と問題追究計画の作成を行う。

### 【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、テーマごとに提出するミニ論文によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

## 基礎演習 I

梅田敏文

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプレゼンテーション概要
- 第2講 パワーポイントの構成と基本機能
- 第3講 プレゼンテーションシナリオの作成
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成 (1)
- 第5講 プレゼンテーション資料の作成 (2)
- 第6講 プレゼンテーション資料の作成 (3)
- 第7講 プレゼンテーション資料の作成 (4)
- 第8講 発表 (1)
- 第9講 発表 (2)
- 第10講 発表 (3)
- 第11講 まとめ (1)
- 第12講 まとめ (2)

### 【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を、総合的に評価する。

### 【テキスト】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

## 基礎演習 I

杉本典之

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

この基礎演習 I の共通テーマは、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。

このような共通テーマに接近するために、さしあたり下記のテキストを教材にして、発表の仕方や討論の仕方等を実践にそくして学習する。学生各人の問題意識が芽生えかつ発展するにしたがって、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

### 【評価方法】

演習形式のこの授業では、講義形式の多くの授業とは異なり、学生の皆さんが主役である。各人の主体的・能動的・積極的な行動が授業を活性化させる。よって皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

さしあたり下記の2点（いずれも自習しておくことが宿題になっているもの）を使用する。

『歴史に触れる会計学』（友岡賛著 有斐閣アルマ）

レポートや論文の書き方に関する解説書

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む新聞（日刊紙）の経済面や、『週刊東洋経済』、『週刊ダイヤモンド』等の週刊経済誌にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。会計関係の月刊誌としては、『企業会計』、『JICPAジャーナル』、『税経通信』、『会計』、等の多数のものがある。インターネットを通じて企業会計に関するさまざまな情報を入手することもできる。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 基礎演習 I

真田幸光

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

学生各自テーマを選び事業を創設していくということを仮定して情報収集、分析を行い、事業企画書を立案する。教員はこれに対する個別アドバイスを実施する。

### 【評価方法】

立案した事業企画書とゼミ活動姿勢による。

### 【テキスト】

無し。

## 基礎演習 I

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心をひきだしていく。

### 【授業計画】

新聞を読む上で必要とされる基本的な経済の仕組みについて学ぶ。レポーターが指定されたテキストおよび資料の担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行う。適宜、新聞記事をグループごとにまとめ、発表する。

ゼミでのディスカッションを通じて、他のひとの意見を聞き、自分の意見との相違点・共通点について考える理解力を養う。さらに、その意見についての前提、事実認識、論理構成について批判的検討を可能にする洞察力を習得する。

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。必要に応じ小テストを行う。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

### 【テキスト】

適宜指定する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 基礎演習 I

石川雅之

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

学生による発表と講義をおりまぜながら行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

## 基礎演習 I

浅野敬志

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

下記教科書を使用して、ディベートの技法、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを習得する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【参考文献・資料】

考える技術・書く技術（バーバラ・ミント著 ダイヤモンド社）

頭を鍛えるディベート入門（松本茂著 ブルーボックス）

ビジョナリーカンパニー（ジェームズ・C・コリンズ／ジュリー・I・ポラス著 日経BP出版センター）

## 基礎演習 I

石坂綾子

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 基礎演習 I

島田 舒一

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

- 第1～2回 証券、証券市場などの基礎的分野、証券業務と証券ビジネスなどの中からテーマを選択し、問題のとり上げ方、まとめ方について方向づけを行う。
- 第3～6回 テーマごとの発表とディスカッションを通じて問題をクリアーにし理解を深める。
- 第7回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ
- 第8回 関心あるテーマを選択し、問題のとり上げ方とまとめ方について方向づけを行う。
- 第9～11回 テーマごとの発表とディスカッション。同時に、レポート修正の方向づけを行う。
- 第12回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ

### 【評価方法】

出席状況、課題のまとめ方、理解度などによって評価する。

### 【参考文献・資料】

証券ビジネスの基礎知識（島田舒一著 中部日本教育文化会）

証券経営の新ビジネスモデル（財団法人 資本市場研究会編 清文社）

現代日本の証券市場（財団法人 日本証券経済研究所編集・発行）

## 基礎演習 I

森 恒夫

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

簿記には原理原則を頭で理解しただけではどうにもならない、身体で覚えて初めて使いものになるという、スキルの要素が多分にある。自分でやってみて体得することが何より大切であるから、練習を重ねると共に理論的背景及び財務諸表論もあわせて学ぶ。

次の順に個別論点の理解を深める。

- (1) 現金・預金
- (2) 商品売買
- (3) 債権・債務
- (4) 手形
- (5) 有価証券
- (6) 固定資産

### 【評価方法】

出席状況・平常点及びレポートにより評価。

### 【参考文献・資料】

体系簿記論（飯野利夫監修 税務経理協会）

## 基礎演習 I

前川三喜男

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

第1回 自己紹介、ゼミの年間計画とすすめ方

第2～13回 上級簿記演習、毎回テーマを決め企業会計の実務で使用されている会計処理の実例を演習するとともに、その基礎となっている会計原則を理解する。

### 【評価方法】

出席状況、課題に対する研究発表などを考慮して行なう。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 基礎演習 I

石橋善弘

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 基礎演習 I

上原 衛

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

情報をいかに経営に活用していくべきかについて、学生と対話しながら検討していく。また、システムリスク管理、ビジネス、コーポレートファイナンス、デリバティブ等についても、適宜討議に取り入れていく。その過程で情報の収集・分析を行うが、分析力と問題解決力の基礎となる統計手法について、Excelを利用しながら指導する。

### 【評価方法】

各人の討議への積極的参加度、発表の内容等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

## 基礎演習 I

伊東俊彦

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術 (IT) の勉強を枠組みとして、ビデオによる学習および、ITとビジネスの基本用語を調査・発表する練習を積んでいく。

〈前半〉

ビデオによる学習と内容のディスカッション

〈後半〉

ITとビジネス関連の基本用語の調査と発表

### 【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および発表内容により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。



## 基礎演習 I

渡辺泰明

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

- 第1講 集合と論理 (その1)
- 第2講 集合と論理 (その2)
- 第3講 写像と関数 (その1)
- 第4講 写像と関数 (その2)
- 第5講 ベクトル (その1)
- 第6講 ベクトル (その2)
- 第7講 行列 (その1)
- 第8講 行列 (その2)
- 第9講 逆行列と行列式 (その1)
- 第10講 逆行列と行列式 (その2)
- 第11講 固有値と固有ベクトル (その1)
- 第12講 固有値と固有ベクトル (その2)
- 第13講 数列と級数 (その1)

### 【評価方法】

出席状況とゼミへの取り組み姿勢により評価する。

### 【テキスト】

経済と金融工学の基礎数学 (木島正明・岩城秀樹著  
朝倉書店)

## 基礎演習 I

小池弘道

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

個人として必要な能力の習得をめざして、下記のような内容について、実際の演習を行う

- ディベート訓練
- パブリックスピーキング
- プレゼンテーション
- インタビューの仕方、され方
- QC管理と手法
- 方針管理とPDCA
- 現地現物主義
- 実践的問題解決

### 【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

### 【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

## 基礎演習Ⅱ

藤井正志

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

第1講～第12講 エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

### 【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

國信潤子

### 【授業の概要】

それぞれの関心分野を学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

前期に引き続いて、キーワードとしてジェンダー、女性学、男性学、雇用機会均等法、持続可能な社会開発、開発途上国などを切り口に、基礎資料、国連文書、研究論文、統計データなどを読み解いてゆく。英文資料を含む。学生各自が自分の問題意識にそって、資料、データなどをリサーチし、レジメ作成の上、報告する。講義形式と学生による報告と両方を並行し、討論なども含めて、ゼミ形式を進める。主体的、積極的に問題意識を発言し、各自のテーマにそって、調査を主体的に進めること。前期に引き続いて、学生各自の問題意識にそったテーマでの調査、研究を継続する。国内外での研修もあり、ゲストスピーカー等も招く。期末レポート作成、提出が義務である。

### 【テキスト】

随時資料配付、参考文献を提示する。

### 【参考文献・資料】

随時資料配付、参考文献を提示する。

## 基礎演習Ⅱ

森下允之

### 【授業の概要】

NHK 海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

### 【授業計画】

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

## 基礎演習Ⅱ

霜田一敏

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

学生の問題意識によって授業計画は異なってくるが大凡次のような計画で行う。

#### 1. 現在の起こっている社会的な諸問題

- (1) 異なった宗教観を背景としたテロ事件と経済
- (2) 教師をめぐる犯罪について
- (3) キャンパス内でのジェンダー問題
- (4) いじめをめぐる問題
- (5) 世代間異文化問題—親と子の考え方のズレ
- (6) 商取り引き上のコミュニケーション

それぞれの問題について学生が提案し相互に討論を行う。

#### 2. 自分史の作成

成人を契機に今まで生きてきた足跡をたどり、自己を振り返り、新たな生き方を模索する。

自らの生き方に則した問題意識の発掘と問題追究計画の作成を行う。

### 【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、テーマごとに提出するミニ論文によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

梅田敏文

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

- 第1講 当コースのねらい
- 第2講 ケーススタディの説明
- 第3講 チーム別作業（1）
- 第4講 チーム別作業（2）
- 第5講 チーム別作業（3）
- 第6講 チーム別作業（4）
- 第7講 チーム別作業（5）
- 第8講 チーム別発表（1）
- 第9講 チーム別発表（2）
- 第10講 チーム別発表（3）
- 第11講 チーム別発表（4）
- 第12講 チーム別発表（5）

### 【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を、総合的に評価する。

### 【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著 弘学出版）

## 基礎演習Ⅱ

杉本典之

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

この基礎演習Ⅱの共通テーマも、基礎演習Ⅰのそれと同じく、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。

基礎演習Ⅰの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を、さらに明確化させかつ発展させる。そして、そのような各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

### 【評価方法】

この基礎演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

企業会計諸則集。それ以外は未定。学生と協議して選定する。

学内LANのような情報システムを利用できる場合には、これを最大限活用したい。

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む新聞（日刊紙）の経済面や、『週刊東洋経済』、『週刊ダイヤモンド』等の週刊経済誌にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。会計関係の月刊誌としては、『企業会計』、『JICPAジャーナル』、『税経通信』、『會計』、等の多数のものがある。インターネットを通じて企業会計に関するさまざまな情報を入手することもできる。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 基礎演習Ⅱ

真田幸光

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

前期に作成した事業計画書をそれぞれが発表、当該企画の実現性をゼミ参加者全員で議論・考察していく。

### 【評価方法】

発表内容・議論参加内容による。

### 【テキスト】

無し

## 基礎演習Ⅱ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心をひきだしていく。

### 【授業計画】

経営学の入本的なテキストを輪読する。レポーターが指定されたテキストおよび資料の担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行う。適宜、新聞記事をグループごとにまとめ、発表する。

ゼミでのディスカッションを通じて、他のひとの意見を聞き、自分の意見との相違点・共通点について考える理解力を養う。さらに、その意見についての前提、事実認識、論理構成について批判的検討を可能にする洞察力を習得する。

またテキストとは別に適宜、課題図書を指定し、レポートを提出する。

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。必要に応じ小テストを行う。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

### 【テキスト】

適宜指定する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 基礎演習Ⅱ

石川雅之

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

学生による発表と講議をおりまぜながら行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

## 基礎演習Ⅱ

浅野敬志

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

下記教科書を使用して、ディベートの技法、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを習得する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【参考文献・資料】

考える技術・書く技術（バーバラ・ミント著 ダイアモンド社）

頭を鍛えるディベート入門（松本茂著 ブルーバックス）

ビジョナリーカンパニー（ジェームス・C・コリンズ／ジュリー・I・ボラス著 日経BP出版センター）

## 基礎演習Ⅱ

石坂綾子

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 基礎演習Ⅱ

島田舒一

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

- 第1～2回 証券会社の経営、証券市場の国際化、金融・証券の新ビジネスなどの中からテーマを選択し、問題のとり上げ方、まとめ方について方向づけを行う。
- 第3～6回 テーマごとの発表とディスカッションを通じて問題をクリアーにし理解を深める。
- 第7回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ。
- 第8回 関心あるテーマを選択し、問題の取り上げ方とまとめ方について方向づけを行う。
- 第9～11回 テーマごとの発表とディスカッション。同時に、レポート修正の方向づけを行う。
- 第12回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ。

### 【評価方法】

出席状況、課題のまとめ方、理解度などによって評価する。

### 【参考文献・資料】

- 証券経営の新ビジネスモデル（財団法人 資本市場研究会編 清文社）
- 現代日本の証券市場（財団法人 日本証券経済研究所編集、発行）
- 証券経営のフロンティア（財団法人 資本市場研究会編 清文社）

## 基礎演習Ⅱ

森 恒夫

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

1. 前期に引き続き個別論点の理解を深める。
  - (1) 繰延勘定
  - (2) 資本
  - (3) 費用・収益
2. 決算の簿記をマスターして、諸会計法規に準拠した財務諸表の作成を学ぶ。

### 【評価方法】

出席状況・平常点及びレポートにより評価。

### 【参考文献・資料】

体系簿記論（飯野利夫監修 税務経理協会）

## 基礎演習Ⅱ

前川三喜男

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

- 第1回～第6回 上級簿記演習（商業簿記）  
第7回～第13回 上級簿記演習（工業簿記）

毎回テーマを決め企業会計の実務で使用されている会計処理の実例を演習するとともに、その基礎となっている会計原則を理解する。

### 【評価方法】

出席状況、課題に対する研究発表などを考慮して行なう。

### 【テキスト】

授業中に指示する。



## 基礎演習Ⅱ

石橋善弘

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

## 基礎演習Ⅱ

上原 衛

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

前期と同様、情報をいかに経営に活用していくべきかについて検討し、システムリスク管理、ビジネス、コーポレートファイナンス、デリバティブ等についても、適宜討議に取り入れ、学生と対話しながら検討していく。後期は、各自が自分で選択したテーマについて、データを収集し、調査した上で、分析結果を発表する。各自の発表を基に全員で討議し、考察する。

### 【評価方法】

各人の討議への積極的参加度、発表の内容等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

伊東俊彦

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術（IT）の勉強を枠組みとして、前期に続けてITとビジネス関連の基本用語を調査・発表する練習を積んでいく。

後半は各自がIT関連のレポートを作成して発表していただく。

〈前半〉

ITと経営関連の基本用語の調査と発表

〈後半〉

IT関連のレポート作成と発表

最終

レポート発表会

### 【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および発表内容により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

各自の勉強内容に応じて適宜指示する。

## 基礎演習Ⅱ

渡辺泰明

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

第1講 数列と級数（その2）

第2講 関数と極限（その1）

第3講 関数と極限（その2）

第4講 微分法（その1）

第5講 微分法（その2）

第6講 偏微分と全微分（その1）

第7講 偏微分と全微分（その2）

第8講 積分法（その1）

第9講 積分法（その2）

第10講 確率（その1）

第11講 確率（その2）

第12講 最適化問題（その1）

第13講 最適化問題（その2）

### 【評価方法】

出席状況とゼミへの取り組み姿勢により評価する。

### 【テキスト】

経済と金融工学の基礎数学（木島正明・岩城秀樹著  
朝倉書店）

## 基礎演習Ⅱ

小池弘道

### 【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

### 【授業計画】

ビジネスにおける専門知識習得のため、下記のような内容について演習を行う

- 1) 法律
  - 労働法 (差別問題・セクハラを含む)
  - 独禁法
  - 商法、税法、証券取引法
- 2) 経理・財務
  - 財務諸表の見方
  - 財務分析
  - 企業会計原則
  - グローバルスタンダード
- 3) 品質
  - 基本的考え方
  - QC手法
  - ISO
- 4) コーポレートガバナンス
- 5) 環境問題

### 【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

### 【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

## 専門演習Ⅰ

藤井正志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅰ

國信潤子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

学生各自が自分の問題関心をほりおこし、文献・資料・情報を多様なメディアから収集する。

各自の報告によってすすめる。共同調査等もとり入れる。

### 【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを決定し、主体的にリサーチ、発表をする。

リサーチ方法、発表方法は随時指導する。また講義を折り込み、基礎情報や最新情報を紹介する。

小論文執筆、英文和訳も指導する。

### 【評価方法】

授業出席状況、履修態度、感想カード内容、期末レポートなどの総合評価による

### 【テキスト】

授業時に提示する。

### 【参考文献・資料】

また随時資料配布する。

## 専門演習Ⅰ

森下允之

### 【授業の概要】

世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。そのための専門知識を対話形式で論ずる。

### 【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

## 専門演習 I

霜田一敏

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

基礎演習で明確になった各人の研究テーマをどのように展開するか、その計画を相互に検討して明確にしておく。

1. 問題意識の具体化
2. 研究計画の作成
3. 資料収集の方法
4. 参考文献の収集と理解
5. 調査方法の検討
6. 論文作成の書き方

などを一人一人に則して具体的に検討する。

### 【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、最後の提出する論文によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

## 専門演習 I

梅田敏文

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 インターネットを活用した情報収集と情報発信
- 第3講 HTMLの機能 (1)
- 第4講 HTMLの機能 (2)
- 第5講 HTMLの機能 (3)
- 第6講 ホームページの作成 (1)
- 第7講 ホームページの作成 (2)
- 第8講 ホームページの作成 (3)
- 第9講 ホームページの発表と評価 (1)
- 第10講 ホームページの発表と評価 (2)
- 第11講 ホームページの発表と評価 (3)
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

作成されたホームページ、そのプレゼンテーション、発表内容、態度などを統合的に評価する。

### 【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。  
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅰ

杉本典之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

この専門演習Ⅰの共通テーマは、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備、である。

基礎演習ⅠとⅡの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を明確化・発展させ、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。これらの作業を通じて、卒業論文のテーマを模索する。

### 【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

企業会計諸則集。それ以外は未定。学生と協議して選定する。

学内LANのような情報システムを利用できる場合には、これを最大限活用したい。

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む新聞（日刊紙）の経済面や、『週刊東洋経済』、『週刊ダイヤモンド』等の週刊経済誌にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。会計関係の月刊誌としては、『企業会計』、『JICPAジャーナル』、『税経通信』、『会計』、等の多数のものがある。インターネットを通じて企業会計に関するさまざまな情報を入手することもできる。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅰ

真田幸光

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

東アジア経済の現状を分析、その上で日本と東アジア経済の関わり合いを考案する。

その後、各ゼミ生が特定地域を分析し日本との関係について考察する。

### 【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

### 【テキスト】

無し

## 専門演習 I

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

経営戦略、人事労務、国際経営など、経営学の基礎について企業のケースを交えながら考察する。また、共同レポートを作成し、適宜発表する。

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。無断欠席をした場合は単位を認定しない。

### 【テキスト】

適宜指定する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 専門演習 I

石川雅之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

## 専門演習Ⅰ

浅野敬志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

バーチャル株式投資をしながら、会計、ファイナンス、経済学、経営学などを幅広く学習し、企業・景気・その時々トピックなどを深く分析・議論する。また、同時に、様々な手法を用いて、実際に企業を深く分析する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【参考文献・資料】

企業分析シナリオ（西山茂著 東洋経済新報社）  
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）  
すぐわかる株式投資2002年度版（日本経済新聞社編著 日本経済新聞社）  
ビジネス・アカウンティング—MBAの会計管理—（山根節著 中央経済社）

## 専門演習Ⅰ

石坂綾子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。



## 専門演習 I

島田舒一

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

第1回～6回 資金運用と投資戦略などを中心に、いくつかの課題を取り上げ、理論とビジネスの両面から研究し、その報告をもとに討論を行う。

第7回～12回 資金調達とファイナンスを中心とする諸問題について、理論に加え、実務的な取り扱いを含め研究し、討論を通じて理解を深める。

なお、上の学習と並行して、その時々マーケットの動きを取り上げ、現実的な感覚と対応の仕方についても習熟させる。

### 【評価方法】

出席状況、課題に対する取組み姿勢、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

証券投資論（日本証券アナリスト協会編 日本経済新聞社）

現代ファイナンス入門（現代ファイナンス講座I 中央経済社）

## 専門演習 I

森 恒夫

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

我々の経済生活の中で会計学は欠くべからざる存在であり、会計学なくして企業は成立し得ない。基礎演習では、財務諸表の作成を中心に学んできたが、専門演習では、一部作成とその利用に主軸を移す。

「主な予定」

- (1) 工業簿記演習
- (2) 管理会計
- (3) 監査の概要
- (4) 会計に関するNEWSについて討論

### 【評価方法】

出席状況、平常点により評価

### 【テキスト】

演習時に指示

## 専門演習Ⅰ

前川三喜男

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

新会計基準のしくみを理解させる  
連結財務諸表原則の理解、実務指針の演習  
税効果会計  
キャッシュフロー計算書

### 【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方・内容で評価

### 【テキスト】

監査小六法

## 専門演習Ⅰ

石橋善弘

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

## 専門演習 I

上原 衛

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。同時に、情報の収集・分析・問題解決の基礎となる統計処理について理解を深めていく。

1. 情報社会について
2. データマイニングの重要性
3. 情報のチャネルコンフリクト
4. 情報システムを利用した効率性（職場内コンピューティング）
5. リスク管理の高度化
6. デリバティブ、コーポレートファイナンス
7. 情報処理と分析の重要性
8. プレゼンテーション、表現力の重要性

### 【評価方法】

各人の討議への積極的参加度、発表の内容等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

## 専門演習 I

伊東俊彦

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術（IT）の研究を枠組みとして、各自が希望するテーマを研究していただく。研究は原則として前期・後期を通して行う。ゼミ全体の大テーマは「ビジネスにおける情報技術の活用」である。

テーマとしてはたとえば、「e-ビジネス」「電子商取引」「Webマーケティング」「インターネットとビジネス」「電子コミュニケーション」「ビジネスモデル特許」「業務のアウトソーシング」「ASPの活用」「サプライチェーンマネジメント」「ビジネスインテリジェンス」「モバイル・ビジネス」「ERP（統合業務パッケージ）」「経営情報システム」「意思決定支援システム」「BPRと情報技術」「ベンチャービジネスの起業」「e-ラーニング」などが挙げられるが、これ以外でもなんらかの形でITに関連するテーマであれば研究可能である。

〈前半〉

ITと経営関連の専門用語の調査と発表

〈後半〉

各自のテーマに基づく研究と発表

### 【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および発表内容により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

## 専門演習 I

渡辺泰明

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 第1講 現在価値と利子率（その1）
- 第2講 現在価値と利子率（その2）
- 第3講 リスクと収益率（その1）
- 第4講 リスクと収益率（その2）
- 第5講 株式と債券（その1）
- 第6講 株式と債券（その2）
- 第7講 ポートフォリオ理論（その1）
- 第8講 ポートフォリオ理論（その2）
- 第9講 効率的ポートフォリオとCAPM（その1）
- 第10講 効率的ポートフォリオとCAPM（その2）
- 第11講 マルチファクターモデルと株式のリスク（その1）
- 第12講 マルチファクターモデルと株式のリスク（その2）
- 第13講 前期の総括

### 【評価方法】

出席状況とゼミへの取り組み姿勢により評価する。

### 【テキスト】

よくわかるファイナンス（久保田敬一著 東洋経済新報社）

## 専門演習 II

藤井正志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、学生に問題意識を持たせる。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅱ

國信潤子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

後期には卒論テーマを決定し、それについての先行研究を体系的にリサーチし、各自が報告する。

### 【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを決定し、主体的にリサーチ、発表をする。

リサーチ方法、発表方法は随時指導する。また講義を折り込み、基礎情報や最新情報を紹介する。

### 【評価方法】

授業出席状況、履修態度、感想カード内容、ゼミ論文等の総合評価による

### 【テキスト】

授業時に提示する。

### 【参考文献・資料】

また随時資料配布する。

## 専門演習Ⅱ

森下允之

### 【授業の概要】

世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。そのための専門知識を対話形式で論ずる。

### 【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

### 【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

## 専門演習Ⅱ

霜田一敏

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

基礎演習で明確になった各人の研究テーマをどのように展開するか、その計画を相互に検討して明確にしておく。

1. 問題意識の具体化
2. 研究計画の作成
3. 資料収集の方法
4. 参考文献の収集と理解
5. 調査方法の検討
6. 論文作成の書き方

などを一人一人に則して具体的に検討する。

### 【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、最後の提出する論文によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

## 専門演習Ⅱ

梅田敏文

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 論文とは何か
- 第3講 論文の構成
- 第4講 個人別作業割り当て
- 第5講 発表とディスカッション (1)
- 第6講 発表とディスカッション (2)
- 第7講 発表とディスカッション (3)
- 第8講 発表とディスカッション (4)
- 第9講 発表とディスカッション (5)
- 第10講 発表とディスカッション (6)
- 第11講 発表とディスカッション (7)
- 第12講 まとめ

### 【評価方法】

グループ討議のリーダーシップ、討議内容、検討結果のプレゼンテーション、態度などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。  
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅱ

杉本典之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

この専門演習Ⅱの共通テーマも、専門演習Ⅰのそれと同じく、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備、である。

専門演習Ⅰでの作業を通じて模索した学生各人の卒業論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、専門演習Ⅲへつなげるように準備する。

改めて論文の書き方に関する解説書を学習する。

### 【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

企業会計諸則集。論文の書き方に関する解説書。それ以外は未定。学生と協議して選定する。

学内LANのような情報システムを利用できる場合には、これを最大限活用したい。

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む新聞（日刊紙）の経済面や、『週刊東洋経済』、『週刊ダイヤモンド』等の週刊経済誌にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようになりたい。会計関係の月刊誌としては、『企業会計』、『JICPAジャーナル』、『税経通信』、『会計』、等の多数のものがある。インターネットを通じて企業会計に関するさまざまな情報を入手することもできる。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅱ

真田幸光

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

### 【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

### 【テキスト】

無し

## 専門演習Ⅱ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

経営戦略、人事労務、国際経営など、経営学の基礎について企業のケースを交えながら考察する。また、共同レポートを作成し、適宜発表する。

なるべく早い時期に卒業論文のテーマと文献リストを決定し、3年次終了時までには概要についてのレポートを提出する。

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。  
無断欠席をした場合は単位を認定しない。

### 【テキスト】

適宜指定する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 専門演習Ⅱ

石川雅之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。



## 専門演習Ⅱ

浅野敬志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

バーチャル株式投資をしながら、会計、ファイナンス、経済学、経営学などを幅広く学習し、企業・景気・その時々トピックなどを深く分析・議論する。また、同時に、様々な手法を用いて、実際に企業を深く分析する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【参考文献・資料】

企業分析シナリオ（西山茂著 東洋経済新報社）  
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）  
すぐわかる株式投資2002年度版（日本経済新聞社編著 日本経済新聞社）  
ビジネス・アカウンティング—MBAの会計管理—（山岸節著 中央情報社）

## 専門演習Ⅱ

石坂綾子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅱ

島田 舒一

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 第1回～6回 金融工学など新しい金融技術を学ぶとともに、デリバティブや証券化などのビジネスについても実務的な面から研究し、討論する。
- 第7回～12回 また、証券関連の法律や慣行、証券税制など制度的な面についても研究し、討論を通じて理解を深め、実務的な応用力を高める。

### 【評価方法】

出席状況、課題に対する取組み姿勢、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

- デリバティブ入門（高橋誠、新井富雄著 日本経済新聞社）  
金融工学（野口悠紀雄、藤井眞理子著 ギャクモンド社）

## 専門演習Ⅱ

森 恒夫

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 専門演習Ⅰに引き続き下記の如く予定
- (1) 財務諸表の読み方  
有価証券報告書  
営業報告書
  - (2) 経営分析の基礎

### 【評価方法】

出席状況、平常点により評価

### 【テキスト】

演習時に指示

## 専門演習Ⅱ

前川三喜男

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

新会計基準のしくみを理解させる  
退職給付会計制度  
金融商品会計

### 【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方、内容で評価

### 【テキスト】

監査小六法

## 専門演習Ⅱ

石橋善弘

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

日常生活にかゝわる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

## 専門演習Ⅱ

上原 衛

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

後期は、各自が課題や問題を選択・発見し、その問題解決のために情報を収集・分析する。そして、その結果に基づき、新たな企画や提案を研究レポートとして取りまとめ、プレゼンテーションを行う。各自の発表を基に全員で討議し、考察する。

### 【評価方法】

各人の討議への積極的参加度、発表の内容等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

## 専門演習Ⅱ

伊東俊彦

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術 (IT) の研究を枠組みとして、各自が希望するテーマを研究していただく。研究は原則として前期に続けて行う。ゼミ全体の大テーマは「ビジネスにおける情報技術の活用」である。

テーマとしてはたとえば、「e-ビジネス」「電子商取引」「Webマーケティング」「インターネットとビジネス」「電子コミュニケーション」「ビジネスモデル特許」「業務のアウトソーシング」「ASPの活用」「サプライチェーンマネジメント」「ビジネスインテリジェンス」「モバイル・ビジネス」「ERP (統合業務パッケージ)」「経営情報システム」「意思決定支援システム」「BPRと情報技術」「ベンチャービジネスの起業」「e-ラーニング」などが挙げられるが、これ以外でもなんらかの形でITに関連するテーマであれば研究可能である。

〈前半〉

各自のテーマに基づく研究と発表

〈後半〉

各自のテーマに基づく研究と発表

〈最終〉

研究レポート発表会

### 【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および発表内容により評価する。

### 【テキスト】

テキストは適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

## 専門演習Ⅱ

渡辺泰明

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 第1講 利子率の不確実性と債券の価格リスク（その1）
- 第2講 利子率の不確実性と債券の価格リスク（その2）
- 第3講 企業評価と実物投資の意思決定法（その1）
- 第4講 企業評価と実物投資の意思決定法（その2）
- 第5講 企業の資金調達と資本コスト（その1）
- 第6講 企業の資金調達と資本コスト（その2）
- 第7講 オプション取引とリスク契約（その1）
- 第8講 オプション取引とリスク契約（その2）
- 第9講 先物取引とリスクヘッジ（その1）
- 第10講 先物取引とリスクヘッジ（その2）
- 第11講 ポートフォリオリスクの測定とコントロール（その1）
- 第12講 ポートフォリオリスクの測定とコントロール（その2）
- 第13講 後期の総括

### 【評価方法】

出席状況とゼミへの取り組み姿勢により評価する。

### 【テキスト】

よくわかるファイナンス（久保田敬一著 東洋経済新報社）

## 専門演習Ⅲ

藤井正志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生が選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅲ

國信潤子

### 【授業の概要】

この演習を履修する学生は基礎演習Ⅰ、Ⅱ、専門演習Ⅰ、Ⅱの履修あるいはそれと同等の情報・知識を習得していることが必須である。内容は労働、ジェンダー、持続可能な開発、人権等である。学生の関心、問題意識にそってビジネス界にみるジェンダー、民族、人種等による格差形成と、それらの差異から生じる新たなビジネス機会創出の実態を調査し、国際比較する。また開発支援におけるビジネス機会と国内外のNGO、NPOの活動現状等についても事例的に調査・研究する。

学生の関心にに基づき、演習指導する。学生の調査、発表を中心とする。卒論執筆予定者はその進行状況を演習にて報告する。

### 【授業計画】

文献講読、インターネット調査、さらに現地調査も含めて労働とジェンダーの関係についての研究を指導する。学生各自の調査と報告、討議が中心である。

### 【評価方法】

受講態度、提出小論文・調査報告内容、討議貢献度、各種活動への参加度などを総合判断する。

## 専門演習Ⅲ

森下允之

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱで習得した専門知識にもとづき、世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。

### 【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

霜田一敏

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生の関心と問題意識を重視して、次のような手順で専門演習を行う。

1. 各人のこれまでの学習経験や関心領域を整理してレポートに作成し、発表する。
2. それぞれのレポートに基づく発表を集団で検討し、指導を行う。
3. 関連する参考資料や文献を収集する方法、調査する場合は調査方法について指導する。
4. 各人で上記の作業や文献購読を行う。
5. 中間まとめをしながら期末にレポートとして集約する。その際、論文の書き方の指導を行う。
6. 期末にこれまでの研究のまとめを行い、演習時に発表し、論文としてまとめる。

### 【評価方法】

演習への参加度と研究に対する態度及び研究成果とレポートについて総合的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

梅田敏文

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 論文orレポートのテーマ発表（1）
- 第3講 論文orレポートのテーマ発表（2）
- 第4講 論文orレポートのテーマ発表（3）
- 第5講 論文orレポートのテーマ発表（4）
- 第6講 まとめと講評（1）
- 第7講 論文orレポートの内容発表（1）
- 第8講 論文orレポートの内容発表（2）
- 第9講 論文orレポートの内容発表（3）
- 第10講 論文orレポートの内容発表（4）
- 第11講 まとめと講評（2）
- 第12講 まとめと講評（3）

### 【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合で評価する。

### 【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅲ

杉本典之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

この専門演習Ⅲの共通テーマも、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱのそれとほぼ同様に、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と論文の準備」である。

論文を卒業論文として制作することに挑戦する学生は、「卒業論文・制作」という授業も履修することになるので、その授業での成果を折々に発表する。

それ以外の学生も、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱでの作業を通じて模索してきた論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、作業の進捗状況と論文の構想について折々に発表する。

いずれの学生も、改めて論文の書き方に関する解説書を学習する。

### 【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

### 【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅲ

真田幸光

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【評価方法】

平常点及び提出物で評価する



## 専門演習Ⅲ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

日本企業の経営システムに関する文献の輪読を行う。

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 専門演習Ⅲ

石川雅之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

浅野敬志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【テキスト】

企業分析入門（第2版）（パレプ他著 東京大学出版会）

企業分析（増補版）（山口孝他著 白桃書房）  
要説 経営分析（青木茂男著 森山書店）

## 専門演習Ⅲ

石坂綾子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨、貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅲ

島田 舒一

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

第1回～6回 日本と外国の証券市場改革を比較検討することにより、資本市場の現状と課題を深く理解させる。

第7回～12回 専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱで取り上げた資金運用や投資戦略について、金融工学的な手法の実務的な応用力を高めるため、事例研究を通じて理解を深めさせる。

### 【評価方法】

出席状況、課題に対する取組み姿勢、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

金融システム改革と証券取引制度（証券取引法研究会編 財団法人日本証券経済研究所）

アメリカの資本市場改革（淵田康之、大崎貞和編 日本経済新聞社）

## 専門演習Ⅲ

森 恒夫

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

激変している会計の現状を学ぶと共に、従来にはなかった会計の分野も研究する。

- (1) 商法等の改正による会計への影響問題
- (2) 会計に関するNEWSについての分析
- (3) 会計領域の拡大及び現代の問題  
環境、企業倫理、MKA、情報技術、グローバル化
- (4) 卒業論文の指導

### 【評価方法】

出席状況、平常点により評価

### 【テキスト】

演習時に指示

## 専門演習Ⅲ

前川三喜男

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

企業の財務情報の開示制度について実例分析を行なう。  
監査報告書の事例研修

### 【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方、内容で評価

### 【テキスト】

監査小文法、有価証券報告書等

## 専門演習Ⅲ

石橋善弘

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

## 専門演習Ⅳ

藤井正志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生が選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

### 【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅳ

國信潤子

### 【授業の概要】

この演習を履修する学生は基礎演習Ⅰ、Ⅱ及び専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの履修あるいはそれと同等の情報・知識を習得していることが必須である。指導内容は主にゼミ論文作成および事例調査、資料調査方法指導である。各自がテーマを選び、学生の問題意識にそって労働、ジェンダー、持続可能な開発、人権等の領域について調査を行う。調査研究領域として前期に引き続き、ビジネスとジェンダーの接点、開発支援におけるビジネス機会と国内外のNGO、NPOの現状等についても事例的に資料調査等を行う。学生の調査、発表を中心とする。卒論執筆予定者はその進行状況を演習で報告する。

### 【授業計画】

資料・文献講読、インターネット調査、さらに現地調査、面接調査なども行う。労働とジェンダーの関係についての研究を指導する。各種資料講読は継続する。学生各自の調査と報告、討議が中心である。

### 【評価方法】

受講態度、提出小論文・調査報告内容、討議貢献度、各種活動への参加度などを総合判断する。

## 専門演習Ⅳ

森下允之

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱで習得した専門知識にもとづき、世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。

### 【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

### 【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

## 専門演習Ⅳ

霜田一敏

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

専門演習Ⅲでの研究成果を踏まえて、各人の研究を発展的に展開する。

1. 前期で明確になった研究上の問題点を検討整理してその克服のために新たな資料の発掘と文献の購読を行う。
2. 演習に参加している学生同士の検討と相互支援を行う。
3. 最終レポート作成上の留意点や注意を行う。
4. 共同研究としてまとめる場合は、その分担を明確にし、論理的統一性を保つよう指導する。
5. 何度かの個人指導で修正を行い、最後に論文形式としてのレポートを作成し、提出する。

### 【評価方法】

研究論文としての完成度と独創性を評価する。

## 専門演習Ⅳ

梅田敏文

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 論文orレポート発表(1)
- 第3講 論文orレポート発表(2)
- 第4講 論文orレポート発表(3)
- 第5講 論文orレポート発表(4)
- 第6講 論文orレポート発表(5)
- 第7講 講評
- 第8講 論文orレポート発表(6)
- 第9講 論文orレポート発表(7)
- 第10講 論文orレポート発表(8)
- 第11講 論文orレポート発表(9)
- 第12講 まとめと講評

### 【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合で評価する。

### 【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅳ

杉本典之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

この専門演習Ⅳの共通テーマも、専門演習Ⅲのそれと同じく、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と論文の準備」である。

論文を卒業論文として制作することに挑戦する学生も、それ以外の学生も、各自が目指す論文のテーマと目次を定め、収集してきた参考文献や資料を駆使して論文の草稿を執筆し、その草稿を何度も書き直して論文を完成させる。そのような一連の作業の節目をとらえて、論文の進捗状況について複数回発表する。

### 【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

### 【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅳ

真田幸光

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

## 専門演習Ⅳ

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

各自の関心のある企業における基本的な財務データ、経営戦略、人事制度、海外展開などについて調べ、同業他社との比較を行う。書籍、雑誌、新聞記事等のデータに加え、必要に応じて各自ヒアリング調査を行う。

### 【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。卒業論文・制作を履修しない者は1万字程度の単位認定レポートを提出すること。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する



## 専門演習Ⅳ

石川雅之

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

### 【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

## 専門演習Ⅳ

浅野敬志

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

### 【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

### 【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（パレプ他著 東京大学出版会）

企業分析（増補版）（山口孝他著 白桃書房）

要説 経営分析（青木茂男著 森山書店）

## 専門演習Ⅳ

石坂綾子

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨、貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

### 【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

### 【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅳ

島田舒一

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

第1回～6回 資金調達とファイナンス理論について事例研究を通じて理解を深め、応用力をつけさせる。

第7回～12回 企業経営とビジネスについての総合的な知識を習得させるため、ベンチャー企業の設立とそれに伴う課題への対処を事例研究を中心に行う。

### 【評価方法】

出席状況、課題に対する取組み姿勢、報告内容によって評価する。

### 【参考文献・資料】

ベンチャー企業株式公開への道（エンゼル証券株式会社、監査法人アイ・ビー・オー編著 清文社）

## 専門演習Ⅳ

森 恒夫

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

専門演習Ⅲの計画をⅣに於いても引き続き行う予定

### 【評価方法】

出席状況、平常点により評価

### 【テキスト】

演習時に指示

## 専門演習Ⅳ

前川三喜男

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

企業の財務情報の開示制度について実例分析を行なう。  
監査報告書の事例研修

### 【評価方法】

授業への出席状況と発表の仕方、内容で評価

### 【テキスト】

監査小六法、有価証券報告書等

## 専門演習Ⅳ

石橋善弘

### 【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

### 【授業計画】

日常生活にかゝる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

### 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

## 卒業論文・制作

藤井正志

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

卒業論文の骨子の提出を求め、骨子に添って卒業論文の指導を行う。

### 【評価方法】

卒業論文に対する取組姿勢等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

指定しない。

## 卒業論文・制作

國信潤子

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ～Ⅳを通じて問題意識を発見、探求し、その内容を調査研究論文としてまとめる。

テーマは専門演習と同様で学生の問題意識にそって労働、ジェンダー、持続可能な開発、人権等の領域について調査を行う。調査研究領域としてビジネスとジェンダーの接点、開発支援におけるビジネス機会と企業のフィランソロピーの関係、国内外のNGO、NPOの現状等が考えられる。

### 【授業計画】

卒業論文指導時間に各自が調査・研究結果を報告する。テーマごとの資料調査方法、事例、現地調査方法などを指導する。

インターネットを通じて論文を推敲、助言を常時進めるのでインターネットの活用慣れておくこと。英語の資料講読も含まれる。

### 【評価方法】

卒業論文内容の評価による。

テーマの独創性、先行研究の調査、実態調査、現状記述などの正確性、さらに執筆者の意見の妥当性などを評価対象とする。

## 卒業論文・制作

森下允之

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

和文のみならず英文資料を読解、利用しながら、質の高い論文作成を指導。この課程で、英語の専門用語の習得も目指す。

### 【評価方法】

卒論への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の卒論への意見表明も含む）および卒論の内容と水準などを総合的に評価する。

## 卒業論文・制作

霜田一敏

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

専門演習Ⅲ、Ⅳと絶えず関連させながら、発展的に研究を展開する。

1. 各人の問題意識と目的に応じた卒業論文の書き方の指導を行う。
2. 論文構成をどのようにしたらよいか、具体的な論文を事例を通して指導する。
3. 各人の研究の進展と論文作成について具体的な作業を行う。
4. 各章ごとの内容について集約する。
5. 序章から順次執筆にかかる。その都度指導を行う。
6. 中間まとめを行い、再度全体構成について検討を図る。
7. 全体を書き上げ、見直し、数度の推敲を行う。
8. 一冊の論文として完成させる。

### 【評価方法】

研究方法と論文構成について、また研究成果について評価する。

## 卒業論文・制作

梅田敏文

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

卒業論文の作成について小グループごとに個別指導を行なう。

各種の提出期限を遵守して、学生は必要な書類を提出すること。

### 【評価方法】

論文の形式、内容の観点から評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## 卒業論文・制作

杉本典之

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

杉本典之が担当する専門演習Ⅰないし専門演習Ⅳの共通テーマは、一貫して「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備」である。そのような共通テーマの下で卒業論文の制作に挑戦する学生は、5月中に自らの卒業論文のテーマを明確にし、夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集し、秋には卒業論文の草稿を実際に執筆したうえで、12月初めまでに卒業論文を完成させるように努める。

学生各人による中間研究発表は、卒業論文制作のための上記作業の節目ごとに行う。つまり、少なくとも、卒業論文のテーマを絞り込んだ段階、参考文献や資料を収集して一読し終わった段階、そして、論文の草稿を一応書き上げた段階、のそれぞれの段階で中間発表する。

論文の書き方に関する解説書の学習は、すでに2年次の基礎演習の段階から学生各自が折々に心掛けてきたはずであるが、論文制作作業の具体的な進展に併行して改めて学習し直す。

### 【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

### 【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

## 卒業論文・制作

真田幸光

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【評価方法】

卒業論文により評価する

## 卒業論文・制作

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

各自の卒業論文のテーマに沿って、下記の(1)～(4)の提出期限前に各1回、計4回の中間報告を行う。必要に応じ個別指導を行う。

- (1) 5月上旬までに論文骨子の提出
- (2) 7月下旬までに論文概要の提出
- (3) 10月下旬までに第1稿の提出
- (4) 最終稿提出

### 【評価方法】

中間報告のレポート内容、討論の状況により評価する。授業計画にある(1)～(4)を全て提出しなければ単位を認定しない。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する

## 卒業論文・制作

石川雅之

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

個々人の卒論の進捗度合に応じて対処する。

### 【評価方法】

卒業論文によって評価する。



## 卒業論文・制作

浅野敬志

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

卒論の制作・発表を中心に、ゼミの総まとめを行う。

### 【評価方法】

卒論の内容およびその発表を考慮して決定する。

## 卒業論文・制作

石坂綾子

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

卒業論文テーマの決定、参考文献の収集と読解、論文の執筆を進める。個別の論文指導の中で完成度を高めていく。

### 【評価方法】

提出された卒業論文をもとに評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて論文の作成方法にかんするテキストを指示する。

### 【参考文献・資料】

卒業論文のテーマに対応して個別に指示する。

## 卒業論文・制作

島田 舒一

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

- 第1回～3回 関心のある分野、課題の中から議論を通じ取組み目的を明確にしたうえでテーマを選定する。
- 第3回～12回 テーマに沿った参考文献・資料の収集・使い方について助言をしながら論文作成に取組ませる。
- 第13回～20回 論文の素案がまとまった段階で中間発表をさせ、不十分な箇所および全体の構成を修正のうえ、より充実した論文作成にあたらせる。
- 第21回～24回 最終的な内容、資料などを点検のうえ論文を完成させる。

### 【評価方法】

課題に対する取組み姿勢、参考文献、資料の利用の仕方、論理の展開及び論文内容などを総合的に勘案して評価する。

## 卒業論文・制作

森 恒夫

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

1. テーマの選択
2. テーマへのアプローチの仕方について
3. テーマの論点
4. 論文の構成

### 【評価方法】

論文の創造性及び論理性等を勘案して評価

## 卒業論文・制作

前川三喜男

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

ゼミ生が選んだ卒論の内容について、研究の仕方、参考図書のアドバイスを行なう。

卒論の内容の添削

### 【評価方法】

卒論の内容で評価

### 【テキスト】

なし

## 卒業論文・制作

石橋善弘

### 【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

### 【授業計画】

基礎演習、専門演習を通じて習得した知見をもとに、卒業論文を制作させる。また論文作製のための技術、論文口頭発表のための技術を習得させる。

### 【評価方法】

日常の勉強態度および作製された卒業論文の良否によって評価する。

## 法律学概論

大嶽 浩

### 【授業の概要】

現代社会は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされている。日常生活の中で「法」がいかにかわっているかをふまえつつ、法律学の基礎について学ぶ。

### 【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

### 【評価方法】

試験による評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

## 国際法概論

初谷良彦

### 【授業の概要】

主権国家間の法として成立した国際法の基本概念を把握した上で、個人、民族、国際機構という新たな主体が登場する現代国際社会で、国際法がいかに変貌しつつあるかを、戦争の規制や人権の保障などの分野を中心に見ていく。

### 【授業計画】

- 第1回 国際法の概念
- 第2回 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
- 第3回 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
- 第4回 国際組織（国際連合、その他の国際組織）
- 第5回 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
- 第6回 外交（外交関係、外交特権、領事関係）
- 第7回 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
- 第8回～第9回 国際社会における人権保障（1）  
（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
- 第10回～第11回 国際社会における人権保障（2）  
（女性の人権、子どもの人権）
- 第12回 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
- 第13回 紛争の平和的解決（国際裁判）
- 第14回 国際安全保障（国連軍、軍縮）

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 政治学

西尾林太郎

### 【授業の概要】

18、19世紀的市民社会と20世紀の大衆社会とを比較対照させつつ、現代社会の特質とそこで発生・展開する政治現象について、多角的に考察するとともに政治学の理論を体系的に学び、ボーダレス化と相互依存性が高まった国際社会における国家や民族についても考察する。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a 国際社会とは？
  - b 国民国家、ナショナリズム、イデオロギー
  - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
  - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
  - a 市民社会と大衆社会
  - b 立法国家と行政国家
  - c ファシズム、ナチズム—社会心理との関りで—
3. 現代の政治過程
  - a 政治と利益団体、NPO
  - b 選挙、官僚、議会
  - c マスメディアとマスコミュニケーション
4. 政治権力とは何か
  - a 人間はどうして支配を受け容れるか？
  - b リーダー・シップ、エリート
  - c シンボル操作
5. 戦後国際社会と日本の政治
  - a 冷戦構造と55年体制
  - b 利権の構造

### 【評価方法】

試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

### 【テキスト】

現代政治学の基礎（西尾林太郎 早稲田経営出版、2000円）

## 国際政治論

明石陽至

### 【授業の概要】

第二次世界大戦後の冷戦の開始以来1990年代までの激動する現代世界を理解するための国際政治入門科目である。

### 【授業計画】

- 第1講 序説 第一次、第二次世界大戦
- 第2-3講 ヨーロッパの冷戦開始と激化
- 第4-5講 アジアの冷戦
- 第6-7講 1950年代の平和共存路線と西欧の統合
- 第8-9講 中東・東欧の紛争と激動
- 第10講 60年代の東西対立の再燃
- 第11講 ベトナム戦争・デタント外交
- 第12講 冷戦の終焉

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの積極的な討論の参加など総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

### 【テキスト】

20世紀の国際政治（松岡 完著 同文館）

## 社会学概論

長濱一夫

### 【授業の概要】

現代社会の主要な動向をとりあげ、社会学的手法—個人・集団・社会の相互遡及—と実証的・総合的観点から、検討・分析を加える。すなわち、都市化、情報化、国際化、高度消費化、高齢化などの考察により、現代社会に関する基礎的知識を修得させたい。

### 【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」  
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

### 【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

### 【テキスト】

使用しません。

## 哲学概論

小木曾通男

### 【授業の概要】

古代から現代に至る西洋哲学を概観し、それらの先哲の思索を現代社会に生きるものとして、どのように理解し、人生に生かしてゆくか、ともに考えることを本授業は目指すものである。

### 【授業計画】

主に下記の順序で授業を行う

1. 古代ギリシャにおける哲学の誕生
2. 人類の教師ソクラテスの思想と生き方
3. プラトンのイデア論
4. アリストテレスの倫理学
5. ヘレニズムの諸思想
6. アウグスティヌスの教父哲学
7. ルネッサンスの諸思想
8. 17世紀の理性主義  
デカルトの演繹法  
ベーコンの帰納法  
パスカル・モンテーニュの思想
9. 18世紀啓蒙思想  
ロック、ルソーの社会契約説  
カントの倫理学  
ヘーゲルの弁証法
10. 現代の思想  
アメリカのプラグマティズム哲学  
実存主義哲学

### 【評価方法】

中間小テスト及び最終レポートで行う

### 【テキスト】

プリントを配布  
参考資料はその都度示す

## 倫理学概論

加藤太喜子

### 【授業の概要】

社会福祉や環境倫理・生命倫理が例になるように、倫理的なものの人々の関心を集めています。何故なら人間は倫理的な動物であるからです。そこで、本講義では、ソクラテス以降の倫理学を概説しながら、特に、人間の尊厳について考えていきたいと思います。

### 【授業計画】

1. 倫理「学」とは
2. 功利主義（1）
3. 功利主義（2）
4. 功利主義批判（1）
5. 功利主義批判（2）
6. 義務論（1）
7. 義務論（2）
8. 義務論批判
9. 正義論
10. 応用倫理（1）
11. 応用倫理（2）
12. 応用倫理（3）

### 【評価方法】

授業中に課す小レポートと、期末に行う筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 宗教学概論

川口高風

### 【授業の概要】

日本には異なった多くの宗教文化が混在している。宗教に関する基礎的知識を習得するため、世界の九種の宗教を概観し、続いて日本の宗教の神道、仏教、キリスト教、諸教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。

### 【授業計画】

- 1: はじめに
- 2: 宗教の学問的見方
- 3: 宗教教義の構成（1）
- 4:       "       （2）
- 5: 世界の諸宗教（1）
- 6:       "       （2）
- 7:       "       （3）
- 8: 日本の諸宗教（1）
- 9:       "       （2）
- 10:       "       （3）
- 11: 祖師の著作の解説（1）
- 12:       "       （2）
- 13: まとめ

必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

### 【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

### 【テキスト】

講談社学術文庫の鎌田茂雄『仏陀の観たもの』（定価630円）または『般若心経講話』（定価840円）を参考資料とする。著作などのプリントは当方で用意し配布する。

## 心理学概論 I

岩原昭彦

### 【授業の概要】

本講義では、認知心理学の概説を行う。人間がどのように外界の情報を取り入れ、処理するのかに関する心理学的アプローチについて学習する。具体的には、人間の知覚、記憶、学習、思考、言語活動と理解について講義する。

### 【授業計画】

1. 知覚
2. 記憶
3. 日常記憶
4. 言語
5. 学習
6. 思考
7. 社会的認知
8. 感情
9. 発達
- 10～12. 人格

### 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 民法基礎

西山一博

### 【授業の概要】

「権利と義務の体系」を中心にして講義を進め、「権利の濫用」と「信義誠実の原則」について具体例をふまえて、日常生活と関わりの深い民法への入門としたい。

身近に起きうる法律問題を題材に、民法の全体構造の理解を目標として、講義する。

実社会で生かせる法律の考え方の習得を目的とする。具体的には、実務の中で必要な法律知識とは何なのか、いかなる視点で法律を学び、考えていくべきなのか、または身近に起きうる法律問題が実務ではどう処理されているのかという点を重点的に、事例中心で講義を進める。

### 【授業計画】

- 1 民法の原則～私的自治の原則とは。
- 2 契約の成立・意思表示～未成年者の法律行為は取り消せる。
- 3 代理・表見代理～他人が勝手に自分名義で契約を結んだ場合はどうなるか？
- 4 不法行為に基づく損害賠償請求～交通事故でけがをしたら、どんな請求ができるのか？
- 5 債権と物権の違い・物権～担保とは。
- 6 債権総論～保証人はどんな責任を負うのか？
- 7 債権各論～契約の種類。賃貸借契約を中心に。
- 8 契約の効力・拘束力～自己都合で契約を解除したら、どんな請求を受けるのか？
- 9 時効～10年住み続けたら、他人の家が自分のものになるということが本当にあるのか？
- 10 親族法～離婚に伴う金銭問題はどうか考えるのか？
- 11 相続法～自分だけが故人の面倒をみてきたのに相続分は同じか？
- 12 法律事務所における弁護士業務・事務員業務～法律事務所における実務の運用と法律の扱われ方。
- 13 試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

追って指定する。



## 商法基礎

原 秀六

### 【授業の概要】

本講では、商法総則と商行為法に焦点をあて、現代社会における企業の組織と活動との関係を裁判例や学説などに基づいて講ずる。

### 【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 企業のブランドー商号
- 3 企業のブランドー名板貸責任
- 4 商業登記制度
- 5 企業の人的組織
- 6 営業ー営業の譲渡
- 7 営業ー営業譲渡の当事者の法律関係
- 8 営業ー営業譲渡と債権者・債務者の保護
- 9 企業の会計
- 10 企業取引ー契約の成立から消滅まで
- 11 企業取引ー契約を規制する法律
- 12 企業取引ー履行の担保・交互計算他
- 13 企業取引ー商事売買
- 14 企業取引ー国際売買
- 15 有価証券

### 【評価方法】

本年度前期開講の本講義では、授業中の質疑応答の状況・前期末試験の結果にもとづいて成績評価を行う。

### 【テキスト】

開講時に指示。六法は必携。

## 税法基礎

原 秀六

### 【授業の概要】

税法の内容を、租税実体法、租税手続法、および租税処罰法に大別して、それぞれについて裁判例や学説などに依拠しつつ解説し、税法への理解を深めたい。

### 【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 所得税ー各種所得の金額の計算と所得の総合
- 3 所得税ー所得の控除・税率の適用・税額控除
- 4 所得税ー納税額確定手続・申告納税と租税債務の確定
- 5 相続税ー相続手続きの概要
- 6 相続税ー相続税の課税価格と税額の計算
- 7 相続税ー相続税の財産評価
- 8 相続税ー相続税の申告と納税
- 9 贈与税ー贈与税の課税価格と税額の計算
- 10 贈与税ー贈与税の申告と納税
- 11 固定資産税
- 12 住民税
- 13 消費税
- 14 納税者救済制度
- 15 租税犯とその処罰

### 【評価方法】

本年度後期開講の本講義では、授業中の質疑応答の状況・後期末試験の結果にもとづいて成績評価を行う。

### 【テキスト】

開講時に指示。六法は必携。

## 税務特講

森 恒夫

### 【授業の概要】

税法の内税理士試験では必修とされている法人税法の重要項目について、徹底的に解明し、理解を深め、計算ミス等のない様に講ずる。

### 【授業計画】

資格付与試験である税理士試験にあつては、税法の条文をできるだけ体系的に整理し、無用の技葉は切り捨てることが大切である。従つて講義は基本的な事項、重要な事項を中心に行う。

第1回～第12回

各回共、法人税の重要事項を取り上げ、知識を完全なものにしていく。

### 【評価方法】

出席状況及び講義の理解度による。

### 【テキスト】

授業において指示

## 会計特講

前川三喜男

### 【授業の概要】

株式会社が公表する財務諸表の基礎となる会計理論、財務諸表の作成方法および財務諸表の見方について論求する。

### 【授業計画】

第1回～第4回 連結財務諸表

第5回～第7回 キャッシュフロー計算書

第8回～第10回 税効果会計

第11回～第13回 退職給付会計

### 【評価方法】

授業への出席状況と演習問題の成績で評価

### 【テキスト】

レジメ（計算演習）

# 職業指導論

大倉芳雄

## 【授業の概要】

職業生活に必要な基本的な能力、態度、勤労観及び職業観の育成を目指し、自己の将来の生き方や進路について考えることの出来る人間の育成を目標とする。

商業学校出身者の進路と必要な知識、技能について学習することによって、専門教育に積極的に取り組み、各種技能検定によってより専門的な知識と技能を習得し、経済社会に主体的に生きる人材育成を目指す職業指導の在り方を学習する。

## 【授業計画】

- 第1章 進路指導の歴史と発展
- 第2章 進路指導の基礎理論
- 第3章 教育課程と進路指導
- 第4章 進路指導における組織と体制
  - ・ホームルーム担任の仕事
  - ・進路指導主事の仕事
- 第5章 特別活動における進路指導
- 第6章 進路指導の方法と技術
  - ・進路情報の収集と活用
  - ・進路の選択決定と適応
  - ・職業観の形成
- 第7章 進路相談の方法と技術
- 第8章 進路指導の評価
- 第9章 資格取得指導
- 第10章 産業構造、職業構造の変化と学校進路指導
- 第11章 職業生涯設計の在り方

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

入門進路指導・相談 (仙崎 武他編 福村出版)

## 【参考文献・資料】

日本の雇用 (島田 晴雄著 筑摩書房)

## コミュニケーション入門

松本青也 藤井正志 植村勝彦

### 【授業の概要】

(概要) コミュニケーション学部の教育について、コミュニケーション心理、ビジネスコミュニケーション、言語コミュニケーションの3領域からの学習の動機づけをオムニバス方式で行う。★(オムニバス方式)★(松本青也教授) 言語や文化の異なるもの同士が相互に伝達を図り、交流しようとする場合に生じる様々な問題について、言語特有の発想や文化のもつ価値観、更に言語教育・政策までを比較対照しながら考察する。★(藤井正志兼担教授) コミュニケーションの問題について、現実的なビジネスの立場に立って、効果的なコミュニケーションの在り方を考察する。★(植村勝彦兼担教授) コミュニケーションの問題を心理学の立場からの理解の仕方を紹介する。中でも対人コミュニケーションについて、その理論を現実社会の問題とからめて取上げる。

### 【授業計画】

- 第1講 導入
- 第2講 言語と思考
- 第3講 言語と社会
- 第4講 言語と教育
- 第5講 言語と文化
- 第6講 職場の活性化とコミュニケーション
- 第7講 職場における人材教育とコミュニケーション
- 第8講 企業経営のコンセプトの変化とコミュニケーション
- 第9講 国際ビジネスの場におけるコミュニケーション
- 第10講 ありのままを知らせるコミュニケーション：自己開示
- 第11講 自分を演出するコミュニケーション：自己呈示
- 第12講 対人交渉のコミュニケーション：要請と承諾
- 第13講 非言語コミュニケーション：ボディールanguage

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

コミュニケーション学入門ー心理・言語・ビジネスー  
(植村勝彦・松本青也・藤井正志著 ナカニシヤ出版)

## 心とコミュニケーション

坂田陽子

### 【授業の概要】

個人は意識の中心にある自我を軸とした人格と無意識にあるもうひとりの自分の両者のバランスを生きることになる。また、人と人とのコミュニケーションの歪みが個人の病理を生じさせることが明らかになってきており、そうした家族コミュニケーションのあり方も含めた、心の不思議について述べていきたい。

### 【授業計画】

講義形式で行う。調査や実験の被験者として参加する場合が何回かある。

- 1. 知覚心理学1 (視覚)
- 2. 知覚心理学2 (聴覚)
- 3. 発達心理学 (乳児)
- 4. 発達心理学 (幼児)
- 5. 発達心理学 (比較認知)
- 6. 認知心理学 (思考)
- 7. 認知心理学 (記憶)
- 8. 学習心理学
- 9. 社会心理学 (自己認知、対人認知、対人行動)
- 10. 社会心理学 (集団ダイナミクス)
- 11. 臨床心理学
- 12. 試験

### 【評価方法】

定期試験による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

### 【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

## 言葉とコミュニケーション

朱 新建

### 【授業の概要】

人間のコミュニケーションの手段は様々あるが、本講義では言葉によるコミュニケーションにスポットライトをあて、特に中国語と日本語の比較によって言葉の普遍性と特殊性を検証し、言葉の背景にある文化、歴史、自然環境などを見ながら、言葉とコミュニケーションの複雑な関係を整理し、言葉のコミュニケーションにおける役割を考える。

### 【授業計画】

1. 中国語と日本語の概説
2. 中国語と日本語の音声体系
3. 発音の実践（1）中国語の声調・母音
4. 発音の実践（2）中国語の音節・子音
5. 中国語と日本語の文字体系
6. 言葉の実践（1）漢字の構造と漢字圏文化
7. 言葉の実践（2）漢語の中国への逆輸入
8. 中国語と日本語の挨拶言葉
9. 言葉の実践（3）初対面の挨拶
10. 言葉の実践（4）お礼とお詫び
11. 言葉の実践（5）自己紹介の作成
12. 言葉の実践（6）自己紹介の発表
13. レポート試験

### 【評価方法】

平常点と試験による総合評価をします。

### 【テキスト】

授業中指示します。

## ビジネスとコミュニケーション

浅井敬一朗

### 【授業の概要】

日本企業の海外戦略の方向性をケーススタディーを通して学習。その中でビジネス交渉に関するキーポイントを解説し、生きたコミュニケーション術を考察する。

### 【授業計画】

- |         |                 |
|---------|-----------------|
| 第1回     | ステークホルダーとは      |
| 第2～4回   | 消費者とのコミュニケーション  |
| 第5～7回   | 日本企業の国際化とその問題点  |
| 第8～10回  | 従業員とのコミュニケーション  |
| 第11～13回 | 企業と社会のコミュニケーション |
| 第14回    | まとめ             |

### 【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】

特に指定しない

### 【参考文献・資料】

- いま、なぜビジネスコミュニケーションか（宮智宗七著  
アルク新書）  
アジアからの視線（今田高俊・園田茂人編著 東京大学  
出版会）  
国際経営―新版―（吉原英樹著 有斐閣アルマ）

## コンピュータ入門

三和義秀

### 【授業の概要】

コンピュータの初心者を対象にWindowsの基本操作、ワープロソフトの操作、並びにインターネットの使用法について学習する。授業のゴールは2つで、(1)レポートをワープロで作成できるようになること、(2)メールを使つてのコミュニケーションができること、である。

### 【授業計画】

- 第1回 Windowsの基本操作(1)
- 第2回 Windowsの基本操作(2)
- 第3回 ワープロソフトの操作(1)
- 第4回 ワープロソフトの操作(2)
- 第5回 ワープロソフトの操作(3)
- 第6回 ワープロソフトの操作(4)
- 第7回 メール使い方(1)
- 第8回 メール使い方(2)
- 第9回 ブラウザ使用法
- 第10回 ブラウザの活用
- 第11回 画像ソフトの使用法
- 第12回 その他アプリケーションの操作法
- 第13回 テスト

### 【評価方法】

出席、レポートの提出、並びにテストの総合評価による。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## コンピュータ応用

遠山智子

### 【授業の概要】

データの集計、整理、分析を行うために不可欠の道具である表計算ソフトの基本的操作方法を習得する。

### 【授業計画】

- 1. Excelの基本操作(1)
- 2. Excelの基本操作(2)
- 3. Excelの基本操作(3)
- 4. Excelで表を作る(1)
- 5. Excelで表を作る(2)
- 6. Excelでグラフを作る(1)
- 7. Excelでグラフを作る(2)
- 8. Excelでデータベースを使う(1)
- 9. Excelでデータベースを使う(2)
- 10. Power Pointでのプレゼンテーション作成(1)
- 11. Power Pointでのプレゼンテーション作成(2)
- 12. アプリケーション間の連携
- 13. 補足とまとめ

### 【評価方法】

出席、課題、レポートなどの総合評価による。

### 【テキスト】

超図解 EXCEL 2000 for Windows (エクスメディア)

## プレゼンテーション

松田照美

### 【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書による表現などについて学習する。

### 【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーション（1）
- 第3回 ノンバーバル・コミュニケーション（2）
- 第4回 効果的な言語表現（1）
- 第5回 効果的な言語表現（2）
- 第6回 対人接遇における印象管理—自己紹介—
- 第7回 対人接遇のスキル—電話対応—
- 第8回 コミュニケーションにおける文書等の技術
- 第9回 対人接遇としてのプレゼンテーション
- 第10回 3P分析と戦略
- 第11回 企画と構成
- 第12回 プレゼンテーションの演出法
- 第13回 ビジネスプレゼンテーションの実践

### 【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プレゼンテーション（関根健夫監修・一橋出版）

### 【参考文献・資料】

パーフェクト・プレゼンテーション（八幡紘芦史・生産性出版）

## 異文化トレーニング

近藤祐一

### 【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々がともに生活し、問題を解決するためにどのような知識・態度をもちながらコミュニケーションを取るべきかについて、ロールプレイやシュミレーションを用い分析・考察する。

### 【授業計画】

- 異文化コミュニケーションとは
- 授業の概要・授業の進め方について
- どう言えば...
- 言語メッセージとコミュニケーション
- 黙って座ればびしやりとあたる
- 非言語メッセージとコミュニケーション
- あばたもえくぼ
- 知覚
- 私の大事なもの
- 価値観とコミュニケーション—1
- 「水戸黄門」の謎
- 価値観とコミュニケーション—2
- あなたって回りくどい！
- 文化と思考方法
- 私はだれ？
- ステレオタイプ
- あなたは男だから...
- 共文化
- もう昔の私には戻れない....
- 異文化コミュニケーションと自己変化

### 【評価方法】

授業の特質上、出席状況および授業への参加度に重きを置く。また、ジャーナルおよび最終レポートを課す。

### 【テキスト】

関連する資料を適宜授業中に配布する。

## 異文化トレーニング

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々がともに生活し、問題を解決するためにどのような知識・態度をもちながらコミュニケーションを取るべきかについて、教科書、プリント、インターネット等の資料、情報を用い分析・考察する。

### 【授業計画】

- 第1週 Course Orientation  
 第2週 第1章 なぜ今、異文化コミュニケーションか  
 第3週 ワークブック1：異文化コミュニケーションとは  
 第4週 第2章 コミュニケーションとは何か  
 第5週 ワークブック2：コミュニケーションスタイル  
 第6週 第3章 ことばによるコミュニケーション  
 第7週 ワークブック3：言語コミュニケーション  
 第8週 ことばのないメッセージ  
 第9週 ワークブック4：非言語コミュニケーション  
 第10週 第4章 見えない文化  
 第11週 ワークブック5：価値観  
 第12週 まとめ  
 第13週 期末試験

### 【評価方法】

期末試験、授業への参加、レポート或いは presentation、そして出席率などを総合的に判断する。

### 【テキスト】

- 異文化トレーニング：ボーダーレス社会を生きる  
八代京子他、三修社、1998
- 異文化コミュニケーション ワークブック 八代京子他、三修社、2001
- 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために ジョリー幸子・小池弘道、風媒社、1999

## TOEFL・TOEICトレーニングI

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香  
磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have never done a TOEFL test or who have a score of less than 345 should consider doing this course.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

- Listening comprehension
  - Short conversations
  - Long conversations
  - Talks (short lectures)
- Structure and written expression (grammar)
  - Structure
  - Written expression
- Reading comprehension
  - Reading comprehension
  - Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFL のスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。



## TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香  
磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means "Test Of English for International Communication".

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have never done a TOEIC test or who have a score of less than 250 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  - 1. Sentences about photographs.
  - 2. Questions / responses
  - 3. Dialogues
  - 4. Short talks
- B. Reading comprehension
  - 5. Sentence completion
  - 6. Error identification
  - 7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス  
ジェームス・A. ジョー シャレル・A. ラインツマ アラン・テイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEFL (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have completed TOEFL I or who have a score of less than 370 should consider doing this course.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

- 1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
- 2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
- 3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス  
ジェームス・A. ジョリー シャレル・A. ラインツマ アラン・デイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have completed TOEIC I or have a TOEIC score of less than 300 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
  1. Sentences about photographs.
  2. Questions / responses
  3. Dialogues
  4. Short talks
- B. Reading comprehension
  5. Sentence completion.
  6. Error identification
  7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョリー デイボ・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス シャレル・A. ラインツマ  
アレン・D. ウィリアムス アラン・デイヴィーズ スコト・R. グートン 寺本史子

### 【Course Content】

#### TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II , or who have a score of more than 380 should consider doing this course.

This is a high-beginner level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
  - A. Short conversations
  - B. Long conversations
  - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
  - A. Structure
  - B. Written expression
3. Reading comprehension
  - A. Reading comprehension
  - B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョー テイビッド・C. ダイカス ジョサフ・E. ログ ルー・T. ノス シレル・A. ランクム  
アレックス・D. ウィリアムス アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン キンズ

### 【Course Content】

#### TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This is a high - beginner course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II , or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

#### A.Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

#### B.Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC III(3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

デイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・テイヴィーズ  
アレックス・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

### 【Course Content】

#### TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II , or who have a score of more than 400 should consider doing this course.

This is a pre - intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

#### 1. Listening comprehension

- A.Short conversations
- B.Long conversations
- C.Talks (short lectures)

#### 2. Structure and written expression (grammar)

- A.Structure
- B.Written expression

#### 3. Reading comprehension

- A.Reading comprehension
- B.Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their Judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

デイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・デイヴィーズ  
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

### 【Course Content】

#### TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点を到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a pre - intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 350 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

#### A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

#### B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

**IMPORTANT:** 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングⅤ

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン  
アラン・デイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 420 should consider doing this course.

This is an intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

#### 1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

#### 2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

#### 3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

**IMPORTANT:** 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングV

ジェームス・A. ジョリー デビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン  
アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVIの授業につなげる。

This is an intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 400 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

#### A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

#### B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングVI

ジェームス・A. ジョリー デビッド・C. ダイカス  
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 450 should consider doing this course.

This is an advanced level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

#### 1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

#### 2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

#### 3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEFL VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## TOEFL・TOEICトレーニングVI

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス  
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

### 【Course Content】

#### TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is an advanced course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 500 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

#### A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

#### B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

### 【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

### 【Assessment】

Assessment for TOEIC VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

## 異文化コミュニケーション

高井次郎

### 【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本的対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 対人認知
6. ステレオタイプ
7. 人種偏見
8. 人種差別
9. 異文化間能力
10. 異文化間トレーニング
11. コミュニケーション研究
12. コミュニケーション理論
13. 期末試験

### 【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

### 【テキスト】

未定－授業中に指示する。

## 国際交流論

榎田勝利

### 【授業の概要】

経済大国となった日本は、国際社会の有力な一員として責任ある行動をとることが求められる。近年の「国際化」に伴い、政治、経済、学術、芸術、スポーツなどの分野でも、盛んに国際交流が行われているが、果たして真の交流が実現しているのだろうか。主に日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のありかたについて論ずる。

### 【授業計画】

講義と各学生によるレポート発表により授業を展開する。

- 1) ガイダンス、国際交流に関連する用語解説
- 2) 国際交流の定義
- 3) 戦後の国際交流の軌跡
- 4) 日本の国際交流の現状と課題
  - ・多様化、複雑化する国際交流
  - ・自治体主導の地域の国際化
  - ・民間非営利活動の社会的認知
- 5) NGOとボランティア
  - ・国連組織とNGO
  - ・国際ボランティア
- 6) 交流相手から見た国際交流
- 7) 国際交流活動を担う専門的な人材育成
  - ・プログラム・オフィサーに求められる能力
- 8) 多文化共生社会と多文化共生能力
  - ・多文化共生社会とは
  - ・求められる多文化共生能力
- 9) よりよい地球市民社会の形成を目指して

### 【評価方法】

課題研究レポートおよび平常点にて評価する。

### 【テキスト】

国際交流入門（榎田勝利監修 アルク）

## メディア論

遠藤雄久

### 【授業の概要】

本構の目的は、マルチメディア時代といわれる現代のメディア状況をよりよくとらえるために、歴史社会的視点に立つてメディアと人間・社会の関わり方を振り返って見ようというものである。十九世紀後半に出現した電信、電話から始めテレビジョンそしてパーソナルコンピュータに至る電子メディアの発展の過程を、人間や社会がどのようにメディアをデザインしてきたかという観点からたどっていく。

### 【授業計画】

- 第1回 総論
- 第2回 電信技術の実用化
- 第3回 電話の発明の父はだれ？
- 第4回 ラジオのような電話
- 第5回 ラジオ放送の開始
- 第6回 写真技術の開発
- 第7回 映画の誕生
- 第8回 ハリウッド映画の成立
- 第9回 映画ソフトの多様化（1）
- 第10回 映画ソフトの多様化（2）
- 第11回 テレビ放送の誕生と発展
- 第12回 メディアの境界領域
- 第13回 まとめ

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合判断する

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国際関係論

明石陽至

### 【授業の概要】

本講座は国際関係論入門科目である。多様な国際関係を国家・民族の利害・戦略が交錯する国際社会の動きや構造を外交・国力・経済など視点から国際関係理論と仕組を体系的に解き明す。

### 【授業計画】

- 第1講 国際関係論のアプローチ
- 第2講 国家と国際体系
- 第3～4講 国家の能力と影響力
- 第5～6講 外交政策の決定
- 第7～8講 外交政策の手段
- 第9～10講 各国の外交
- 第11講 国際平和の維持
- 第12講 南北問題・国際平和へのアプローチ

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの討論の積極的参加等を総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

### 【テキスト】

新国際関係論 (花井等著 東洋経済新報社)

## 異文化教育論

霜田一敏

### 【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を国際理解教育の観点から具体的に論究する。

### 【授業計画】

異文化とは何かを自らが体験した個人内異文化状況をもとに下記の項目で学生参加で行う。

1. 大学生活の異文化状況—中高との対比—
2. 一人暮らしの異文化状況
3. 方言と風習の違い
4. 地域生活の違い
5. アルバイトの世界の異文化状況
6. 世代間・家族間の異文化状況
7. いじめの世界・ひきこもりの世界、障害者の世界
8. インターネットの世界（メールや携帯電話の姿が見えない世界）

### 【評価方法】

毎回行うミニテストと授業への参加度、期末の定期テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。



## 比較教養論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

言語を中心とする「教養」に関する各国の思想史を概説し、国際化・高齢化・情報化の進展の中で今後の自己教育としての「教養」の在り方、普遍的教養の有無、コミュニケーションの基礎としての「教養」の問題を論じる。

### 【授業計画】

- 1：古代ギリシャ時代の教養と人間観
- 2：中国の伝統的教養と人間観
- 3：インドの伝統的教養と人間観
- 4：キリスト教の人間観と教養
- 5：西洋近代思想の人間観と教養
- 6：近現代日本の修養論と教養論
- 7：教養とコミュニケーション

### 【評価方法】

平常レポートと討議

### 【テキスト】

使用せず（資料配布）

### 【参考文献・資料】

- 教養とヒューマニズム（村瀬裕也 白石書店）  
ディスタクシオン（ブルデュー 藤原書店）  
東洋と西洋（レーヴィット 未来社）  
美徳なき時代（マッキンタイア みすず書房）  
知の文化と型の文化（鹿毛誠一 創文社）  
近現代日本の教養論（渡辺かよ子 行路社）

## 比較文化論 I（日・米）

松本青也

### 【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

### 【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

### 【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

## 比較文化論Ⅱ（日・欧）

トマー・トドロヴィック

### 【授業の概要】

西ヨーロッパの主な諸国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化様相の状況と問題点に関する最近のデータを利用して比較を行ない、ヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

### 【授業計画】

- 1) 生活様式と生活枠
- 2) 人口問題
- 3) 消費社会文化
- 4) 暴力、犯罪といじめの問題
- 5) ヨーロッパの匂いと味、しぐさと音
- 6) 家族制度
- 7) フランス人の結婚
- 8) 自由時間
- 9) 教育制度
- 10) メディア
- 11) 環境問題
- 12) 地域文化

### 【評価方法】

テストによる評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 比較文化論Ⅲ（日・アジア）

馮 富榮 尹 大辰

### 【授業の概要】

（概要）アジア諸国の中でも、特に日本と深い関わりのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

（オムニバス方式）

（馮富榮兼任教授）日本と中国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の食文化、風俗習慣、建築文化、漢字文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

（尹大辰兼任講師）「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していくようにするものである。

### 【授業計画】

この授業は、学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、中国や韓国の文化習慣を多面的に紹介する。授業は、具体的に以下の内容を中心に展開していく予定である。

1. 中国文化の原点である“天人合一”について
2. 何千年の歴史を持つ中国の漢字文化
3. 世界でも大変評判になっている中国の食文化
4. 中国の祝日と風俗習慣
5. 中国の古都の紹介
6. 中国の文化習慣がいかんにして中国人の日本語学習に影響を及ぼすか
7. 中国に関する全体的なまとめ
8. 日本と朝鮮半島との文化交流（古代）
9. 日本と朝鮮半島との文化交流（中世）
10. 日本と朝鮮半島との文化交流（近代）
11. 朝鮮半島の自然と文化・風土
12. 韓国の家族制度と姓・本貫
13. 韓国の社会生活から見た文化比較

### 【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材

### 【参考文献・資料】

金兩基監修図説「韓国の歴史」河出書房新社

## 比較文化論Ⅳ（日・中東）

岡 真理

### 【授業の概要】

現代世界とイスラームの問題、オリエンタリズム、パレスチナ問題、そして主体としての民族あるいは女性と、その表象の問題等を主要なテーマとして考察する。

### 【授業計画】

1. イスラームとは何か。
2. 「中東」とはいかなる概念か。
3. アラビア語とはいかなる言語か。
4. オリエンタリズムとは何か。
5. パレスチナ問題とは何か。
6. 民族とジェンダーについて。
7. パレスチナ人女性は語ることができるか。

### 【評価方法】

出席状況および試験によって評価する。

### 【参考文献・資料】

イスラムの日常世界（片倉もとこ 岩波新書）  
イスラーム的（大塚和夫 NHKブックス）  
オリエンタリズム（エドワード・サイード 平凡社ライブラリー）  
イスラム報道（エドワード・サイード みすずライブラリー）  
ペンと剣（エドワード・サイード クレイン）  
ハーレムの少女ファティマ（ファティマ・メルニーシー 未来社）  
イヴの隠れた顔（ナワル・エル・サーダウィ 未来社）  
ゼロ度の女（ナワル・エル・サーダウィ 三一書房）  
その他、授業中に適宜、指示する。

## 言語学概論Ⅰ

田中春美

### 【授業の概要】

日本語学と英語学の基盤となる言語学の広大な分野を概観し、人間の言語に共通する特性、どの言語にも適用できる音声面・文法面・意味面の分析の手順、言語の変化と系統などについて学ぶ。

### 【授業計画】

言語学の領域、言語の一般的特徴、言語研究の歴史などの概論から始め、各論として音声学と音韻論・文法・意味論・歴史=比較言語学などに進む予定。

### 【評価方法】

筆記試験を中心に、学期中に提出してもらう1～2回のレポートも評価に加える。

### 【テキスト】

改訂新版 入門言語学（ジーン・エイチソン著 金星堂  
2,600円+税）

## 応用言語学概論 I

松本青也 B. サン・ジャック  
アンドリュウ・J. ムーディー

### 【授業の概要】

応用言語学の分野を概観しながら、言語について様々な問題を考える。オムニバス方式。

1. 松本青也：母語と外国語の習得、日本語と英語の、背景文化も含めた比較対照、マルチメディアにおける言語の機能、人間関係において言語が果たす役割、異なる言語間に起こる問題、などを概説する。
2. バーナード・サンジャック：「教養としての応用言語学」をテーマに、言葉の多様性と普遍性、世界の言語、地理的、及び社会的方言、言語干渉、翻訳、通訳などの問題を考察する。
3. アンドリュウ・ムーディー：社会言語学の視点から、共通語としての世界の多様な英語の歴史と現状、非英語圏の人々の英語に対する意識、言語政策などを考察する。

### 【授業計画】

第1～5回：松本青也担当

第6～10回：バーナード・サンジャック担当

第11～15回：アンドリュウ・ムーディー担当

### 【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

プリント、等。

## English Interaction I

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

### 【授業計画】

第1週 コースオリエンテーション

第2週 How's it going?

第2週 Passport, please.

第3週 May I help you?

第4週 Just a moment, please.

第5週 Homemade

第6週 Tonight's special

第7週 What do you want to do tonight?

第8週 How long have you had this cold?

第9週 Examination

第10週 Omnibus Teaching

第11週 Omnibus Teaching

第12週 Omnibus Teaching

### 【評価方法】

毎回の授業への参加、グループ発表（会話寸劇）の成績、及び期末試験の結果に基づいて、総合的に判定する。

### 【テキスト】

① A Handbook of Daily Conversation.

大学生のための日常英会話 (Jim Knudsen  
Nan' un-do, 1996. ¥1900)

# English Interaction I

アンドリュー・J. ムーディー

## 【Course Content】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

This course will emphasize the importance of speaking and listening to English in an interactive approach. Students will be asked to study a particular topic each week in depth to develop interaction skills. The purposes of the course will assume interaction with English speakers that students would likely have while living in Japan.

## 【Schedule】

Some of the specific topics that will be address in this class include:

- introductions
- small talk
- friendships
- meals
- formal rituals
- student interaction
- close friendships
- sociolinguistics
- non-verbal communication
- listening activities
- persuasion & society
- academic discussion

## 【Assessment】

daily participation 25%

homework 25%

report 25%

examination 25%

## 【Textbooks】

The textbook for this class will be announced at the first class meeting. Depending on the level of students when they enter the class, text materials will be developed that respond to the particular needs and interests of the students.

# English Interaction I

ダニー・T. モルデン

## 【Course Content】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

## 【Schedule】

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Greetings
2. Small talk
3. Social encounters.

## 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

## 【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

## English Interaction I

ジョナサン・E. ロング

### 【Course Content】

This section of English Interaction I will stress the language and thought patterns that are used in daily settings. Special attention will be given to developing the mental and verbal skills to present one's ideas with clarity.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

Assessment will be based upon

1. class participation (50%)
2. class attendance (50%)

### 【Textbooks】

Let's Talk

## English Interaction I

ポール・C. リンガー

### 【Course Content】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

The overall goals of this course are twofold: to promote lively interaction and to heighten student sensitivities to the diversity of others' thoughts, ideas, opinions, and values.

Communicative activities will be organized to stimulate real conversation as much as possible and therefore will provide motivation for the students to speak and increase their ability to communicate effectively.

### 【Schedule】

Each topic will be covered over a 2 or 3 week period and will include the following themes:

- 1) Personal information
- 2) Vacations
- 3) Friends and relationships
- 4) Strange phenomena
- 5) Entertainment
- 6) Jobs and occupations
- 7) The past

### 【Assessment】

Assessment will be continuous and will be based on the following criteria:

- ATTENDANCE
- CLASS EFFORT/ PARTICIPATION
- HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- END OF SEMESTER REPORT

### 【Textbooks】

No textbook. Handouts and reading material will be provided each week.

# English Interaction I

アラン・デイヴィーズ

## 【Course Content】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

The overall goals of this course are twofold: to promote lively interaction and to heighten student sensitivities to the diversity of others' thoughts, ideas, opinions, and values.

Communicative activities will be organized to stimulate real conversation as much as possible and therefore will provide motivation for the students to speak and increase their ability to communicate effectively.

## 【Schedule】

The topics to be covered include:

- 1 : Past events and experiences
- 2 : Family life
- 3 : The future
- 4 : Conversation strategies and techniques
- 5 : Talking about yourself and things in your life.
- 6 : Talking about other cultures
- 7 : People and places

## 【Assessment】

Assessment will be as follows:

- 70% Class work: Participation in communicative activities
- 30% Homework assignments

## 【Textbooks】

There is no textbook for this class. The teacher will provide worksheets and other materials suitable for the topic focus of each lesson.

# Cyber-English I

ジェニファ・J. マギー

## 【Course Content】

Eメールやメーリングリスト、さらにリアルタイムなチャットなどによる、コンピュータを介しての英語コミュニケーションを実際に経験する。お互い同士の英語によるやり取りも活動に含めながら、インターネットの歴史と仕組みにも触れる。

## 【Schedule】

1. Introduction to the computers
2. Introduction to the Internet
3. Web pages and search engines
4. Email keypals
5. Blogs and Diaries

## 【Assessment】

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

## 【Textbooks】

An English-language textbook may assigned.

## 中国語概論

馮 富榮

### 【授業の概要】

中国語の漢字、発音、文の構成規則などにおける中国語全体の特徴について重点的に説明する。また日本語と中国語の比較をしながら、両言語の相違による中国語の学習の困難点を探る。

### 【授業計画】

本講義では、主として、中国語能力の基礎作りに力を入れる。中国語の発音の基礎のみでなく、中国語コミュニケーションに使われている基礎的な語彙、基礎的な文型を講義する。「中国語読解Ⅰ」と同じように、自作教材を使用するが、学生たちの置かれている環境や、趣味などを考慮して作られたものである。さらに、教材をホームページに作ったので、授業のみでなく、授業以外の時間でも、学生たちは、自分のパソコンや大学のパソコン自習室のパソコンなどを利用すれば、発音の練習をしたり、宿題をしたりすることができる。授業は下記のように展開される。

1. 日本語の発音との違いによる中国語の発音の難点を詳しく説明し、その難点を克服する方法を提示する。学生の一人一人が立派な発音を身に付けることができるように、発音を徹底的に訓練する。
2. 中国語表現の基本的、尚且つ重要な文型を中心に説明する。習った単語や基本文形の使用練習を繰り返して行う。よって中国語の実際運用能力を高め、中国語の基礎を固める。
3. 日本語の基本文型との違いを比較することによって、中国語の基本文型への理解を深め、中国語表現の特色を掴める。
4. 本文の日本語訳を見ながら、中国語を言うことができる訓練をする。
5. 練習問題を宿題に出し、宿題に出た問題点について説明をする。

### 【評価方法】

学期末試験の成績に、出席状況及び平日の宿題の完成状況、小テストの成績を加味して、総合的に判断する。

### 【テキスト】

【楽しい中国語】自作教材。

### 【参考文献・資料】

## 中国語読解Ⅰ

杜 英起

### 【授業の概要】

主として「是」による判断文、形容詞による描写文、動詞による叙述文と存在文などを中心にして説明していく。いわゆる中国語の入門編にあたる講義である。

### 【授業計画】

学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているので、中国の学校、社会、経済及び文化習慣などを紹介する多くの楽しい話題を提供する。もちろん、自作教材である。また教材をホームページ化にするので、自分の好きな時間に発音の練習から、いろいろな練習問題まで、すべて自分のパソコンを通して行うことができる。練習問題の解答は、メールとして先生の所に届くようになっている。そして添削後のものをまたメールで、各個人に返すという形を取る。授業の展開の仕方としては、主として以下のステップを踏む。

1. まず、単語の説明から入る。主として語用論に重点を置いて説明を行う。日本語と同形異義の単語の場合には、日・中の違いについて詳しく説明する。そして、単語レベルで正しく発音できるように繰り返し読む練習をする。
2. 本文について講義する。説明の重点は、日・中両言語の違いに置かれる。本文の内容に関しては、興味深く読めるか否か、そして知識性が高いか否かという二つの要素が配慮されている。
3. 練習問題を宿題として出し、宿題に出ている共通性のある誤りについて説明する。

### 【評価方法】

期末テストの成績と出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《閲読理解》北京語言学院出版社



## 中国語読解 I

陳 惠貞

### 【授業の概要】

主として「是」による判断文、形容詞による描写文、動詞による叙述文と存在文などを中心にして説明していく。いわゆる中国語の入門編にあたる講義である。

### 【授業計画】

学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているので、中国の学校、社会、経済及び文化習慣などを紹介する多くの楽しい話題を提供する。もちろん、自作教材である。また教材をホームページ化しているので、自分の好きな時間に発音の練習から、いろいろな練習問題まで、すべて自分のパソコンを通して行うことができる。練習問題の解答は、メールとして先生の所に届くようになっていて、そして添削後のものをまたメールで、各個人に返すという形を取る。授業の展開の仕方としては、主として以下のステップを踏む。

1. まず、単語の説明から入る。主として語用論に重点を置いて説明を行う。日本語と同形異義の単語の場合には、日・中の違いについて詳しく説明する。そして、単語レベルで正しく発音できるように繰り返し読む練習をする。
2. 本文について講義する。説明の重点は、日・中両言語の違いに置かれる。本文の内容に関しては、興味深く読めるか否か、そして知識性が高いか否かという二つの要素が配慮されている。
3. 練習問題を宿題として出し、宿題に出ている共通性のある誤りについて説明する。

### 【評価方法】

期末テストの成績と出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《閲読理解》北京語言学院出版社

## 中国語読解 I

劉 乃華

### 【授業の概要】

主として「是」による判断文、形容詞による描写文、動詞による叙述文と存在文などを中心にして説明していく。いわゆる中国語の入門編にあたる講義である。

### 【授業計画】

学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているので、中国の学校、社会、経済及び文化習慣などを紹介する多くの楽しい話題を提供する。授業の展開の仕方としては、主として以下のステップを踏む。

1. 文法現象などを詳しく分析しながら読む。この段階では、内容と文法を含めて文章の徹底的な理解を追求する。
2. 本文を概略的に読んで、内容を要約する。この段階では、文章を完全に理解しなくてもよいが、できるだけ速く大体の意味を理解する訓練を行う。
3. 時間を制限して読んで、文章の意味を理解する。この段階では、文章を読む時間を制限する。制限時間が来ると、学生たちをグループに分け、グループ内で文章の内容について話しあう。よって自分の理解できない部分を補う。
4. 《西遊記》などのような楽しい中国の映画や童話、またはアニメーションの台本を事前に読んでおき、それを鑑賞する。いわゆる耳からも中国語が理解できるように訓練する。

### 【評価方法】

期末テストの成績と出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《閲読理解》北京語言学院出版社

## 中国語作文 I

馮 富榮

### 【授業の概要】

中国語の学習者にとって、読んで理解するだけでなく、自分で中国語が書けることも必要である。ゆえに、本講義では、作文の練習を反復して行う。よって、中国語に関する基礎的な文法知識と基本的な語彙の使い方をマスターする。

### 【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われているように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 曜日の言い方。
2. 天気について。
3. 家庭の紹介。
4. 自己紹介
5. 愛知淑徳大学の紹介
6. 四季について(1)
7. 公園。

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。

### 【評価方法】

出席状況や平日の宿題の提出状況などを考えて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《基礎漢語写作》北京語言学院出版社

## 中国語作文 I

杜 英起

### 【授業の概要】

中国語の学習者にとって、読んで理解するだけでなく、自分で中国語が書けることも必要である。ゆえに、本講義では、作文の練習を反復して行なう。よって、中国語に関する基礎的な文法知識と基本的な語彙の使い方をマスターする。

### 【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われているように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 曜日の言い方。
2. 天気について。
3. 家庭の紹介。
4. 自己紹介
5. 愛知淑徳大学の紹介
6. 四季について(1)
7. 公園。

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。

### 【評価方法】

出席状況や平日の宿題の提出状況などを考えて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《基礎漢語写作》北京語言学院出版社

## 中国語作文 I

陳 惠貞

### 【授業の概要】

中国語の学習者にとって、読んで理解するだけでなく、自分で中国語が書けることも必要である。ゆえに、本講義では、作文の練習を反復して行なう。よって、中国語に関する基礎的な文法知識と基本的な語彙の使い方をマスターする。

### 【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われているように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 曜日の言い方。
2. 天気について。
3. 家庭の紹介。
4. 自己紹介
5. 愛知淑徳大学の紹介
6. 四季について (1)
7. 公園。

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。

### 【評価方法】

出席状況や平日の宿題の提出状況などを考えて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《基礎漢語写作》北京語言学院出版社

## 中国語会話 I

杜 英起

### 【授業の概要】

自己紹介、初対面の挨拶、家庭で交わされている家族の間での基本的な挨拶、また友達同士でよく使われている基本的な会話、要するに中国語会話の基本を中心に説明する。会話の練習をすると同時に、発音の徹底的な指導を行う。

### 【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐる学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんなで楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。要するに、この授業を履修することによって、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

### 【評価方法】

出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材

## 中国語会話Ⅰ

陳 惠貞

### 【授業の概要】

自己紹介、初対面の挨拶、家庭で交わされている家族の間での基本的な挨拶、また友達同士でよく使われている基本的な会話、要するに中国語会話の基本を中心に説明する。会話の練習をすると同時に、発音の徹底的な指導を行う。

### 【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんな楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。要するに、この授業を履修することによって、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

### 【評価方法】

出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材

## 日本語論Ⅰ

窪田守弘

### 【授業の概要】

日本語とはどういう言語かについて、その系統、周辺の言語との関係、また日本語の位置などを概観する。そして、特に日本人の話し言葉と書き言葉の違い、地域による違い、性別による違い、階層による違いなどをまとめ、日本人がどのような言語生活を送っているかについて、資料やデータを十分活用しながら言及していく。

### 【授業計画】

日本語には多くの特徴や面白さがあり、それが現代の日本人の言語運用にどのように反映されているかを解明する。そして日本語の構造を中心として生きた日本語の諸相について、具体的な例をあげながら考えていく。本講義は、日本語と外国語との比較も随時行ない、広い視野より日本語を考え、発音・語彙・文法・文体などの領域が概観できるように配慮する。主な内容は次のようになっている。

〈日本語の世界に触れる〉

1. 日本語の特色
2. 新しい日本語の特徴
3. 日本語の国際化
4. 方言の魅力

### 【評価方法】

学期末の試験結果、提出レポート、出席状況などで総合的に判断する。

### 【テキスト】

日本語論（窪田守弘著 晃学出版 2,000円）

## 日本語表現演習Ⅰ

山内啓介 窪田守弘

### 【授業の概要】

この演習は、学生の書いた小論文を毎回添削することによって大きな特徴がある。それは、日本人として日本語の文章の基本的な表現力を身につけることを目標としているからである。そのために、学生は新聞や週刊誌などを主な教材として、毎回提示されたテーマに従って自分の考えをまとめ、書く練習を繰り返して文章の完成を図る。そして、それを他学生の前で発表して、お互いがディスカッションを通じてテーマの内容を深めていくようにする。

### 【授業計画】

- 1 演習ガイダンス 自己紹介文の作成 350字
- 2 作文課題 大学に入学して 800字
- 3 小論文 最近のニュースから 1200字
- 4 要約を作る 200字文に要約してみる<1>
- 5 要約を作る 200字文に要約してみる<2>
- 6 要旨を作る 100字文にしてみる<3>
- 7 要旨を作る 100字文にしてみる<4>
- 8 小論文 政治と経済と 2000字
- 9 小論文 社会と国際と 2000字
- 10 小論文 教育と専門と 2000字
- 11 ディスカッション テーマについて
- 12 ディスカッション 文章について
- 13 ディスカッション 論文について
- 14 論文課題 愛知淑徳大学の未来像について

講義は第1回～第5回を窪田、第6回～第10回を山内、第11回～第14回をそれぞれがクラスにわかれて担当する。作文練習はクラス編成をして行う。

### 【評価方法】

作文・小論文による。出席を重視する。

### 【テキスト】

文章表現法 (樺島忠夫 角川選書)

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する

## 言語コミュニケーション研究方法論

高井次郎

### 【授業の概要】

言語・非言語コミュニケーション行動を研究するために用いられる様々な計量的な手法、すなわち実験法、調査法、面接法、自然観察法の各方法、及びそれらから得られたデータの解析法について検討する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーション研究とは
2. 人文学的と科学的研究パラダイム
3. 科学的研究の特徴
4. 研究問題の設定と仮説
5. 研究の企画
6. 研究方法の選択
7. 実験研究
8. 調査研究
9. 資料研究
10. 観察研究
11. データ処理法
12. 研究の報告
13. 期末試験

### 【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

### 【テキスト】

社会心理学研究入門 (末永俊郎編 東京大学出版)

## 言語学概論Ⅱ

田中春美

### 【授業の概要】

日本語と英語を中心として、語用論・社会言語学・心理言語学などの諸分野を具体的に詳しく学び、さらに時間が許せば、言語類型論や応用言語学などについても概観する。

### 【授業計画】

語用論と学際言語学のいくつかの分野を詳しく検討した上で、言語類型論・応用言語学の諸分野などにも触れる予定。

### 【評価方法】

筆頭試験を主とするが、出席とレポートも評価に加える。

### 【テキスト】

改訂新版 入門言語学 (ジーン・エイチソン著 金星堂  
2,600円+税)

## 応用言語学概論Ⅱ

松本青也 B. サン・ジャック  
アンドリュー・J. ムーディー

### 【授業の概要】

応用言語学の研究分野を展望させ、言語について様々な問題意識を持たせる。オムニバス方式。

1. 松本青也：日本人の言語生活の視点から、英語を中心とする第二言語習得論と言語政策などのマクロな社会言語学を中心に考察し、日英対照言語学、語用論、などの分野にも触れる。
2. バーナード・サンジャック：「文化と応用言語学」をテーマに、文化の構造と機能、言葉と文化の関係、言葉と思想、非言語コミュニケーション、多民族の文化、対人関係と異文化コミュニケーション能力、などの問題を考察する。
3. アンドリュー・ムーディー：多様な社会的状況における談話分析、非英語圏の各国別の言語政策を考察した後、応用言語学の分野における調査研究方法の概要にも言及する。

### 【授業計画】

第1～5回：松本青也担当

第6～10回：バーナード・サンジャック担当

第11～15回：アンドリュー・ムーディー担当

### 【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

プリント、等。

## 社会言語学Ⅰ

アンドリュース・J. ムーディー

### 【Course Content】

This course will introduce students to the study of language variation. The particular focus of the course will be upon variation as it occurs as a result of language contact. Topics that will be covered include bilingualism and multilingualism, pidgins, creoles and trade languages, second language variation, and language and identity. Students are expected to have a good understanding of linguistics and language structure before they enter the course, as these topics will depend upon a prerequisite knowledge of linguistics.

Throughout the study of language contact phenomena, this study will introduce students to the theories and methods used to examine and understand language contact phenomena.

### 【Schedule】

- historical linguistics
- pidgins and creoles
- bilingualism/multilingualism
- second language variation
- code switching
- language attitudes
- acts of identity
- endangered languages/endangered cultures
- language maintenance

### 【Assessment】

quizzes 25%  
homework 25%  
examinations 50%

### 【Textbooks】

東 照二 (1997) 社会言語学入門。

### 【Reference】

Weinreich, U. (1953) Languages in Contact: Findings and Problems.  
Appel, R. & P. Muysken (1987) Language Contact and Bilingualism.  
Coulmas, F. (ed.) (1997) The Handbook of Sociolinguistics.

## 社会言語学Ⅱ

アンドリュース・J. ムーディー

### 【Course Content】

This course will introduce students to the study of language variation. The particular focus of the course will be upon variation as it occurs in monolingual environments. Because monolingual variation is not necessarily qualitatively different from language contact variation, students in this course are strongly urged to have taken 社会言語学Ⅰ. As with the first course in this set, a strong background in linguistics is required. The course will cover topics such as regional, social, ethnic and gendered variation, phonological and grammatical variation, conversation analysis and discourse analysis, and pragmatic variation.

### 【Schedule】

- dialectology
- regional variation
- social variation
- ethnic variation
- gender variation
- phonological variation
- dialect grammar
- discourse analysis
- pragmatics

### 【Assessment】

quizzes 25%  
homework 25%  
examinations 50%

### 【Textbooks】

東 照二 (1997) 社会言語学入門。

### 【Reference】

Davis, L. (1983) English Dialectology: An Introduction.  
Coulmas, F. (ed.) (1997) The Handbook of Sociolinguistics.  
Labov, W. (1994) Principles of Linguistic Change: Internal Factors.

## 英語科教育法 I

松本青也

### 【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

### 【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

### 【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

### 【テキスト】

未定。

## 英語科教育法 II

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

### 【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

### 【テキスト】

山岡多美子・高橋美由紀『Sunshine Kids Book 1』開隆堂出版

高橋美由紀・山岡多美子『Sunshine Kids Book 2』開隆堂出版

松本青也他『Sunshine 1・2・3』開隆堂出版

その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

### 【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。



## 英語科教育法Ⅲ

島村恭輔

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのような方法か、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～3回 授業の組み立て（その1）
- 第4～5回 授業の組み立て（その2）
- 第6～12回 マイクロティーチング

### 【評価方法】

出席状況・作成した教案等の提出物・マイクロティーチング等を総合して評価する。

### 【テキスト】

- 『Sunshine I』（開隆堂）
- 『Expressways I』（開隆堂）  
（standard Edition）

## 応用言語学特殊講義Ⅰ

外池俊幸

### 【授業の概要】

この講義では、脳科学、計算機科学、哲学、数学、心理学などとの学際的な研究領域としての認知科学、その一部としての言語研究を、関連する領域の成果と共に学ぶ。Ⅰでは、認知科学の観点からの言語研究の歴史をたどる。

### 【授業計画】

- 1 言語学がどのような研究領域であるかを概観する
- 2 認知科学の歴史を概観する

### 【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行う。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、参考文献の1と2を通読してから受講することが望ましい。

### 【参考文献・資料】

- 1 言語学への招待 中島平三・外池滋生編著 大修館書店
- 2 認知心理学 守一雄著 岩波書店
- 3 認知心理学 全5巻 東京大学出版会
  - 1 知覚と運動
  - 2 記憶
  - 3 言語
  - 4 思考
  - 5 学習と発達

## 応用言語学特殊講義Ⅱ

外池俊幸

### 【授業の概要】

この講義では、Iと内容を分け、認知科学の言語に関する領域の研究の歴史を概観し、その後、認知科学的な言語研究の最新の成果・動向を取り上げて、その問題点、今後の課題だと考えられる事柄を論じる。

### 【授業計画】

応用言語学特種講義Ⅰを受講していることを前提に、それに引き続き、次の順に講義を行う。

- 1 認知科学としての言語研究がどういうものなのかを、いくつか具体的なトピックを取り上げて考える
- 2 言語だけでなくひろく人間に関する研究の将来について考える

### 【評価方法】

出席とレポートの評価によって成績評価を行う。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、参考文献の1と2を読んでおくこと。さらに興味のある人は、文献3の各巻の目次をみて、興味のあるところを読んでみるとよい。

### 【参考文献・資料】

- 1 言語学への招待 中島平三・外池滋生編著 大修館書店
- 2 認知心理学 守一雄著 岩波書店
- 3 認知心理学 全5巻 東京大学出版会
  - 1 知覚と運動
  - 2 記憶
  - 3 言語
  - 4 思考
  - 5 学習と発達

## 応用言語学海外研修

松本青也 アンドリュー・J. ムーディー

### 【授業の概要】

異文化体験学習（ホームステイ、小旅行など）を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、メーリングリストを利用したEメール交信などによって各自のテーマに沿った調査・研究も行う。

### 【授業計画】

米国 West Virginia University (WVU) で実施。詳細は別の資料を参照のこと。

### 【評価方法】

WVUでの成績を中心に、事前オリエンテーションへの参加状況、事後報告レポートなどを加味して評価する。

## English Linguistics I

アンドリュー・J. ムーディー

### 【Course Content】

英語学の諸分野の紹介をした後、英語音声学・音韻論に関して、日本語と対照しながら、母音と子音、音節、アクセント、リズム、イントネーションについて学習する。

This course will serve as an introduction to the study of linguistics through the study of the English Language. The primary focus of the course will be on structural descriptions of English. Particular attention will be paid to study of the phonological and grammatical structure of English. While reference may be made to structures in other languages, especially Japanese, the primary purpose of the course will be to develop structural analyses of English.

In addition to structural description, this course will also introduce students to some applied fields of English linguistics. Applied Linguistics (応用言語学) topics will include:

- pragmatics
- language acquisition
- language teaching
- language policy
- sociolinguistics
- history of English

### 【Schedule】

phonetics, phonology, morphology, and syntax

### 【Assessment】

quizzes 20%  
homework 20%  
midterm exam 20%  
final exam 40%

### 【Textbooks】

西光義弘 (ed.) (1997) 英語学概論。

### 【Reference】

Ohio State University (1998) Language Files. 7th Edition.  
Finegan, Edward (1999) Language: Its Structure and Use. 3rd Edition.  
Students are encouraged to consult the instructor for references on specific areas.

## English Linguistics II

アンドリュー・J. ムーディー

### 【Course Content】

This course will serve as a basic introduction to the study the English language and to the more general field of language and linguistics. The primary aim of the course is to develop structural descriptions of English using principles of linguistics. Particular attention will be paid to the study of English pragmatics and variation. Although references will be made to structures in other languages, especially in Japanese, the primary purpose of the course is to develop structural analyses of English.

In addition to structural description, this course will also introduce students to some applied fields of English linguistics. Applied Linguistics (応用言語学) topics will include:

- pragmatics
- language policy
- language acquisition
- sociolinguistics
- language teaching
- history of English

### 【Schedule】

- syntax
- semantics
- history of English
- Speech Act Theory
- sociolinguistics
- language acquisition
- writing
- World Englishes

### 【Assessment】

quizzes 20%  
homework 20%  
mid term exam 20%  
final examination 40%

### 【Textbooks】

西光義弘 (ed.) (1995) 英語言語学概論

### 【Reference】

Ohio State University (1998) Language Files. 7th Edition.  
Finegan, Edward (1999) Language: Its Structure and Use. 3rd Edition.  
Students are encouraged to consult the instructor for references on specific areas.

## English Interaction II

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

### 【授業計画】

- 第1週 Course Orientation
- 第2週 I must be lost
- 第3週 What's the hurry?
- 第4週 Family album
- 第5週 The case of the missing bag
- 第6週 Don't I know you?
- 第7週 Turned down
- 第8週 Never give up
- 第9週 Drive carefully
- 第10週 If at first you don't succeed
- 第11週 Wrong number
- 第12週 Oral Presentations
- 第13週 Examination

### 【評価方法】

毎回の授業への参加、グループ発表（会話、寸劇）の成績、及び期末試験の結果に基づいて総合的に判定する。

### 【テキスト】

Jim Knudsen (1996). A Handbook of Daily Conversation.

Nan' un-DO, Tokyo

## English Interaction II

アンドリュー・J. ムーディー

### 【Course Content】

EnglishInteraction I の内容をもとに、引き続き話し言葉を中心に学習を深める。ここでは小グループなどの形も取り入れ、英語によるやり取りを学ぶ。

This course will emphasize the skills of oral English listening and speaking. The class will use extensive group work to develop the skills necessary for success in studying in a University in North America. Typical activities will include things like group presentations, interaction simulation, and study of cultural differences.

### 【Schedule】

A survey of student needs for English communication will be made at the beginning of the semester and the course design will be adjusted to accommodate those needs. Some likely topics will include:

- studying abroad
- travel and tourism
- English as an International Language
- Japanese uses of English

### 【Assessment】

daily participation 25%  
 homework 25%  
 report 25%  
 examination 25%

### 【Textbooks】

The textbook for this class will be announced at the first class meeting. Depending on the level of students when they enter the class, text materials will be developed that respond to the particular needs and interests of the students.

## English Interaction II

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

English Interaction I の内容をもとに、引き続き話し言葉を中心に学習を深める。ここでは小グループなどの形も取り入れ、英語によるやり取りを学ぶ。

This course continues to aim to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

### 【Schedule】

The course is flexible, and the content will be determined by the students in combination with the instructor. We will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Classroom behavior
2. Seeking help in a library.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

### 【Textbooks】

A text may be assigned on the first day of the course.

## English Interaction II

ジョナサン・E. ロング

### 【Course Content】

This section of English Interaction II will stress the language and thought patterns that are used in the everyday settings. Special attention will be given to developing the mental and verbal skills to present one's ideas with clarity.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

Assessment will be based upon

1. outside research (50%)
2. class attendance (50%)

### 【Textbooks】

Let's Talk

## English Interaction II

アラン・デイヴィーズ

### 【Course Content】

English Interaction I の内容をもとに、引き続き話し言葉を中心に学習を深める。ここでは小グループなどの形も取り入れ、英語によるやり取りを学ぶ。

The aim of this course is to develop students' ability to communicate effectively in English on a variety of conversation and culture-focused topics. Throughout the course, students will be encouraged to engage in activities designed to stimulate genuine interaction and an exchange of ideas and opinions relevant to students' own lives and situations. Students will be encouraged to activate and use the language they already possess and to combine this with an active approach to developing new, mainly lexical chunks-based, vocabulary. Classroom activities will include role play, mini-discussions, conversation, and small group presentation.

### 【Schedule】

The topics to be covered include:

- 1 : People and places
- 2 : Cross-cultural issues
- 3 : Conversation/discussion strategies and techniques
- 4 : People and places
- 5 : Talking about yourself and things in your life.

### 【Assessment】

Assessment will be as follows:

- 70% Class work: participation in communicative tasks.  
30% Homework assignments

### 【Textbooks】

There is no textbook for this class. The teacher will provide worksheets and other materials suitable for the topic focus of each lesson.

## Cyber-English II

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

Cyber-English I の内容を更に発展させて、アメリカの学生とのやり取りも含め、コンピュータによる海外との交信を実習する。同時にインターネットについての文献や講義も取り入れ、例えば、コンピュータによってコミュニケーションが変化するか、すべてがインターネットに依存する社会はありうるか、といった問題を考える。

### 【Schedule】

1. Message boards
2. Mailing lists
3. Real-time chat

### 【Assessment】

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

### 【Textbooks】

An English-language textbook may be assigned.

## Cyber-English III

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

コンピュータを介してのコミュニケーションの多様な側面や人間関係に与える影響について文献を読んだり、研究発表をしながら、インターネットを利用した多様な交信を経験する。

### 【Schedule】

Topics to be covered will include:

1. What makes a good/bad web page?
2. What content do you want on your web page?
3. How do you want your web page to look?
3. How do you create a web page?

### 【Assessment】

Students will have to write papers analyzing various web pages' strengths and weakness. By the end of the class, students will create their own English-language web page.

### 【Textbooks】

An English-language textbook may be assigned.

## Reading and Discussion I

ダニー・T. モルデン ポール・C. リンガー ピーター・スローン  
アラン・デイヴィーズ ニコラス・F. メトカルフ

### 【Course Content】

幅広いジャンルにわたる多様な英語作品を読んで英語で話し合い、更に各自が感じた疑問と教師によって与えられた課題について英語による議論を深める。

This class will introduce students to a discussion centered classroom.

In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory). The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the readings.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Reading and Discussion II

ダニー・T. モルデン ポール・C. リンガー ピーター・スローン  
アラン・デイヴィーズ ニコラス・F. メトカルフ

### 【Course Content】

文化比較の視点から異文化でのライフスタイルや価値観に触れることのできる題材を中心に読み、ペアー、あるいはグループでの議論を通して自分の意見を十分に表明する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) . The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the readings.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## English Literature I

キース・イズリー

### 【Course Content】

Romanticism (1789-1832)

The course will show something of the literary and cultural importance of Romantic poetry, both in its own time and today. Key themes will be Romantic individualism, beauty and nature. Selections will be made from Keats, Byron, Shelley, Wordsworth, Coleridge and Blake.

### 【Schedule】

Weeks 1 - 2 Key themes, then and today

Weeks 3 - 6 Individual writers

Weeks 7 Key themes

Weeks 8-11 Individual writers

Week 12 Review

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the number of applicants, there may be a test in the first class to decide entrance to the course.

### 【Textbooks】

To be announced.



## English Literature II

キース・イーズリー

### 【Course Content】

Romanticism (1789-1832)

The many kinds of Romantic fiction will be considered, along with their relationship to the key themes of Romantic poetry. Selections will be made from Jane Austen, gothic romances, social satire, feminist fiction, historical romances and Mary Shelley's "Frankenstein."

### 【Schedule】

Weeks 1 - 2 Key themes, then and today

Weeks 3 - 6 Individual writers

Weeks 7 Key themes

Weeks 8-11 Individual writers

Week 12 Review

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the number of applicants, there may be a test in the first class to decide entrance to the course.

### 【Textbooks】

To be announced.

## American Literature I

ニコラス・F. メトカルフ

### 【Course Content】

This course will introduce students to some of the major figures of nineteenth century American literature. This was the time when American writers were beginning to promote a distinct national literature. During the semester selections will be made from the works of Emily Dickinson, Edgar Allan Poe, Walt Whitman and Mark Twain.

### 【Schedule】

Weeks 1 - 2 Historical background.

Weeks 3 - 11 Individual writers will be covered over a two or three week period.

Week 12 Review

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation and coursework.

### 【Textbooks】

A textbook may be announced.

## American Literature II

ニコラス・F. メトカルフ

### 【Course Content】

The twentieth century was a time of rapid social and economic change in the United States. In this course we will look at the lives and works of some of the major American writers of the twentieth century to see how they responded to the changing world around them. Ernest Hemingway, F. Scott Fitzgerald, John Steinbeck and Jack Kerouac are among the writers we will consider.

### 【Schedule】

Weeks 1 – 2 Historical background.  
Weeks 3 – 11 Individual writers will be covered over a two or three week period.  
Week 12 Review

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation and coursework.

### 【Textbooks】

A textbook may be announced.

## Writing and Presentation I

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

英文を書き、英語で口頭発表する際に役立つ実用的な知識や方法を学ぶ。更にコミュニケーションの様々な状況を考えながら実際に論文を完成し、それを口頭発表する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and / or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining  
Using outside sources  
Footnotes and Endnotes  
Speech Anxiety  
Impromptu and extemporaneous speaking  
Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Writing and Presentation I

デイビッド・C. ダイカス

### 【Course Content】

英文を書き、英語で口頭発表する際に役立つ実用的な知識や方法を学ぶ。更にコミュニケーションの様々な状況を考えながら実際に論文を完成し、それを口頭発表する。

This course will focus on beginning-level skills and techniques needed for informative and persuasive writing and presentations. This will include recognizing and understanding the differences in rhetorical patterns between Japanese and English as they relate to different genres of writing. Students will study how to gather, evaluate, and organize information, and assignments will include writing informative and persuasive essays and making presentations and speeches based on the information gathered.

The course is topic/theme oriented, so students will read about, discuss, research and write about selected topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and the effective presentation and support of ideas in written English. Written work will provide the basis for presentations. If computer facilities are available, the course will include using presentation software programs to supplement presentations.

### 【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas in short pieces of writing to essays and presentations based on their content. The exact content will depend in part on student interests and abilities, and on current events that may provide timely material for projects.

#### 《Grading》

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and in-class presentations.

### 【Textbooks】

To be announced

## Writing and Presentation II

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

Iに引き続き英文を書く練習を重ね、英語による様々な形式の口頭発表を試みることで英語による発表能力を更に高めながら、「発表」の背景にある考え方と書き言葉と話し言葉による文体の違いなどについて考察する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and / or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Writing and Presentation II

デイビッド・C. ダイカス

### 【Course Content】

Iに引き続き英文を書く練習を重ね、英語による様々な形式の口頭発表を試みることで英語による発表能力を更に高めながら、「発表」の背景にある考え方と書き言葉と話し言葉による文体の違いなどについて考察する。

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and presentations, but at a more advanced level than Writing and Presentation I. This will include recognizing and understanding the differences in rhetorical patterns between Japanese and English as they relate to different genres of writing. Students will study how to gather, evaluate, and organize information, and assignments will include writing informative and persuasive essays and making presentations and speeches based on the information gathered.

The course is topic/theme oriented, so students will read about, discuss, research and write about selected topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and the effective presentation and support of ideas in written English. Written work will provide the basis for presentations. If computer facilities are available, the course will include using presentation software programs to supplement presentations.

### 【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas in short pieces of writing to essays and presentations based on their content. The exact content will depend in part on student interests and abilities, and on current events that may provide timely material for projects.

#### 《Grading》

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and in-class presentations.

### 【Textbooks】

To be announced

## Writing and Presentation II

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

Iに引き続き英文を書く練習を重ね、英語による様々な形式の口頭発表を試みることで英語による発表能力を更に高めながら、「発表」の背景にある考え方と書き言葉と話し言葉による文体の違いなどについて考察する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and / or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Writing and Presentation III

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

IとIIにおけるテーマと練習をさらに発展させる。又、即興スピーチや質疑応答など、形式張らない形の発表の仕方を学び、練習する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Writing and Presentation III

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

IとIIにおけるテーマと練習をさらに発展させる。又、即興スピーチや質疑応答など、形式張らない形の発表の仕方を学び、練習する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Writing and Presentation III

スコット・R. グリーン

### 【Course Content】

IとIIにおけるテーマと練習をさらに発展させる。又、即興スピーチや質疑応答など、形式張らない形の発表の仕方を学び、練習する。

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Writing and Presentation IV

ジェニファ・J. マギー

### 【授業の概要】

英語による発表を学ぶ上級クラス。ここでは様々な場合の口頭発表（情報伝達、説得、特別な状況など）に焦点を当てて体験させるとともに、高度な論文の作成と、その口頭発表について学ぶ。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

### 【授業計画】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

### 【評価方法】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【テキスト】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Writing and Presentation IV

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

英語による発表を学ぶ上級クラス。ここでは様々な場合の口頭発表（情報伝達、説得、特別な状況など）に焦点を当てて体験させるとともに、高度な論文の作成と、その口頭発表について学ぶ。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to write a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory) and give presentations about their topics. The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the topics.

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Writing and Presentation IV

スコット・R. グリーン

### 【Course Content】

英語による発表を学ぶ上級クラス。ここでは様々な場合の口頭発表（情報伝達、説得、特別な状況など）に焦点を当てて体験させるとともに、高度な論文の作成と、その口頭発表について学ぶ。

### 【Schedule】

Each week, students will be expected to write an article, attend class with questions, and/or be prepared to give a presentation. Students will also study about how to give presentations and how to write using academic English.

Topics may include:

Organization and outlining

Using outside sources

Footnotes and Endnotes

Speech Anxiety

Impromptu and extemporaneous speaking

Persuasive speaking

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, presentations, participation in the discussions, and homework.

### 【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

## Communication Strategies I

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students may give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned

## Communication Strategies I

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided



## Communication Strategies II

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students may give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned

## Communication Strategies II

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion theory
2. Debate theory
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

## Communication Strategies III

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、論議やディベートへの対応について考察する。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

## Communication Strategies III

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、論議やディベートへの対応について考察する。

Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

## Communication Strategies IV

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

## Communication Strategies IV

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。Communication Strategies focuses on the choices we make in public communication, so, the class will focus first on the study of persuasion and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about persuasion and debate. Students will give persuasive speeches and also conduct debates. Topics covered will include:

1. Persuasion
2. Debate
3. Research

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, written papers, and presentations.

### 【Textbooks】

A textbook may be assigned for this course.

## Seminar Overseas

ジョリー幸子 ダニー・T. モルデン  
ジェニファ・J. マギー

### 【授業の概要】

異文化体験学習（ホームステイ、小旅行など）を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、メーリングリストを利用したEメール交信などによって各自のテーマに沿った調査研究も行う。

### 【授業計画】

#### 1. 目的

下記の大学での夏季授業とホームステイ、小旅行を通じて、米国文化とアメリカ英語を習得すること。

#### 2. 期間（予定）

2003年夏期休暇中2001年7月31日～8月26日

#### 3. 研修先

米国The University of MinnesotaもしくはWest Virginia University（予備調査での履習希望者数で決定します）

#### 4. 費用（未定）

#### 5. 渡航前 オリエンテーション

2003年5月から7月まで

### 【評価方法】

研修先での成績を中心に、事前オリエンテーションへの参加状況、事後報告レポートなどを加味して評価する。

## 中国語読解Ⅱ

馮 富榮

### 【授業の概要】

基本的な文法知識と幅広い語彙の習得に力を入れて授業を進める。受講者の読解力を引き上げると同時に、中国語への勉強意欲を引き出すこともこの授業の目的である。ゆえに、興味深い読み物を教材とする。

### 【授業計画】

中国語読解Ⅱは、中国語読解Ⅰと同じように、学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているが、例年の11月に実施される中国語の検定試験の4級にパスすることができるように授業を進めていく予定である。ゆえに、教材は、検定試験の内容を配慮して作成されている。もちろん、自作教材である。また教材をホームページ化するので、自分の好きな時間に発音の練習から、いろいろな練習問題まで、すべて自分のパソコンを通して行うことができる。練習問題の解答は、メールとして先生の所に届くようになっている。そして添削後のものをまたメールで、各個人に返すという形を取る。授業の展開の仕方としては、主として以下のステップを踏む。

1. まず、単語の説明から入る。主として語用論に重点を置いて説明を行う。日本語と同形異義の単語の場合には、日・中の違いについて詳しく説明する。そして、単語レベルで正しく発音できるように繰り返し読む練習をする。
2. 本文について講義する。説明の重点は、日・中両言語の違いに置かれる。本文の内容に関しては、興味深く読めるか否か、そして知識性が高いか否かという二つの要素が配慮されている。
3. 練習問題を宿題として出し、宿題に出ている共通性のある誤りについて説明する。

### 【評価方法】

期末テストの成績と出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《閲読理解》北京語言学院出版社

## 中国語読解Ⅱ

杜 英起

### 【授業の概要】

基本的な文法知識と幅広い語彙の習得に力を入れて授業を進める。受講者の読解力を引き上げると同時に、中国語への勉強意欲を引き出すこともこの授業の目的である。ゆえに、興味深い読み物を教材とする。

### 【授業計画】

中国語読解Ⅱは、中国語読解Ⅰと同じように、学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているが、例年の11月に実施される中国語の検定試験の4級にパスすることができるように授業を進めていく予定である。ゆえに、教材は、検定試験の内容を配慮して作成されている。もちろん、自作教材である。また教材をホームページ化にするので、自分の好きな時間に発音の練習から、いろいろな練習問題まで、すべて自分のパソコンを通して行うことができる。練習問題の解答は、メールとして先生の所に届くようになっている。そして添削後のものをまたメールで、各個人に返すという形を取る。授業の展開の仕方としては、主として以下のステップを踏む。

1. まず、単語の説明から入る。主として語用論に重点を置いて説明を行う。日本語と同形異義の単語の場合には、日・中の違いについて詳しく説明する。そして、単語レベルで正しく発音できるように繰り返し読む練習をする。
2. 本文について講義する。説明の重点は、日・中両言語の違いに置かれる。本文の内容に関しては、興味深く読めるか否か、そして知識性が高いか否かという二つの要素が配慮されている。
3. 練習問題を宿題として出し、宿題に出ている共通性のある誤りについて説明する。

### 【評価方法】

期末テストの成績と出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《閲読理解》北京語言学院出版社

## 中国語会話Ⅱ

杜 英起

### 【授業の概要】

教室で、各会話の場（たとえば、買い物や銀行や病院などの場面を設定する）を作って、場との連合をはかりながら、会話の授業を進める予定である。目的は、生きている会話能力を養成することにある。

### 【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんな楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。要するに、この授業を履修することによって、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

### 【評価方法】

期末テストに出席状況及び平時点を加味して評価する。

### 【テキスト】

自作教材

## 中国語会話Ⅱ

陳 惠貞

### 【授業の概要】

教室で、各会話の場（たとえば、買い物や銀行や病院などの場面を設定する）を作って、場との連合をはかりながら、会話の授業を進める予定である。目的は、生きている会話能力を養成することにある。

### 【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

1. まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
2. 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
3. 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
4. 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
5. 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんなで楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。要するに、この授業を履修することによって、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

### 【評価方法】

期末テストに出席状況及び平時点を加味して評価する。

### 【テキスト】

自作教材

## 中国語作文Ⅱ

馮 富榮

### 【授業の概要】

中国語を書く力を養成することが本講義の最大の目的であるが、内容を聞いてから書くこと、図の意味を言葉で書くこと、概要の肉付けを書くこと、または文章の概要を書くこと、短文の表現を変えて別の表現にすることなど多くの方法を取り入れ、常に書く材料があるように心がけて授業を進める。

### 【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われてるように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 名古屋と南京の紹介
2. 趣味について語る
3. 理想について
4. 日記の書き方（1）
5. 日記の書き方（2）
6. 四季について（2）
7. 一年の大学生活を振り返って

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。

### 【評価方法】

出席状況や平日の宿題の提出状況などを考えて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《基礎漢語写作》北京語言学院出版社

## 中国語作文Ⅱ

杜英起

### 【授業の概要】

中国語を書く力を養成することが本講義の最大の目的であるが、内容を聞いてから書くこと、図の意味を言葉で書くこと、概要の肉付けを書くこと、または文章の概要を書くこと、短文の表現を変えて別の表現にすることなど多くの方法を取り入れ、常に書く材料があるように心がけて授業を進める。

### 【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われているように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 名古屋と南京の紹介
2. 趣味について語る
3. 理想について
4. 日記の書き方(1)
5. 日記の書き方(2)
6. 四季について(2)
7. 一年の大学生活を振り返って

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。

### 【評価方法】

出席状況や平日の宿題の提出状況などを考えて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《基礎漢語写作》北京語言学院出版社

## 中国語作文Ⅱ

陳惠貞

### 【授業の概要】

中国語を書く力を養成することが本講義の最大の目的であるが、内容を聞いてから書くこと、図の意味を言葉で書くこと、概要の肉付けを書くこと、または文章の概要を書くこと、短文の表現を変えて別の表現にすることなど多くの方法を取り入れ、常に書く材料があるように心がけて授業を進める。

### 【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われているように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。授業の具体的な内容は、主として下記の通りである。

1. 名古屋と南京の紹介
2. 趣味について語る
3. 理想について
4. 日記の書き方(1)
5. 日記の書き方(2)
6. 四季について(2)
7. 一年の大学生活を振り返って

授業は、2回で1つの話題をするように展開される予定である。

### 【評価方法】

出席状況や平日の宿題の提出状況などを考えて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

《基礎漢語写作》北京語言学院出版社

## 中国語表現 I

杜 英起

### 【授業の概要】

中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることをこの授業の目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

### 【授業計画】

この授業は、現代中国の社会生活を反映することのできる興味深い文章を題材とする。リスニング、会話、読む、そして作文という4つの技能から、中国語コミュニケーション能力を伸ばしていく。一年の学習を通じて、比較的正確に、中国語で会話ができ、また中国人と文通ができるようなレベルまでに到達できるようにする予定である。要するに、中国語の能力検定試験の3級にパスできるように、学生の中国語の能力を初級レベル（1500語の単語）から中級レベル（3000語の単語）までに引き上げる。この授業は、高レベルの中国語への過度段階として位置づけられている。

授業の内容は、主として「留学生活」、「アルバイト」、「自己紹介のお手紙」、「夏休みの旅行」などである。文法のポイントは、二重目的語、強調表現、比較表現、使役表現、そして命令などの構文構造である。授業の進行方法について説明すると、まず学生が本文の事前予習をしておき、授業で教師が質問の形で文法の重点や内容を説明していく。それから、本文の内容についてのリスニングの練習を行う。もちろん、毎回宿題を出し、それを規定の時間内で提出することを学生に要求する。

### 【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

## 中国語表現 I

陳 惠貞

### 【授業の概要】

中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることをこの授業の目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

### 【授業計画】

この授業は、現代中国の社会生活を反映することのできる興味深い文章を題材とする。リスニング、会話、読む、そして作文という4つの技能から、中国語コミュニケーション能力を伸ばしていく。一年の学習を通じて、比較的正確に、中国語を使って話し、また中国人と文通ができるようなレベルまでに到達できるようにする予定である。要するに、中国語の能力検定試験の3級にパスできるように、学生の中国語の能力を初級レベル（1500語の単語）から中級レベル（3000語の単語）までに引き上げる。この授業は、高レベルの中国語への過度段階として位置づけられている。

授業の内容は、主として「留学生活」、「アルバイト」、「自己紹介のお手紙」、「夏休みの旅行」などである。文法のポイントは、二重目的語、強調表現、比較表現、使役表現、そして命令などの構文構造である。授業の進行方法について説明すると、まず学生が本文の事前予習をしておき、授業で教師が質問の形で文法の重点や内容を説明していく。それから、本文の内容についてのリスニングの練習を行う。もちろん、毎回宿題を出し、それを規定の時間内で提出することを学生に要求する。

### 【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

授業の時に指示する。



## 中国語表現Ⅱ

杜 英起

### 【授業の概要】

新聞や雑誌などから興味深い文章を選択して教材にする。人口、民族、教育、婚姻、家庭概念、価値観など幅広い題材のものを読むことによって、中国に関しての知識を増やす。速読力を養成することもこの講義の目的である。

### 【授業計画】

この授業は、現代中国の社会生活を反映することのできる興味深い文章を題材とする。リスニング、会話、読む、そして作文という4つの技能から、中国語コミュニケーション能力を伸ばしていく。一年の学習を通じて、比較的正確に、中国語で会話ができ、また中国人と文通ができるようなレベルまでに到達できるようにする予定である。要するに、中国語の能力検定試験の3級にパスできるように、学生の中国語の能力を初級レベル（1500語の単語）から中級レベル（3000語の単語）までに引き上げる。この授業は、高レベルの中国語への過度段階として位置づけられている。

授業の内容は、主として中国の著名人「孔子」、「屈原」、中国の「お正月」、「中秋の節句」、「結婚の由来」などである。文法のポイントは、連用修飾語、強い否定表現、使役表現、そして単文・複文などの中国語の表現構造である。授業の進行方法は、基本的に前期と同様である。更に中国語のコミュニケーション能力を実践的に磨くところに力を入れるには、中国語で質問をしたり、中国語で日記をつけたりするように、学生に要求する。

### 【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

## 中国語表現Ⅱ

陳 惠貞

### 【授業の概要】

新聞や雑誌などから興味深い文章を選択して教材にする。人口、民族、教育、婚姻、家庭概念、価値観など幅広い題材のものを読むことによって、中国に関しての知識を増やす。速読力を養成することもこの講義の目的である。

### 【授業計画】

この授業は、現代中国の社会生活を反映することのできる興味深い文章を題材とする。リスニング、会話、読む、そして作文という4つの技能から、中国語コミュニケーション能力を伸ばしていく。一年の学習を通じて、比較的正確に、中国語を使って会話し、また中国人と文通ができるようなレベルまで到達できるようにする予定である。要するに、中国語の能力検定試験の3級にパスできるように、学生の中国語の能力を初級レベル（1500語の単語）から中級レベル（3000語の単語）までに引き上げる。この授業は、高レベルの中国語への過度段階として位置づけられている。

授業の内容は、主として中国の著名人「孔子」、「屈原」、中国の「お正月」、「中秋の節句」、「結婚の由来」などである。文法のポイントは、連用修飾語、強い否定表現、使役表現、そして単文・複文などの中国語の表現構造である。授業の進行方法は、基本的に前期と同様である。更に中国語のコミュニケーション能力を実践的に磨くところに力を入れるには、中国語で質問をしたり、中国語で日記をつけたりするように、学生に要求する。

### 【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

自作教材。

### 【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

## 中国文学講読Ⅰ

劉乃華

### 【授業の概要】

中国の激動時代—文化大革命を描いた文学作品を教材にする。つまりなぜこのような国をあげての運動を行わなければならなかったのか？文化大革命の間に何が起って、社会に、人々の観念にどういった変化が起こったのか？文化大革命の後遺症は何であろうか？われわれに残した教訓は何であろうか？それを引き起こした毛沢東はどういった人物で、その時の時代背景はどうであったのかを文学作品を通して探してみる。

### 【授業計画】

この授業の目的は、文学作品の鑑賞と言語能力の向上という二つのところにある。言語能力の内、特に読む力とそのテクニックの養成に重点を置く。授業の内容は、主として現代中国の社会生活の各側面を反映する「一分間小説」と歴史故事及び神話伝説などである。これらを読むことによって、中国の文学に対する初歩的な理解を得ることができると同時に、中国語の読む力もアップすることができるのを狙っている。この授業を選択することによって、中国語の簡単な文学作品は、先生の助けがなくても学生が自分で読めるようになるのが目標である。

現代中国の社会、家庭、婚姻、学校教育、そして仕事などを内容とする「一分間小説」を教材とする。授業のやり方であるが、学生が授業の内容をまず予習しておく必要がある。授業の時、先生が文法のポイントを重点的に説明し、小説の内容について解説する。それから問題を設定し、学生にそれを答えてもらう。それによって、学生が小説の内容が理解できたか否かをチェックする。もちろん、毎回宿題を出し、それを規定の時間内で提出するように学生に要求する。

### 【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業のときに指示する。

## 中国文学講読Ⅱ

劉乃華

### 【授業の概要】

中国の民話、神話、また中国の起源や各民族に関する民間伝説、故事など、主として「民間文学」を材料にして、授業を進める予定である。目的は、文学作品を通して、中国の文化・歴史についてよりよく理解すると同時に、中国語の読む力を高めることにある。教師が用意した教材以外には、各週毎にひとつ面白い読み物を受講者が自分で選んで読み、そのまとめを書いたり、意味の簡単な紹介を授業で発表したりすることが要求される。

### 【授業計画】

この授業の目的は、文学作品の鑑賞と言語能力の向上という二つのところにある。言語能力の内、特に読む力とそのテクニックの養成に重点を置く。授業の内容は、主として現代中国の社会生活の各側面を反映する「一分間小説」と歴史故事及び神話伝説などである。これらを読むことによって、中国の文学に対する初歩的な理解を得ることができると同時に、中国語の読む力もアップすることができるのを狙っている。この授業を選択することによって、中国語の簡単な文学作品は、先生の助けがなくても学生が自分で読めるようになるのが目標である。

中国の歴史故事、神話伝説などを授業の教材に使用する。たとえば「楊貴妃の恋愛悲劇」（彼女が日本に来たことがあるかどうか）や、「七夕の伝説」などが例としてあげられる。この授業を通して、中国の古い文化の魅力を感じることができるだけでなく、日中文化の深い関連を知ることもできればと考えている。授業の進行方法は前期と同じである。

### 【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業のときに指示する。

## 中国語聴解Ⅰ

馮 富榮

### 【授業の概要】

この授業は、中国現地での中国語コミュニケーションの場面を想定して設計されている。いわば実用的というところに力を入れて授業を進めていく。具体的には、「日常挨拶」や「道を尋ねる」、「旅館の予約」などの会話を通して、耳の訓練をする。前期の授業では、主として6つの場面が設定される。それは、

1. 日常挨拶
2. 友人の紹介
3. お客さんを招く
4. 電話をかける
5. 道を尋ねる
6. 買い物

要するに、この中国語聴解Ⅰという授業は、中国人の普通の会話が聞ける程度の力を養成することを目的とする。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず各会話場面に出てくる新しい単語を説明し、そして聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現についても質問する。分からないところは説明を加える。
3. 授業で聞いた会話の内容を学生自身がまとめる。
4. 会話の内容をスクリーンに出して、答えあわせをする。
5. 授業の内容を参考にして、学生各自が習った場面の会話を作成して発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

期末テストに平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

《实用漢語会話》 高等教育電子音像出版社出版 北京塔博思科技發展有限責任公司制作

### 【参考文献・資料】

特になし。

## 中国語聴解Ⅰ

杜 英起

### 【授業の概要】

この授業は、中国現地での中国語コミュニケーションの場面を想定して設計されている。いわば実用的というところに力を入れて授業を進めていく。具体的には、「日常挨拶」や「道を尋ねる」、「旅館の予約」などの会話を通して、耳の訓練をする。前期の授業では、主として6つの場面が設定される。それは、

1. 日常挨拶
2. 友人の紹介
3. お客さんを招く
4. 電話をかける
5. 道を尋ねる
6. 買い物

要するに、この中国語聴解Ⅰという授業は、中国人の普通の会話が聞ける程度の力を養成することを目的とする。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず各会話場面に出てくる新しい単語を説明し、そして聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現についても質問する。分からないところは説明を加える。
3. 授業で聞いた会話の内容を学生自身がまとめる。
4. 会話の内容をスクリーンに出して、答えあわせをする。
5. 授業の内容を参考にして、学生各自が習った場面の会話を作成して発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

期末テストに平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

《实用漢語会話》 高等教育電子音像出版社出版 北京塔博思科技發展有限責任公司制作

### 【参考文献・資料】

特になし。

## 中国語聴解Ⅱ

馮 富榮

### 【授業の概要】

この授業は、中国現地での中国語コミュニケーションの場面を想定して設計されている。いわば実用的というところに力を入れて授業を進めていく。具体的には、「日常挨拶」や「道を尋ねる」、「旅館の予約」などの会話を通して、耳の訓練をする。後期の授業では、主として6つの場面が設定される。それは、

1. 旅館にて
2. タクシーに乗る
3. 税関にて
4. 病院にて
5. 天気について
6. レストランにて

要するに、この中国語聴解Ⅱという授業は、公式の場での中国人の普通の会話が聞ける力を養成することを目的とする。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず各会話場面に出てくる新しい単語を説明し、そして聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現についても質問する。分からないところは説明を加える。
3. 授業で聞いた会話の内容を学生自身がまとめる。
4. 会話の内容をスクリーンに出して、答えあわせをする。
5. 授業の内容を参考にして、学生各自が習った場面の会話を作成して発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

期末テストに平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

《实用漢語會話》 高等教育電子音像出版社出版 北京塔博思科技發展有限責任公司制作

### 【参考文献・資料】

特になし。

## 中国語聴解Ⅱ

杜 英起

### 【授業の概要】

この授業は、中国現地での中国語コミュニケーションの場面を想定して設計されている。いわば実用的というところに力を入れて授業を進めていく。具体的には、「日常挨拶」や「道を尋ねる」、「旅館の予約」などの会話を通して、耳の訓練をする。後期の授業では、主として6つの場面が設定される。それは、

1. 旅館にて
2. タクシーに乗る
3. 税関にて
4. 病院にて
5. 天気について
6. レストランにて

要するに、この中国語聴解Ⅱという授業は、公式の場での中国人の普通の会話が聞ける力を養成することを目的とする。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず各会話場面に出てくる新しい単語を説明し、そして聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現についても質問する。分からないところは説明を加える。
3. 授業で聞いた会話の内容を学生自身がまとめる。
4. 会話の内容をスクリーンに出して、答えあわせをする。
5. 授業の内容を参考にして、学生各自が習った場面の会話を作成して発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

期末テストに平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

《实用漢語會話》 高等教育電子音像出版社出版 北京塔博思科技發展有限責任公司制作

### 【参考文献・資料】

特になし。

## 中国語聴解Ⅲ

杜 英起

### 【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練にあると思われているので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもって聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解Ⅲと聴解Ⅳという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
3. 映画などの内容についてのプリント（穴埋め問題式）を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

期末テストに出席状況と平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

自作教材と「愛情麻辣烫」（有限会社凱希メディアサービス）。

### 【参考文献・資料】

《中級漢語听和說》北京語言学院出版社

## 中国語聴解Ⅲ

陳 惠貞

### 【授業の概要】

テレビの衛星放送やインターネットなどを利用して、主として中国の現代社会に関する多くの情報を紹介する。たとえば、中国の政治、経済、また中国の教育の現状及び現代の社会問題などが教材の中心となる。本講義の目的は幅広い領域のことを耳から理解する訓練に加え、中国の現代社会についての理解を深めることにある。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
3. 映画などの内容についてのプリント（穴埋め問題式）を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

期末テストに出席状況と平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

自作教材と「愛情麻辣烫」（有限会社凱希メディアサービス）。

### 【参考文献・資料】

《中級漢語听和說》北京語言学院出版社

## 中国語聴解Ⅳ

杜英起

### 【授業の概要】

楽しい視覚教材、主として楽しい中国の映画や、童話、また有名な観光地と名所旧跡の紹介を授業の内容とする。もちろん映画の全部ではなく、中の一節である。耳の聞く力があくまでも熟練にあると思われているので、学生が随時授業の内容の聞く練習ができるように工夫されている。具体的に言うと、各授業の内容をパソコンに録音しておく。学生がクリック一つで繰り返し聞けるようにCD教材を作成する。学生の理解を助け、興味をもつて聞けるようにするために、教材の内容と関連のある画面もできるだけ添えるようにする。

要するに、この中国語の聴解Ⅲと聴解Ⅳという授業は、中国人の普通の会話のみでなく、聞き取りにくいとされている中国語の映画も聞ける程度の力を養成することを目的とする。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
3. 映画などの内容についてのプリント（穴埋め問題式）を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

期末テストに出席状況と平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

自作教材と「愛情麻辣烫」（有限会社凱希メディアサービス）。

### 【参考文献・資料】

《中級漢語听和說》北京語言学院出版社

## 中国語聴解Ⅳ

陳惠貞

### 【授業の概要】

貿易取り引き・家庭会話・学校の授業・病院での医師と患者との会話の録音及びニュース放送と多分野に関するラジオ放送などを教材にして、同時通訳訓練を行う。要するに、視覚からの情報をカットし、耳のみに頼る理解の力を養成することがこの講義の目的である。授業は、グループ分けをして、小人数で進める予定である。

### 【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
2. 学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、CD教材を使って予習する必要がある。
3. 映画などの内容についてのプリント（穴埋め問題式）を配り、学生は内容を聞きながらそのプリントの穴埋めをする。
4. 最後に、教材の内容を学生自身が全体的にまとめ、グループ分けて、発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

### 【評価方法】

期末テストに出席状況と平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

自作教材と「愛情麻辣烫」（有限会社凱希メディアサービス）。

### 【参考文献・資料】

《中級漢語听和說》北京語言学院出版社

## 中国文学Ⅰ

高文軍

### 【授業の概要】

中国文学史について、簡単に紹介し、主として中国現代の有名な作家の代表作を説明する。たとえば、郭沫若、魯迅や矛盾などの作品を教材とする。各作品の紹介の後、必ずその作品に関する評論を書くように課題を提出する。よって文章を書く力を高め、作品を客観的に読み、自分の目で作品を評価する姿勢を養成する。

### 【授業計画】

1. 魯迅の『故郷』を精読
2. 同上
3. 同上
4. 魯迅の雑文『論雷峰塔の倒掉』を精読
5. 魯迅とその時代（解説）
6. 魯迅研究の現状（解説）
7. 作品についての評論を書く
8. 巴金の『滅亡』を精読
9. 同上
10. 巴金の『家』の一節を精読
11. 巴金の代表作を紹介
12. 巴金の創作軌道
13. 作品についての評論を書く

### 【評価方法】

出席状況と期末を合わせて評価する。

### 【テキスト】

授業の時、必要に応じてプリントを配り、参考書を指示する。

## 中国文学Ⅱ

高文軍

### 【授業の概要】

中国現代の有名な作家を紹介する。主として劇作家の曹禺、老舎などの作品を説明し、必要に応じて、作品のビデオを見ることもあり、それについて評論文を書いたり、感想文を書いて発表したりする。要するに、文学作品を理解するのみでなく、それを文章で評価し、また口頭で自分の考えを発表するという総合的な言語能力を養成することも本講義の目的である。

### 【授業計画】

1. 陳忠実の『白鹿原』の一節を精読
2. 同上
3. 同上
4. 『白鹿原』の全体像を紹介
5. 作品についてディスカッション
6. 作品についての評論絵を書く
7. 鉄凝の『哦、香雪』を精読
8. 同上
9. 同上
10. 鉄凝のほかの代表作を紹介し解説する
11. 作品についてのディスカッション
12. 作品についての評論を書く
13. 期末テスト

### 【評価方法】

期末テストと出席状況を合わせて評価する。

### 【テキスト】

授業の時、必要に応じてプリントを配る。

## 中国語学Ⅰ

周素芬

### 【授業の概要】

本講義は、中国語の全体的な文法知識、中国語の構文ルール、また中国語研究の基本方法など、中国語学に関する基礎知識の紹介に重点を置いて行う予定である。中国語の教師として、または中国語の研究者として基本的な知識を身につけることを本講義の目的とする。

### 【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。授業は、学生による輪読という形式であるので、学生を主体とする展開となる。

### 【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点と出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

## 中国語学Ⅱ

周素芬

### 【授業の概要】

本講義は、中国語研究の歴史、研究の分野などを紹介すると共に、中国語研究の最新成果を反映する代表的な論文を講読する。さらに、中国語と日本語の構文ルールなどの相違点を探り、その相違点による日本人の中国語学習上の問題点を想定する。そしてその問題点を質問紙調査などで検証すると同時に、その問題点を解決することのできるような中国語の教授法も吟味する。

### 【授業計画】

主として、論文講読という方法を取るが、授業は、講義式で展開するのではなく、討論という形で展開する予定である。具体的に言うと、学生が事前に論文を講読し、質問や自分の意見を考えておく必要がある。それを授業で発表し、意見交換を行う。最後に授業の担当者がまとめをする。この授業を履修することによって、中国語学に関する知識を獲得するだけでなく、中国語による発話能力や、中国語の研究力を身につけることもできるよう期待している。さらに、日本人が中国語を学習するとき、どこで、どのような問題を抱えるか、それを解決するためには、どのような教授法を取ればよいのかなどについても議論する予定である。よって、卒論が書きたい学生にぜひ薦める授業である。

### 【評価方法】

学年末にレポートに平常点を加味して評価する。

### 【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。



## 中国語海外研修

馮 富榮

### 【授業の概要】

この研修は、2年次の後期から中国語しか使わないゼミへの準備学習として位置付けられているので、今まで獲得してきた中国語の語学力をさらに磨き、高度な中国語の力の獲得と異文化との触れ合いが最大の目的である。

この研修は、合計7週間であるが、事前研修は1週間、現地研修8月の中旬からの6週間である。事前研修には、研修先（北京師範大学及びその所在地である北京について）の紹介や注意事項の説明、そして簡単な中国語講習10回が含まれる。現地研修には、6週間の授業と小旅行が含まれる。授業期間中、月曜日から金曜日まで毎日午前2コマ、月、水、金の午後1コマが設定されているので、密度の高い研修内容となるので、高い教育効果が期待できると思われる。授業の内容について説明すると、「会話」は週に4時間、「聴力」と「作文」は週に4時間ずつ、そして「中国現代散文」も週に6時間、さらに「中国事情」と「中国文化講座」はそれぞれ週に4時間ずつある。「中国文化講座」という授業の中で、学生は自分の趣味に合わせて、中国の民族舞踊や歌、そして太極拳、演劇などを習うことができる。

研修期間中、授業のほかは、1週間のホームステイを体験したり、中国の大学生との交流会や座談会を開いたりすることが予定されている。さらに中国の古都である北京の市内観光を週に1回行うことも計画されている。最後には、学習成果の発表会が開かれ、研修の参加者は学習の成果を歌や踊り、または寸劇などの形で発表することになる。

要するに、この研修を通して、中国語を深く知り、中国語に内包されている文化的背景も理解することができ、また自分から進んで中国語を発信し、そしてそれが理解されるとき楽しさを体験することもできる。

尚、研修期間中、本学教職員は滞在しない。

### 【授業計画】

この授業の対象者は、言語コミュニケーション学科の2年次である。ゆえに2年次の学生はこの授業を履修することによって、10単位取得することができる。同学科の1年次や他学部の学生は、基本的に対象外となる。ただし、単位がなくともぜひ中国へ行って勉強していきたい学生に関しては引率者である馮（研究棟の512研究室）と相談する。

### 【評価方法】

研修先の担当先生の評価を参考にして、引率者が最終の成績を出す。

## 日本語論Ⅱ

窪田守弘

### 【授業の概要】

日本語のさまざまな特徴の中から、発音・語彙・表記・文法などの分野を中心に、語学的な面からその基本的な問題を取り上げていく。日本人が殆ど意識せずに使用している日本語は、それが常識だと思われたり、誤用でありながら正しいと考えられたりしている点が少なからずある。そういう言語生活で、特徴的な言語現象を時代的な変遷や社会的な環境という視点から考察していく。

### 【授業計画】

日本語には多くの特徴や面白さがあり、それが現代の日本人の言語運用にどのように反映されているかを解明する。そして日本語の構造を中心として生きた日本語の諸相について、具体的な例をあげながら考えていく。本講義は、日本語と外国語との比較も随時行ない、広い視野より日本語を考え、発音・語彙・文法・文体などの領域が概観できるように配慮する。主な内容は次のようになっている。

（日本語の多様性を知る）

5. 日本語の世界の新発見
6. 日本の有名な文法学説
7. 映画の言語表現
8. 日本と外国の言語文化

### 【評価方法】

学期末の試験結果、提出レポート、出席状況などで総合的に判断する。

### 【テキスト】

日本語論（窪田守弘著 晃学出版 2,000円）

## 日本語表現演習Ⅱ

窪田守弘

### 【授業の概要】

文章の表現能力は、短期間では養成されにくいですが、少なくとも本演習では、学生が進んで自らの文章で自己表現できるようにする。従って、担当教員は、当初学生に対して小論文の書き方の様々な知識や技術を与えるにしても、最終的には学生が自身の手で自分の文章の問題点を発見し、推敲ができるような力を身につけるよう配慮する。それによって、学生が将来あらゆる分野の職業に対応できるようにする。

### 【授業計画】

学生は文章を書くことを苦手としているので、毎回課題を与えて考えさせ、それに対する感想レポートを原稿用紙一枚(400字)程度にまとめるようにする。教員はその感想レポートのチェックを行なって、次回の授業時にチェックポイントを説明しながら返却するようにする。このように学生は自分の書いた文章に対して、毎回教員からチェックを直接受けて、彼らは問題点を明確に把握し推敲を重ねていくようになるはずである。

本演習は、テキストを中心に新聞や週刊誌の記事、有名な小説や評論、学術論文などを補助教材として使用し、文章を徹底的に書き込むことによって、学生に真の表現力や文章力がつくことを目標としている。

### 【評価方法】

毎回の感想レポート、学期末の試験、出席状況などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

配布プリント

## 日本語表現演習Ⅲ

山内啓介

### 【授業の概要】

日本語表現演習Ⅰ・Ⅱで習得した「読み」「書き」の基礎技術を踏まえて、広範囲にトピックを求め、口頭での発表能力を養う。自分の考えを理論的に構築し、限られた条件の中でわかりやすく効果的な発表ができるようになるためのトレーニングを行う。

### 【授業計画】

敬語の基本を講義する。

- 1 敬語とはなにか
- 2 敬意表現
- 3 敬語の理論
- 4 敬語と社会
- 5 待遇行動

プレゼンテーションの方法を練習する。

- 1 プレゼンテーションとはなにか
- 2 対人コミュニケーション
- 3 口頭発表の基礎
- 4 プレゼンテーション資料
- 5 テーマによる実践

### 【評価方法】

出席と参加度30%、実践練習50%、発言とコミュニケーション20%の割合で評価する。

### 【テキスト】

菊地康人『敬語』講談社学術文庫。同『敬語再入門』丸善ライブラリーブック。

## 日本語表現演習Ⅳ

山内啓介

### 【授業の概要】

Ⅲまでの日本語表現演習で養われた発表技術をもう一段階発展させ、学会、企画会議、研修会等目的に応じたプレゼンテーション能力を養う。コンピュータのプレゼンテーションソフトを使いこなすとともに視聴覚機器の効果的な使い方も身につける。

### 【授業計画】

テーマを設定し、ディベートをおこなう。

- 1 日本語ディベートの効果
- 2 ディベートのルール
- 3 未来塾改良型4人制ディベート方式
- 4 ディベートのテーマと問題点
- 5 討論の応用

プレゼンテーションツールを用いた実習。

- 1 ホームページとプレゼンテーション
- 2 ウェブサイトとコンテンツ
- 3 パワーポイントとテンプレート
- 4 説得することは聞き手の立場を知ること
- 5 ツールの応用

### 【評価方法】

出席と参加度30%、実践練習50%、発言とコミュニケーション20%の割合で評価する。

### 【テキスト】

『日本文化論の変容』（青木保 中央公論文庫）

### 【参考文献・資料】

R・ベネディクト著、長谷川松治訳『菊と刀』教養文庫

## 日本語学Ⅰ

窪田守弘

### 【授業の概要】

音声は、人間がコミュニケーションをする際の最も基本的な言語行動の一つで、音声学はそれを科学的に研究する分野となっている。そして、この音声学は、日本語教育では外国語教育としての音声指導で重要な位置を占めている。そこで、本講義では、音声学の基本から専門的な分野まで、人間の発声行動や音声現象などを動的に把握し、そのプロセスを明らかにしていくようにする。

### 【授業計画】

本講義では、音声学の基本から専門的な分野まで、人間の発声行動や音声現象などを動的に把握し、そのプロセスを明らかにしていくようにする。とくに音声学というのは、学生に理解されにくい分野であるが、ヒトの日常生活の言語行動から、音声に関する内容を具体的に取上げて話を進めていくつもりである。

ヒトの声にはさまざまな特徴があって、学生は「声はどうして生じるのか」というような素朴な疑問を持つことでも、十分に音声学世界の世界に第一歩を踏み出したことになる。そこで、次に「声とは何か」、「声の仕組みは何か」、「声はなぜヒトによって違うのか」、「いい声と悪い声の違いは何か」というような問題を考える。

本講義ではそのような音声の基本的な知識を学び、さらにその応用として「日本語と音声」や「発声教育と日本語教育」の分野において、音声学がどのように機能しているかを分析する。

ビデオやOHCなどの視聴覚機器を使って講義の内容を分かりやすくする。また、有名な「マイ・フェア・レディー」のような映画を教材として活用する。

### 【評価方法】

レポートの内容、授業態度、出席状況などで評価する。

### 【テキスト】

配布プリント

## 日本語学Ⅱ

阿部美枝子

### 【授業の概要】

現代日本語の文法現象の中から基本的、かつ重要なトピックを演習の形で取り上げ、言語学的、日本語学的手法で分析し、日本語の体系を理解していく。

### 【授業計画】

現代日本語の文法現象を整理し、その体系を理解することをテーマとする。

1. 文とは
2. 述語の型
3. 助詞
4. 自動詞と他動詞
5. 受動文
6. 使役文
7. 可能文
8. テンスとアスペクト
9. 名詞修飾
10. 提題助詞「は」

以上のような項目について、言語学的、日本語学的に分析していく。

主に講義の形を取るが、随時課題を出すことを考慮している。

### 【評価方法】

学期末筆記試験、及び課題の結果で評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 日本語学Ⅲ

山内啓介

### 【授業の概要】

語彙についての基本的な理解を得るため、術語や理論を学習して言語研究の応用方法を解説する。また、意味についての研究史から、意味の基本三角形、指示の意味、差異化、概念の外延と内包、関係の意味などの基本的な知識を得る。

### 【授業計画】

- 1 はじめに 語と語彙
- 2 語彙論とは何か。 語の単位・語彙調査・語彙表
- 3 語の延べと異なり。 資料体の総量・古典対照語彙
- 4 基本語彙について。 基礎語彙・基幹語彙・語彙量
- 5 語彙の構造。 分類基準・意義・形態・語性・地域
- 6 語誌の研究。 語源・語義・本義・派生義・語構成
- 7 語種。 和語・漢語・外来語・混種語・カタカナ語
- 8 語と意味。 意味とは、意味の捉え方・語義反義語
- 9 語の意味の研究。 指示の意味・意味の基本三角形
- 10 関係の意味。 象徴記号・概念と用法・語義の差異
- 11 意味分析の方法。 文脈の意味・臨時的意味・比喻
- 12 語の意味変化について。 意味の変遷・辞書の記述
- 13 日本語語彙の特徴。 死語・流行語・若者語・造語
- 14 語彙史と辞書史。 字引き・索引・コンコーダンス
- 15 語彙研究の課題・意味研究の将来

### 【評価方法】

定期試験による。出席回数を重視する（80%以上）。

### 【テキスト】

プリント資料を配布。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介するので、図書館などで利用されたい。

## 日本語特殊講義 I

窪田守弘

### 【授業の概要】

将来、日本語教師を目標としている学生は、少なくとも外国語の文献や資料を読みこなす能力が必要である。20世紀には多くの言語学者の学説が発表されたが、著名な論文や著述の中から、日本語に関する基本的な文献を広い視野から整理しながら概観する。

### 【授業計画】

教師が日本語で教える際に、直接外国語を使うことはあまり必要とされない。しかし、それは教授法の一手段として有効な場合が多い。特に文法上の説明では、定義を明確にする必要から、学習者の母国語が有効的な役割を果たすことは事実である。

そこで、少なくとも国際語と称される英語力は不可欠で、その基礎的な運用能力をつけるために主に日本語教授法に関する英文の資料の読解を試みる。

### 【評価方法】

発表やレポートの内容、出席状況などで評価する。

### 【テキスト】

配布プリント

## 日本語特殊講義 II

窪田守弘

### 【授業の概要】

外国語の文献では、欧米学者の学説を極力原書で紹介するが、原書で読めないものに関しては、翻訳によってその言語学者の考えの凡そを理解するようにする。そして、学生が各自関心のある学説に関しては、各自が分担して発表を行うようにする。そして、少なくともも分担した部分は、原書で読めるような読解力を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

日本語の文法に関する英文の資料を中心に読解を心がける。本講義では主にアメリカの構造主義言語学の基本的な概念について概観する。

チョムスキーの生成文法理論はその代表的なものであるが、それが生成日本語文法に与えた影響は測り知れない。その経緯についても学んでいきたい。

### 【評価方法】

発表・レポートの内容、出席状況で評価する。

### 【テキスト】

配布プリント

## 日本語教育海外研修

山内啓介 窪田守弘

### 【授業の概要】

日本語教育の関連科目の一環として、姉妹校である中国の南京師範大学の日本語学科で、日本語教育実習を実施する。将来日本語教師を目指す者は、当校で、約3週間の日本語教育実習を行うが、中国の学生と直接交流するという意味で、貴重な異文化体験プログラムともいえる。

### 【授業計画】

集中講義として行われる。

南京師範大学日本語学科で教育実習を行う。

### 【評価方法】

実習の参加度、レポートによる。

### 【テキスト】

使用せず。

## 専門演習 I

松本青也

### 【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

### 【授業計画】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考えようとするものです。アメリカ英語とその背景にある文化、特に人生、孤独、愛と性、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して考え、更に自由、平等、人権といった理念が日米で現実の様々な問題解決にどう機能しているかまでを幅広く扱います

2年次前期では次のような活動を中心に進めます。

- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- (2) ゼミ合宿でのプレゼンテーションと討論
- (3) 松本ゼミのホームページ作成

### 【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

### 【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

## 専門演習 I

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

当演習は、我々の日常のコミュニケーションの93%を占めると言われる「非言語コミュニケーション」について学ぶもので、異文化コミュニケーションの1下位分野である。

### 【授業計画】

第1週	コースオリエンテーション
第2週	音声(発音)学
第3週	動作学(Kinesics)
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	近接学(Proxemics)
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	領土性(Territoriality)
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃

### 【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

### 【テキスト】

1. Eye to Eye: How People Interact, Peter Marsh. Macmillan LanguageHouse, 1988.
2. 日本の常識はどこまで通じるか: 異文化交流で失敗しないために。ジョリー幸子, 小池弘道 風媒社, 1999.

### 【参考文献・資料】

比較生活文化事典、金山盲夫

大修館

Gestures: DOs and TABOOs of Body Language Around the World. Roger E. Axtell, Wiley. 1991.

## 専門演習 I

B. サン・ジャック

### 【Course Content】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

言語と文化というのは、人間の毎日の生活にたいして本質的な関係があり、生きるために、殆ど空気と同じく必要な要素です。ところが、人間が絶えず呼吸しているのに障害がない限り空気の必要性についてめったに考えません。言語と文化についても同様のことが言えます。なお、第二言語を上手に習得するために、その第二言語の native speakers の文化と社会的運用をどうしても見習うべきである。

### 【Schedule】

色々な言語 [主に日本語と英語] の構造と翻訳を比べて、言語と文化の相互依存の事実を確認する。イタリア語の諺 traduttore, traditore [翻訳者は、裏切り者である] は、言い過ぎではあるが、翻訳の深い要素を指している。Examining various translations, both from Japanese to English and from English to Japanese, students will not only improve their knowledge of English, but will also realize that the knowledge of the sound system and the grammar of a language is not sufficient to become a fluent speaker. Knowledge about culture is absolutely necessary.

This seminar will require active participation of students. Both English and Japanese will be used.

### 【Assessment】

Presentations. Team presentations (2 or 3 students together) are also accepted

### 【Textbooks】

Translation and Translating. 1991 Roger T. Bell  
翻訳という仕事 1991 小鷹信光

## 専門演習 I

山内啓介

### 【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

### 【授業計画】

演習のために、まず次の講義を行う。

- 1 日本語学(1) 日本語コミュニケーションと音声科学について
- 2 日本語学(2) 日本語コミュニケーションと音韻論について
- 3 日本語学(3) 日本語コミュニケーションと文法・形態論について
- 4 日本語学(4) 日本語コミュニケーションと文法・統語論について
- 5 日本語学(5) 日本語と語彙について
- 6 日本語学(6) 日本語意味論について  
次のテーマで受講生と演習を行う。
- 7 日本語教育と日本語コミュニケーション
- 8 日本語コミュニケーションのさまざまなケース・スタディ
- 9 日本語コミュニケーションが必要な場面とその会話
- 10 日本語学の実践と理論
- 11 日本語研究の将来
- 12 インターネット日本語

### 【評価方法】

出席を重視する。演習のプレゼンテーションを評価する。議論の参加と発言を参考とする。

### 【テキスト】

特に定めない。

### 【参考文献・資料】

言語学大辞典の日本語の項目 [三省堂、第2巻世界言語編、1569ページ-1791ページ]

## 専門演習 I

馮 富榮

### 【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

### 【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

### 【評価方法】

平常点で評価する。

### 【テキスト】

《漢語教程》第二冊 北京語言文化大学出版社



## 専門演習 I

アンドリュー・J. ムーディー

### 【Course Content】

This course will continue the examination of language contact in several contexts. Particular attention will be given to contact between English and Japanese. During the first semester, most of our reading assignments will deal with language contact on an individual basis, such as bilingual and multilingual individuals. In addition, students will be asked to prepare an oral report at the end of the class, and much effort will be spent to choose topics, and conduct research, and prepare a manuscript. Consequently, much of the class will also focus on teaching the act of research and writing, especially as it pertains to projects studying the language of Japanese Pop music (J-Pop) and analysis of English language in popular media.

### 【Schedule】

Topics include:

- diglossia
- language and identity
- standard vs. vernacular language
- language policy
- English medium education

### 【Assessment】

homework 30%

oral report 30%

final report 40%

### 【Textbooks】

Sarat G. Thomason (2001) Language Contact: An Introduction.

## 専門演習 I

窪田守弘

### 【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

### 【授業計画】

本演習では、映像の中で展開される人々の言語行動を言語と文化の関係を様々な視点から研究していく。例えば、テレビでは毎日多くの番組が放送されているが、それを単に娯楽として見るのと、貴重な情報や教材として見るのとでは全く事情が異なることを調べる。

今ではハリウッドの映画を始め世界中の映画が簡単に見ることができるようになった。しかし、一般的に映画は娯楽として鑑賞する機会が多いため、それを言語や文化との視点から考えていくことはほとんどなされていない。例えば、外国映画の台詞（セリフ）は字幕に翻訳されているが、この字幕をよく調べて見ると画面上の台詞と違っていることがよくある。これは誤訳ではなくて、その台詞が日本人の観客に分かりやすいように意識されていることが多いからである。

本ゼミでは、主に映画のシナリオや字幕翻訳を通して、ヒトの言語行動を新しい視点で分析しようとするものである。

### 【評価方法】

演習時の発表態度、提出レポートや作品、出席状況などで総合評価する。

### 【テキスト】

字幕の中に人生（戸田奈津子著 白水Uブックス 930円）

## 専門演習 I

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

言語のコミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it. Identity is the question of who we are and how we become who we are. Identity is how we think of who we are and how other people think of us.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.
4. What is identity?
5. How do we shape our identities?

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

### 【Textbooks】

There is no textbook for this course although one may be assigned.

## 専門演習 I

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers.

This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet.

Research in mediated communication usually focuses on the effects of the medium on communication. Do people use language differently when using email than in face-to-face conversations?

Why is it different? And in what ways is it different?

This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate.

### 【Schedule】

Some of the topics this class may cover include:

- Major media theories
- How to do research on the Internet
- Commercials and communication
- Keitai phones and communication
- Movie rhetoric

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in class discussion, homework, and reports.

### 【Textbooks】

None. There will be readings given by the teacher.

## 専門演習 I

杜 英起

### 【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例が挙げられる。この授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていく方法を取る。

### 【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点を移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

### 【評価方法】

平常点で評価する。

### 【テキスト】

《漢語教程》第二冊 北京語言文化大学出版社

## 専門演習 I

ポール・C. リンガー

### 【Course Content】

This course will attempt to cover some of the many different aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and major areas of modern life in Britain.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. The course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and groupwork, interviews, and presentations.

### 【Schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period.

COUNTRIES IN BRITAIN  
VARIETY OF CULTURES  
CUSTOMS AND HABITS  
MULTICULTURALISM  
EDUCATION  
MUSIC

### 【Assessment】

Grades will be determined from the following:

Homework assignments  
Presentations  
Participation in pair and groupwork  
Reports

### 【Textbooks】

No set text.  
Handouts will be prepared and made available.

## 専門演習Ⅱ

松本青也

### 【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

### 【授業計画】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考えようとするものです。アメリカ英語とその背景にある文化、特に人生、孤独、愛と性、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して考え、更に自由、平等、人権といった理念が日米で現実の様々な問題解決にどう機能しているかまでを幅広く扱います。

2年次後期では次のような活動を中心に進めます。

- (1) アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- (2) 各自が選んだテーマについて、インターネットによる情報検索やE-mailでの情報収集をもとにした研究発表
- (3) 研究小論文の執筆

### 【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

### 【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

## 専門演習Ⅱ

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

言語よりも更に重要であると言われる「非言語コミュニケーション」(Nonverbal Communication)について研究・追求するものである。

### 【授業計画】

- 第1週 接触学 (Tactility・Haptics)
- 第2週 //
- 第3週 //
- 第4週 //
- 第5週 嗅覚 (Olfaction)
- 第6週 //
- 第7週 空間学 (Space)
- 第8週 //
- 第9週 時間学 (Chronemics)
- 第10週 //
- 第11週 対物学 (Objectics)
- 第12週 //
- 第13週 準言語学 (Paralinguistics)
- 第14週 //

### 【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

### 【テキスト】

1. 世界60カ国比較文化事典、T. モリスマン、マクミラン

### 【参考文献・資料】

比較生活文化事典、金山盲夫  
大修館

Gestures : DOs and TABOOs of Body Language  
Around the World. Roger E. Axtell, Wiley. 1991.

## 専門演習Ⅱ

B. サン・ジャック

### 【Course Content】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

人々は、国語と自分の文化を子供の時からよく把握しており、ほとんど無意識に毎日国語を利用し、自分の文化に適切な行動をします。しかし、自分の言語と文化を、客観的に、意識的に、何であるか、また言語と文化との関係は何であるか、というような事については全く考えません。演習Ⅰ（前期）から始めた翻訳についての研究をより深く考察し、言語と文化の関係を徹底的に理解していきます。

### 【Schedule】

日本といろいろな国の文化を比較対照しながら、その国々の文化の様々な様相—教育制度、結婚、家族制度、レジャー、住宅、食物、テレビ、政治、仕事、非言落コミュニケーションなどを日本文化と比較する。[一つの外国語を心得ない人は、自分の国語も理解できない] (Goethe)。文化についても全く同じことが言える。To make students aware of these cultural differences, videos and various written materials will be used. When possible, natives speakers of various cultures will be invited to discuss with students some aspects of their cultures.

This seminar will require active participation of students. Both English and Japanese will be used.

### 【Assessment】

Presentation. Team presentations (2 or 3 students together) are also accepted.

### 【Textbooks】

プリント配布

## 専門演習Ⅱ

山内啓介

### 【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

### 【授業計画】

専門演習Ⅰにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。なお、課題の発見は広く領域をとって国語教育や日本文化などの問題に及ぶことがあってよい。

次の演習を行う。

文献解題

問題点と調査・実験

演習は2回を担当する。プレゼンテーションにはそれぞれ、レジュメを用意する。

1回目：文献選択、内容の抄録、梗概説明、問題提起。

2回目：課題提示、トピックとアンサー、調査実験のプロセス。

演習の参加は、発表について事前準備に3週間は必要とする。あらかじめ、発表当番をエントリーし、計画的に学習が進められるように話し合い、プレゼンテーションを実行する。

### 【評価方法】

プレゼンテーションによる。

### 【テキスト】

特になし。各自の発表用レジュメ。

### 【参考文献・資料】

授業時に示される。

## 専門演習Ⅱ

馮 富榮

### 【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

### 【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

### 【評価方法】

平常点で評価する。

### 【テキスト】

《漢語教程》第三冊 北京語言文化大学出版社

## 専門演習Ⅱ

アンドリュー・J. ムーディー

### 【Course Content】

This course will continue the examination of language contact in various contexts.

Particular attention will be given developing students' ability to describe a language variety according to the formal features of the language. While the first semester focused on individual bilingualism/multilingualism, the second semester will instead focus on the societal level of language contact. In addition, students will be asked to prepare an oral report at the end of the class, and much effort will be spent to choose topics, and conduct research, and prepare a manuscript. Consequently, much of the class will also focus on teaching the act of research and writing. The class will continue to develop interest in special projects, such as the study of J-Pop English and how English is perceived in the Japanese popular media.

### 【Schedule】

Topics include:

- quantitative vs. qualitative methods
- linguistic description
- phonemic transcription
- developing a viable working hypothesis
- writing styles in academic research

### 【Assessment】

homework 30%  
oral report 30%  
final report 40%

### 【Textbooks】

Sarat G. Thomason (2001) Language Contact: An Introduction.

## 専門演習Ⅱ

窪田守弘

### 【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

学生は言語や文化に関する論文の専門的な内容について学ぶとともに、代表的な映画のシナリオの調査をして、十分時間をかけて議論や発表を繰り返しながら言語の多様性を整理し、概念の抽象化をはかるようにする。

本ゼミでは専門演習Ⅰの知識を基にして、具体的な調査やフィールドワークも実施する。例えば、昨年度の場合、日本映画の中で日本人がどのように描かれているかを調査したが、映像の中における日本人の言語表現や言語行動について、新たな発見をする学生が多かった。言語と文化を知るには幅広い知識が必要になるが、その意味で映画は語学、文学、歴史、音楽、宗教などあらゆる分野にわたる総合芸術であり、時間をかけて調べていくだけの価値がある。

このゼミでは、映画を見てただ評論するのではなく、それが個々の学生に対して多くの示唆と教訓を与えてくれるし、各自のテーマに沿って自由に学べるような内容になっていることに重点をおきたい。

### 【評価方法】

演習時の発表内容や態度、提出レポート、出席状況などで判断する。

### 【テキスト】

配布プリント

## 専門演習Ⅱ

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it. Identity is the question of who we are and how we become who we are. Identity is how we think of who we are and how other people think of us.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.
4. What is identity?
5. How do we shape our identities?

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

### 【Textbooks】

There is no textbook for this course although one may be assigned.

## 専門演習Ⅱ

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

This seminar focuses on mediated communication in its many different forms. Mediated communication is any communication that goes through a medium or channel between the speakers.

This can mean telephones, magazines, books, radio, television, movies and the Internet.

Research in mediated communication usually focuses on the effects of the medium on communication. Do people use language differently when using email than in face-to-face conversations?

Why is it different? And in what ways is it different?

This seminar will look at the effects of technology on the ways we communicate.

### 【Schedule】

Some of the topics this class may cover include:

- ・Major media theories
- ・How to do research on the Internet
- ・Commercials and communication
- ・Keitai phones and communication
- ・Movie rhetoric

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in class discussion, homework, and reports.

### 【Textbooks】

None. There will be readings given by the teacher.

## 専門演習Ⅱ

杜英起

### 【授業の概要】

中国語のコミュニケーション能力を最大限に引き伸ばすことと、多角的に中国の社会について幅広く考えることがこの授業の目的である。授業の内容は、主として二つに分かれ、一つは、中国の伝統的文化の紹介、今一つは中国の現代社会に特有な社会現象の紹介である。前者の例としては、中国人の親戚の連帯関係や、中国の伝統的な劇の紹介が挙げられ、後者としては中国現代の老人生活、「主婦」にかわって生まれてきた「主夫」という新しい社会現象、そして一人子政策などの例がある。また授業は、一方的な講義よりは、学生とディスカッションをしながら進めていくという方法を取る。

### 【授業計画】

2年生は、前期でも後期でも、先生主導で授業を展開する。具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをするか、宿題として出す。それを先生が直してから受講者に返す。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。また、進度は、かなり速いスピードになると予想される。要するに、この専門演習では、2年生の段階では学習活動が主導となるが、3年生の段階では中国語によるディスカッションなど、いわゆる学生たちの応用能力の養成に重点が移っていく。2年生の目標は、中国語能力検定の3級や準2級に合格すること、または、中国のHSK試験の5級か6級に合格することが期待される。当然、そのための指導もする。

### 【評価方法】

平常点で評価する。

### 【テキスト】

《漢語教程》第三冊 北京語言文化大学出版社



## 専門演習Ⅱ

ポール・C. リンガー

### 【Course Content】

This course will attempt to cover some of the many different aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and major areas of modern life in Britain.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. The course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and groupwork, interviews, and presentations.

### 【Schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period.

THE MONARCHY  
THE COMMONWEALTH  
WOMEN IN BRITAIN  
THE MEDIA  
FESTIVALS  
RELIGION

### 【Assessment】

Grades will be determined from the following:

Homework assignments  
Presentations  
Participation in pair and groupwork  
Reports

### 【Textbooks】

No set text.  
Handouts will be prepared and made available.

## 専門演習Ⅲ

松本青也

### 【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

### 【授業計画】

アメリカで製作されたTV番組や新聞雑誌記事などの英語を資料として分析しながら、その背景にあるアメリカ思想を歴史的形成過程と他文化との比較対照という二つの観点から深く掘り下げます。またそうした作業の課程で、インターネットとパソコンを駆使して、さまざまな情報の収集と分析の方法を学び、各自のテーマに沿った研究成果を発表することで、説得力のあるプレゼンテーションの方法も学びます。

### 【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

## 専門演習Ⅲ

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

### 【授業計画】

- 第1週 Course Orientation  
 第2週 研究企画と方法論  
 (Reserch Methodology)  
 第3週 文献録作制  
 (Bibliography-Reference)  
 第4週 Speech: Research  
 (Reading-Discussion)  
 第5週 //  
 第6週 //  
 第7週 //  
 第8週 //  
 第9週 //  
 第10週 //  
 第11週 //  
 第12週 Final Examination

### 【評価方法】

演習への出席、discussionへの参加、スピーチ、レポート等を総合的に判断する。

### 【テキスト】

異文化にみる非言語コミュニケーション、御手洗昭治、ゆまに書房、2000年

### 【参考文献・資料】

Nonverbal Codes, Brent D.Ruben Kirihara Shoten, 1996

## 専門演習Ⅲ

B. サン・ジャック

### 【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

2年応用言語学の時に、翻訳と言語の観点から文化の研究しました。3年生になると直接に文化を研修する。文化とは、具体的に何であるのか、文化は人間とどういう関係あるのか、又、ある国の文化はどういうふうに変化するのかを研究することは、この演習の目的である。

### 【Schedule】

日本と色々な国の文化を比較対照しながら、その国々の文化の色々な様相－教育制度、結婚、家族制度、レジャー、住宅、食物、テレビ、政治、仕事、非言語コミュニケーション等－を日本文化と比較する。『一つの外国語を心得ない人は自分の国語も理解できない』(Goethe)文化について全く同じことが言える。

To make students aware of these cultural differences, videos and various written materials will be used. When possible, native speakers of various cultures will be invited to discuss with students some aspects of their cultures.

This seminar will require active participation of students. Both English and Japanese will be used.

### 【Assessment】

Presentations. Team presentations (2 or 3 students together) are also accepted.

### 【Textbooks】

Studies in Language and Culture, B. Saint-Jacques

## 専門演習Ⅲ

山内啓介

### 【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

### 【授業計画】

専門演習Ⅱにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。日本語学、日本語教育、国語と日本語、日本語と文化などについて研究領域を設定し、研究分野に従って自らの研究テーマを探究する。

次の演習を行う。

- 先行研究の探索
- 専門書の読み取り
- データ・資料収集
- プレゼンテーション
- レポート・論文を作成する

### 【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、研究発表、討議の参加をくわえて総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

- 発表用資料。
- 日本語学・日本語教育の論文、専門書。

## 専門演習Ⅲ

馮 富榮

### 【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点をまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

### 【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. 学生の関心のある研究テーマについての調査を実施する。
2. 人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
3. 各グループで、研究のテーマに関する先行研究を探して学習する。そして、先行研究についてディスカッションをして、まとめる。
4. 先行研究をまとめた結果をグループ毎に発表する。発表のポイントは、先生は授業で説明する。

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取り組んでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

1. 各グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
2. 研究テーマを完成させるために、各学生の役割分担をグループで議論して決める。
3. 各学生は振り分けられた作業を授業外で成し遂げ、それを授業のときグループ内で報告する。そして、次の作業の内容をグループで決める。このように繰り返して、研究作業を進めていく。

### 【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

## 専門演習Ⅲ

アンドリュー・J. ムーディー

### 【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

This course will continue the examination of English in international contexts. Particular attention will be given to those Englishes that are “native Englishes.” While the first year course focused on language policies and features of specific countries, the second year will instead focus on phenomena that are common to World Englishes. In addition, students will be asked to prepare an oral report at the end of the class, and much effort will be spent to choose topics, and conduct research, and prepare a manuscript. Consequently, much of the class will also focus on teaching the act of research and writing.

### 【Schedule】

Topics include:

- diglossia
- language and identity
- standard vs. vernacular language
- language policy
- English medium education

### 【Assessment】

homework 30%

oral report 30%

final report 40%

### 【Textbooks】

Sidney L. Langosch (1999) Writing American Style

## 専門演習Ⅲ

窪田守弘

### 【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

### 【授業計画】

アメリカと日本の映画を通して、日系アメリカ人の歴史を学ぶ。特に第2次世界大戦における日系人への強制収容所について資料を詳しく調べていく。

### 【評価方法】

演習時の発表態度、提出レポートや作品、出席状況などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

アジア系アメリカ人 (村上由見子著 中公新書740円 +税)

## 専門演習Ⅲ

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

### 【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

## 専門演習Ⅲ

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

What happens to cultural artifacts when they cross cultures-how are they changed to reflect the standards of the new culture? And why do people become fans of things from different cultures? This seminar looks at cultural crossovers-when things from one culture are enjoyed by people from another culture. We will study both the things themselves (what changes happen when food, television, movies etc. move from country to country) and the people who enjoy items from other cultures.

### 【Schedule】

First year:

Japanese culture in America

American culture in Japan

Second year:

American fans of Japanese culture

Japanese fans of American culture

Third year: Independent student study

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in class discussions, homework, and reports.

### 【Textbooks】

None. There may be some readings given, and students may be required to watch some movies outside of class.

## 専門演習Ⅲ

杜 英起

### 【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

### 【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. 学生の関心のある話題や、研究テーマについての調査を実施する。
2. 人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
3. 各個人が研究のテーマに関する先行研究を探したり、ホームページなどで興味のある話題について調べたりしてきて、各グループ内でそれを中国語で発表する。そして、グループごとに先行研究や、発表した材料についてディスカッションを行う。
4. 先行研究や、興味のある話題に関する材料をグループでまとめ、まとめられた結果をゼミ全員を対象にグループ毎に発表する。発表のポイントは、先生は授業で説明する。

### 【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

### 【テキスト】

プリント

## 専門演習Ⅲ

ポール・C. リンガー

### 【Course Content】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

Review and further in depth study of modern Britain covering different aspects of British life, including the environment, the media, lifestyles, festivals, and employment. There will be a direct comparison to similar aspects of Japanese culture.

### 【Schedule】

(Each topic will be covered over a two or three week period.)

The Media(Press)

Sport and leisure

Music

Family life

Multicultural festivals

Religion economy and the workplace

### 【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- Homework and assignments
- Presentations
- Participation in pair and group work
- Reports

### 【Textbooks】

No set text.

Handouts will be prepared and made available.

## 専門演習Ⅳ

松本青也

### 【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

### 【授業計画】

各自の研究テーマについて、英語による研究発表（メディアを駆使した本格的なプレゼンテーション）を中心に、現代アメリカ英語と文化のさまざまな課題を取り上げます。最後に全員執筆の研究論文集『現代アメリカ研究2002』を作成します。

### 【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況による総合評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

## 専門演習Ⅳ

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

### 【授業計画】

4年次の研究発表、プレゼンテーション（英語使用）のための準備と関連する文献のreading, discussionを行う。又毎授業の前半に英語でのspeechとQuestion & Answerの練習を積む。

### 【評価方法】

演習への出席、discussionへの参加、発表、レポート、speech等を総合的に判断する。

### 【テキスト】

異文化に見る非言語コミュニケーション、御手洗昭治、ゆまに書房、2000年

### 【参考文献・資料】

Nonverbal Codes, Brent D.Ruben, Kirihara Shoten, 1996.

## 専門演習Ⅳ

B. サン・ジャック

### 【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

最近の日本における外国人の数は、経済、貿易、ビジネス、労働、教育、国際結婚、移民などの要因の影響によって著しく増えている。それで、世界の国々は、経済的な理由から共同体を形成したり、マスメディアが世界を“global village”にした現代こそ、異文化精神、異文化能力、異文化コミュニケーションを育てることは日本の将来の繁栄のために重大なことである。この演習の目的である。

### 【Schedule】

異文化人間を養成するということは、異文化背景をもった人々と接触することによって、自分の文化と異文化の両方から一定の距離を保ちながら、両者の良いところを積極的に受容し、自分とは異質の民族と共存していける気質や能力を備えた人間を養成することである。

To obtain this goal, students will be introduced to various aspects of intercultural communication through videos, readings, and when possible discussions with native speakers of other cultures. Several writings by Prof. Saint-Jacques on the Japanese 国際化, on multicultural education and multicultural countries will also be part of the reading materials.

This seminar will require active participation of students. Both English and Japanese will be used.

### 【Assessment】

Presentations. Team presentations (2 or 3 students together) are also accepted.

### 【Textbooks】

Studies in Language and Culture, B. Saint-Jacques

## 専門演習Ⅳ

山内啓介

### 【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

### 【授業計画】

専門演習Ⅲにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。日本語学、日本語教育、国語と日本語、日本語と文化などについて、自らの研究テーマを探究する。次の演習を行う。

プレゼンテーション

レポート・論文を作成する

### 【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、研究発表、討議の参加をみて、総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

発表用資料。

日本語学・日本語教育の論文、専門書。



## 専門演習Ⅳ

馮 富榮

### 【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループに分ける。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点をまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

### 【授業計画】

前期では、関連文献や先行研究の学習を主とする。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

1. 生の関心のある研究テーマについての調査を実施する。
2. 人数的に比較的集中できる研究テーマを選出し、それに従って学生をいくつかのグループに分ける。
3. 各グループで、研究のテーマに関する先行研究を探して学習する。そして、先行研究についてディスカッションをして、まとめる。
4. 先行研究をまとめた結果をグループ毎に発表する。発表のポイントは、先生は授業で説明する。

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取りこんでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

1. グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
2. 研究テーマを完成させるために、各学生の役割分担をグループで議論して決める。
3. 各学生は振り分けられた作業を授業外で成し遂げ、それを授業のときグループ内で報告する。そして、次の作業の内容をグループで決める。このように繰り返して、研究作業を進めていく。

### 【評価方法】

平常点、研究課題の取り組む姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

## 専門演習Ⅳ

アンドリュー・J. ムーディー

### 【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

This course will continue the examination of English in international contexts. Particular attention will be given developing students' ability to describe a language variety according to the formal features of the language. While the first semester focused on language policies and features of specific countries, the second year will instead focus on phenomena that are common to World Englishes. In addition, students will be asked to prepare an oral report at the end of the class, and much effort will be spent to choose topics, and conduct research, and prepare a manuscript. Consequently, much of the class will also focus on teaching the act of research and writing.

### 【Schedule】

Topics include:

- quantitative vs. qualitative methods
- linguistic description
- phonemic transcription
- developing a viable working hypothesis
- writing styles in academic research

### 【Assessment】

homework 30%  
oral report 30%  
final report 40%

### 【Textbooks】

Sidney L. Langosch (1999) Writing American Style

## 専門演習Ⅳ

窪田守弘

### 【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

### 【授業計画】

日本語の中から疑問点をいくつか選び、それが日本語教材の教材として利用できるか否かを調べる。そして、各自が設定したテーマについて個人発表する。

### 【評価方法】

提出レポート、出席状況などで評価する。

### 【テキスト】

日本語の教室 (大野晋著 岩波新書700円+税)

## 専門演習Ⅳ

ダニー・T. モルデン

### 【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

### 【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

### 【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

## 専門演習Ⅳ

ジェニファ・J. マギー

### 【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

What happens to cultural artifacts when they cross cultures-how are they changed to reflect the standards of the new culture? And why do people become fans of things from different cultures? This seminar looks at cultural crossovers-when things from one culture are enjoyed by people from another culture. We will study both the things themselves (what changes happen when food, television, movies etc. move from country to country) and the people who enjoy items from other cultures.

### 【Schedule】

First year:

Japanese culture in America

American culture in Japan

Second year:

American fans of Japanese culture

Japanese fans of American culture

Third year: Independent student study

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in class discussions, homework, and reports.

### 【Textbooks】

None. There may be some readings given, and students may be required to watch some movies outside of class.

## 専門演習Ⅳ

杜英起

### 【授業の概要】

この授業では、いくつかの研究テーマを設定し、興味を共有する研究のテーマによって学生をグループ分けする。各グループで、関連文献や研究テーマに関する先行研究を学習し、問題点などをまとめる。そしてまとめた結果をゼミ生全員の前で報告する。報告は研究テーマによって中国語で行われることが要求される。要するに、この専門演習Ⅲと専門演習Ⅳは、4年次の必修科目であるプロジェクトのための準備作業に当たる。この授業を履修することによって卒業までに立派な研究課題を完成することができるだけでなく、中国語の語学力をアップすることもできるように期待されている。授業は、講義式ではなく、学生が主体となって行うことになる。

### 【授業計画】

後期では、4年次のプロジェクトで引き続き取りこんでいく研究テーマを各グループで議論して決定する。それを完成させるための準備作業に入る。具体的には以下のステップを踏んで、授業が展開される。

1. 各グループでディスカッションをして4年次のプロジェクトという必修科目で取りこむ研究テーマを最終的に決定する。
2. 研究テーマを完成させるために、各学生の役割分担をグループで議論して決める。
3. 各学生は振り分けられた作業を授業外で成し遂げ、それを授業のときグループ内で報告する。そして、次の作業の内容をグループで決める。このように繰り返して、研究作業を進めていく。

### 【評価方法】

平常点、研究課題の取り組み姿勢、そして事前準備の出来具合で評価する。

### 【テキスト】

プリント

## 専門演習Ⅳ

ポール・C. リンガー

### 【Course Content】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

In this section of the course students will look at cultural background knowledge, the British approach to life in general and what makes Britain different.

Topics already studied will be reviewed through group discussions, reports, and presentations.

### 【Schedule】

Topics will include the following:

Identity  
Attitudes  
Welfare  
The law  
Education  
The arts

### 【Assessment】

Grades will be determined from the following:

- Homework and assignments
- Presentations
- Participation in pair and group work
- Reports

### 【Textbooks】

No set text.

Handouts will be prepared and made available.

## プロジェクト

松本青也 ジョー・キーン B. サッパ・ジャック 山内啓介 湯富榮 アドラー・J. ムーティ  
窪田守弘 ダニー・T. モルテン ジェニア・J. マギー 杜英起 テイカ・C. ダイカス ポール・C. リンガー

### 【授業の概要】

それぞれの分野において、個性を生かした多様な学習・研究活動の目標を主体的に選択、設定させ、各自の目標達成に向けて適切な指導を加えながら、学習・研究業績をあげさせようとするものである。

### 【授業計画】

学習・研究業績には、論文のほか、言語コミュニケーションの実践の場としての一ヶ月以上にわたる海外ボランティア活動、実用英語検定試験一般合格などが含まれる。なお、論文以外は報告書を提出するものとする。

週二回の授業時間は、原則として一回を全員参加による演習、他の一回を個人指導に充てる。

〈主な日程〉

- 4月28日(月)「プロジェクト計画書」提出締切り：4月1日以降、研究棟1階事務室窓口にある用紙に記入して1号棟3階レポートボックスに提出。
- 5月26日(月)『プロジェクト概略』提出締切り：5月1日以降、研究棟1階事務室窓口にある用紙に記入して1号棟3階レポートボックスに提出。
- 個別指導の日程、論文の梗概提出、初稿提出などの詳細は指導教員の指示による。
- 12月19日(金)午後4時：論文もしくは報告書提出締切り(12月8日より研究棟1階事務室で受け付け)

### 【評価方法】

学習・研究業績の内容を中心に、演習授業への出席状況などを加味して評価する。

## 比較教養特論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

比較教養論での各国の状況をふまえて、本論では日本の教養論の生成と今日的課題に焦点を絞り、「共生」に向けての言語コミュニケーションの視点から「教養」の意義を概説する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（世界と日本の教養）
- 第2～3回 世界の教育制度と歴史
- 第4～5回 近代化と教育：学歴と教養
- 第6～8回 学力と教養
- 第9～10回 大学と教養
- 第11回 国家と教養
- 第12回 科学技術と教養
- 第13～14回 教育改革と教養
- 第15回 総括

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

使用せず（資料配布）

### 【参考文献・資料】

- 情報消費型社会と知の構造（中西新太郎 旬報社）
- 話すということ（ブルデュー著 藤原書店）
- 教養が国をつくる（ハーシュ著 TBSブリタニカ）
- ハードアカデミズムの時代（高山博 講談社）
- 学力があぶない（大野晋・上野健爾 岩波新書）
- 教育の比較文化誌（石附実 玉川大学出版部）
- 世界の教育改革（佐藤三郎編 東信堂）

## 比較文化特論 I

國信潤子

### 【授業の概要】

近年ジェンダーつまり社会・文化的に形成された性についての固定的概念が流動化し、国際的にも女性差別撤廃条約、人種差別撤廃条約などの人権規約が批准されるようになってきている。こうした世界的趨勢はジェンダー関係の多様化が多く文化にみられるようになった結果でもある。この講座ではジェンダー概念とは何かを紹介し、ジェンダー関係の文化多様性がどのような現象としてみられるか、またジェンダー間の勢力関係のアンバランスが雇用機会等で差別となる様相について考察する。統計データ分析や英文資料による講読も含まれる。

### 【授業計画】

ジェンダー概念を説明し、各種関連国際法、人権規約などを紹介する。また雇用機会の均等化、社会保障等法制改革の近年の状況についても国内外比較をグループ討議しながら、講ずる。

### 【評価方法】

授業出席状況、履修態度、感想カード内容、期末レポートなどの総合評価による

### 【テキスト】

授業時に提示する。

### 【参考文献・資料】

また随時資料配布する。

## 比較文化特論Ⅱ

トマー・トドロヴィック

### 【授業の概要】

ヨーロッパ連合のそれぞれの国々の文化の特色と日本文化との類似点と相違点に関する比較を行い、学生達の多様なヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

### 【授業計画】

- 1) ヨーロッパにおける文化相違
- 2) 文化的アイデンティティ
- 3) 食文化
- 4) グローバル化時代と南北問題
- 5) ヨーロッパの民俗学
- 6) 儀式と祭り
- 7) 人間と時間
- 8) イメージとステレオタイプ
- 9) 政治制度
- 10) 表現の自由
- 11) マナーの仕方

### 【評価方法】

テストによる評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 批評理論

杉本一直

### 【授業の概要】

文学作品を構造や文体の面から分析し批評する方法を学ぶ。具体的には、時制や話法などの言語学的形態の分析とテーマ分析の双方を行い、作品において両者がいかにして連関するのかを調べる。

### 【授業計画】

アメリカ、ロシア、アルゼンチン、日本など、さまざまな国の現代小説を例に取り、批評の視点を学ぶ。また、小説以外にも、映画、美術、建築などの作品を鑑賞し、理論の応用を試みる。以下に主な項目を挙げておく。

- ・ヴァーチャル・リアリティと多層的世界
- ・メタフィクションとは
- ・形而上学的SF小説
- ・小説／映画における一人称、二人称、三人称
- ・対の構造を持つ作品
- ・二十世紀初頭のアヴァンギャルドと現在

### 【評価方法】

レポートによる

### 【テキスト】

プリント配布

## 日本語教授法Ⅰ

阿部美枝子

### 【授業の概要】

日本語教授というのは、外国人対象に外国語として日本語を教えることであり、日本人対象に行われる「国語教育」とはその内容も方法も全く異なるものなのであるが、このことが一般にはほとんど理解されていない。「日本語教授法」の中では、この違いについて理解することを目標とする。

方法としては、まず、これまでに提唱され、実践されてきた種々の「外国語教授法」変遷を辿り、それらが實際上、日本語教授にどのように適応できるか、あるいはできないかを検証する。このように外国語教授法の一環として日本語教授法を捉えた上で、日本語を外国語として教えるとは何かを考えていく。

### 【授業計画】

1. 日本語教育と国語教育—概説
2. 外国語教授法の変遷とその日本語教授への適応性
  - a. オーラル・メソッド
  - b. オーディオリンガル・メソッド
  - c. トータル・フィジカル・リスポンズ／コミュニティ・ランゲージ・ラーニング／サイレント・ウェイ／サジェストペディア
  - d. ナチュラル・アプローチ
  - e. CLT
3. 日本語を外国語として教えるということ

### 【評価方法】

期末試験による。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

1. 石田敏子 (1995) 『改訂新版日本語教授法』大修館書店
2. 鎌田修他編 (1996) 『日本語教授法ワークショップ』凡人社
3. 岡崎敏雄、岡崎眸 (1990) 『日本語教育におけるコミュニケーション・アプローチ』凡人社
4. 名柄迪、茅野直子、中西家栄子 (1989) 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク

## 日本語教授法Ⅱ

山内啓介

### 【授業の概要】

外国人に対する日本語教授法、特に初級レベルの日本語教授法を中心に学習する。まず、初級コースで教えることを確認する。日本語教育の用語と初級の表現文型を確認する。ビデオやミニ・デモンストレーションにより口頭練習、読解指導について学び、実際の教案を作成し、教壇模擬授業を行う。

### 【授業計画】

次の講義を行う。

- 1 日本語学習入門期の指導
- 2 日本語学習の実際
- 3 日本語初級の文型と積み重ね方式
- 4 初級の学習第1段階 基本文型・助辞
- 5 初級の学習第2段階 動詞活用
- 6 初級の学習第3段階 複文構造
- 7 敬語の指導
- 8 文字教育と漢字語彙
- 9 新聞の読解
- 10 教授法と教科書
- 11 教育方法(1)
- 12 教育方法(2)
- 13 まとめ

### 【評価方法】

単位取得の評価は、授業参加30%、複数回のテスト60%、受講生のコミュニケーション10%で行う。

### 【テキスト】

JAPANESE FOR TODAY BEGINNERS; by GAKKEN

### 【参考文献・資料】

『日本語教授法』監修 佐治圭三・真田信二 とうほうほか、講義中に紹介する。

## 日本語教授法Ⅲ

山内啓介

### 【授業の概要】

外国人に対する日本語教授法、特に中級、上級レベルの日本語教授法を中心に学習する。初級における口頭練習、読解指導の教案作成および模擬授業をふまえ、中級、上級と様々なレベルの日本語教育が日本語学習者の立場に立って体験できるようにする。

### 【授業計画】

次の講義と教壇実習を行う。

- 1 初中級のとらえかた
- 2 中級のとらえかた
- 4 専門日本語とは
- 5 上級のとらえかた
- 6 教案と授業の実際
- 7 シミュレーション
- 8 日本語学習者論
- 9 PAL法の実演（1）
- 10 PAL法の実演（2）
- 11 PAL法の実演（3）
- 12 日本語とコミュニケーション
- 13 日本語コミュニケーター

### 【評価方法】

単位取得の評価は、授業参加30%、複数回のテスト60%、受講生のコミュニケーション10%で行う。

### 【テキスト】

各種ある日本語の教科書について、実践しようと考えものについて、ひとつを選び購入すること。

## 日本語教授法Ⅳ

山内啓介

### 【授業の概要】

日本語教師の役割、教材およびテスト等学習環境を教育所産として再確認した上で、日本語教育の現場を見据えた実践的な日本語教育教材の取り扱い方を学ぶ。また、日本語教育におけるテストの作成およびその評価法についても学ぶ。

### 【授業計画】

次の講義と演習を行う

- 1 日本語教育の実際
- 2 日本語指導者と享受者
- 3 日本語教育とカリキュラム
- 4 コースデザインのとらえかた
- 5 ニーズアナリシス
- 6 シラバスデザイン
- 7 日本語学習用のスキット
- 8 教科書・教具の作成
- 9 テストと評価法
- 10 日本語ボランティア（1）日本語と地域
- 11 日本語ボランティア（2）学校教育の現場
- 12 日本語ボランティア（3）第2言語教育
- 13 日本語教授法の課題

### 【評価方法】

単位取得の評価は、授業参加30%、複数回のテストおよびシミュレーション60%、受講生のコミュニケーション10%で行う。

### 【テキスト】

講義開始時に指示する。



## 日本語教育実習

山内啓介

### 【授業の概要】

具体的な日本語の授業のための「授業計画」（指導案）に基づいて授業実習を行なう。授業実習の準備、授業実習、そして授業実習後の振り返りを通して日本語の授業への取組み方を身をもって学ぶ。日本語教育の現場を想定して、模擬授業を行なう。

### 【授業計画】

本年は教育実習を留学生別科にて実施する。

実施時期は10月を予定する。

実習にあたっては事前の準備を始め、見学・参加・実習のスラップを通して学習する事柄が多いので、受講生は真剣に取り組んで欲しい。

### 【評価方法】

事前・事後の学習の態度、実習の参加度を評価する。  
レポートを課す。

### 【テキスト】

スリエーネットワーク『みんなの日本語』

## ことばの発達と障害

二宮 昭

### 【授業の概要】

人間のことばによるコミュニケーション行動に関して、それは一体どのような過程を経て発達してくるのか、また、その障害はどのような場合にどのようなかたちで現れ、それを改善していくにはどういうことが重要であるか、ということを通して、人間にとってことばのもつ意義を考える。

### 【授業計画】

第1～6回 「ことば」の発達

- 1) 原初的コミュニケーションー「ことば」の発達の基盤
- 2) 語と文の発達
- 3) 言語的現実の自覚の発達ー3歳児はなぜしりとりができないのか

第7～12回 「ことば」の障害

- 1) 自閉症児の「ことば」
- 2) 知的障害児の「ことば」
- 3) 脳性まひ児の「ことば」

第13回 試験

### 【評価方法】

各学期末に行う筆記試験による。

### 【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

## ノンバーバル行動

松尾貴司

### 【授業の概要】

ジェスチャー、表情、視線、接触などのヒトのコミュニケーションにおける非言語的なシグナルの諸相について概説し、個々のノンバーバル行動について、発達、因果、機能、進化といった行動学的な視点から論ずる。

### 【授業計画】

- 1) ノンバーバル行動とは
- 2) ノンバーバル行動の研究手法
- 3) ジェスチャーの分類と文化的異変
- 4) 表出としての表情と制御された表情
- 5) 視線の機能と規定因
- 6) パーソナルスペースと空間行動
- 7) ノンバーバルコミュニケーション

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。

### 【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 認知心理学

岩原昭彦

### 【授業の概要】

本講義では、認知心理学の概説を行う。人間がどのように外界の情報を取り入れ、処理するのかに関する心理学的アプローチについて学習する。具体的には、人間の知覚、記憶、学習、思考、言語活動と理解について講義する。

### 【授業計画】

1. 短期記憶
2. 長期記憶
3. 潜在記憶と顕在記憶
4. 符号化・処理・作業記憶
5. 想起と忘却
6. 日常記憶
7. 知識
8. 単語認知と読み
9. 談話認知
10. 理解
11. 発話と思考
12. 言語と意志伝達

### 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 統計学基礎

坂井貞彦

### 【授業の概要】

身近なデータを教材にして、統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会生活にどのように関わっているか、いかに必要であるかについて学習する。

### 【授業計画】

講義方式による。

- 1 統計と統計分析
- 2 日本の統計調査
- 3 代表値、標準偏差、時系列データ
- 4 相関、相関係数
- 5 総合指数、物価指数
- 6 回帰分析
- 7 統計的推測のあらまし

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させ、また小テストを実施した場合は、成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

入門統計学（木下宗七 有斐閣）

## ビジネス英語

蜂須賀幸志

### 【授業の概要】

21世紀、いかにインターネット上の取り引きが主流であっても、ビジネス界で使用される公式社外用ビジネスレター作成並びに社内報メモランダム作成能力の修得は不可欠である。このコースはこうした実践的ビジネス英語の能力養成をゴールとする。

### 【授業計画】

1. 導入：ビジネス英語の特徴
2. ビジネス会議における人々との交流
3. 電話の応答（1）（VIDEO使用）
4. 電話の応答（2）
5. アポイントメントの取り方
6. プレゼンテーション（1）企業紹介（小テスト）
7. プレゼンテーション（2）
8. 製品と販売
9. 企業の方針。決定についての討論
10. 苦情処理
11. 社内メモランダム作成
12. 社外公式レター作成練習
13. 試験

### 【評価方法】

出席状況。小テスト。プレゼンテーション。課題。クラスにたいする貢献等による総合評価

### 【テキスト】

教科書：*Business Venture 2* By Roger Barnard & Jeff Cady, Oxford  
テープ、ビデオ等視聴覚教材

# ビジネス中国語

杜 英起

## 【授業の概要】

本講義は、中国経済と日・中経済交流の全般の紹介から入り、日・中貿易の実務や、中国への投資および中国の金融・為替などを中心に説明する。経済理論よりも対中貿易の実務に力を入れる。具体的には、商談する前の準備事項から商談中の注意事項、また商談の仕方、それに関連する知識、中国の課税状況及び対中貿易に関する一般的な手続きなどを紹介する。

本講義は、中国経済と日・中経済交流の全般に対する紹介から入り、日・中貿易および対中投資の実務に関する知識を紹介しながら、接客、商談、会議、契約、交渉、通関などさまざまなビジネスの場面に応じて、生きた中国語をマスターする。

## 【授業計画】

- 1、電話連絡
- 2、会社の表敬訪問
- 3、輸出入業務の打ち合わせ
- 4、オファー（価格の提示）
- 5、カウンター・オファー  
（値下げなどの価格交渉）
- 6、納期の交渉
- 7、決済について
- 8、商品の包装交渉
- 9、保険条件の交渉
- 10、契約
- 11、クレームと交渉について
- 12、他の貿易形式について
  - A、補償貿易
  - B、委託加工貿易
- 13、日中貿易の相違点について

## 【評価方法】

出席状況や平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に評価する。期末テストは実施しない。

## 【テキスト】

自作教材

## 教職入門

梅村敏郎

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業計画】

- 1 教師像の変遷
- 2 現代の理想的教師像
  - (1) 教科指導者としての教師
  - (2) 特別活動の指導者としての教師
  - (3) 教師とカウンセリング
  - (4) 学級経営者としての教師
  - (5) 教師と校務
  - (6) 共生社会における教師の仕事
- 3 家庭人としての教師
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

### 【評価方法】

筆答試験による。

### 【テキスト】

「教職入門」300円

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教職入門

小木曾通男

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業計画】

1. 東西の優れた教育者を取りあげ、教育とは何か、教育者とは何かを考える契機とする。
2. 近代市民社会の教育需用の増大と教育養成についてイギリス、アメリカにおける教員養成の概要及び日本における教員養成を歴史的に概観する。
3. 社会構造の変化の著しい現代社会における教員への期待について、地域構造、家族構造、職業構造等の変化に伴い教員の役割の変化と多様化・個性化した保護者・生徒の教員への期待と変化への対応を考える。
4. 中学校、高等学校における望ましい教員像とは何かを学級担任、教科担任、部活顧問、進路指導、生徒指導において各人の体験をもとに考えてみたい。
5. 信頼される教員とはどんな教員か、生徒の人間性の尊重とは何か、生徒との望ましいコミュニケーションのあり方を考えてみたい。
6. 21世紀の教育を担う教員の在り方を求め、社会の進歩と変化に対応する不断の研修と教育技術の開発により、常に新鮮な教育を行う努力は教員にとって不可欠であることを理解する。

### 【評価方法】

授業中にテキストに添付した用紙に記載する感想文とレポートによる総合評価とする。

### 【テキスト】

「教職入門」300円

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教師論

佐藤実芳

### 【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

### 【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
  - (1) 戦前の教員養成
  - (2) 戦後教育改革と教員養成
  - (3) 教職課程の仕組
  - (4) 教員の採用
2. 種々な教師に学ぶ
  - (1) 新採用教員の一年
  - (2) エリオット先生の差別体験授業
  - (3) 授業崩壊からの脱出
  - (4) 現職教員の研修
3. 教師物語に学ぶ

### 【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

## 教育原理

佐藤実芳

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. 教育とは何か
3. 人間と教育
  - ・動物学からみた人間の特殊性
  - ・人間の成長と環境
  - ・教育の重要性
  - ・人間形成の場
4. 教育の本質
  - ・注入主義
  - ・開発主義
5. 教育の目的
  - ・教育目的とは
  - ・教育目的の歴史の変遷
6. 現代の教育

### 【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 教育思想史

梅村敏郎

### 【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

### 【授業計画】

- 1 教育思想史を勉強することの意義
- 2 コメニウス
- 3 ルソー
- 4 ベスタロッチ
- 5 フレーベル
- 6 デューイ

### 【評価方法】

評価はリポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の試験による。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

## 欧米教育文化史

江藤恭二

### 【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想
7. 産業革命と教育

### 【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関するVideo教材を用いる。

### 【評価方法】

試験又はレポート。

### 【テキスト】

西洋近代教育史（江藤他編 学文社 2,300円）

# 教育心理学 I

富安玲子

## 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

## 【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
  - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
  - ・生涯発達の視点
  - ・障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
  - ・発達段階と発達課題
  - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
  - ・学習の成立過程
  - ・学習における知識の役割
  - ・学習意欲を育てる
    - 外発的動機づけと内発的動機づけ／
    - 原因帰属をめぐって／知的好奇心の喚起／
    - 報酬の意味／目標のありかた

## 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

# 教育心理学 I

小池理穂

## 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

## 【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
  - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
  - ・生涯発達の視点
  - ・障害の意味と発達可能性
  - ・発達段階と発達課題
  - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
  - ・学習の成立過程
  - ・学習における知識の役割
  - ・学習意欲を育てる
    - 外発的動機づけと内発的動機づけ／原因帰属を
    - めぐって／知的好奇心の喚起／報酬の意味／目
    - 標のありかた

## 【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。



## 教育心理学Ⅱ

富安玲子

### 【授業の概要】

人間を発達可能性をもつ存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野に入れて学んでいく。

### 【授業計画】

- 1 教職課程の中での発達の心理学  
ー発達を心理学を学ぶ／発達を心理学から学ぶー
  - (1)教育の対象者への理解
  - (2)教育対象の理解から自己理解へ
  - (3)発達の可塑性(可変性)の存在と限界
  - (4)青年期の意味
- 2 発達と学習
  - (1)発達を規定する要因
  - (2)成熟と学習
  - (3)発達の個人差
  - (4)発達と教育
- 3 自己意識の発達
  - (1)「自分」の諸相
  - (2)乳児期 「自分でない」世界の認識から
  - (3)幼児前期 第一「反抗」期
  - (4)幼児後期 自我と他我
  - (5)児童期 他律的規範への順応
  - (6)青年期 第二の誕生／アイデンティティの確立
  - (7)成人期以降
- 4 生涯発達の視点と生き方  
ー自分探しの旅と人間関係ー

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 障害児の教育

加藤文子

### 【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特殊教育の現状と課題を認識するとともに、基本的には人間尊重の精神を涵養する。

### 【授業計画】

- 1 心身障害児の理解
  - ・「心身障害児理解のために」VTR視聴(感想文)
  - ・心身障害児と家族の関係 VTR視聴(感想文)
- 2 心身障害児の種類と程度
  - ・心身障害児とは
  - ・学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
  - ・視覚・聴覚・肢体不自由・病虚弱児の障害の程度と発生原因
  - ・知的障害児の障害の程度と発生原因
  - ・言語障害・情緒障害・重度重複障害児の教育的環境
- 3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性
  - ・なぜ早期発見、早期教育が必要か
  - ・社会自立に向けた後期中等教育の現状
- 4 心身障害児の就学指導の仕組み
- 5 心身障害児(者)教育の歴史
  - ・心身障害児(者)教育を開拓した人々
  - ・心身障害児(者)教育の歴史の変遷
- 6 まとめ

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

### 【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

## 教育制度

佐藤実芳

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
  - ・大学の成立
  - ・中等学校の成立
  - ・初等学校の成立
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度
5. 教育法規
  - ・教育法規とは
  - ・日本国憲法
  - ・教育基本法
  - ・学校教育法
  - ・学校教育法施行令
  - ・学校教育法施行規則
  - ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律
  - ・その他
6. 外国の学校教育制度

### 【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 比較教育論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中であって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

### 【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

### 【評価方法】

試験とレポート。

### 【テキスト】

使用せず。（資料配布）

### 【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）  
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）  
多文化教育（中島智子編著 明石書店）  
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）  
外国の教科書と日本（吉沢柳子著 丸善ブックス）  
比較高等教育論（アルトバック著 玉川大学出版部）  
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）  
情報消費型社会と知の構造（中西新太郎 旬報社）  
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）  
教育の比較文化誌（石附実著 玉川大学出版部）  
比較教育学の理論と方法（シュリーバー編著 東信堂）

## 教育課程

小木曾通男

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

### 【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

### 【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)  
高等学校学習指導要領(文部省)

## 教育課程

梅村敏郎

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

### 【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

### 【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)  
高等学校学習指導要領(文部省)

## 教育課程

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史的変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

### 【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

### 【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)  
高等学校学習指導要領(文部省)

## 公民・社会科教育法 I

小林春治

### 【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領(公民科)の構造とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。

「現代社会」の授業においては、中学校社会の公民的分野を発展させて、現実的・具体的問題を取り上げるとともに、高等学校教科書(現代社会)を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 公民科設置の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民としての資質」を育む公民教育について、中学校公民分野との関連にも留意し学習する。
2. 「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3. 「現代社会(公民科)」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

### 【評価方法】

小テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編(文部省 実教出版 予価230円)

現代社会(高等学校教科書 一橋出版 予価580円)

## 公民・社会科教育法Ⅱ

小林春治

### 【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通じて、深い洞察力をそなえた民主的な行動の実践を行える人間の育成をめざす。

「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日の問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2. 生涯学習にも深いかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3. 「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

### 【評価方法】

小テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

### 【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

倫理（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

## 英語科教育法Ⅰ

松本青也

### 【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

### 【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

### 【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

### 【テキスト】

未定。

## 英語科教育法Ⅱ

高橋美由紀

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

### 【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

### 【テキスト】

山岡多美子・高橋美由紀『Sunshine Kids Book 1』開隆堂出版

高橋美由紀・山岡多美子『Sunshine Kids Book 2』開隆堂出版

松本青也他『Sunshine 1・2・3』開隆堂出版

その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

### 【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

## 英語科教育法Ⅲ

島村恭輔

### 【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～3回 授業の組み立て（その1）
- 第4～5回 授業の組み立て（その2）
- 第6～12回 マイクロティーチング

### 【評価方法】

出席状況・作成した教案等の提出物・マイクロティーチング等を総合して評価する。

### 【テキスト】

『Sunshine I』（開隆堂）

『Expressways I』（開隆堂）  
(standard Edition)

## 商業科教育法Ⅰ

大倉芳雄

### 【授業の概要】

平成15年度から実施される高等学校学習指導要領の改定の趣旨とその内容を学習し、変化の時代に対応する商業科教員に必要な基本的な知識と技法を育成し、商業科教員としての自覚を高めることを目標とする。

「ビジネス基礎」「課題研究」「総合実践」の3科目群の授業の具体的な展開について学習する。

### 【授業計画】

- 1 学習指導要領と商業教育
  - (1) 商業教育の歴史
  - (2) 学習指導要領の性格及び構成
  - (3) 商業の目標・組織・学科
- 2 教育課程の編成
- 3 指導計画の作成と内容の取扱い  
年間指導計画・学習指導案の作成
- 4 各科目の内容とねらい  
「ビジネス基礎」  
「課題研究」  
「総合実践」
- 5 授業の具体的展開  
教材作成、AV機器の利用、学習評価  
副教材の活用

### 【評価方法】

出席状況と課題の提出、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 商業編（文部省編 実教出版）

## 商業科教育法Ⅱ

大倉芳雄

### 【授業の概要】

商業科教育も国際化、情報化、サービス経済化の進展に対応し、大きくその内容が変化してきた現実をふまえた科目群の教育目標とその具体的な展開について学習し、教科指導に必要な知識、技能の育成を目指す。

「商品と流通」「商業技術」「マーケティング」「英語実務」「経済活動と法」「ビジネス情報」「国際ビジネス」「簿記」「会計」「原価計算」「会計実務」「情報処理」「文書デザイン」「プログラミング」の科目群について情報機器を用いて実践的な指導法を学習する。

### 【授業計画】

- 1 学習指導と評価
  - (1) 学習指導の一般原則
  - (2) 学習指導の形態と方法
  - (3) 商業教科の評価
- 2 各科目の内容とねらい  
流通ビジネス科目群 「商品と流通」「商業技術」「マーケティング」  
国際経済科目群 「英語実務」「経済活動と法」「国際ビジネス」  
簿記会計科目群 「簿記」「会計」「原価計算」「会計実務」  
経営情報科目群 「情報処理」「ビジネス情報」「文書デザイン」「プログラミング」
- 3 資格取得指導の現状と課題
- 4 商業高校における進路指導の視点  
進学・就職
- 5 商業教育の将来

### 【評価方法】

出席状況、課題提出、単位認定試験の成績など総合的に評価する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 商業編（文部省編 実教出版）

## 道徳指導法

加藤文子

### 【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
  - ・ 明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
  - ・ 戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
  - ・ 道徳教育の目標
  - ・ 道徳教育の内容
  - ・ 「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
  - ・ 「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
  - ・ まとめ

### 【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する。

## 特別活動指導法

小林春治

### 【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

### 【授業計画】

1. 教育課程の位置と目標  
特別活動は、各教科、道徳とともに教育課程を構成する領域の一つであり、これらそれぞれの充実と相まって、中学校・高等学校の教育目標を達成することができることを学習する。
2. 戦後の教育状況と教育改革  
敗戦直後の教育状況と教育基本法・学校教育法の施行（六・三・三制の実施）にいたる大要を、GHQのとった教育政策にも注目しながら学習する。
3. 特別活動の変遷  
特別活動の変遷を中学校・高等学校の学習指導要領を通して論じ、その社会的背景についても具体的な資料に基づいて学習する。また、平成12年度から移行措置がとられている新しい学習指導要領にも言及する。
4. 特別活動の基本となる指導法  
中学校の学級活動、高等学校のホームルーム活動が、生徒会活動、学校行事などと相互に関連していることの学習を通して、これらの集団生活の在り方、心身ともに健康で安全な生活習慣の形成などを基本にした指導法を、現状にも注目しながら考察する。

### 【評価方法】

期末試験の成績とレポートの評価及び出席率を総合する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 特別活動編  
（文部省 東山書房 予価130円）  
特別活動指導法 資料編  
（小林春治著 三祐堂 250円）



## 特別活動指導法

不破民由

### 【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

### 【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
2. 特別活動の歴史の変遷
3. 学級活動
4. 生徒会活動
5. 学校行事
  - (1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事

以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

### 【評価方法】

数回のレポート

### 【テキスト】

北杜夫『どくとるマンボウ青春記』（新潮文庫）  
『特別活動への誘い』

### 【参考文献・資料】

高旗正人・倉田侃司編著『特別活動』（ミネルヴァ書房） 等

## 学級経営

前田勝洋

### 【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

### 【授業計画】

小学校・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていききたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
  - (2) 生徒理解と学級担任の役割
  - (3) 共感的学級経営の実践
  - (4) 成就型教育観と参加型教育観
  - (5) 学級担任と言葉の問題
  - (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営
- 以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

### 【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 教育方法

霜田一敏

### 【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

### 【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
  - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
  - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
  - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
  - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
  - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
  - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
  - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
  - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
  - (2) 中学校における個を生かす学習集団
  - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

### 【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

### 【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著 明治図書 2,370円）

## 生徒指導（進路指導を含む）

加納篤憲

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業計画】

1. 生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

  - (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
  - (2) 青少年非行と矯正教育
  - (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
  - (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点
2. 進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

  - (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
  - (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
  - (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
  - (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

### 【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

### 【テキスト】

生徒指導講義ノート（小木曾通男編 250円）  
自作プリント教材

## 生徒指導（進路指導を含む）

小林春治

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業計画】

#### 1. 生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

- ① 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
- ② 青少年非行と矯正教育
- ③ 中学校における生徒指導の在り方と留意点
- ④ 高等学校における生徒指導の在り方と留意点

#### 2. 進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

- ① 進路指導における教員の在り方と留意点
- ② 進路に関する情報伝達と進路相談
- ③ 中学校における進路指導の在り方と留意点
- ④ 高等学校における進路指導の在り方と留意点

### 【評価方法】

期末試験の成績と小テスト、レポートの評価及び出席率を総合する。

### 【テキスト】

生徒指導講義ノート（小木曾通男編 250円）

## 生徒指導（進路指導を含む）

不破民由

### 【授業の概要】

生徒指導を生徒の管理監督、青少年非行の防止といった消極的な視点からとらえるのではなく、21世紀に生きる生徒の健全な育成を目指す。進路指導においては、その理念及び目的を、具体的に学習する。こうした学習をとおして生徒に接する教員の在り方及び人間観についても具体的に指導する。

### 【授業計画】

1. 生徒指導の歴史の変遷
2. 生徒指導の国際比較（イギリスを中心に）
3. 生徒指導の難しさと喜び
4. 教育相談
5. 「生き方」指導としての進路指導  
等

### 【評価方法】

数回のレポート

### 【テキスト】

佐野眞一『遠い「山びこ」』（文春文庫）  
『生徒指導論の試み』

### 【参考文献・資料】

- 広田照幸『教員言説の歴史社会学』（名古屋大学出版会）  
森嶋通夫『イギリスと日本』（岩波新書）  
P. ウィルス『ハマータウンの野郎ども』（ちくま学芸文庫）  
P. アリエス『<子ども>の誕生』（みすず書房）  
本多和子『異文化としての子ども』（ちくま学芸文庫）  
J.-J. ルソー『エミール』（岩波新書）  
H. スペンサー『知育・徳育・体育』（明治図書）  
天野正輝編『生徒指導・進路指導』（協同出版）  
等

## 教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

### 【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
  - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
  - ・教師－生徒の相互影響過程
  - ・生徒理解
3. 教育相談
  - ・学校における教育相談
    - 教育相談の位置づけ/相談担当と学級担任の役割/教育相談における人間関係の確立/教育相談の形態と場面構成/教育相談の特質
  - ・教育相談の進め方
    - カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
  - ・適応と不応
  - ・問題行動のとらえ方とその対応
  - ・学校への不応を考える
  - ・非行・いじめを考える

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## カウンセリング

富安玲子

### 【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解するために試行カウンセリングを行い、傾聴の際の学生が陥りやすいタイプを学ばせたい。従来、ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が過重に置かれすぎてきたように思われるので、自己一致の重要性を伝えていきたい。

### 【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングにおける人間理解
  - ・カウンセリングの歴史
  - ・カウンセリングの人間観
  - ・カウンセリングの理論
3. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
4. 「聴く」練習－ロールプレイヤー
5. カウンセリングの実例
6. 応答訓練
7. ミニ試行カウンセリング
8. カウンセリングにおける諸問題
  - －試行カウンセリング/ロールプレイのまとめから考える－

### 【評価方法】

期末提出の課題レポートとロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 総合演習

小木曾通男 梅村敏郎 富安玲子 佐藤実芳  
加藤文子 霜田一敏 渡辺かよ子

### 【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) いじめ問題 (梅村敏郎)
- (2) 福祉－障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて－ (加藤文子)
- (3) 国際化を考える (小木曾通男)
- (4) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (5) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (6) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (7) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)

### 【授業計画】

※印は後期日程 (於 星ヶ丘)

1. 全体、各テーマ別 7月30日 ※1月28日
  - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
  - (2) 各テーマの概要説明 (各担当者)
  - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
  - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 9月5日 ※2月27日  
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月12日 ※3月5日
  - (1) 課題レポートについて報告 (1人10～15分)
  - (2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月19日 ※3月12日
  - (1) 問題点について分析検討
  - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月26日 ※3月19日
  - (1) グループ代表者の発表 (1名15～20分)
  - (2) 担当教員の指導
  - (3) 感想文の作成と提出

### 【評価方法】

レポートと感想文により評価

## 教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

加藤文子

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
  - ・前年度実習者からのアンケート結果
  - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
  - ・教育実習の領域
  - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
  - ・実習記録の意義
  - ・実習記録の方法
- 4 授業研究
  - ・教材研究、教具の意義
  - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
  - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
  - ・特殊教育諸学校教育の理解
  - ・障害児(者)介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめ、アンケート実施

### 【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果 (実習・体験評価を参考) により総合的に評価する。

### 【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」(全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社) 使用。

## 教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

小木曾通男

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊敬、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業計画】

#### 1 教育実習の意義と目的

- ・前年度実習者からのアンケート結果
- ・「先輩からの一言」

#### 2 教育実習の内容と方法

- ・教育実習の領域
- ・教育実習の方法

#### 3 教育実習記録

- ・実習記録の意義
- ・実習記録の方法

#### 4 授業研究

- ・教材研究、教具の意義
- ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法

#### 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導

#### 6 介護体験事前指導

- ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
- ・特殊教育諸学校教育の理解
- ・障害児（者）介護への心構え

#### 7 介護体験事後指導

#### 8 まとめ、アンケート実施

### 【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

### 【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

## 教育実習Ⅰ

加藤文子

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

#### （1）学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。

また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。

#### （2）教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。

後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

#### （3）特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

### 【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

## 教育実習Ⅱ

小木曾通男

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

## 生涯学習概論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的・水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

### 【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状（先進国、発展途上国、日本）
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

### 【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

### 【テキスト】

生涯発達と生涯学習（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

### 【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論（小林文人・末本誠編 国土社）
- 苦悩する先進国の生涯学習（黒沢唯昭他編 社会評論社）
- 生涯教育（ジェルピ 東京創元社）
- 被抑圧者の教育学（フレイレ 亜紀書房）
- 国際成人教育論（ポーラ 東信堂）
- 高齢者教育論（松井政明他編 東信堂）
- 「わざ」から知る（生田久美子 東京大学出版会）
- 学びの復権（辻本雅史 角川書店）
- 学問のすすめ（福沢諭吉 岩波文庫）
- 水と原生林のはざままで（シュヴァイツェル 岩波書店）
- 大学改革と生涯学習（宮坂広作 明石書店）
- 消費社会の神話と構造（ボードリヤール 紀伊国屋書店）
- ハマータウンの野郎ども（ウィリス ちくま文芸文庫）

## 国際理解教育論

小木曾通男

### 【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
  - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
  - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
  - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
  - (1) 教科教育における国際理解教育
  - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
  - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
  - (4) 外国人英語教員の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。  
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

### 【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

### 【テキスト】

国際理解教育論講義概要 (300円)

### 【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

## 読書指導

梅田卓夫

### 【授業の概要】

今日の中高校生は全くという程本を読まないといわれている。この実態を解明するために、本好きになった要因や本嫌いになった要因をまず明らかにしたい。そこで漫画本や少女小説が読書好きにさせるかなど具体的な問題も取り上げたい。本講義は、読書指導法の講義ばかりでなく、受講者自身が読書好きになるような参加型授業にしたい。特に学校内における制約のない読書の時間、「黙読の時間」や「自由選択読書の時間」などの実例を取り上げ、その実体と教育的な意義を論究する。

### 【授業計画】

1. 読書のよろこび  
人はどのようにして読書の楽しみと出会うか  
先人たちの例、受講者自身の場合
2. 人間形成と読書  
読み聞かせの意味——幼児期の精神形成との関わり  
黙読の意味——読書の本質。内言語・内省・思索の能力と読書  
学校の中の読書指導——「読み聞かせ」「10分間読書」「朝の黙読」などの実践例  
他人による助言——家庭、学校、図書館、読書の友  
読書サークル
3. 読書の技術  
情報化時代の読書——探す・調べる・読む・考える  
本を読む生活——愛読書、「書物の敵」
4. 文化史の中の書物  
古代アレキサンドリア大図書館から今日まで「英知の容れ物」に関わった人間の営み

### 【評価方法】

授業の中で与えるテーマに沿っての発表、および期末試験、によって行う

### 【テキスト】

本の歴史 (B. プラセル著、荒俣宏監修、木村恵一訳 創元社)

ほかに適宜プリントを配布する



## 学校経営と学校図書館

小木曾通男

### 【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

### 【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
  - (1) 生徒の利用時間の設定
  - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
  - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
  - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気のある学校図書館
  - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
  - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
  - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
  - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館だより
  - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
  - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
  - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
  - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

### 【評価方法】

出席状況及び課題による。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 学校図書館メディアの構成

中村和夫

### 【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
  - (1) 現在の学校図書館メディア構成の実態分析
  - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
  - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
  - (1) 教養中心から教科学習に必要な資料の収集
  - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
  - (3) 「情報」「オーラル英語」等の新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
  - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
  - (2) CD-ROM、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
4. 学校図書館メディアの組織化
  - (1) 分類の意義と分類作業の基本
  - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

### 【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

### 【テキスト】

使用しない。

## 学習指導と学校図書館

加納篤憲

### 【授業の概要】

学校図書館は、児童生徒の豊かな人間性の育成に貢献することが必要であるのは論をまたないところであるが、同時に、学校における学習指導に深くかかわるものであることを看過してはならない。学習指導に効果的な学校図書館のあり方やその活用方法について、教育実践例に基づいて、次の視点に立って学習する。

### 【授業計画】

1. 学習活動を促進する学校図書館
  - (1) 利用しやすい本や資料の配架の工夫
  - (2) 教科・科目別の配架、コーナーの設定
  - (3) 教科・科目に関係のある本や資料の充実
2. 学習指導と学校図書館の利用
  - (1) 各教科・科目の課題学習と学校図書館の利用
  - (2) 学校図書館を利用した共同研究・グループ研究
3. 各教科・科目の学習指導
  - (1) 学校図書館を利用する各教科・科目の課題学習
  - (2) 学校図書館を利用する各教科・科目の予習課題
4. 新設された「情報」の学習指導
  - (1) 「情報」における学校図書館の活用方法
5. 新設された「総合的な学習の時間」
  - (1) 「総合的な学習の時間」における学校図書館の役割
  - (2) 学校図書館を利用した「総合的な学習の時間」におけるテーマ別学習、課題学習、グループ学習の展開

### 【評価方法】

試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

### 【テキスト】

自作プリント

## 読書と豊かな人間性

梅田卓夫

### 【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

### 【授業計画】

1. 読書のよこび
  - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
  - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
  - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
  - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
  - (2) 少年期の決定的・運命的な読書との出会い
  - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
  - (1) 教員による本の紹介、読み聞かせ
  - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
  - (1) 家庭での読書についての親子の対話
  - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
  - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
  - (1) 情報化時代の読書のあり方
  - (2) 愛読書、好きな作家

### 【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

# 情報メディアの活用

東浦信博

## 【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

## 【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
  - (1)学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
  - (2)学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
  - (1)図書検索とコンピュータ (OPAC)
  - (2)インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
  - (1)視覚メディアとしてのVTR等
  - (2)聴覚メディアとしてのDVD、CD等
  - (3)活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

## 【評価方法】

出席状況及び試験による。

## 【テキスト】

使用しない。

## 生涯学習概論

古野有隣

### 【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～  
ユネスコ以降わが国における推移  
生涯教育のめざすもの  
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係  
生涯教育と社会教育  
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態  
行政社会教育の主要領域  
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望  
生涯学習関連施設の範囲  
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者  
生涯学習指導者の範囲  
生涯学習指導者の役割

### 【授業計画】

講義。

### 【評価方法】

テスト。

### 【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

## 図書館情報学概論 I

村主朋英

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

### 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学／情報学／図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源／指定図書
2. 情報の流過程  
情報の流れ／情報メディア  
事例：学術情報の流過程
3. 情報の概念  
概念・考え方・観点・立場  
定義の多様性と現象の多面性  
情報概念の歴史／情報・知識・データ  
定義の整理のための枠組み／構造的な理解  
認識・認知・こころ／人間・人・ヒト

### 【評価方法】

定期試験

- 注1) 「図書館情報学概論 I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論 I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

### 【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編 丸善 3,800円（税別定価）

## 図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの世界  
構成要素と機能／情報システムとしての図書館
2. 館種ごとの概説  
国立図書館／大学図書館／公共図書館／学校図書館／専門図書館
3. 協力と競合  
図書館ネットワーク／  
競合する情報サービスの中で／電子図書館の概念
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の将来

### 【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

### 【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編 丸善 3,800円(税別定価)

## 図書館経営論

山本 進

### 【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業計画】

- |                                |    |
|--------------------------------|----|
| 0,オリエンテーション・図書館の経営論の意義         | 1回 |
| 1,図書館館種別の経営上の問題点と管理原則          | 1回 |
| 2,図書館学の五法則と図書館員の関わり            | 1回 |
| 3,図書館の自由に関する宣言                 | 2回 |
| 4,図書館員の倫理綱領                    | 2回 |
| 5,図書館員と労働基準法解説                 | 1回 |
| 6,図書館関係法規と図書館のサービス基準解説         | 1回 |
| 7,図書館サービスの測定と評価(実例課題によるレポート提出) | 1回 |
| 8,図書館計画の立案と実例解説                | 2回 |
| 9,生涯学習と図書館及び利用者教育              | 2回 |
| ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出       | 2回 |

### 【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

### 【テキスト】

講義シラバスを配付する。

## 情報サービス基礎論 I

逸村 裕

### 【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、現代社会において特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

### 【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
  2. 情報産業の概況
  3. 産業と職業における情報の意味
  4. 情報産業とIT化
  5. 情報サービス事例1：ソフトウェア産業
  6. 情報サービス事例2：メディア産業
  7. 情報サービス事例2：通信産業
  8. 情報サービス事例2：出版産業
  9. 情報サービス事例3：図書館情報
  10. 情報サービス事例4：マルチメディアリソース
  11. 情報サービス事例5：情報分析・シンクタンク
  12. 情報産業におけるキャリアパターン
  13. 情報産業における勤労観と職業倫理
- 講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと。

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。  
詳細は初回講義の際に説明する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 情報サービス基礎論 II

逸村 裕

### 【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕－直接サービス）
  - A. 貸出閲覧
  - B. レファレンスサービス
  - C. 相互協力
  - D. 視聴覚資料
  - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織－間接サービス）
  - A. 選書
  - B. 収書
  - C. 整理
  - D. 雑誌
  - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
  - A. 蔵書
  - B. 人的サービス
  - C. その他のサービス

### 【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

### 【テキスト】

使用せず。

## レファレンスサービス論

杉江典子

### 【授業の概要】

図書館で実施されるレファレンスサービスについて、その意義とサービス内容を理解することを目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

### 【テキスト】

レファレンスサービス—図書館における情報サービス  
(長澤雅男 丸善 2,369円)

## レファレンスメディア論

杉江典子

### 【授業の概要】

レファレンス質問の回答に利用される情報源にはどのようなものがあるのか、それぞれの情報源にはどのような特徴があるのか、を理解することを目的とする。講義を中心に進めるが、講義で学んだ知識を生かして演習課題を解き、具体的な探索方法についても学ぶ。

### 【テキスト】

情報と文献の探索 第3版 (長澤雅男 丸善 3,296円)

## 情報検索演習Ⅱ

伊藤真理

### 【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術論文の検索
  - 2.1 インターネット検索
  - 2.2 CD-ROM検索
3. オンライン情報検索システム
  - 3.1 JOIS
  - 3.2 DIALOG
4. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ

松井美紀

### 【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

なお、情報検索演習Ⅰと図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。ただし、他級聴講者は図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱのみでも構わない。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. CD-ROMでの検索
3. オンライン情報検索システム
  - 3.1 JOIS
  - 3.2 DIALOG
4. テーマ検索

### 【評価方法】

小テストおよび小レポートと、テーマ検索のレポート。以上を総合評価する。

### 【テキスト】

使用せず（プリントを配布）。



## 情報メディア基礎論 I・II

菅野育子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

なし。

## 情報メディア論IV (人文社会情報メディア)

菅野育子

### 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

### 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - 3.1 美術分野
  - 3.2 音楽分野
  - 3.3 文学
  - 3.4 ビジネス分野
  - 3.5 法律分野
  - 3.6 心理学
  - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

### 【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 情報メディア論V (科学技術情報メディア)

山崎茂明

### 【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生息
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オープンアクセスからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

### 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関する資料を随時配付する。

### 【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

### 【テキスト】

山崎茂明『論文投稿のインフォマティクス』中外医学社

### 【参考文献・資料】

- Lambert, J. 『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会  
Thompson, J.W. 『出版産業の起源と発達』出版同人  
中山茂 『歴史としての学問』中央公論社  
山崎茂明 『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社  
山崎茂明 『医学文献サーチガイド 第2版』日本医書出版協会  
根岸正光・山崎茂明 『研究評価』丸善

## 資料組織論

伊藤真理

### 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス  
資料の組織化；資料組織業務の位置づけ
- 第2回 目録について
- 第3回 書誌コントロール  
書誌ユーティリティ
- 第4回 目録規則の標準化、統一
- 第5回 記述目録と主題目録  
記述目録（1）AACR 2 r、NCR
- 第6回 記述目録（2）アクセス・ポイントの選定；標目形
- 第7回 記述目録（3）典拠コントロール
- 第8回 主題目録（1）分類法
- 第9回 主題目録（2）分類法
- 第10回 主題目録（3）件名標目表
- 第11回 MARC
- 第12回 インターネット情報資源の記述

### 【評価方法】

平常点、期末試験

### 【テキスト】

初回時にテキスト配布。

## 資料組織演習

岡澤和世 伊藤真理

### 【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。主題目録法では日本十進分類法や基本件名標目表などを取り上げ、記述目録については、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法  
分類：NDC  
主題件名標目表：BSH
- ・記述目録法  
ISBD  
アクセス・ポイント  
標目形
- ・MARCについて

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

### 【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

## 図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

福永智子

### 【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスの現状について検討する。とりわけ、学校図書館のサービスに重点を置いて解説する。

### 【授業計画】

1. 公立図書館の児童サービス
  - (1) 児童サービスの法的基盤
  - (2) 児童図書館員の役割と専門性
  - (3) サービス対象としての児童：読書興味の発達段階
  - (4) 児童用資料の特性とコレクション構築の実際
  - (5) 児童サービスの企画と運営、施設・設備
  - (6) 周辺領域：子ども文庫活動、ブックスタート活動
2. 学校図書館と情報活用能力の育成
  - (7) 戦後教育改革と学校図書館の制度化
  - (8) 1997年の学校図書館法改正と「人」の問題
  - (9) 情報センター、学習センター、読書センター機能
  - (10) 学校図書館における図書館利用教育のガイドライン
3. 公立図書館と学校図書館の協力体制
  - (11) 異館種間ネットワーク構築の原理
  - (12) 地方自治体における先進事例の紹介
4. 試験 (1.~13.)

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって、総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

- 児童サービス論（堀川照代編著 日本図書館協会）
- 児童サービス論（佐藤涼子編 教育史料出版会）
- 学校図書館論 補訂版（塩見昇編 教育史料出版会）

## 情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。古代から、ルネサンス期までを対象とし、IVに引き継ぐ。

### 【授業計画】

#### 0. オリエンテーション

歴史を学ぶ意義／情報化社会論と情報史

1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける革新
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命
5. 学術情報流通システムの成立

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

## 情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅲに続き、近代および現代を対象とする。

### 【授業計画】

#### 1. 図書館の世紀

近代公共図書館／国立図書館の確立／図書館界の成立／書誌の発達

2. 図書館学とドキュメンテーション
3. 情報技術の起源
4. 情報検索サービスの成立
5. 情報学の成立
6. 情報史の現在
7. 理想の情報検索システムを求めて  
Vannevar BushとMemex構想をもとに

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

## 個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

### 【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかを検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

### 【授業計画】

1. 短期記憶
2. 長期記憶
3. 潜在記憶と顕在記憶
4. 符号化・処理・作業記憶
5. 想起と忘却
6. 日常記憶
7. 知識
8. 談話認知
9. 単語認知と読み
10. 理解
11. 発話と思考
12. 言語と意志伝達

### 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

三和義秀

### 【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信（ネットワーク）技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質の問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

### 【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質の問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

### 【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

## 博物館概論

長谷川銹治

### 【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の出発Ⅰ…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の出発Ⅱ…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみずえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
  - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
  - ・幕末から明治期にかけての博物館の出発
  - ・国威の宣揚と博物館
  - ・通俗教育による教化と博物館
  - ・十五年戦争と博物館
  - ・戦後の再出発

### 【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

## 博物館概論

早川正一

### 【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

### 【授業計画】

- 博物館や美術館の基本概念と必要性
- 専門職員としての「学芸員」とは何か
- 博物館と美術館の発達とその時代背景
- 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
- 博物館の分類と現代性
- 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
- 博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川銹治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

## 博物館学各論 I

長谷川銹治

### 【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネージメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

### 【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

## 博物館学各論 I

早川正一

### 【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

### 【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。  
博物館や美術館の展示と陳列構造  
博物館がとり扱う資料の収集と保存  
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究  
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育  
文化財の種類と保護にかかわる諸問題  
生涯学習の必要性と博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川銹治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

## 博物館学各論Ⅱ

長谷川銑治

### 【授業の概要】

博物館は「もの」による生涯学習の機関である。そこで、博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考えるとともに、文化財の保護についても考察してみる。

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考え、一次資料、二次資料の具体的な内容を知る。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
  - 1 資料の収集
  - 2 資料の取扱い
    - ・掛軸
    - ・古文書
    - ・和装本
    - ・やきもの
    - ・茶碗
    - ・瓦など
  - 3 資料の整理・保存
  - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際と今後の方向を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表などについて考えていく。
- オ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状、実態、問題点などについて考察する。  
あわせて世界遺産についても考えてみる。

### 【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義し、実技も行う。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

## 博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

### 【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

### 【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
  2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
  3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
  4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
  5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
  6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
  7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
- また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

### 【評価方法】

実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。



## 博物館学各論Ⅱ

松村冬樹

### 【授業の概要】

「資料」をもたない博物館はあり得ない。では、「モノ」をもっていれば博物館といえるだろうか？「モノ」と「資料」はどう違うのだろうか？

この講座では、「博物館資料」の考え方にはじまり、資料取扱の基本までを、実習を中心に学習する。

### 【授業計画】

かび臭い貴重品という「博物館資料」のイメージをくつがえし、博物館や美術館見学時に役立つ基本知識や心構えを修得する。

- ア 資料とはなにか
- イ 博物館と資料
- ウ 収集の方法
- エ 資料の取扱（理論と実際）
- オ 整理と分類（観察とドキュメンテーション）
- カ 調査と研究
- キ 保管と保全
- ク 管理と活用
- ケ 資料情報の公開
- コ 資料と学芸員

### 【評価方法】

実際の美術品を用いた実習が主体となるので、出席は重視する。

基礎的知識の修得度と、文化財取扱に対する心構え（適性）を評価する。

### 【テキスト】

『博物館学概説』（長谷川鏑治 戸谷印刷 青本）。  
随時プリントを配布する。

## 博物館実習

長谷川鏑治

### 【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、人文系博物館に例をとり、講義、展示演習、博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

ア 展示論……展示とは何かからはじめて、展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
  - ・動線 ・視線
  - ・照明
  - ・温度 ・湿度
- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあつて、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。

ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。

エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。

オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ現地で学習する。

カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

### 【授業計画】

授業概要の展開順にそつて講義・実習・見学をすすめる。

### 【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・実習にあたってはすすんで学習する姿勢で臨む。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川鏑治 戸谷印刷）

## 博物館実習

秋元悦子

### 【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

### 【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

### 【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川銹治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

## 博物館実習

川合剛

### 【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とを結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

### 【授業計画】

「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。

- (a) 展示とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の構成要素
- (d) 展示と資料保全
- (e) 着想から実施まで
- (f) 解説の方法と印刷物
- (g) まとめ

- \* 1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
- \* 2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
- \* 3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。  
\* 2、\* 3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

### 【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、(時間内)小テストの結果などにより評価する。

### 【テキスト】

『博物館学概論』（長谷川銹治 戸谷印刷）。

### 【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

## 生涯学習概論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

### 【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状（先進国、発展途上国、日本）
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

### 【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

### 【テキスト】

生涯発達と生涯学習（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

### 【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論（小林文人・末本誠編 国土社）
- 苦悩する先進国の生涯学習（黒沢唯昭他編 社会評論社）
- 生涯教育（ジェルビ 東京創元社）
- 被抑圧者の教育学（フレイレ 亜紀書房）
- 国際成人教育論（ポーラ 東信堂）
- 高齢者教育論（松井政明他編 東信堂）
- 「わざ」から知る（生田久美子 東京大学出版会）
- 学びの復権（辻本雅史 角川書店）
- 学問のすすめ（福沢諭吉 岩波文庫）
- 水と原生林のはざままで（シュヴァイツェル 岩波書店）
- 大学改革と生涯学習（宮坂広作 明石書店）
- 消費社会の神話と構造（ボードリヤール 紀伊国屋書店）
- ハマータウンの野郎ども（ウィリス ちくま文芸文庫）

## 視聴覚教育メディア論

東浦信博

### 【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

### 【授業計画】

- 1. 視聴覚教育の意義と効果
- 2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
- 3. 視聴覚教育メディア各論  
領域と種類  
録音メディア（レコード・テープ・CD等）  
映像メディア1（スライド・OHP等）  
映像メディア2（映画・ビデオ等）  
マルチメディアと情報ネットワーク  
講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

### 【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

### 【テキスト】

視聴覚メディアと教育（樹村房 ¥1,800+税）

## 教育学概論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

現代世界は南北問題、環境問題、人権問題など多くの問題を抱えている。教育問題はこれらの問題の一つであると同時に、またこれらの社会問題の解決方法として希望を託されているのも教育である。あるべき教育とはどういう教育なのだろうか。またなぜこれほどあるべき教育が語られるのに教育問題は解決しないのだろうか。本講義はこれらの問いを教育と社会との連関から考察する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 教育学の課題と方法
3. 教育の歴史：近代以前
4. 教育の歴史：近代以後（学校を中心とする教育）
5. 教育制度：各国の教育制度
6. 教育内容・教育課程
7. 教育方法とその工夫
8. 家庭教育：家庭における社会化の意義
9. 社会教育・生涯学習
10. 学校の経営管理および教師
11. 人権としての教育：人権としての教育の意義と家庭・教師の役割。
12. 総括

### 【評価方法】

レポートと試験

### 【テキスト】

天野郁夫編『教育への問い』東京大学出版会1997年

### 【参考文献・資料】

必要な参考図書は授業中に紹介する。

## 民俗学

谷沢 明

### 【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

# 日本美術史

神谷 浩

## 【授業の概要】

日本美術史の中で、海外に最も親しまれている浮世絵に注目し、通史的に論じながら、その魅力と特質について考えます。

講義では、毎回豊富なスライドを用いて作品を鑑賞します。学芸員にとって最も重要な能力、自分の目で見て価値を見出し、それを自分の言葉で表現できること、これができるようになることをめざします。

## 【授業計画】

- 1 ガイダンス 授業のすすめ方、浮世絵の基礎
- 2 ガイダンスII 浮世絵の基礎
- 3 風俗画から浮世絵の成立・浮世絵師1 菱川師宣ら
- 4 浮世絵師2 春信 錦絵の誕生
- 5 浮世絵師3 歌麿 女性を描く名手の真実
- 6 浮世絵師4 写楽 新しい役者絵 日本よりも海外で最初に評価されたのはなぜか
- 7 浮世絵師5 北斎 風景画の誕生。北斎芸術の本質。世界で最も有名な絵画作品は「モナリザ」か北斎の「大波」か。
- 8 浮世絵師6 広重 抒情の世界。北斎との違いは。
- 9 浮世絵師7 美人画さまざま 栄之、清長ら
- 10 浮世絵師8 役者絵さまざま
- 11 浮世絵師9 幕末浮世絵 再評価すべき国芳ら
- 12 浮世絵師10 明治の浮世絵 終焉と新たな出発
- 13 浮世絵のまとめ
- 14 美術の見方 枠にとらわれず、自分の目で作品を見るにはどうするのか。自分の見方の発見について考える。

## 【評価方法】

授業中に扱った作品の解説を求めるレポートを提出。自分の目で作品を鑑賞し、それを自分の言葉で表現できるかによって評価します。

## 【テキスト】

カラー版 浮世絵の歴史 (美術出版社 小林忠監修)

# 日本考古学概論

柴垣勇夫

## 【授業の概要】

考古学は、遺跡・遺物をもとに人間の営んできた歴史を明らかにする学問である。その研究方法には、層位学や型式学、分類学などの科学的方法論がとられ、人文科学の中でもとりわけ自然科学との結びつきが強い学問でもある。そうした学問の基本を学び、考古学が明らかにしてきた日本の歴史の一面を把握する。特に、全国各地で行われている遺跡の発掘調査によって、知られるようになった最近の新しい遺構、遺物を紹介し、学際的な研究の進展を学ぶ。また遺跡調査への関心を高め、文化財の保護という現代的課題についても考える。現代に生きる我々がどういふ社会を築くかを、歴史の中から学ぶ際に、考古学の果たす役割と受け継ぐべき文化遺産の重要性を認識する。

まず、考古学の研究方法を学び、世界の考古学研究の発展過程を眺める。次に日本の旧石器時代から近世に至る、日本考古学の研究成果を把握する。なかでも原始・古代遺跡における最近の新発見や社会構造の捉え方の変化、中世から近世の城館や都市遺跡の発掘調査から判明してきた当時の生活様式などに理解を深める。また日本考古学の研究対象が近世・近代にまで広がっていることを認識するとともに、遺跡や遺物の文化財としての保存の必要性和その活用方法についても考える。

## 【授業計画】

各時代毎の解説の後、スライド・OHPなどにより視覚的に確認し、次の時代に進む。新聞記事等最近のニュースも逐次取り入れる。旧石器時代から近世の江戸時代まで12章にて構成する。

## 【評価方法】

講義内容から出題するテスト。集中授業での欠席1/3を越えたものは受験資格を失うこととする。

## 【テキスト】

印刷物をテキストとして配布する。

## Practical English 1 G

間瀬欣英 今井加寿 村上洋子 鈴木哲至  
山田豊 山田久美子 天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。積極的に授業に参加してもらいたい。

### 【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

#### \* 文法、ヒアリング中心の授業 (週1回)

月曜日1限：間瀬先生、村上先生

火曜日1限：山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

#### \* リーディング中心の授業 (週1回)

水曜日1限：山田豊先生、太田晶子先生、今井先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 今井先生

月曜日1限 村上先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

(先生の組み合わせは決まっているが履修上、それを選択することはできない。)

テキストは、半期、各1冊、使用する。

### 【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生：定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価。

村上先生：出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数化して評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生：出席状況、定期試験により総合的に評価する。

天野先生：出席、ハーフテストスコア、定期試験による。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%

### 【テキスト】

- ・K.Hashimoto, M.Yamauchi, K.Keane *Build Up Your TOEIC Vocabulary: A Basic Course* 松柏社、¥1,700
- ・石井隆之、宮野智晴「TOEICテストリーディング基礎演習」英宝社、¥1,600

## Practical English 1 H

間瀬欣英 今井加寿 村上洋子 鈴木哲至  
山田豊 山田久美子 天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。前期に履修した学生も、また新しい気持ちで後期も引き続き授業をうけてもらいたい。後期から履修する学生にも対応できるテキストを使用しているの、積極的に授業に参加してもらいたい。

### 【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

#### \* 文法、ヒアリング中心の授業 (週1回)

月曜日1限：間瀬先生、村上先生

火曜日1限：山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

#### \* リーディング中心の授業 (週1回)

水曜日1限：山田豊先生、太田晶子先生、今井先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 今井先生

月曜日1限 村上先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

テキストは、半期、各1冊、使用する。

(先生の組み合わせは決まっているが、履修上、それを選択することはできない。)

### 【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生：定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価。

村上先生：出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生：出席状況、定期試験により総合的に評価する。

天野先生：出席、ハーフテストスコア、定期試験による。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%

### 【テキスト】

- ・M.Aoki, *Communication in the Real World: Tasks for TOEIC Test Preparation* 成美堂 ¥1,900
- ・仙福健治、Evan Thomas、「TOEICテストリスニング基礎演習」英宝社 ¥1,600

## Practical English 2 G

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至  
野口朋香 今井加寿 松本一喜

### 【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

### 【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

水曜日：山田豊先生、太田晶子先生、鈴木哲至先生  
(文法)

金曜日：野口朋香先生、今井加寿先生、松本一喜先生  
(リーディング)

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生  
水曜日の太田先生&金曜日の今井先生  
水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

### 【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。定期試験の点数を基準に出席率、発表等の日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%

野口先生：出席20%、クラス小テスト+課題20%、定期テスト60%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

### 【テキスト】

- ・H.Hayase, M.Hiwatashi, Z.Mitchell *Reading Preparation Course for the TOEIC Test*、英宝社 ¥1,700
- ・S.Matsuno, R.Howser *Cutting Edge in Science* 金星堂 ¥1,900

## Practical English 2 H

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至  
野口朋香 今井加寿 松本一喜

### 【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

### 【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

文法は各クラス等一のテキストを使用するが、リーディングは担当の先生によって異なる。

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生  
水曜日の太田先生&金曜日の今井先生  
水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

### 【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、3回のレポート提出、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%

野口先生：出席20%、クラス小テスト+課題20%、定期テスト60%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

### 【テキスト】

- ・Joan McConnell, S.Takeda *Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary* 成美堂 ¥1,900
- ・西谷恒志、吉塚弘、Wayne Philips 「TOEIC Test 450 必須レッスン」音羽書房鶴見書店 ¥1,750

## Practical English 3 G

アレン・D. ウィリアムス キース・イズリー ハリー・T. ノリス  
サミュエル・ミラー リチャード・ハリス

### 【Course Content】

This course is available to all English Department students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

### 【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION/EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORT

### 【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Gは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

## Practical English 3 H

アレン・D. ウィリアムス キース・イズリー ハリー・T. ノリス  
サミュエル・ミラー リチャード・ハリス

### 【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

### 【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION/EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORT

### 【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Hは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。



## Practical English 4 G

キース・イズリー ジョナサン・E. ロング アラン・テイヴィーズ  
ジョアン・M. ウッドマン ポール・ルイス

### 【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC/TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

### 【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION/EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORT

### 【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Gは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

## Practical English 4 H

キース・イズリー ジョナサン・E. ロング アラン・テイヴィーズ  
ジョアン・M. ウッドマン ポール・ルイス

### 【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC/TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

### 【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION/EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORT

### 【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Hは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

# Rapid Reading 1

間瀬欣英

## 【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間や人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマは〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

## 【授業計画】

1. Saki  
The Story-teller
2. William Saroyan  
The Great Leapfrog Contest
3. Erskine Caldwell  
Girl on the Road
4. Roald Dahl  
The Landlady
5. James Joyce  
The Boarding House

## 【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

## 【テキスト】

*Collected Modern Short Stories Vol.3* (Macmillan Languagehouse ¥1,600)

# Rapid Reading 1

野口朋香

## 【授業の概要】

英語読解力を養うことはもとより、カナダやアメリカの家庭、学校生活、労働、経済、医療などのトピックに関して日本と比較しながら異文化を学び、また日本文化をも再認識する。

## 【授業計画】

受講者の予習を前提にChapterを読み進める。テキストのテープを一通り聞いてからパラグラフごとに大意を把握していく。

第1回～第4回	Chapter 1 – Chapter 5
第5回～第8回	Chapter 6 – Chapter 10
第9回～第13回	Chapter 11 – Chapter 16

## 【評価方法】

出席・授業態度	30%
筆記試験	70%

## 【テキスト】

*Beneath the Surface* 日米文化比較論  
(Paul Stapleton & Akira Ito, 成美堂)

# Rapid Reading 1

鈴木哲至

## 【授業の概要】

現代アメリカを代表する人気商品が、どのように誕生しベストセラーになったかを説明するエッセイを読み、アメリカ文化の一面を読みとると同時に、速読の基本を身につける。

## 【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

McDonald's Big Mac  
Nathan's Hot Dogs  
Lipton Tea  
Wrigley's Chewing Gum  
Scrabble  
Webster's Dictionary  
Band-Aids  
Nikes  
Zippo Lighters  
Levi's  
Aunt Jemima Pancakes  
Planters Peanuts  
Kellogg's Cron Flakes

## 【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

## 【テキスト】

"A Mini History of America's Best Sellers"  
(『アメリカーヒット商品ミニヒストリー』)  
Christian Ames 著、松柏社、1,250円

# Rapid Reading 1

松本一喜

## 【授業の概要】

1. 『Words to Remember』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準拠テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることになります。

## 【授業計画】

テキストのほぼ前半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

## 【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

## 【テキスト】

英米文化学会編『Words to Remember』桐原書店。

## Rapid Reading 2

間瀬欣英

### 【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間や人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマは〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

### 【授業計画】

1. Sherwood Anderson  
Paper Pills
2. Kurt Vonnegut  
Adam
3. Raymond Carver  
Everything Stuck to Him
4. Graham Green  
Two Gentle People
5. Somerset Maugham  
Mayhew

### 【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

*Collected Modern Short Stories Vol.3* (Macmillan Languagehouse ¥1,600)

## Rapid Reading 2

野口朋香

### 【授業の概要】

一般的な日本人の生活様式や考え方をアメリカ人と対比しながら、文化が人間の価値観や生活にどのように影響を与えているかを考察する。また、英文中の単語や熟語などの表現をしっかりと捉えた上で、英語の読解力・速読力を養っていく。

### 【授業計画】

受講者の予習を前提に Chapter を読み進めていく。

- |          |                         |
|----------|-------------------------|
| 第1回～第4回  | Chapter 1 – Chapter 6   |
| 第5回～第8回  | Chapter 7 – Chapter 14  |
| 第9回～第13回 | Chapter 15 – Chapter 20 |

### 【評価方法】

出席・授業態度	30%
筆記試験	70%

### 【テキスト】

*Topic on Japanese and American Stereotypes*

(Yoshinobu Takesue & Donald E. Barton, 松柏社)

## Rapid Reading 2

鈴木哲至

### 【授業の概要】

アメリカの大学への入学の仕方、生活への適応、勉強の仕方、課外活動など米国留学に役に立つ文章を読むことにより、日米のキャンパスライフの違いを探ると同時に、速読の技術をさらに高める。

### 【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

Getting Ready for College  
How the Colleges Choose Students  
On-Campus and Off-Campus Housing  
Getting Oriented  
Studying  
Campus Activities  
Off-Campus Activities  
Paying for School  
Sports – Varsity and Intramural  
Majors  
Summers  
Bull Sessions  
The Senior Year  
Graduation and Beyond

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

### 【テキスト】

“Study Hard, Play Hard — American Campus Life”  
（『よく学び、よく遊べ アメリカのキャンパスライフ』）

James M. Vardaman, Jr. 著、松柏社、1,400円

## Rapid Reading 2

松本一喜

### 【授業の概要】

1. 『Words to Remember』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準聴テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることになります。

### 【授業計画】

テキストのほぼ後半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

### 【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

### 【テキスト】

英米文化学会編『Words to Remember』桐原書店。

## Rapid Reading 3

森本素世子

### 【授業の概要】

(金曜3限)

日頃英語を学びながらも、英語の多様性について考える機会はまだ多いとはいえない。そこで、国際語としての英語を、文化や社会的背景を踏まえて、より広い視点から改めて眺めてみたい。

(金曜4限)

長年英語を学んでいるにもかかわらず、あくまで外国人である私たちには、英語を母語とする人々が常識としてもっている多くの文化的知識が欠落している。そこで、英語という言葉を通して彼らのもつ文化の一端に触れてみたい。

### 【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

PP.1~36

(金曜4限)

PP.1~36

### 【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

### 【テキスト】

(金曜3限)

*English and Many Cultures* (Joan McConnell, 成美堂)

(金曜4限)

*The Background of English* (Joan McConnell, 成美堂)

## Rapid Reading 3

村上洋子

### 【授業の概要】

このクラスは比較的平易な英語で書かれたテキストを使用して、できるだけ多くの英文を読みこなすことで、英語読解力を高めることを目的とする。

### 【授業計画】

Unit 1 Fighting Disease

Unit 2 Genetic Testing

Unit 3 Organ Transplants

Unit 4 Insemination

Unit 5 Reproduction

Unit 6 Norplant

Unit 7 Air Bags

Unit 8 Official English

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

Vital Issues in America

(Dupenthaler / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

## Rapid Reading 4

森本素世子

### 【授業の概要】

(金曜3限)

日頃英語を学びながらも、英語の多様性について考える機会はあまり多いとはいえない。そこで、国際語としての英語を、文化や社会的背景を踏まえて、より広い視点から改めて眺めてみたい。

(金曜4限)

長年英語を学んでいるにもかかわらず、あくまで外国人である私たちには、英語を母語とする人々が常識として持っている多くの文化的知識が欠落している。そこで、英語という言葉を通して彼らのもつ文化の一端に触れてみたい。

### 【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

PP.37~78

(金曜4限)

PP.37~82

### 【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

### 【テキスト】

(金曜3限)

*English and Many Cultures* (Joan McConnell, 成美堂)

(金曜4限)

*The Background of English* (Joan McConnell, 成美堂)

## Rapid Reading 4

村上洋子

### 【授業の概要】

このクラスは、比較的平易な英語で書かれたテキストを使用して、できるだけ多くの英文を読みこなすことで英語読解力を高めること目的とする。

### 【授業計画】

Unit 9 Illegal Immigrants

Unit 10 Temporary Workers

Unit 11 Gambling

Unit 12 Homosexuality

Unit 13 Gun Ownership (1)

Unit 14 Gun Ownership (2)

Unit 15 Smoking (1)

Unit 16 Smoking (2)

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

Vital Issues in America

(Duppenthaler / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

## 英語コミュニケーション

デイヴィッド・アベ

### 【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

### 【Schedule】

Students will work in groups, and will select their own topics with a purpose and an objective in mind. The following are topic for the first semester.

- Current events
- Entertainment
- Business issues
- Cultural differences
- Traveling

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

### 【Textbooks】

The book is to be announce on the first day of class.

## 英語コミュニケーション

リチャード・ハリス

### 【Course Content】

( 1 st semester)

The aim of the course is for students to learn how to write in many different ways and styles, and to discuss their work in both small and large groups.

We will examine many different writing styles during the course. Students will be encouraged to explore different writing methods. The class will be exposed to both intensive and extensive writing, as well as some personal letter writing.

( 2 nd semester)

The aim of this course is for students to practice speaking as much as possible. Students will learn how to be an active speaker and listener in both small group and large group interactions. Students will also learn how to write and perform small speeches and persuasive debates.

### 【Schedule】

( 1 st semester)

Lesson 1 - 2 telling a story

Lesson 3 - 4 writing personal letters

Lesson 4 - 5 Business letters

Lesson 7 - 8 writing descriptions of people

Lesson 9 writing about a fictional event in the future.

Lesson 10-12 writing a technical paper.

( 2 nd semester)

Lesson 1 - 3 Stating personal opinions

Lesson 4 - 5 The power of advertising

Lesson 6 - 7 Radio announcing practice

Lesson 8 How to write a speech outline

Lesson 9 -10 Writing a speech

Lesson 11-12 Speech presentations

### 【Assessment】

( 1 st semester)

Students will be evaluated through their written work and class participation.

( 2 nd semester)

Students will be evaluated through class participation, written work and course projects.

### 【Textbooks】

( 1 st semester)

Textbook will be announced during the first class

( 2 nd semester)

Textbook will be announced.



## 英語コミュニケーション

フランソワーズ・ダフ

### 【Course Content】

This course is aimed at students who wish to improve their ability to talk confidently about themselves, their friends and family, their occupation, leisure activities, likes and dislikes, etc. in English.

Everyday oral communication and listening skills will be the focus the class.

Discussion of cultural issues will also be included.

The students will be expected to be active participants in all class activities.

Frequent quizzes and regular written reports will be graded to encourage students to build up their confidence and vocabulary in English.

### 【Schedule】

People: self and others

Favorite things

Free time

Occupations

Celebrations

### 【Assessment】

-Class vocabulary quizzes: 30%

-Written reports: 30%

-Participation in class activities: 40%

### 【Textbooks】

*J-Talk* (Linda Lee et al. OUP)

## 英語コミュニケーション

スコット・R. グリーン

### 【Course Content】

The focus of this class will be on further development and expansion of previously acquired English skills.

Students will have the opportunity to discover, express and discuss different elements of language and culture. Development of vocabulary and critical thinking skills will be stressed.

### 【Schedule】

A variety of topics will be covered. The order in which they are covered in class will depend on students' level and interests.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, attitude and a final project or report at the end of the term.

### 【Textbooks】

To be announced at a later date.

## 中国語基礎会話 1 G

曹 述 變

### 【授業の概要】

始めて中国語に接する学生を対象に、中国語の子母音と声調による音声の成り立ち、その音節のローマ字表記法、正しい発音等の中国語学習の基礎知識を習得させ簡単な構文が理解できる実力を養成する。

### 【授業計画】

教科の進行中に中国語の読み方を身につける練習をおこなう。時に応じてビデオ教材を併用する予定。

第1回－4回：中国語学習の基礎としての声調・子母音・鼻音・声調変化など

第5回－7回：中国語の慣用的挨拶語句と基礎構文  
多少钱一包？

第8回－14回：基本会話と中国人の生活習慣  
中国的夏天怎么样？

第15回：単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学をはじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可欠。

### 【テキスト】

初級中国語 郭春貴著 白帝社

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

## 中国語基礎会話 1 G

楊 衛 平

### 【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信の持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

### 【授業計画】

最初に中国語と日本語のちがいが、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心にして本文を朗読、暗唱させ、一对一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

### 【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的評価する。

### 【テキスト】

未定

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）または楊先生（水1限）＋鄭先生（木3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

## 中国語基礎会話 1 G

鄭 澤 善

### 【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、中国語の基礎的な知識の把握と、初歩的な日常会話の習得を目指す。具体的には、中国語におけるピンイン及び四声の集中的練習を経て、単語から文章の構造へと段階的に理解させることによって、簡単な日常会話の応用能力の養成に努めたい。

### 【授業計画】

第1回：ガイダンス、中国語とは？ピンイン入門。

第2～5回：ピンインと四声の集中練習。

第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容の説明とともに、朗読させ、練習問題をやらせよう。

第14回：前期勉強の総括。

### 【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

### 【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。楊先生（水1限）、鄭先生（木3限）の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

## 中国語基礎会話 1 H

曹 述 變

### 【授業の概要】

中国語学習の基礎知識を習得して簡単な構文が理解できる実力を持っている学生を対象に、中国語の会話を楽しみながら中国の社会と文化に接することができる授業をめざす。

### 【授業計画】

中国語の学習をとおして自然に中国社会とその文化がしたしめるように心がけ、授業ごとに身近なトピックを取りあげていく。

第1回～4回：中国人の大学生活と家庭生活  
你家有几口人？

第5回～7回：中国での旅行  
你去过长城了没有？

第8回～10回：中国人の食文化  
水餃子很好吃。

第11回～14回：慣用表現と中国現代社会  
她怎么了？

第15回：単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学ははじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可欠。

### 【テキスト】

初級中国語 郭春貴著 白帝社

中国語基礎会話 1 Hは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価ができる。

# 中国語基礎会話 1 H

楊 衛平

## 【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信を持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

## 【授業計画】

最初に中国語と日本語の違い、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心にして本文を朗読、暗唱させ、対一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

## 【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的に評価する。

## 【テキスト】

未定

中国語基礎会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。曹先生（水 3 限）＋楊先生（金 4 限）または曹先生（水 4 限）＋楊先生（金 3 限）または楊先生（水 1 限）＋鄭先生（木 3 限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

# 中国語基礎会話 1 H

鄭 澤善

## 【授業の概要】

前期勉強の延長として、更なる基礎の勉強と会話の習得を目指す。具体的には、ピンインと四声の練習を集中的に行ない、単語から文章及び会話へ段階的に進め、中国語の応用能力の向上に努めたい。

## 【授業計画】

- 第 1 回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音が主眼。
- 第 2－7 回：テキストの勉強とともに、年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第 8－13 回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に重点を置く。
- 第 14 回：一年間勉強した内容の総括。

## 【評価方法】

試験成績に出生率、平常点を加味して総合評価する。

## 【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。楊先生（水 1 限）、鄭先生（木 3 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

## 中国語会話 1 G

鄭 澤 善

### 【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、正しい中国語の発音及び基礎文法を身に付けるようにする。簡単な会話及び平易な読み物が理解できる程度の中国語能力の養成を目指す。

### 【授業計画】

第1回：ガイダンス、中国語とは？共通語と方言、ピンイン入門。

第2～5回：ピンイン及び発音の練習、一人一人に発音の練習を指導する。

第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容及び文法を詳しく説明するとともに朗読させ、練習問題をやらせよう。

第14回：前期勉強の総括。

### 【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

### 【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Gは、週2回コース授業である。鄭先生（火4限）、時先生（木4限）の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

## 中国語会話 1 G

時 衛 国

### 【授業の概要】

本講義は初心者には現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。具体的には発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することが目標である。

### 【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2～4回 母音・子音とそれらの組み合わせ方、四声、イントネーションなどの説明

第5～10回 初級の段階に入り、テキストを中心に進めるが、会話の練習にも力を入れる。

### 【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Gは、週2回コース授業である。鄭先生（火4限）、時先生（木4限）の両方に出席し、その平均で評価ができる。

# 中国語会話 1 H

鄭 澤 善

## 【授業の概要】

前期勉強の延長として、正しい中国語の発音の練習に重点を置きながら、簡単な会話ができるように指導するとともに、練習問題を通じて、文法と読解力の向上を目指す。

## 【授業計画】

- 第1回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音の復習に重点を置く。
- 第2～7回：テキストの勉強とともに年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第8～13回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に主眼を置く。
- 第14回：一年間勉強した内容の総括。

## 【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

## 【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Hは、週2回コース授業である。鄭先生（火4限）、時先生（木4限）の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

# 中国語会話 1 H

時 衛 国

## 【授業の概要】

本講義は現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することを目標とする。

## 【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～12回 テキストの内容を中心に読みの練習と短い会話の練習に力を入れるほか、基本句型や簡単な文法について説明し、練習をする。

## 【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Hは、週2回コース授業である。鄭先生（火4限）、時先生（木4限）の両方に出席し、その平均で評価ができる。

# 中国語コミュニケーション1

陳佳平

## 【授業の概要】

中国語コミュニケーションをしようとするなら、まず正しい発音と声調を身に付けなければならない。そのため、色々な練習を用いて、出来るだけ早く、正しく拼音と声調及び変調などをしっかり覚え、それと共に基礎的な文法を踏まえながら、語彙力と表現力を養い、実践的なコミュニケーション能力の習得を目指す。

## 【授業計画】

1. 拼音、声調、変調
2. 挨拶語
3. 基本文型、基礎文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

## 【評価方法】

勉強意欲と平時成績と期末テストにより、総合評価する。

## 【テキスト】

中国語初級テキスト 生活の中の基礎会話  
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

## 【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

# 中国語コミュニケーション1

陳惠貞

## 【授業の概要】

中国語を勉強しようとする学生に、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、楽しく学習できるように努める。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう心がける。

## 【授業計画】

1. 中国の紹介と中国語の特徴
2. 中国語の声調とピンイン
3. 子音と母音の発音
4. 簡単な挨拶語・会話
5. 基本的な文型
6. ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習させ、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

## 【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

## 【テキスト】

中国語初級テキスト 生活の中の基礎会話  
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

## 【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

## 中国語コミュニケーション2

陳佳平

### 【授業の概要】

前期の学習を踏まえ、一を聞いて十を知るように様々な文型、表現を使って練習する。多様多彩かつ日進月歩の中国の事情を了解しながら、個性のある表現力を積極的に高めていくことを目指す。

### 【授業計画】

1. 復習
2. 様々な文型と表現方法
3. ふさわしい文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

### 【評価方法】

学習意欲と平時成績と期末テストにより、総合評価する。

### 【テキスト】

中国語初級テキスト生活の中の基礎会話  
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

### 【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

## 中国語コミュニケーション2

陳惠貞

### 【授業の概要】

前期で習得したものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解するのに加え、書くと朗読する能力を養う。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

### 【授業計画】

1. 前期の復習
2. より正確な声調とピンインと発音
3. ヒアリング
4. 基本的な文型で構文・応用
5. 会話の練習

一年間の努力を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

### 【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

### 【テキスト】

中国語初級テキスト生活の中の基礎会話  
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

### 【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)



## 中国語コミュニケーション3

陳佳平

### 【授業の概要】

中国語の学習には正しい発音、声調など基本的な表現力をしっかり覚えることが第一である。これは中国語コミュニケーションを始めようとする第一のステップでもある。

楽みにかつ早く中国語コミュニケーション能力を学生に習得させるため、色々な学習方法を通じて、学生の勉強の意欲と能力を出来るだけ効果的に生かしていくことを工夫する。

### 【授業計画】

1. 拼音、声調、変調
2. 挨拶語
3. 基本文型、基礎文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

### 【評価方法】

学習意欲と平常成績と期末テストにより、総合評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

## 中国語コミュニケーション3

陳惠貞

### 【授業の概要】

中国の文化や習慣に触れながら、楽しく語学を勉強しよう。まずは、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、負担なく学習できるよう心がける。授業の進め方は、対話講義とし、それぞれ声を出し、積極的に参加することを望む。

授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう工夫する。

### 【授業計画】

1. 中国の紹介と中国語の特徴
2. 中国語の声調とピンイン
3. 子音と母音の発音
4. 簡単な挨拶語・会話
5. 基本的な文型
6. ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

### 【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

## 中国語コミュニケーション4

陳佳平

### 【授業の概要】

前期の学習を踏まえ、一を聞いて十を知るように様々な文型、表現を使って練習する。多様多彩かつ日進月歩の中国の事情を了解しながら、個性のある表現力を積極的に高めていくことを目指す。

### 【授業計画】

1. 復習
2. 様々な文型と表現方法
3. ふさわしい文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

### 【評価方法】

勉強意欲と平常成績と期末テストにより、総合評価する。

### 【テキスト】

シリーズ中国語テキストⅠ 中国語基礎講座  
(丁秀山著 光生館)

### 【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

## 中国語コミュニケーション4

陳惠貞

### 【授業の概要】

前期の授業で学んだものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解した上、書くと朗読する能力を養う。習得した語彙や文型を応用し、会話をする。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、随時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

### 【授業計画】

1. 前期の復習
2. より正確な声調とピンインと発音
3. ヒアリング
4. 基本的な文型で構文・応用
5. 会話の練習

一年間の講義を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

### 【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

### 【テキスト】

シリーズ中国語テキストⅠ 中国語基礎講座 (丁秀山著 光生館)

### 【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

## 中国語読解 1

鄭 澤善

### 【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身につけるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

### 【授業計画】

前期では、ピンインの勉強を復習した上、中国の地理、少数民族、方言、苗字、祝祭日等に関連する文章をゆっくり読みながら、文法を詳しく説明して、単語の覚えに重点を置く。読解力の基礎勉強として、ピンイン、基本文型、基本文法をマスターするために、朗読も併せて行なう。

### 【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

### 【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』  
朝日出版社

必要に応じて、プリントも併せて使用する。

## 中国語読解 2

鄭 澤善

### 【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身に付けるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

### 【授業計画】

前期勉強の延長として、中国の食文化、庶民生活、国民性、最新事情等関連の文章を、できるだけ早く読むように指導する。文章の説明につき、文法等は詳しく説明するが、黙読の速さの向上に重点を置く。

### 【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

### 【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』  
朝日出版社

必要に応じて、プリントも併せて使用する。

## 中国語読解 3

時 衛国

### 【授業の概要】

本講義は初級中国語コースで学んだ発音の仕方・文型・文法現象及び関連知識を復習しながら、テキストをもとに総合的読解力と会話力を高めることを念頭に置く。

### 【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2～12回 テキストを利用して読解・説明・練習

### 【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 中国語読解 4

時 衛国

### 【授業の概要】

本講義は現代中国語の文型・文法現象及び関連知識を中心に、総合的読解力の養成を目標とする。

### 【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2～12回 テキストを利用して読解・練習

### 【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## ドイツ語 a・b

浜田義孝

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

### 【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1課を2回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

### 【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間／田畑共著 第三書房）

## フランス語 a・b

清水ベアトリックス

### 【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

#### 前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

#### 後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

### 【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

### 【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

### 【テキスト】

「Elle est gourmande」（藤田裕二、朝日出版社）

## ロシア語 a・b

杉本一直

### 【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

### 【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかかすいたら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう (本当にロシアへ送るぞ！)

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

## 英語コミュニケーション5

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

パラグラフ・ライティングを含む英語総合演習。

### 【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の育成を目指し、総合的な英語活動を行う。

授業では英語ビデオ教材を使い、内容把握のための活動を英語で行っていく。また、ライティング学習では、英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。与えられたトピックでパラグラフ・ライティング、レター・ライティングなどを行い、ライティングにおける運用能力の育成をはかる。語いの増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

なお、後期「英語コミュニケーション6」の履修を希望する者は、「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

### 【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

### 【テキスト】

英字新聞記事のコピーなどを配布。

## 英語コミュニケーション5

安田千恵

### 【授業の概要】

LLを利用した主にリスニング、スピーキングの力を養成することを目的とした英語演習

### 【授業計画】

ビデオ、音声テープを利用し、出来るだけ大量の英語を聴き、日本語を介さず、英文をそのまま理解する力を養うと共に、聴き取った内容に対して、英語で感想を述べる練習を通じ、スピーキングの力も養成したい。

テキストは、アメリカの文化、日常生活を紹介しており演習を通して、アメリカ文化に対しての理解を深めていきたい。

又、LL機能を利用し、発音の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に、64分テープを持参すること。

### 【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

CUBIC LISTENING CLOSING THE CULTURE GAP  
(Timothy Kiggell, Kevin Cleary MACMILLAN  
LANGUAGEHOUSE)

## 英語コミュニケーション6

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

TOEIC対策を含む英語総合演習。

### 【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の強化を目指し、総合的な英語活動を行う。

前期「英語コミュニケーション5」に引き続き、ビデオ英語教材を使い、内容把握のための活動を英語で行う。また、TOEIC問題の演習を行い、さらなる個人学習を促したい。語いの増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

なお、本科目履修希望者は、前期「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

### 【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

### 【テキスト】

TOEICテスト スーパー模試600問 (発行 アルク)  
英字新聞記事のコピーなどを配布。

## 英語コミュニケーション6

安田千恵

### 【授業の概要】

リスニング、ディスカッションの演習を通して自分の考えを英語で表現する力を養う。

### 【授業計画】

社会や日常生活上の様々なトピックについてリスニング、表等の資料の読み取り、ディスカッションの演習を行いながら、その中で使用されている表現方法や語彙を習得し、トピックに対しての意見を英語で論理的に表現出来るよう指導する。表等の資料の読み取り練習は、TOEIC対策としても有効と思われる。

又、LLを利用して、音読の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に60分の音声テープを持参すること。

### 【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

別途指示する。

## 英語コミュニケーション7

中村栄造

### 【授業の概要】

世界の様々な出来事が国際ニュースとして、われわれの手元にすぐ届けられる時代を迎えて久しい。この授業では、日々われわれが接する膨大な情報から必要な情報を的確に入手することを念頭に、主にリスニングとリーディングを中心とした英語運用能力の獲得を目指す。

主にリスニング教材とするのは、VOA (Voice of America) のニュースである。これを毎回、ディクテーションする。リーディングは英字新聞や、雑誌 Newsweek などから幅広く教材を選び、読解を試みる。

### 【授業計画】

リスニングのトレーニングを30分、リーディングを30分毎回行う。なお、毎回、授業内容に関する確認テストを実施する (30分)。

### 【評価方法】

授業内に行う確認テスト、およびリーディング教材の読解度、中間試験、定期試験を総合して判断する。

### 【テキスト】

毎回プリントを配布。



## 英語コミュニケーション 8

大鐘洋司郎

### 【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した内容をやさしく解説。

海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などとの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

TOEICにも役立つ体験的英語上達法。

### 【授業計画】

- 第1回 何を学習するか。レター・フォーマットの解説。その他。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴（内容は下記参照）
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格FOB及びCIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 ビジネス英会話（時間と受講生数次第で実行）

### 【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。

授業に取り組む積極性も評価する。

### 【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション再増補版（大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,625円）

ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」

授業担当者作成資料（プリント教材その他）

## 英語コミュニケーション 9

小野迪雄

### 【授業の概要】

アーネスト・ヘミングウェイは、20世紀を代表するアメリカの作家であり、多難な激しく変動した時代を生き抜いた作家でもある。『老人と海』でノーベル賞を授賞したが、彼の文学の本質を探ってみると、円環を描いて、初期の作品世界につながっているようにみえる。それ故、初期の短編を読み解くことは重要であり、彼の文学の本質に迫れるかもしれない。

ヘミングウェイの文章は簡潔で引き緊った文体で、現代の標準的な文章の一つの型をもっていて、読みやすい。

### 【授業計画】

テキストを中心に読み進み、随時プリントを配布して、作者や作品の理解を深めるようにする。

### 【評価方法】

定期試験の成績を主とするが、日常の授業に対する準備も判断の資料とする。

### 【テキスト】

*Indian Camp and Other Stories* (Hemingway)

『ヘミングウェイ短編集』 成美堂

### 【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

## 英語コミュニケーション10

フィリップ・サザンズ

### 【Course Content】

This is a discussion class. A discussion is a conversation in detail about a topic. Having discussions is a normal part of adult life. Once you learn the basics, you will be able to have interesting discussions with anyone, anywhere.

In order to have interesting, intelligent discussions, we will practice giving opinions, story-telling, summarizing and persuading by agreeing and disagreeing. Each student will research and discuss three topics. We may also watch videos.

### 【Schedule】

- 1 - 2 Introduction - opinions and reasons
- 3 - 4 Animal testing - News story
- 5 - 6 Discussion game 1
- 7 - 8 Summarizing - Telling stories
- 9 - 10 Controversial Issues - Discussion game 2
- 11 - 12 Refutations - Discussion game 3
- 13 Test

### 【Assessment】

Student scores are based on homework and classwork.

If you are absent from a class, you can not receive a mark for the classroom discussion and homework for that day.

Please come to every class.

### 【Textbooks】

Handouts from the instructor

## 英語コミュニケーション10

デイヴィッド・アベ

### 【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

### 【Schedule】

A variety of topics will be covered. The order in which they are covered in class will depend on the students level and interests.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

### 【Textbooks】

The book is to be announced on the first day of class.

## 英語コミュニケーション10

セブテンパー・スミス

### 【Course Content】

The purpose of this four-skills course is to utilize and develop all aspects of language learning. Using social themes and issues that are of interest or concern for young adults, the class format of this course allows an intensive exploration of these topics applying all four language skills.

The concurrent focus on speaking, listening, reading and writing provides a general strengthening of the learners' overall second-language skills and also affords the opportunity to compare the differences in English in its spoken and written forms.

### 【Schedule】

The areas from which topics are to be drawn for this course include:

- 1) Interpersonal Relationships
- 2) The Working World
- 3) The Supernatural and the Unexplained
- 4) The Future: Yours and Ours

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, effort made by the students to communicate in English in the class, and the semester's work. No test will be given.

### 【Textbooks】

No textbooks will be used, but a series of reading and worksheets will be provided

## 英語コミュニケーション10

アラン・デイヴィーズ

### 【Course Content】

The aim of this course is to develop students' speaking, listening, reading and writing skills. Students will therefore be provided with a range of integrated materials and tasks designed to develop these four language skills areas. Classroom activities will include role play, small group mini-discussion, communication games, and reading and writing practice tasks. Students will have maximum opportunity to use English for real communication throughout the 90-minute class. A special feature of this course is the emphasis placed on learning to identify, collect and use lexical 'chunks' (phrasal vocabulary) as a powerful tool for communication, both in spoken and written English.

### 【Schedule】

Topics to be covered include:

1. Family and friends
2. People and Places
3. Memories of the past
4. Relationships
5. Talk/Tell about yourself
6. Reading skills
7. The structure and style of English writing
8. Introduction to lexical chunks

### 【Assessment】

Class work - 70%

Homework - 30%

### 【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

## 英語コミュニケーション10

ポール・ルイス

### 【Course Content】

This course aims to focus on improving speaking and listening skills, particularly focussing on the latter. In particular, the different ways of listening will be covered, including extensive and intensive styles. The course will be given in English, and students are expected to use English as much as possible during class.

### 【Schedule】

Lessons 1 - 12: Various topics/listening skills.

### 【Assessment】

Assessment will be based on class participation and attendance, and a combination of continuous assessment, tests, and/or a final examination.

### 【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

## 英語コミュニケーション10

ハリー・T. ノリス

### 【Course Content】

The objective of this course is to develop the students' ability to interact using English. They will be able to speak with an increased degree of fluency and confidence, with other Japanese people and native speakers of English. Areas of concentration will include, listening, pronunciation and other speaking skills. Inter-cultural differences will be explored as will humour and lifestyle, in order for students to gain an overall understanding of English. Teaching methods will include group work and individual work with the main aim being for the student to be able to express opinion and fact in English.

Teaching materials will include video's, short stories, poems and other media to stimulate the students into discussion.

### 【Schedule】

This will be a one semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts. These will include but will not be restricted to: Introductions, Pronunciation ex. (L/R and B/V), Natural word groups. , Homonyms, Large numbers, Word Groups and Word Relationships, Giving and Receiving Directions

### 【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and tests.

### 【Textbooks】

Text to be announced.

## 英語コミュニケーション10

リオナ・R. キャメロン

### 【Course Content】

In this course the students will practice the four skills, speaking, listening, reading and writing. Students will learn practical English. Students will be expected to participate and speak a lot in English during the classes.

The content will review the English that has already been learnt by students previously and increase the students' knowledge and performance in English.

### 【Schedule】

In each lesson, students will do many kinds of activities, individually, in pairs or groups.

### 【Assessment】

Assessment will be on-going, based on attendance, participation, homework and tests.

### 【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

### 【Reference】

Students will be expected to have an English-Japanese dictionary and a Japanese-English dictionary in every class. Electronic dictionaries are acceptable.

## 英語コミュニケーション10

サミュエル・ミラー

### 【Course Content】

The aims of the course are as follows: to acquaint students with basic / intermediate grammar and vocabulary; to equip them with adequate conversational skills on a variety of topics; to get them to enjoy English. Generally, we will spend the first 30 minutes of each class on grammar review, devoting the remainder of the period to the textbook and open topics. Each student may also be asked to give a very short presentation at some point during the semester. Topics to be covered:

Family, Food and Restaurants, Music and Entertainment, Sports

School, Health and Fitness, Books Magazines and Newspapers.

Marriage and Divorce, Beliefs and Opinions.

### 【Assessment】

Grade will be based attendance and participation (50%) homework and a final test (50%)

### 【Textbooks】

New Interchange 2 (Jack Richards  
CAMBRIDGE)

## 英語コミュニケーション10

ジョナサン・E. ロング

### 【Course Content】

This course aims to improve the students' abilities in the four language skills in English by reading about and discussing in class cultural differences and writing about these topics outside of class. To be successful the students must be willing to work hard.

### 【Assessment】

Assessment will be based upon  
attendance  
class participation  
homework  
quizzes  
essays

### 【Textbooks】

Culture Riddles — America

## 英語コミュニケーション11

ジョナサン・E. ロング

### 【Course Content】

Students who meet the prerequisites will in the class have to meet the challenges of reading scripts in English, watching the videos without subtitles, discussing them in English and writing reaction papers about them.

Usually, three weeks will be allowed for each video:

Week 1 : script

Week 2 : video

Week 3 : discussion; homework; reaction paper

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance and the reaction papers.

### 【Textbooks】

none.

## 英語コミュニケーション12

デイビッド・C. ダイカス

### 【Course Content】

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and speaking.

The course be topic/theme oriented. Students will read about, and discuss, these topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and effective presentation and support of ideas in written English. Once this level of writing is mastered, we will move on to longer pieces of writing.

### 【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas to essays and discussions based on their content.

### 【Assessment】

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and a test.

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語海外セミナー

石橋千鶴子 ジョナサン・E. ロング

### 【授業の概要】

英語・アメリカ文化研修を目的としたウェストバージニア大学での春期英語研修プログラム。全学が対象。キャンパス内の大学寮に滞在し、約4週間の集中授業を受ける。さらに、週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流などが用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。2月中旬から3月中旬の約1ヶ月間を予定している。定員は、約30人。

面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2001年度実施夏期研修プログラムにおける1日(9:00AM~3:20PM)の学習内容は、以下の通りだった:

午前 少人数で行われる会話クラスと総合英語の授業。  
午後 アメリカ文化の授業およびプロジェクト。音楽・ドラマ・ニュースレター作成・ホームページ作成などから、各自興味のあるものを選び、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、終了パーティーで発表する。

### 【授業計画】

本研修は、ウェストバージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムであり、全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。(期間中、本学教職員は滞在しない。)

### 【評価方法】

ウェストバージニア大学授業担当者の評価および研修前オリエンテーションの課題から総合的に判断する。

### 【テキスト】

現地にて用意される。

## 米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

### 【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるポイント・オブ・ライト財団との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。(米国側協力団体) ポイント・オブ・ライト財団(Points of Light Foundation)

### 【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定

- ・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習
- ・日本のNPO、ボランティア団体へフィールドワーク
- ・英会話のトレーニング

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿

- ・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン
- ・1日特別研修プログラム
- ・インターンシップの体験報告書の作成と提出
- ・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

### 【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し全体評価を行う。



## 外国文化海外研修Ⅰ（中国）

馮 富榮

### 【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 京師範大学において3週間の中国語研修を行う。

- ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
- ◎ 午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
- ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
- ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
- ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。

2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

### 【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

### 【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

### 【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

## 外国文化海外研修Ⅱ（韓国）

曹 述燮

### 【授業の概要】

本学の姉妹校の一つである韓国の大邱カトリック大学で、韓国の文化や言語などの研修を積む。本研修のために姉妹校からは少人数制の語学授業、金属工芸・伝統音楽・伝統料理などの韓国文化に対する講義と実習、そして両校の学生交流、ホームステイなどの課外活動を含む特別のカリキュラムが編成されている。と同時に本研修には姉妹校での研修を前後して慶州市、独立記念館、ソウル市への旅行などのプログラムも企画されている。

本研修を通じて参加学生たちは、良好に組まれたカリキュラムから韓国に対する知識を習得すると同時に、多様な韓国・韓国人を直接体験し自ら触れあうことで新世紀のパートナーとしての韓国の理解を深める。

期間：

夏期休暇の8月中の3週間前後

内容：

1. 語学研修
  - a. 14日間、午前中、1日3時間（2コマ）授業
  - b. 現地教員による少人数制の授業で韓国語の発音、文法、句型、会話などの練習
  - c. 初級と中級のクラス編成予定で初心者者の授業参加可
2. 韓国文化研修
  - a. 午後週1～2回
  - b. 専門家による講演と質疑応答
  - c. 伝統文化講演の鑑賞（古典劇、音楽など）
  - d. 韓国文化にたずさわる専門家による指導と自己参加型の実習（工芸・料理、舞踊など）
3. その他の各種の課外活動

### 【授業計画】

本研修参加のための数回の事前研修と事後研修が予定されている

### 【評価方法】

現地教員およびプログラムスタッフそして引率教員による総合評価による。

## 情報処理技術特殊 I

中野雅晴

### 【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊 II

中野雅晴

### 【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

### 【授業の概要】

CG検定2級の合格を目指す教育科目である。

2級のレベルは、CGを実務に活用できるレベルであり、期待できる効果として以下のことがある。

- (1) アルゴリズムを理解し、目的に応じてCGの技法を活用できる。
- (2) デザインの知識をCG画像やCGアニメーションの制作に活用できる。
- (3) CGに必要なシステムを目的に応じて選び使用できる。

### 【授業計画】

1. CG基礎。2次元画像生成
2.            "          "
3. モデリング
4.            "          "
5. 3次元座標変換
6.            "          "
7. レンダリング
8.            "          "
9.            "          "
10. 画像処理
11.           "          "
12. 著作権その他。

### 【評価方法】

出席状況について評価

### 【テキスト】

『Computer Graphics』技術編CG標準テキストブック  
(画像情報教育振興協会)

### 【参考文献・資料】

『Turbo Cによる3Dコンピュータ・グラフィックス』  
(山岡祥著 森北出版)  
『コンピュータグラフィックス理論と実践』  
(James D. Foley他著 オーム社)

## 情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

### 【授業の概要】

CG検定1級の合格を目指す教育科目である。

1級のレベルは、高度な知識と指導力に加えCGを制作や開発に応用できるレベルであり、期待できる効果としては以下のことがある。

- (1) アルゴリズムの記述やプログラミングによる高度なCG制作ができる。
- (2) デザインの知識を効果的に活用し高度な表現ができる。
- (3) CGに関する総合的な知識が身につき指導できる。

### 【授業計画】

1. VisualC++によるプログラミング
2.            "          "
3.            "          "
4.            "          "
5. CGアルゴリズムのプログラミングと実例
6.            "          "
7.            "          "
8.            "          "
9.            "          "
10. CG検定1級の過去問題検証
11.           "          "
12.           "          "

### 【評価方法】

出席状況について評価

### 【テキスト】

『CG検定1級問題集』(画像情報教育振興会)

### 【参考文献・資料】

『基礎から学ぶVisualC++プログラミング』  
(山岡祥著 CQ出版)  
『コンピュータグラフィックス理論と実践』  
(James D. Foley他著 オーム社)

## 上級英語セミナー2003A

ポール・C. リンガー

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from Newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task-based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)

Personal information  
Travel & vacations  
Strange phenomena  
Entertainment  
Crime & capital punishment  
Controversy

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION / EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORTS  
TOEIC SCORES

### 【Textbooks】

To be announced.

### 【Reference】

「上級英語セミナー2003A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003A

ベヴァリー・F. M. カレン

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

### 【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

### 【Textbooks】

No text required.

### 【Reference】

「上級英語セミナー2003A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003B

ポール・C. リンガー

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from Newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task-based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)

The past

Current events in the news

Relationships

Food & Health

Fashion

The world of work

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION / EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORTS

TOEIC SCORES

### 【Textbooks】

To be announced.

### 【Reference】

「上級英語セミナー2003B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003B

ベヴァリー・F. M. カレン

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

### 【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

### 【Textbooks】

No text required.

### 【Reference】

「上級英語セミナー2003B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003C

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003C

ジョナサン・E. ロング

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

### 【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2003C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003D

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用（テープ）

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生（火曜日3限）、ジョナサン・ロング先生（水曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003D

ジョナサン・E. ロング

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

### 【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2003D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生（火曜日3限）、ジョナサン・ロング先生（水曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003E

ジョアン・M. ウッドマン

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- Vocabulary tests - 3 types
- Preparation for (and participation in) class discussions
- Listening comprehension activities
- Attendance

「上級英語セミナー2003E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003E

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。



## 上級英語セミナー2003F

ジョアン・M. ウッドマン

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- Vocabulary tests - 3 types
- Preparation for (and participation in) class discussions
- Listening comprehension activities
- Attendance

「上級英語セミナー2003F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー2003F

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## ASU TOEIC I C

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEIC Dレベル (220-465) で400点以上の学生がTOEIC Cレベルに、TOEIC Cレベル (470-725) の学生がTOEIC Bレベルにそれぞれ到達するための講座。この講座は、文法・語彙問題、Reading、リスニングの基礎に重点を置いて学習するため、日本人教員が担当する。授業時間のみならず毎回豊富な量の宿題が課され、毎回チェックされる。非常にハードなコースであるため、中途半端な気持ちで受講しないでほしい。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・ 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
- ・ 前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
- ・ 演習 (文法問題・Reading・リスニング) (30分)
- ・ 問題解説 (25分)

第15回 模擬テスト

\*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

リスニング演習 (60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

【授業用 共通テキスト】

*Successful Steps for the TOEIC Test* 成美堂

[TOEIC Cレベルを目標とするコース用 課題テキスト]

『TOEICテスト実践講座 標準総合』南雲堂

『TOEICテストよく出る英語表現』ナツメ社

[TOEIC Bレベルを目標とするコース用 課題テキスト]

『TOEIC TESTこれ1冊で860点突破』アスカ

『TOEICテスト よく出る英単語・熟語』ナツメ社

※星が丘キャンパスの課題テキストはTOEIC Bレベル用とします。

## ASU TOEIC I D

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア400点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。

日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高週に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課される。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

詳細は、後日掲示にて連絡します。



## スポーツ特殊講座（スクーバダイビング）

杉山 和

### 【授業の概要】

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

### 【授業計画】

《内容》

#### 1. 期日

プール実習 平成15年9月1日（月）～6日（土）  
この期間中に時差をつけて3日間実施します。

海洋実習 平成15年9月8日（月）～11日（木）  
3泊4日

第1回説明会 平成15年5月21日（水）5限目  
第2回説明会 平成15年7月5日（土）10：00～

#### 2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール（一社）  
海洋実習 沖縄県 伊江島

#### 3. 諸経費

実習費 約50,000円（講習費、テキスト代、申請料）  
用具代 約50,000円（重器材レンタル代、個人器材）  
海洋実習費 約78,000円（交通費、宿泊費）  
その他 約30,000円（ウェットスーツ希望者のみ）

#### 4. 定員 約20名

\*諸経費については、14年度のものでありますので変更になる場合があります。

\*説明会には必ず参加すること。

### 【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

## スポーツ特殊講座（マリンスポーツ）

松田秀子

### 【授業の概要】

各種のマリンスポーツを通し、海という自然を体験し、より深く理解する。各種目の基礎的技術の向上と知識の習得、生涯スポーツの実践へつなげる。

### 【授業計画】

《内容》

#### 1. 期日

実習 平成13年8月6日（月）～9日（木）  
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日（水）5限目  
第2回説明会 平成13年7月4日（水）5限目

#### 2. 場所 ヤマハマリーナ浜名湖 静岡県

#### 3. 実習種目

ウェイクボード、ボードセーリング、  
セーリングクルザー等

#### 4. 実習費 約74,000円

#### 5. 定員 約20名

（定員に満たない場合は中止になります。）

\*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

\*説明会には必ず参加すること。（やむを得ない場合を除く）

### 【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

**本年は開講せず。  
上記の要項は13年度のものであります。**

## スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

### 【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業計画】

《内容》

#### 1. 期日

実習 平成15年9月3日（水）・4日（木）

5日（金）・8日（月）

9日（火）・10日（水）

計6日間 午前中のみ

#### 2. 説明会 平成15年7月9日（水）12:30~13:15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

#### 3. 場所 星ヶ丘ボウル

#### 4. 実習費 6,000円（14年度のものでありますので変更する場合があります。）

#### 5. 定員 60名

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## スポーツ特殊講座（スケート）

松田秀子

### 【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業計画】

《内容》

#### 1. 期日

実習 平成16年2月3日（火）・4日（水）

5日（木）・6日（金）

9日（月）・10日（火）

6日間 午前のみ

#### 2. 説明会 平成16年1月7日（水）12:30~13:15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

#### 3. 場所 名古屋スポーツセンター（大須）

#### 4. 実習費 約7,200円（14年度のものでありますので変更する場合があります。）

#### 5. 定員 60名

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## スポーツ特殊講座（スキー）

### 【授業の概要】

スキーを通して大自然の厳しさやおおらかさに接し、スキーの基礎的技術の向上と知識の習得を目標とする。

### 【授業計画】

《内容》

#### 1. 期日

実習 平成14年2月17日（日）～2月21日（木）  
4泊5日の予定

第1回説明会 平成13年11月7日（水）5限目

第2回説明会 平成14年1月9日（水）5限目

#### 2. 場所 長野県 信州菅平高原スキー場

#### 3. 宿泊所 福美津屋旅館

#### 4. 実習費 約40,000円

（宿泊費・交通費・食事代・保険料・雑費）

#### 5. その他の費用

リフト券代 約12,000円（レベルによって異なる）

レンタルスキー（板、ブーツ、ストック） 6,500円

レンタルウェア 4,000円

小物（帽子、手袋、ゴーグル） 1,500円

#### 6. 定員 約40名

#### 7. オプション企画（体験）

スノーボード（レンタル代、講習費） 6,000円

ヘリスキー（ヘリコプターの搭乗費） 6,000円

スキー検定（検定料） 6,000円

\*定員に大きく満たない場合は中止になります。

\*実習費及びその他の費用に関しての料金は、12年度のもので、変更になる場合があります。

\*説明会には必ず参加すること。（やむを得ない場合を除く）

### 【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

**本年は開講せず。  
上記の要項は13年度のもので、**

## 地域社会特別講義Ⅳ（地域文化論）

谷沢 明

### 【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

### 【授業計画】

1. 北海道池田町：ワインによる地域づくり
2. 大分県大山村：「村おこし」の元祖
3. 北海道函館市：港町の歴史を生かした都市づくり
4. 北海道小樽市：小樽運河保存問題と都市景観保全
5. 福岡県柳川市：掘割を生かした環境形成
6. 大分県日田市：歴史的景観を生かした都市づくり
7. 兵庫県神戸市：港町の歴史を生かした景観形成
8. 兵庫県出石町：城下町の歴史を生かした景観形成
9. 岡山県倉敷市：民芸のまちの成り立ち
10. 岐阜県高山市：市街地景観保全
11. 滋賀県近江八幡市：八幡堀の保全とまちづくり
12. 岐阜県八幡町：水の恵みを生かした地域づくり
13. 受講生による課題の成果発表

### 【評価方法】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマに、夫々が該当地を1箇所取材して事例研究を行い、その成果をパワーポイントで作成し、発表・提出する。成果物は、CDRで提出のこと。評価は成果物CDRとその発表、及び平生の授業態度で行なう。

### 【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。  
田村明『まちづくりの実践』（岩波新書）  
西村幸夫『町並みまちづくり物語』（古今書店）  
大河直躬編『歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり』（学芸出版社）  
大河直躬編『都市の歴史とまちづくり』（学芸出版社）  
全国町並み保存連盟『新・町並み時代』（学芸出版社）  
インターネット等を利用して、各自が予習・復習を行なうこと。

## 国際社会特別講義Ⅴ（比較政治論）

西尾林太郎

### 【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日3国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、“アジア的国家”と西欧近代国家との比較も試みたい。

### 【授業計画】

- 1 政治的近代化とは？
- 2 伝統的東アジアの国際秩序
- 3 科学官僚制と中国の近代化
- 4 両班（ヤンパン）と李氏朝鮮の近代化
- 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
- 6 アメリカの発展と太平洋進出
- 7 “アジア的国家”とは何か？
- 8 イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
- 9 stateとnation
- 10 1950年代～80年代における中国、韓国の政治と社会

### 【評価方法】

出席状況とレポートとによる。

### 【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

1. *Asian Power and Politics: The Cultural Dimensions of Authority* (Lucian W.Pye Harvard Univ. Press)
2. ステイトとネイション——近代国民国家と世界経済の政治経済学——（佐々木隆生『経済学研究』VOL.47～50、北海道大学経済学部、1997～2000年、に連載）

## メディアプロデュース特別講義Ⅳ（番組開発論）

大西 誠

### 【授業の概要】

映像をベースにした放送番組の成り立ちを歴史的に振り返りながら、番組をどのように企画し、一つの作品として作り上げていくかを理論と実習を通じて明らかにする。

### 【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材（ロケ）映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られていくのか。また、それらを効果的に組み合わせて市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

プロの制作者のノウハウを探りながら、番組はどのように開発し、制作していけば良いのかをメディアリテラシーの視点から試作を通じて理解研究する。

本講では、実際に放送された教育・教養番組をモデルに番組形式や内容を分析するとともに、グループ・ワークで実際に番組を制作する。

### 【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

### 【テキスト】

未定

## 都市環境デザイン特別講義Ⅱ（建築保存再生論）

河辺泰宏

### 【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

### 【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。

- 1) 破壊との闘い  
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念  
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ  
建築におけるサステイナビリティ
- 4) 文化財保存の論理  
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究  
日本・イタリア・トルコ・シリア etc.
- 6) 町並み保存の論理  
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究  
ボローニャ・妻籠・長浜・倉敷 etc.
- 8) 近代建築保存の論理  
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法  
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究  
神戸・横浜・大阪・京都 etc.

### 【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。



## 都市環境デザイン特別講義Ⅲ (情報化建築論)

吉田邦彦

### 【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化（高度情報化）によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこでの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

情報化の進展によって大きな変化を受けつつある住居とオフィスを取り上げ、インテリジェント化、マルチメディア化、ネットワーク化によって、建物の機能や構成要素がどのように変化してきたか、今後どのように変化するかを考察する。また、建築の設計や生産の方法に対しても情報化は大きな影響を与え、建築生産情報の統合が急務となっている。その動向を概観し、今後の方向を探る。

### 【授業計画】

講義によるオーバービューと併せて、下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

### 【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー (ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社)

## 国際社会プロジェクトⅡa

江藤恭二

### 【授業の概要】

教育近代化の過程を、世界教育史上の人物をとり上げることによって明らかにしていく。たとえば、コメニウス、ロック、ルソー、ベスタロッチー、フレーベルなどの名を挙げうるであろう。彼らが教育史上、どのような実践と思想の軌跡を残しているかを刻明に探っていく。

### 【授業計画】

1. コメニウス 「大教授学」
2. ロック 「教育論」
3. ルソー 「エミール」
4. ベスタロッチー 「隠者の夕暮」
5. フレーベル 「人間教育」

これらの古典を読みつつ、著者たちの生涯を明らかにする。

### 【評価方法】

出席状況と平素のレポートによる。

### 【参考文献・資料】

1. 西洋教育史叙説 (江藤 恭二 福村出版)
  2. 西洋教育史 (長尾 十三二 東大出版会)
- その他、西洋教育古典シリーズ (明治図書) を用いる。

## 国際社会プロジェクトIIb

西尾林太郎

### 【授業の概要】

Max Weberの著作（日本語訳のもの）やウェーバーの学説に関する著作物を丁寧に輪読する。続いて日本人研究者による国家論に関する著作を味読しつつ、ウェーバーへの理解を深めたい。政治文化、エートス、リーダーシップ、官僚制、宗教、経済、ナショナリズム等をキー・ワードとしつつ、アジア社会や現代の日本社会についての理解を深め、比較史的視点の構築を目指すと共に、社会科学の専門書にも習熟したい。

### 【授業計画】

- 1 Max Weber、丸山真男、大塚久雄について
- 2～8 M.ウェーバー『社会と経済』の一節（特にカリスマ、官僚制、権力に関する部分）、大塚久雄によるウェーバーに関する著作を輪読
- 9～12 近代国家論に関する論文を輪読
- 13 まとめとディスカッション  
広く現代社会、アジア社会および現代国家の分析をめぐりフリーディスカッションを実施

### 【評価方法】

出席状況および平常点による。輪読の際、各自の担当部分について簡単なレジュメを作成してもらう。

### 【テキスト】

授業中にその都度指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中にその都度指示する。

## 主題講義 I

大西 誠 五島幸一

### 【授業の概要】

現代社会におけるメディアプロデューズとは何かを、映像プロデューズやイベントプロデューズなど実践事例を基に検討し、メディアの生産から流通、消費について現状と課題を明らかにする。

本講では、特に生産者であるメディアのプロ（送り手）と消費者である受け手との相互関係を今日の課題でもあるメディア・リテラシーの観点から概観してみたい。

### 【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。初回は、講義概要と現状報告を行なう。以降は、専門的な立場から講義を行ない、最終回に質疑・討論と総括で終える。詳細は別途、決定次第公表する。

### 【評価方法】

レポート提出による。

### 【テキスト】

使用しない。参考文献は講義中に紹介するとともに、適宜、資料を配布する。